履修の手引 2021年度

北海学園大学工学部　社会環境工学科・建築学科・電子情報工学科・生命工学科

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

工学部ライフのガイドブック

工学部長　元木　邦俊

新入生のみなさん，入学おめでとうございます。これからの新しい学生生活，積極的に学び，新しい友人を作り，課外活動にも参加して，充実した４年間を送って下さい。在学生のみなさん，昨年度は，新型コロナウイルスの感染防止のために多くの授業が遠隔授業として行われました。課外活動にも様々な制約がありました。これまでに経験したことがないような状況の中で，学習や活動の目標を達成できたでしょうか。この１年を振り返り，今年度の目標を再設定して，新たな気持ちで新しい１年を歩み出してください。

この冊子「履修の手引」とその姉妹書である「講義概要」,「学生便覧」は，みなさんが学生生活を送るうえで必要となる様々な情報がぎっしりと詰まったとても便利なガイドブックです。「履修の手引」には，学科ごとに設定されている進級・卒業のための要件，教育課程（カリキュラム）を構成する科目の系統図や一覧表，履修に関する注意事項など,「学び」に関する重要な情報が記載されています。年度初めの履修登録の際には，注意深く参照してください。特に1年次では，高校に比べて履修の自由度が格段に高く科目選択に迷うことでしょう。本冊子を活用して，自分の目標にあった履修計画を立ててください。

「講義概要（シラバス）」には，授業科目の具体的内容が，学習の目標や成績評価の仕方も含めて，詳しく記載されています。科目の内容や担当教員など年度によって変更となる場合もあります。昨年度に引き続き遠隔授業が行われる科目があるかもしれません。在学生も授業の進め方や成績評価の仕方を含めて，必ず今年度の冊子で確認をしてください。

もう一つの冊子「学生便覧」には，各種の手続・届出・相談など，学生生活に関わる様々な情報が詰まっています。本学の「法律」ともいえる北海学園大学学則，工学部規則やその他の規程等もこの冊子にまとめられています。大学の全ての活動は学則とこれらの規則・規程に基づいて行われます。是非，読んでみてください。また，校舎の平面図も載っていますので，特に1年生は，授業が行われる教室の場所を事前に確認しておくとよいでしょう。山鼻キャンパスの教室や実験室なども見学してください。

これら3つの冊子の中身は，本学のホームページにも掲載されています。冊子と併せて有効に活用してください。

新入生のみなさんは,いま新しいスタート地点に立っています。大学卒業後の人生が豊かなものとなるかどうかは，これからの4年間の不断の努力と，その折々の適切な選択と判断によるところが大きいと思います。在学生のみなさんもまた，卒業までの学生生活をいかに送るかを改めて問い直してみてはどうでしょう。充実した学生生活を送るためにこれらのガイドブックを大いに役立てて下さい。

CONTENTS　2021（令和３）年度

工学部ライフのガイドブック
2021（令和３）年度　工学部行事日程表…… 8
はじめに
　カリキュラムの概要…… 11
　連絡…… 11
　窓口と掲示板…… 12
　ガイダンス…… 13
１．各種届出・申請・学費納入…… 13
　各種届出…… 13
　証明書…… 13
　学籍異動…… 13
　学費…… 13
２．授業…… 14
　授業…… 14
　授業時間帯…… 14
　休講・補講（予備日）…… 14
　授業欠席届…… 14
３．試験…… 14
　定期試験…… 14
　追試験…… 16
　再試験…… 16
　期間外試験…… 16
４．進級・卒業・成績…… 16
　各種要件…… 16
　成績評価…… 17
　GPA …… 17
　成績照会…… 18
　９月期卒業…… 18
５．履修登録…… 18
　履修登録…… 18
６．工学部学生からのよくある質問…… 21

Ⅰ　教育課程

【社会環境工学科】
　社会環境工学科カリキュラム・マップ…… 27
　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）…… 27
　教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）…… 27
　カリキュラム・ツリー…… 34
　初年次教育プログラム…… 36
【社会環境工学科】2017年度（平成29年度）以降入学者
　社会環境工学科の目指す技術者像と学習・教育到達目標…… 41
　社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法…… 42
　社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価…… 45
　環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価…… 49
　社会環境工学科の履修要件〔2017年度（平成29年度）以降入学者〕…… 53
　　１．目標修得単位…… 53
　　２．進級要件（１年次から２年次へ）…… 54

目　次

3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件 …… 55
4．卒業見込証明書の発行条件…… 55
5．卒業要件…… 56
社会環境工学科開講科目系統図…… 57
一般教育科目一覧表…… 59
授業科目履修上の注意…… 61
1．授業科目と単位数…… 61
2．授業科目の区分とその概要…… 61
3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および
「卒業研究」の着手および卒業見込証明書 …… 63
4．履修の手引の各授業科目と講義概要における記載事項…… 63
5．測量に関する証明書について…… 63
【社会環境工学科】2012年度（平成24年度）～2016年度（平成28年度）入学者
社会環境工学科の目指す技術者像と学習・教育到達目標…… 67
社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法…… 68
社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価…… 71
環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価…… 75
社会環境工学科の履修要件〔2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）入学者〕…… 79
1．目標修得単位…… 79
2．進級要件（１年次から２年次へ）…… 80
3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件 …… 81
4．卒業見込証明書の発行条件…… 81
5．卒業要件…… 82
社会環境工学科開講科目系統図…… 83
一般教育科目一覧表…… 85
授業科目履修上の注意…… 87
1．授業科目と単位数…… 87
2．授業科目の区分とその概要…… 87
3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および
「卒業研究」の着手および卒業見込証明書 …… 89
4．履修の手引の各授業科目と講義概要における記載事項…… 89
5．測量に関する証明書について…… 89
【建築学科】
建築学科カリキュラム・マップ…… 95
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）…… 95
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）…… 95
カリキュラム・ツリー……102
初年次教育プログラム……104
【建築学科】2017年度（平成29年度）以降入学者
建築学科の教育・学習目標……109
1．はじめに……113
2．単位とは……113
3．授業科目の区分……113
4．建築学科開講科目一覧表……114
5．１年次から２年次への進級要件について（2017年度以降入学者の場合）……117
6．卒業要件について（2017年度以降入学者の場合）……117
7．卒業見込証明書の発行条件について……117
8．各授業科目と講義概要に関する注意……118

9．履修計画の目安……118
10．建築士試験の受験資格について（2017年度以降入学者用）……119
【建築学科】2013年度（平成25年度）～2016年度（平成28年度）入学者
建築学科の教育・学習目標……125
1．はじめに……129
2．単位とは……129
3．授業科目の区分……129
4．建築学科開講科目一覧表……130
5．１年次から２年次への進級要件について（2013年度～2016年度入学者の場合）……133
6．卒業要件について（2013年度～2016年度入学者の場合）……133
7．卒業見込証明書の発行条件について……133
8．各授業科目と講義概要に関する注意……134
9．履修計画の目安……134
10．建築士試験の受験資格について（2013年度～2016年度入学者用）……135
【電子情報工学科】2018年度（平成30年度）以降入学者
電子情報工学科カリキュラム・マップ……141
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）……141
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）……141
カリキュラム・ツリー……144
初年次教育プログラム……151
開講科目系統図……154
電子情報工学科　一般教育科目一覧表……155
進級および卒業要件・目標修得単位……157
1．進級要件（１年次から２年次へ）……157
2．進級要件（３年次から４年次へ）……157
3．卒業見込証明書の発行条件……157
4．卒業要件……157
5．目標修得単位……158
履修上の注意……159
1．授業時間と単位数について……159
2．授業科目について……159
3．その他の注意……160
【電子情報工学科】2012年度（平成24年度）～2017年度（平成29年度）入学者
電子情報工学科の教育……163
開講科目系統図……165
進級および卒業要件・目標修得単位……166
1．進級要件（１年次から２年次へ）……166
2．進級要件（３年次から４年次へ）……166
3．卒業見込証明書の発行条件……166
4．卒業要件……166
5．目標修得単位……167
履修上の注意……168
1．授業時間と単位数について……168
2．授業科目について……168
3．その他の注意……169
【生命工学科】
生命工学科カリキュラム・マップ……173
カリキュラム・ツリー……180

初年次教育プログラム……182
【生命工学科】2017年度（平成29年度）以降入学者
開講科目系統図……188
生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数……189
1．進級要件（1年次から2年次へ）……189
2．進級要件（3年次から4年次へ）……189
3．卒業見込証明書の発行条件……189
4．卒業要件……189
5．目標修得単位数……190
授業科目履修上の注意……191
1．授業時間と単位数について……191
2．授業科目について……192
3．履修の手引の各授業科目と講義概要の記載事項に関する注意……192
【生命工学科】2012年度（平成24年度）～2016年度（平成28年度）入学者
生命工学科の学習・教育到達目標……197
開講科目系統図……198
生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数……199
1．進級要件（1年次から2年次へ）……199
2．進級要件（3年次から4年次へ）……199
3．卒業見込証明書の発行条件……199
4．卒業要件……199
5．目標修得単位……200
授業科目履修上の注意……201
1．授業時間と単位数について……201
2．授業科目について……202
3．履修の手引の各授業科目と講義概要の記載事項に関する注意……202

Ⅱ　数学受講に向けてのガイド

数学受講に向けてのガイド……207

Ⅲ　工学部1年次一般教育科目のセミナーについて

工学部1年次　一般教育科目のセミナーについて……213
一般教育科目セミナー受講申込書……215

履修登録　G-PLUS!　操作方法

［豊］豊平校舎　１年次
［工］山鼻校舎　２～４年次
記載なしは［豊・工］
再試験は工学部４年次開講科目のみ
(予定)の行事については別途掲示にて確認すること

2021（令和３）年度　工学部行事日程表

月	日	月	火	水	木	金	土	月　日	行　事　予　定
4月					1	2	3	３月26日(金)～ ４月３日(土) ４月５日(月) ４月８日(木) ４月10日(土) 4月13日(火)～4月19日(月) ４月19日(月) 4月22日(木)～4月26日(月)	在学生ガイダンス資料配布・配信予定(工学部２～４年次) 新入生ガイダンス(4/3) 健康診断(工学部２～４年次) 健康診断【豊】(工学部１年次) 第１学期　授業開始 履修登録期間(全学年) ９月期卒業申込受付開始 履修登録変更期間(全学年)
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30			
5月							1	５月16日(日)	学園創立記念日
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23/30	24/31	25	26	27	28	29		
6月			1	2	3	4	5	6月18日(金)～6月20日(日)	第67回　対東北学院大学定期戦(仙台)
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30					
7月					1	2	3	７月６日(火) ７月24日(土) ７月30日(金) ７月30日(金) ７月31日(土)	第１学期　補講時間割掲示(予定) 振替木曜日 実験生物に感謝する日(予定) 第１学期　授業終了 予備日①
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
8月	1	2	3	4	5	6	7	8月２日(月)～8月７日(土) 8月８日(日)～9月17日(金) ８月10日(火) 8月13日(金)～8月16日(月)	第１学期　期末評価実施期間 夏季休業 ９月期卒業申込締切 全学休業(事務取扱休止)
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
9月				1	2	3	4	９月17日(金) ９月17日(金) ９月18日(土) 9月29日(水)～9月30日(木)	９月期卒業生発表・学費支給者宛成績通知発送 第１学期　Web成績公開開始(全学年) 第２学期　授業開始 履修登録変更期間
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30				

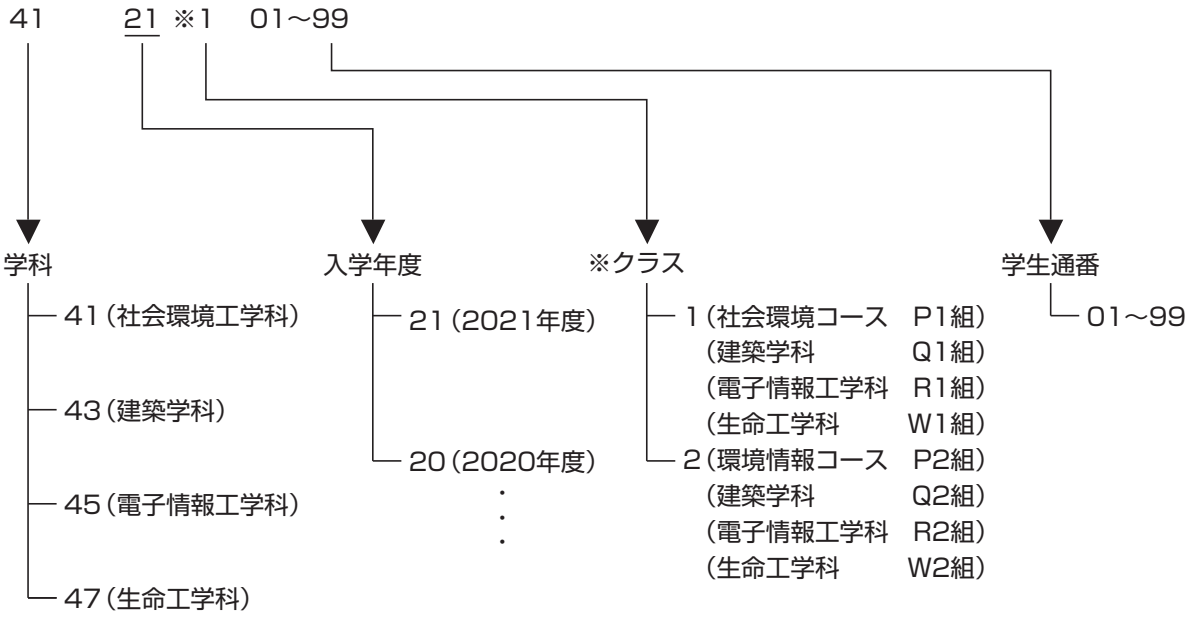
月	日	月	火	水	木	金	土	月　日	行　事　予　定
10月						1	2	10月9日(土)~10月11日(月)	第70回十月祭(豊平校舎)・第50回工学祭(山鼻校舎)
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24/31	25	26	27	28	29	30		
11月		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						
12月				1	2	3	4	12月22日(水) 12月26日(日)~1月7日(金)	第2学期　補講時間割掲示(予定) 冬季休業
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
1月							1	1月8日(土) 1月8日(土)~2月5日(土) 1月8日(土) 1月14日(金) 1月15日(土)~1月16日(日) 1月24日(月) 1月25日(火) 1月26日(水) 1月27日(木)~2月2日(水)	第2学期　授業再開 転学部・転学科・転コース　受付(予定) 振替月曜日授業 大学入学共通テスト準備日(全学休講) 大学入学共通テスト 第2学期　授業終了 予備日① 予備日② 第2学期　期末評価実施期間
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23/30	24/31	25	26	27	28	29		
2月			1	2	3	4	5	2月8日(火) 2月9日(水)~2月12日(土)	一般選抜試験準備日 一般選抜試験
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28							
3月			1	2	3	4	5	3月3日(木)~3月11日(金) 3月10日(木) 3月10日(木) 3月11日(金) 3月11日(金) 3月21日(月) 3月28日(月)~3月30日(水)	科目等履修生・研究生　受付(予定) 卒業生発表・学費支給者宛成績発送(4年次) 第2学期　Web成績公開開始(4年次) 進級生発表(1年次，電子・生命3年次)・学費支給者宛成績発送(1～3年次) 第2学期　Web成績公開開始(1～3年次) 卒業証書・学位記授与式，卒業祝賀会 在学生ガイダンス
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				

はじめに

カリキュラムの概要

工学部では入学年度によってカリキュラムが違います。
自分の入学年度のカリキュラムを参照して下さい。

〈対象学生番号〉下線部は入学年度を表しています。



1．修業年限は４年です。８年を超えて在学することはできません。（休学期間を除く）
2．卒業要件・開講科目は各学科および入学年度によって定められています。
3．講義は１年間を１学期と２学期に分け，原則として各15回以上行われます。
4．課程受講者は，卒業に必要な科目の他に課程科目も履修しなければならないので，１年次から計画的に履修を行って下さい。

連　絡

G-PLUS!

G-PLUS!（https://gplus.hgu.jp/）は，みなさんの学生生活を支援するためのWEBサイト（ポータルサイト）です。G-PLUS!では，各学生の時間割情報や大学からのお知らせ，講義連絡などの授業に関する情報を，学内・学外問わずインターネットに接続されたパソコンや携帯電話から確認することができます。また，一部の届出書類はG-PLUS!からダウンロードすることが可能です。ログインには，本学で発行しているIDとパスワードが必要です。パスワードを忘れた方は，学生証を持参のうえコンピュータ実習室まで来て下さい。

ただし，すべての連絡をG-PLUS!で行うわけではありませんので，掲示板の確認は必ず行って下さい。

掲示板

履修や授業等に関する連絡は，「学内掲示板」や「電子掲示板」にて行う場合もあります。掲示を見落としたことによる不利益は本人が負うことになります。大学に来たとき，帰るときに必ず掲示板を確認して下さい。

個別に伝達事項がある場合は，掲示板に「学生番号」にて呼出をします。見落としのないように注意して下さい。なお，掲示板で連絡している内容についての電話・メールによる問い合わせには応じられません。不明な場合は窓口で確認して下さい。

各種掲示板については，次頁を確認して下さい。

窓口と掲示板

学生の皆さんからの，問い合わせ・相談事項の取扱い窓口については，下記の通りです。

主な相談窓口	主な業務	主な相談事項	確認すべき掲示板
教務センター事務室［7号館1階］	教務上の相談全般（工学部1年）	履修 学業成績 休講・補講 授業欠席届・試験欠席届 休学・退学・転学部・転学科等 定期試験 学生証 その他	工学部掲示板（豊平校舎）［3号館1階学生玄関ロビー］ 休講電子掲示板［3号館1階学部事務室前］
	全学共通の科目・課程全般	一般教育科目に関すること 教職課程に関すること 図書館学課程（2年次開講）に関すること 学芸員課程に関すること 社会教育主事課程に関すること その他	教務センター掲示板（1・2部）［3号館1階学生玄関ロビー］ 学生玄関前移動式掲示板［3号館1階学生玄関ロビー］ 各課程掲示板［3号館1階学生玄関ロビー］
工学部事務室［山鼻校舎2号館2階］	教務上の相談全般 学生生活全般 学納金関係の納付全般 就職活動全般 など	履修 学業成績 休講・補講 授業欠席届・試験欠席届 休学・退学・転学部・転学科等 定期試験 学生証 その他	工学部掲示板［山鼻校舎1-2号館間2階渡り廊下］ 休講電子掲示板［山鼻校舎2号館2階］ お知らせ電子掲示板［山鼻校舎2号館2階］
学生部事務室［文化系部室棟1階］	学生生活全般	奨学金に関すること 健康診断に関すること 学生相談に関すること サークル等に関すること 忘れ物等に関すること 学割の発行 その他	学生部掲示板［5号館1階他］ お知らせ電子掲示板［3号館1階学部事務室前］
会　計　課［1号館1階］	学納金関係の納付全般	授業料に関すること	
キャリア支援センター［1号館1階］	就職活動全般	就職活動に関すること インターンシップに関すること 公務員試験に関すること その他	キャリア支援センター掲示板［1号館1階・3号館1階］
庶務課（学術・国際交流担当）［1号館1階］	国際交流全般	留学等全般に関すること	学術・国際交流掲示板［1号館1階］
コンピュータ実習室［5号館3階他］	コンピュータ実習室のPCについて	PCの利用方法に関すること	コンピュータ実習室掲示板［各実習室］
入　試　課［1号館1階］	入試全般	入学試験に関すること	入試課掲示板［1号館1階］

窓口取扱時間　平　日　9：00～16：00　（昼休み　12：40～13：40を除く）
土曜日　9：00～12：40　※日曜・祝日のほか，窓口業務を行わない日があります。また，窓口によっては取扱時間が異なります。詳細は学生便覧，新入生ガイド，掲示等を確認して下さい。

工学部ではオフィス・アワー*を設けています。

オフィス・アワー*

教員が学生からの履修，授業などに関する相談や質問に応じるために設定した時間帯です。その時間帯は教員が自分の研究室に在室していますので直接会って話をすることができます。

在室の時間帯や・連絡方法については工学部掲示板を参照して下さい。

ガイダンス〔教務ガイダンス〕

学修上の連絡や指導のため，「教務ガイダンス」や「語学ガイダンス」，「各課程ガイダンス」，「卒業研究ガイダンス」などが毎年行われます。その他，「学生部ガイダンス」，「就職ガイダンス」など様々なガイダンスも行われます。該当するガイダンスには必ず出席して下さい。

このほか「個人ガイダンス」，「成績不良者ガイダンス」，「卒業延期者ガイダンス」，「留年者ガイダンス」など大学から個別に呼出される場合があります。

1．各種届出・申請・学費納入

各種届出

住所変更届，学生証更新願（住所変更など記載事項の変更がある場合），学生証再発行願（紛失した場合）などは工学部事務室（１年次は教務センター事務室）で手続きをして下さい。詳細は，学生便覧を参照して下さい。G-PLUS!で様式をダウンロードできるものもあります。

証明書

自動証明書発行機を利用し，即日交付を受けることができます。利用方法及び発行できる証明書等の説明は，自動証明書発行機付近にありますので各自確認してください。

４年次の学生（就職登録が完了し卒業見込条件を満たしている学生）には無償で*卒業見込証明書・成績証明書・健康診断証明書を各３部発行することができます。発行時期は，卒業見込証明書・成績証明書は４月，健康診断証明書は５月中旬です。また，３年次終了時点で卒業見込要件を満たしていない学生が４年次１学期の成績の結果，卒業見込要件を満たした場合は10月から卒業見込証明書の発行が可能です。なお，１学期の成績を反映させた成績証明書も10月から発行されます。

*卒業見込証明書は，３年次終了時点での卒業見込要件を満たすと発行されます。ただし卒業見込証明書は卒業を約束する証明書ではありません。

学籍異動〔休学・退学・復学・転学部・転学科・転コースなど〕

学籍異動が発生する場合はそれに応じた書類の提出が必要となります。詳細は学生便覧を参照して下さい。

学籍異動は面談と願出用紙の提出が必要となります。休学や退学などの場合は学費納入と密接な関係があり，届出日によってはその学期の学費納入が必要となる場合もありますので注意して下さい。

また，転学部は受け入れ先との調整が必要となります。あらかじめ所属学部および受入先の学部に問い合わせて下さい。

学籍異動が発生する可能性がある場合はできるだけ早く工学部事務室（１年次は教務センター事務室）まで相談に来て下さい。

学　費

学費の納入期限は以下のとおりです。

第１期　４月20日　　第２期　９月30日

納入期日を経過してもなお納入しない学生は学則第31条により除籍となります。

特別な事情により学費を納期に納入困難な場合は，納入期限の10日前までに学費延納願を工学部事務室（１年次は会計課）に提出し許可を受けて下さい。

2．授業

授　業

工学部では１年次は豊平校舎，２～４年次は山鼻校舎で授業を行います。（２～４年次は，一部の科目を除き，豊平校舎の受講はできません。）２年次以上の学生が１年次科目を履修しなくても充分に要件が満たされるような科目構成になっていますが，偏った履修計画では卒業要件を満たすことができない場合（特に分野区分による要件）がありますので充分に注意して下さい。

授業時間帯

授業時間帯は以下の通りです。（１講は90分授業です）

１講目	9：00～10：30	２講目	10：40～12：10	３講目	12：40～14：10
４講目	14：20～15：50	５講目	16：00～17：30		

休講・補講（予備日）

担当教員の出張・業務・病気などにより，授業が休講になる場合があります。休講の際には，①電子掲示板②G-PLUS!により確認することができます。ただし，緊急に休講となった場合には，当該科目の教室での連絡となることもあります。

休講があった場合は，それを補う授業（補講）を各学期末の予備日に実施します。その場合は，１週間前までに電子掲示板とG-PLUS!で連絡します。

なお，山鼻校舎では，「繰上げ授業」又は「繰下げ授業」として，予備日以外に補講を実施することがあります。

授業欠席届

事情によりやむなく授業を欠席する・欠席した場合は，「欠席届（短期）」および証明書を欠席期間の前後数日以内に担当教員へ提出して下さい。

なお，欠席期間が７日以上の場合は，欠席期間の前後数日以内に「欠席届（長期）」および証明書を工学部事務室（１年次は教務センター事務室）に提出して下さい。学則第22条に規定されているように，出席回数が2/3以下の場合は単位が認定されません。

欠席届はG-PLUS!でダウンロードできます。

3．試験

定期試験　※2021年度は実施しない

定期試験は１学期と２学期の年２回実施します。科目によっては実施しない場合もあるので注意して下さい。

１）試験時間割

試験実施の１週間前までに試験時間割*を掲示・G-PLUS!で配信します。

試験時間割*

通常の授業時間帯と異なるので，注意して下さい。また，冬季期間の第２学期は交通状況を考えて通学時間に余裕を持つようにして下さい。

2）受験心得

1．受験者は，試験場に掲示されている指定座席で受験すること。

2．受験者は，学生証を机上（通路側）に提示しなければ，受験できない。

⑴　学生証を紛失した学生は，あらかじめ再発行の手続きをとること。

⑵　学生証を忘れた者は，各学部事務室ならびに教務センター事務室（工学部１年生）に申し出て仮受験票の発行を受けること。発行は，試験開始時間の10分前より取り扱う。ただし，仮受験票は発行当日のみ有効とする。また，仮受験票の発行は当定期試験期間中１回限りとする。

⑶　有効期限が経過した学生証では，受験できない。

3．受験科目は，履修許可を受けた科目に限る。

4．答案用紙を受取った後，試験監督者の指示に従って，指定の欄に学年，組，学生番号，氏名を記入すること。

5．答案用紙を受け取った後は，急病により受験を中断した場合でも有効答案として扱われる（追試験を受けることができない）ので，受験にあたっては体調管理に万全を期すこと。

6．試験開始後20分までは入室することができる。試験開始後20分を超えて遅刻してきた者は受験できない。

7．試験開始後30分までは，退室できない。

8．試験場において特に参照を許可されたもの以外は，鞄の中にしまい，机の中には何も置かないこと。

⑴　参照許可物は，自ら持参したものに限る。試験場での貸し借りを禁ずる。これに違反したものは不正行為とみなす。

⑵　持ち込み許可の六法全書は，特段の指示がない限り，下記に指定されたもので，書き込みの無いものに限る（判例・解説等の付録の参照は不可）。書き込みのある六法全書を使用した場合は，試験科目や問題範囲にかかわりなく不正行為とみなされる。

〔大学が指定する六法全書〕

有 斐 閣：『六法全書』『ポケット六法』

信 山 社：『標準六法』

三 省 堂：『デイリー六法』

9．電子機器（スマートフォン・携帯電話）及びこれに類するものは，試験場では電源を切り鞄の中にしまうこと。試験中に電子機器の時計機能や電卓機能を利用することはできない。また試験中にこれらの電子機器を操作参照することを禁ずる。これに違反したものは不正行為とみなす。

10．試験中は，物品の貸借および私語を禁ずる。なお，事務室も文房具その他の貸し出しは行わないので，事前に十分の準備をすること。

11．不正行為（本人以外の受験，答案の交換又は貸借，不正行為用の文書類の所持，参照許可物以外のものの参照，試験監督者の指示に従わない等）があった場合は，「退場」を命じられ，次の措置がとられる。

⑴　当該科目の年度内受講を停止し，単位は認定しない。

⑵　当試験期間中の受験を停止し，当試験期間中の全科目を０点とする。

⑶　その後「懲戒」を含む厳重な処置をとる。

12．答案を提出する場合は，試験監督者の指示する場所に提出し，速やかに退室すること。

13．受験者は，たとえ解答ができなくとも答案用紙に学生番号，氏名を記入して，必ず提出すること。提出しない場合，試験の正常な運営を妨げる不正行為とみなすことがある。

14．病気その他の事情により，定期試験を受けることのできなかった者は，追試験の取り扱いに基づき，所定の手続きを定期試験終了後３日以内に完了すること。

15．試験実施日時及び試験場には充分注意し，確認を怠らないこと。

16．その他，試験監督者の指示に従うこと。

3）試験欠席届

定期試験をやむを得ず欠席した場合は，試験欠席届に診断書又は証明書等を添付して提出して下さい。試験欠席届はG-PLUS!からダウンロードすることができます。

認められる事由および届け出に必要な証明書類等について不明な点がある場合は，工学部事務室（１年生は教務センター事務室）に問い合わせて下さい。

⑴　病気，又はけがの場合は，病名・診察日・通院期間が記載された診断書。なお，当日何らかの理由により受診できなかった場合，後日通院可能となり次第速やかに受診し，診断書の発行を受けること。（診断書がない場合は，病気又はけがによる欠席であることを証明できる書類）

⑵　入社試験受験の場合，そのことを証明する文書

⑶　公共交通機関を利用して通学途中交通事故等に遭遇した場合は，当該交通機関の管理者の発行する証明書
⑷　近親者の葬儀への出席の場合は，葬儀が行われ出席したことを証明する文書
⑸　上記以外の事由の場合は，その事由を証明する書類
※試験本部で正当な理由があると認められた場合を除き，遅刻による欠席届は受理しない。
※試験欠席届の受理が直ちに追試験の受験資格を保証するものではない。
※定期試験以外に実施された試験の欠席については，担当教員へ直接問い合わせて下さい。
※時間割の見間違い，寝坊など正当な理由と認められない遅刻（試験開始20分以上経過）や欠席は一切認められません。

４）試験答案の返却

社会環境工学科では，定期試験（山鼻校舎実施分）終了後，所定の期間に原則試験答案の返却を行います。

追試験　※2021年度は実施しない

定期試験を欠席した者で，その欠席理由が正当と認められた場合に実施する試験です。追試験を受験するためには以下の手続きが必要となります。

１．試験欠席届および証明書を工学部事務室（１年次は教務センター事務室）に提出。
２．提出された試験欠席届および証明書について欠席理由が正当かどうかを審査。
３．２．の審査で，欠席が正当な理由であると認められた場合は，工学部事務室（１年次は教務センター事務室）で追試験受験申込書を受け取り，受験料として１科目500円分の申請書を自動証明書発行機で購入し，追試験受験申込書と申請書を受付期間内に提出して下さい。
４．追試験受験許可証（３．の手続きの際に受け取る）と学生証を持参し，受験して下さい。
※追試験時間割は，掲示・G-PLUS!で配信します。
※追試験に対する追試験，再試験は実施しません。

再試験　※2021年度は実施しない

定期試験で不合格となった４年次開講科目について，本人の申し込みにより実施する試験で，工学部のみで行なわれます。再試験を受験するためには以下の手続きが必要となります。

１．４年次開講科目*合否発表の結果，不合格となった科目について申し込みできます。再試験受験申込書を工学部事務室で受け取り，受験料として１科目1000円分の申請書を自動証明書発行機で購入し，再試験受験申込書と申請書を受付期間内に提出して下さい。
２．再試験受験許可証（１．の手続きの際に受け取る）と学生証を持参し，再試験を受験して下さい。
※再試験時間割は，掲示・G-PLUS!で配信します。
※定期試験を欠席した者は再試験を受験することはできません。
※１～３年次開講科目（必修科目含む）の再試験は実施しません。（４年次開講科目*とは，「４年次において履修している科目」ではありません。）
※再試験に対する追試験，再試験は実施しません。
※再試験の結果が合格であっても，成績の評価は可に留まります。

期間外試験

通常の授業時間の中，あるいは，それぞれの学期の最後の授業時間に試験を実施することがあります。
また，レポートや作品提出などで評価する科目もあります。前回の評価が「特試（特欠）」となっている科目がある場合は，期間外試験やレポート課題の有無等について，担当教員に必ず確認して下さい。

４．進級・卒業・成績

各種要件（条件）

工学部では１年次から２年次へ移行するための「進級要件」（電子情報工学科および生命工学科は３年次から

４年次への進級要件も設定されています），卒業については「卒業要件」が設定されています。この要件は学科や入学年度によって異なりますのでよく確認して下さい。不明な点があれば，工学部事務室（１年次は教務センター事務室）まで相談に来て下さい。

また，社会環境工学科では「卒業研究着手条件」が設定されています。卒業研究は４年間の集大成となる必修科目です。３年次終了時に条件を満たしていない場合は，４年次に進級しても，その年度には卒業研究が履修できず，卒業できません。

各種要件（条件）については，履修の手引の各学科教育課程のページで確認して下さい。

成績評価

履修した科目は試験またはそれ以外の方法（レポート・作品提出等）により授業担当者の評価を教授会の議を経て認定後，単位*修得となります。

成績評価基準表

評　点	評　価		GP*	合　否
90点～100点	S	秀	4	合　格
80点～ 89点	A	優	3	
70点～ 79点	B	良	2	
60点～ 69点	C	可	1	
59点以下	D	不　可	0	不合格
特　試*		特　試		
特　欠*		特　欠		
欠　席	E	欠		欠　席

ただし，この成績評価になじまない一部の科目は，合，否とし，GPは付きません。＊GPは次項「GPA」を参照。

各自の成績については，年２回９月と３月に，評価・修得単位数等を示した「成績通知書」を学費支給者へ郵送しています。あわせてG-PLUS!成績照会画面でも確認できます。ただし，G-PLUS!の成績照会画面では，必要科目数の確認ができません。必要科目数の要件がある学科（社会環境・電子情報・生命）の学生は，必ず成績通知書で成績を確認してください。

単位*

学則第20条に規定されており，科目ごとに単位が配当されています。原則としては毎週１回の授業（１時限）２時間（実質45分を１時間と考える）を半期15回授業が行われることで２時間×15回＝30時間となります。講義では15時間をもって１単位と規定されているので，この場合は２単位が配当される計算になります。講義形式のほかには外国語，演習・実験などで１単位に相当する授業時間数は異なっています。

特試（特欠）*

評価としては不合格です。「不（欠）」との違いは次年度の授業の出席が義務付けられていないことです。他の科目と時間割上，同一の曜日・時間に講義が重なったときに，いずれかの科目が「特試（特欠）」だと履修登録の制限がなくなり，どちらの科目も履修登録することが出来ます。その際「特試（特欠）」科目の出席が義務付けられません。しかし，授業内でテストを実施されている科目や，前年度と担当教員が変わっている科目は，担当教員に確認が必要となります。また，特試（特欠）はあくまで「不（欠）」なので，授業が重なっていない限りは授業に出席して下さい。

GPA

GPA（Grade Point Average）制度は，履修科目の成績を一定のポイント（GP）に置き換えて学習到達度を客観的に評価するものです。本学では，GPA制度を学修指導などに活用しています。

GPAを算出するための評価とポイント（GP）との関連は，前項「成績評価」に示したとおりとなります。本学でのGPAの算出方法および運用は，以下のとおりとなります。

①GPAの算出について

学生が履修した科目の各GPにその科目の単位数を掛けたものの合計を履修科目の総単位数（評価D・Eの単位数も含む）で割ったものをGPAとします。

$$\mathrm{GPA} = \frac{\langle \mathrm{GP}\ (\mathrm{S}) \times \text{単位数} \rangle + \langle \mathrm{GP}\ (\mathrm{A}) \times \text{単位数} \rangle + \langle \mathrm{GP}\ (\mathrm{B}) \times \text{単位数} \rangle + \langle \mathrm{GP}\ (\mathrm{C}) \times \text{単位数} \rangle}{\text{履修科目の総単位数（D・Eの単位数を含む）}}$$

※GPAは，学期毎の「学期GPA」と年度毎の「年度GPA」，そして全成績を通算した「通算GPA」の３種類を算出します。

②GPA算出の対象外科目について

・自由科目（2017年度以前入学の電子情報工学科のみ開講）

③GPA算出例について

授　業　科　目	履　修 単位数	評価		GP	科目ポイント （GP×単位数）
空間デザイン演習Ⅰ	4	S	秀	4	16
空間デザイン演習Ⅱ	4	A	優	3	12
空間デザイン演習Ⅲ	4	B	良	2	8
建築計画Ⅰ	2	C	可	1	2
建築計画Ⅱ	2	D	不可	0	0
建築計画Ⅲ	2	E	欠	0	0
合　　計	18	－		－	38

科目ポイントの合計÷履修単位数の合計＝GPA

38　÷　18　＝2.11（小数点第３位を四捨五入）

成績照会

当該学期に履修した科目の評価について疑義が生じた場合は，成績照会期間内に，申請用紙を工学部事務室（１年次は教務センター事務室）へ提出して下さい。申請書に基づき調査のうえ回答します。申請用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。成績照会期間は，掲示等でお知らせします。

９月期卒業

卒業延期者を対象に９月期卒業制度が導入されています。条件を満たし手続きをした者のみが，９月に卒業できます。詳細はガイダンスまたは掲示等で連絡します。

５．履修登録

履修登録

履修登録とは，単位を修得したい科目を申請し，登録をすることです。毎年４月にその年度に履修する科目を登録します。

大学では基本的に各自が履修計画を立て，卒業に必要な単位を修得していきます。科目の選定は慎重に行なって下さい。また，一旦登録した科目は，各自責任をもって履修しなければなりません。

登録した授業科目は，学部長が履修を承認します（工学部規則第５条）。学部長の承認を受けていない授業科目の受講および試験の受験は認められません。

1）履修登録の前に

1．履修科目の選択

「講義概要」・「履修の手引」をよく読み，進級要件・卒業要件等を念頭に計画的に履修登録をして下さい。当該年次だけでなく４年間の卒業までの履修計画をイメージしておく必要があります。進級要件・卒業要件等の詳細は，履修の手引「各学科教育課程」で確認して下さい。

2．時間割表の作成

履修する科目を決めたら，自分の時間割を作成して下さい。（履修の手引の巻末に記入用の履修登録・時間割表があります。）

履修登録期間より以前に申込みが必要な科目もあります。ガイダンスや配付資料で申込み方法と許可発表日時を確認して下さい。

2）履修上限単位

１年間に履修できる単位数の上限は次のとおりです。

学科	１年間に履修できる上限単位数
社会環境工学科 建築学科２～４年 電子情報工学科 生命工学科	60単位

学科	１年間に履修できる上限単位数
建築学科１年	70単位

ただし，次の科目の履修単位は，この制限には含みません。

・各種課程科目（ただし，学部専門科目に配当されている科目は単位の履修制限に含まれる。）

・海外文化Ⅰ～Ⅳ　　・インターンシップ　　・特試（特欠）科目

3）履修相談

卒業や進級に必要な科目や単位数などに不明な点がある場合は，履修登録をするまでに必ず相談して下さい（１年次は教務センター工学部窓口，２～４年次は工学部事務室（教務））。その際，各自で作成した時間割等を持参して下さい。

4）授業開始

【授業開始日】　第１学期：４月10日（土）　第２学期：９月18日（土）

履修登録の前に第１学期の授業は開始されます。履修を希望する科目，既に履修が決定している科目の授業に出席して下さい。

5）注意事項

1．各学年に開講されている授業科目は，原則としてその年次において履修することが望ましいでしょう。

ただし，下級年次において不合格となった必修科目は優先して履修して下さい。時間割は毎年変更されますので，今年度の時間割を基に履修計画をたてると翌年以降履修出来なくなる場合があります。

2．同じ曜日時限に２科目以上重複して履修することはできません。ただし，前回の評価で特試（特欠）がついた科目を履修する場合は，特試（特欠）科目と同じ曜日時限に別な科目を履修することができます。

3．すでに単位を修得している科目は履修できません。

4．入学年度によって履修できない科目があります。開講科目については，履修の手引の「各学科教育課程」および時間割を参照して下さい。

5．時間割のクラスや学生番号（奇数・偶数など）の指定を守って下さい。

ただし，上級年次の学生で上記の指定外での履修を希望する場合は，科目担当教員に相談の上，工学部事務室（教務）に申し出て下さい。例えば，社会環境工学科の「情報処理Ⅰ・演習」及び「情報処理Ⅱ・演習」（ともに２年次開講科目）は，クラス別の開講となります。再履修（３・４年次）の学生で，Ｐ１クラスの学生は，原則として，Ｐ２クラスの開講時限で受講することとなりますが，時間割上，３年次の必修科目と重複する場合は，Ｐ１クラスの開講時限で履修登録することが可能です。

6．同一科目が，１学期・２学期それぞれに開講されている場合には，どちらか一方しか履修することがで

きません。担当者が異なっていても同一科目を履修することはできません。

7．２～４年次の学生は，下級年次に開講されている授業科目を履修することができますが，以下の場合を除き豊平校舎の授業科目を履修することができません。

① 課程科目
② 体育科目
③ ３～４年次開講の英語以外の外国語科目
④ 半期連続科目の英語以外の外国語科目
⑤ 特別に履修希望がある場合（事前相談が必要）

※山鼻校舎における一般教育科目の開講科目一覧（参考）

「芸 術 論 Ⅰ」（２年１学期）	「日本国憲法」（２年２学期）
「芸 術 論 Ⅱ」（２年２学期）	「地球科学Ⅰ」（２年１学期）
「外国文学Ⅰ」（２年１学期）	「地球科学Ⅱ」（２年２学期）
「外国文学Ⅱ」（２年２学期）	「宇宙科学Ⅰ」（２年１学期）
「言 語 学 Ⅰ」（２年１学期）	「宇宙科学Ⅱ」（２年２学期）
「言 語 学 Ⅱ」（２年２学期）	「英語コミュニケーションⅠ」（２年１学期）
「マスコミ論」（２年１学期）	「英語コミュニケーションⅡ」（２年２学期）

注意）開講科目は今後変更する場合があります。

8．上級年次に開講されている授業科目は，履修することができません。ただし，英語以外の外国語科目は，所定の手続きを行うことで上級年次に開講されている授業科目を履修できる場合があります。詳細は,「英語以外の外国語ガイダンス」で説明します。なお，2017年度以降入学生が対象になります。

9．英語科目・体育実技を履修する場合は，受講申込みのうえ，許可が必要となります。受講希望者は当該科目のガイダンスに必ず出席してください。（ガイダンス日程表参照）

また,受講許可者発表の掲示等で受講が許可されていることを確認してから履修登録を行ってください。科目によっては，許可科目が自動的に履修登録されている場合もありますが，その場合も必ずG-PLUS!の履修確認画面で登録されていることを確認してください。

10. 一般教育科目では，過去の履修人数の実績を考慮し，履修制限を設定する授業科目があります。履修制限が設定されている授業科目は，事前に履修の抽選申請が必要になります。具体的な制限科目や抽選申請のスケジュールについては，G-PLUS!または教務センター掲示板で確認してください。なお，抽選の結果，当選となった場合は必ず履修登録をしなければなりません。履修計画をしっかり考えたうえで申請してください。

11. 一般教育セミナーを履修する場合は，受講申込みが必要な科目もあります。詳しくは巻末の「工学部１年次一般教育科目のセミナーについて」を参照のうえ，履修してください。

12. 卒業研究およびシビルエンジニアリングデザインセミナーは，希望調査を行い配属が決定されます。掲示等で配属の発表を確認してから該当科目の履修登録を行って下さい。なお，１学期履修登録期間までに配属が発表されない場合は，１学期履修変更期間に登録して下さい。

13. インターンシップは，ガイダンスに出席し，派遣先決定後に履修登録を行います。（派遣先決定後に履修登録票を渡します。）１学期履修登録期間および１学期履修変更期間には履修登録できません。

14. 履修登録変更期間終了後は，履修登録科目の変更を認めません。

15. ２学期にも履修変更期間がありますが，追加・削除できない科目がありますので注意して下さい。以下の科目が対象となります。英語科目が進級・卒業要件に含まれる学科は，２学期に追加ができないことをふまえて履修登録をして下さい。

対象科目

・体育実技全科目（削除のみ可）
・一般教育科目のセミナー（ただし，数学セミナーⅠ・Ⅱは除く）
・英語科目（削除のみ可）
・その他，課程科目についても変更できない科目があります。別途掲示するので各自確認して下さい。

６）履修登録の手順

履修登録はG-PLUS!を利用して行います。履修の手引巻末の「履修登録G-PLUS!操作方法」を参考に登録して下さい。（G-PLUS!を利用するためにはユーザIDとパスワードが必要です。）

１．履修登録期間

【履修登録期間】　４月13日（火）～４月19日（月）

学内外のPC又はスマートフォンから登録できます。

履修登録期間内であれば何度でも登録作業をやり直すことができます。

２．履修登録の確認

４月21日（水）

履修登録の結果をG-PLUS!履修確認で表示します。

この時にエラー等で履修ができていない科目など，登録時の内容とは異なる場合がありますので必ず確認して下さい。

３．履修登録の変更

【履修登録変更期間】　４月22日（木）～４月26日（月）

２．に記載の履修登録結果を確認したうえで，登録内容を変更する場合はこの期間で変更して下さい。第１学期については，この期間以降の履修変更が認められません。

４．履修登録の最終確認

４月28日（水）

G-PLUS!の履修確認で登録内容を必ず確認してください。１年生は教務センター事務室で希望者のみ「履修登録確認書」を配付します。希望する学生は，申し出て下さい。

履修登録後に時間割や担当教員などが変更になる場合があります。これらの変更についてはG-PLUS!ポータルの講義連絡や学内掲示板でお知らせします。

５．第２学期の履修変更

【履修登録変更期間】　９月29日（水）～９月30日（木）

第２学期の履修登録内容を変更する場合はこの期間で変更して下さい。第２学期の履修変更には変更対象外科目がありますので，「履修の手引」や工学部掲示板などで事前に確認して下さい。この期間以降の履修変更は認められません。

６．第２学期履修変更期間終了後の確認

10月２日（土）

G-PLUS!の履修確認で登録内容を必ず確認してください。１年生は希望者のみ教務センター事務室で「履修登録確認書」を配付します。希望する学生は，申し出て下さい。

６．工学部学生からのよくある質問

工学部の学生からよくある質問をＱ＆Ａにまとめました。
各項目の詳細については，学生便覧・履修の手引又は講義概要に掲載されています。
意外と知らない学生が多いようです。みなさんは大丈夫ですか……？

Ｑ　事務室って何時まで？

Ａ　窓口取扱時間　（１年次：豊平校舎教務センター内工学部窓口，２～４年次：山鼻校舎工学部事務室）
平日は，９：00～16：00（昼休み　12：40～13：40）
土曜日は，９：00～12：40　日曜・祝日のほか，窓口業務を行わない日があります。

Q　在学・成績・卒業見込などの証明書が欲しい。

A　自動証明書発行機を利用し，即日交付を受けることができます。利用案内及び発行できる証明書等の説明は，自動証明書発行機付近にありますので各自確認をしてください。
また，４年次の学生（就職登録が完了し卒業見込が発行できる学生）は無償で卒業見込・成績証明書・健康診断証明書を各３部発行することができます。時期は，卒業見込・成績証明書は４月から，健康診断証明書は例年５月中旬ですが詳細は掲示にてお知らせします。

Q　引越しをして住所・電話番号等が変更になりました。手続は何かありますか？

A　本人・保証人・学費支給者いずれかの方の住所が変更した時は，工学部事務室（１年生は教務センター事務室）に住所変更届を提出して下さい。
本人の住所が変更になった場合は，学生証更新の必要がありますので，同時に学生証更新願も提出して下さい。
用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。

Q　やむを得ない事情により授業を欠席しなければなりません。手続は何かありますか？

A　欠席期間の前後数日以内に，①短期欠席（１週間以内の欠席）の場合は担当教員宛に，②長期欠席（１週間以上の欠席）の場合は学部長宛（事務室）に，欠席届および証明書を提出して下さい。用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。
なお，欠席の取扱いについては，授業の担当者によって異なる場合があります。

Q　履修登録って？

A　履修登録とは，受講したい科目を申請し，登録する事です。G-PLUS!で履修する科目を登録します。履修登録は全学生必須の条件です。必ず登録する必要があります。
また，登録内容は，G-PLUS!または履修登録確認書（１年生）によって各学生が確認する事となっています。G-PLUS!の履修確認及び履修登録確認書の配布の時期はこの履修の手引で確認して下さい。
履修科目は，進級・卒業等の各種要件の理解を十分に深め，慎重に履修計画を立てた上で，登録して下さい。

Q　履修登録の変更はできますか？

A　履修登録変更期間内であれば，G-PLUS!で変更が可能です。（LMSの仮登録では履修の変更はできません。）
ただし，一部訂正ができない科目もあり，履修変更期間後は変更できません。よって，今年度の単位修得は不可能です。必修科目・選択科目問わず評価の対象になりません。そうならないように，必ず各自で正しく登録されたのかを確認して下さい。

Q　追試験と再試験の違いは……？

A　追試験は，正当な理由（学生便覧参照）で定期試験を欠席した学生が対象となります。定期試験欠席届と証明書を工学部事務室（１年生は教務センター事務室）に提出し，許可を得る必要があります。
再試験は，４年次開講科目で定期試験を実施した科目を受験し，その結果が「不可」だった学生が対象となります。試験を「欠席」した場合は対象となりません。ただし，一度不合格になった科目なので，再試験を受けて合格しても，評価は「可」に留まります。なお，１～３年次開講科目は再試験の対象とはなりません。
追試験は受験許可後，再試験は４年次開講科目の合否発表後，本人からの申込みが必要になります。
追試験・再試験ともに関連日程については，この履修の手引で確認して下さい。

Q　各科目の成績が知りたいのですが？

A　試験終了後，第１学期の成績については９月中旬，第２学期の成績については３月中旬に郵送（学費支給

者宛）およびG-PLUS!成績照会画面にてお知らせする予定です。

Q　成績通知書に「特試（特欠）」ってあるのですが？

A　評価としては不合格です。「不(欠)」との違いは授業の出席が義務付けられていないことです。他の科目と時間割上，同一の曜日・時間に授業が重なった時に，いずれかの科目が「特試(特欠)」だと履修登録の制限がなくなり，どちらの科目も履修登録することができます。その際「特試(特欠)」科目の出席が義務付けられません。しかし，出席が義務付けられていないからといって，授業に出席しなくてもよいというわけではありません。授業内で実施されているテストもあるでしょう。前年度と担当教員が変わっていれば，授業内容も変わってきます。特試（特欠）はあくまで「不（欠)」なので，授業が重なっていない限りは授業に出席して下さい。

Q　卒業見込証明書って？

A　３年次終了時に，卒業見込証明書の発行条件を満たしている学生は，この証明書の発行を受けることができます。発行条件をこの履修の手引で確認して下さい。
卒業見込証明書は主に就職活動で使用し，企業に提出する書類の一つで，この証明書がないと就職活動に支障をきたす場合があります。
３年次終了時に条件をクリアできなかった場合でも，４年次の第１学期終了時点で条件を満たしていれば，10月に発行が可能になります。しかしながら，発行時期は当然遅くなりますので，卒業見込証明書の発行条件は，３年終了時までに満たすようにしましょう。
また，この証明書は卒業を保証する物ではありませんので，注意して下さい。

Q　卒業研究着手条件って？　満たしていないと，どうなりますか？

A　社会環境工学科では，卒業研究に着手する条件を設定しています。条件については，この履修の手引で確認して下さい。
卒業研究に着手できないということは，４年生になったものの，その年度内での卒業はできないということです。

Q　進級・卒業について知りたい。

A　工学部では，「１年次⇨２年次」「４年次⇨卒業」の際に単位数を審査し，進級・卒業を認めます。ただし，電子情報工学科および生命工学科は「３年次⇨４年次」の際も進級審査があります。進級・卒業要件は学科や入学年度によって違います。要件については，この履修の手引で確認して下さい。
単位修得については，４年間で修得すべき単位数を自ら計画する必要があります。仮に１科目でも10科目でも，単位が修得できなければ，同じく進級・卒業することができません。

Q　休学・退学について知りたい。

A　休学・退学ともに手続きが必要となります。学費とも密接に関係してきますので，少しでも迷っていたら工学部事務室（１年生は教務センター事務室）まで相談に来て下さい。

I 教　育　課　程

【社会環境工学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

社会環境工学科カリキュラム・マップ

■社会環境工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では育成する技術者に以下の３つの能力を身につけることを求めており，このⅠ～Ⅲを技術者像として定めている。

Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力

Ⅰ～Ⅲの３つの技術者像は，それぞれ本学科の学習・教育到達目標の内容を包含して，学習・教育到達目標と一体化した構成となっている。

本学科の技術者像は社会基盤に関連する分野全般に関係するものであり，関係する官庁やコンサルタント，建設会社に従事する技術者は，Ⅱの専門技術はもとよりⅠの幅広い教養やコミュニケーション能力が求められる。

Ⅲは本学科の特徴であり，地域特性を考えて環境との調和や社会のニーズに応えていく能力が今後一層重要になると考えられる。

このように本学科の技術者像は修了生の進路を反映した内容で定められている。

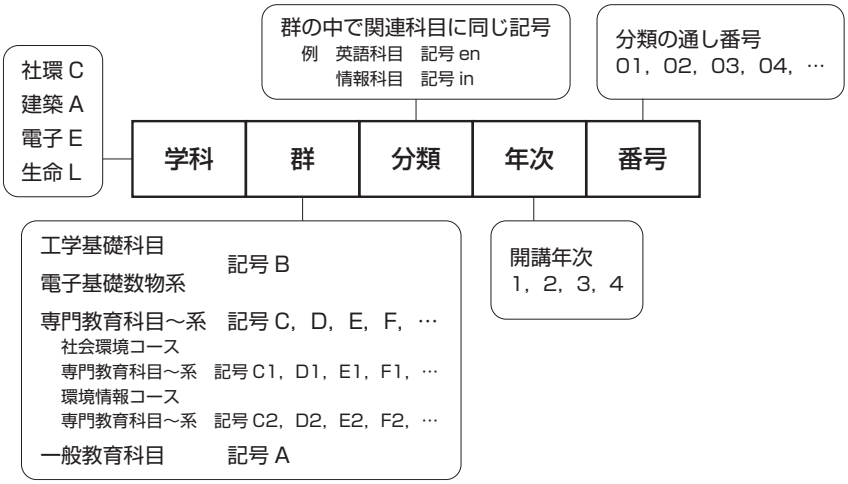
■社会環境工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では学習・教育到達目標を設定している。また，それぞれの学習・教育到達目標に対応したカリキュラムを構成し，４年間の一貫教育を実施して社会に貢献できる人材の育成を目指している。さらにいくつかの学習・教育到達目標は，項目別学習・教育到達目標に細分化され，項目別の目標に対し関連科目が配置されてカリキュラムが構成されている。

なお社会の動向を考え，社会環境コース，環境情報コースの２コース制をとっている。社会環境コースは従来の土木工学を中心とした技術であり，環境情報コースは環境，情報，都市学の比重を大きくしている。カリキュラムに若干の違いがあるが，必要とされる技術者像，技術者の能力は共通しているため，両コースの学習・教育到達目標は同じとしている。

〈到達目標〉		対応する学位授与方針
A	人文・社会学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身につける。	Ⅰ
B	自ら考えて問題にとり組む自己学習の習慣・能力を身に着け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	Ⅰ
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を測れるコミュニケーションの基礎能力を身につける。	Ⅰ
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身につける。	Ⅱ
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を習得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	Ⅱ
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を習得し，実務に対する適応力および探求心を養う。	Ⅱ
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身につける。	Ⅲ
H	自然と人間性の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	Ⅲ
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	Ⅲ

■工学部ナンバリング



学科共通科目

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	基盤科目	言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	CAen101			○							
				英語リーディングⅡ	1	1	CAen102			○							
				英語リーディングⅢ	1	2	CAen203			○							
				英語リーディングⅣ	1	2	CAen204			○							
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	CAen105		○	○							
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	CAen106		○	○							
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	CAen207		○	○							
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	CAen208		○	○							
				英語特講Ⅰ	1	1	CAen109			○							
				英語特講Ⅱ	1	1	CAen110			○							
				英語ライティングⅠ	1	1	CAen111			○							
				英語ライティングⅡ	1	1	CAen112			○							
				英語文化演習Ⅰ	2	2	CAen213			○							
				英語文化演習Ⅱ	2	2	CAen214			○							
			共通	世界の言語と文化	2	1	CAwl101			○							
			ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	CAge101			○							
				ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	CAge102			○							
				ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	CAge203			○							
				ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	CAge204			○							
				ドイツ語会話Ⅰ	1	1	CAge105			○							
				ドイツ語会話Ⅱ	1	1	CAge106			○							
				ドイツ語文化Ⅰ	2	1	CAge107			○							
				ドイツ語文化Ⅱ	2	2	CAge208			○							
				ドイツ語文化Ⅲ	2	2	CAge209			○							
				ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	CAge310			○							
				ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	CAge311			○							
				ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	CAge312			○							
				ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	CAge313			○							
				ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAge414			○							
				ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAge415			○							
			フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	CAfr101			○							
				フランス語基礎Ⅱ	1	1	CAfr102			○							
				フランス語基礎Ⅲ	1	2	CAfr203			○							
				フランス語基礎Ⅳ	1	2	CAfr204			○							
				フランス語会話Ⅰ	1	1	CAfr105			○							
				フランス語会話Ⅱ	1	1	CAfr106			○							
				フランス語文化Ⅰ	2	1	CAfr107			○							
				フランス語文化Ⅱ	2	2	CAfr208			○							
				フランス語文化Ⅲ	2	2	CAfr209			○							
				フランス語文化演習Ⅰ	2	3	CAfr310			○							
				フランス語文化演習Ⅱ	2	3	CAfr311			○							
				フランス語言語演習Ⅰ	2	3	CAfr312			○							
				フランス語言語演習Ⅱ	2	3	CAfr313			○							
				フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAfr414			○							
				フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAfr415			○							

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	基盤科目	言語	中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	CAch101			○							
				中国語基礎Ⅱ	1	1	CAch102			○							
				中国語基礎Ⅲ	1	2	CAch203			○							
				中国語基礎Ⅳ	1	2	CAch204			○							
				中国語会話Ⅰ	1	1	CAch105			○							
				中国語会話Ⅱ	1	1	CAch106			○							
				中国語文化Ⅰ	2	1	CAch107			○							
				中国語文化Ⅱ	2	2	CAch208			○							
				中国語文化Ⅲ	2	2	CAch209			○							
				中国語文化演習Ⅰ	2	3	CAch310			○							
				中国語文化演習Ⅱ	2	3	CAch311			○							
				中国語言語演習Ⅰ	2	3	CAch312			○							
				中国語言語演習Ⅱ	2	3	CAch313			○							
				中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAch414			○							
				中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAch415			○							
			ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	CAru101			○							
				ロシア語基礎Ⅱ	1	1	CAru102			○							
				ロシア語基礎Ⅲ	1	2	CAru203			○							
				ロシア語基礎Ⅳ	1	2	CAru204			○							
				ロシア語会話Ⅰ	1	1	CAru105			○							
				ロシア語会話Ⅱ	1	1	CAru106			○							
				ロシア語文化Ⅰ	2	1	CAru107			○							
				ロシア語文化Ⅱ	2	2	CAru208			○							
				ロシア語文化Ⅲ	2	2	CAru209			○							
				ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	CAru310			○							
				ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	CAru311			○							
				ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	CAru312			○							
				ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	CAru313			○							
				ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAru414			○							
				ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAru415			○							
			韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	CAkr101			○							
				韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	CAkr102			○							
				韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	CAkr203			○							
				韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1	2	CAkr204			○							
				韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1	1	CAkr105			○							
				韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1	1	CAkr106			○							
				韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1	2	CAkr207			○							
				韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1	2	CAkr208			○							
				韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2	1	CAkr109			○							
				韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2	2	CAkr210			○							
				韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2	2	CAkr211			○							
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2	3	CAkr312			○							
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2	3	CAkr313			○							
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2	3	CAkr314			○							
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2	3	CAkr315			○							
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAkr416			○							
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAkr417			○							
		身体	－	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	CAhs101	○									
				健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	CAhs102	○									
				体育実技ⅠA	1	1	CAat103	○									
				体育実技ⅠB	1	1	CAat104	○									
				体育実技ⅡA	1	1	CAat105	○									
				体育実技ⅡB	1	1	CAat106	○									
				体育実技ⅢA	1	1	CAat107	○									
				体育実技ⅢB	1	1	CAat108	○									
				体育実技ⅣA	1	1	CAat109	○									
				体育実技ⅣB	1	1	CAat110	○									
		情報	－	コンピュータ科学	2	1	CAic101				○						
				情報技術論	2	1	CAit102				○						
				情報と社会	2	1	CAis103				○						
	教養科目	人文科学	自己	哲学	2	1	CApp101	○									
				倫理学Ⅰ	2	1	CAth102	○									
				倫理学Ⅱ	2	1	CAth103	○									
				論理学Ⅰ	2	1	CAlo104	○									
				論理学Ⅱ	2	1	CAlo105	○									
				社会思想史	2	1	CAsh106	○									
				行動科学	2	1	CAbs107	○									
				基礎心理学	2	1	CAps108	○									
				人間関係論	2	1	CAmr109	○									
			文化	日本文学	2	1	CAjl101	○									
				外国文学Ⅰ	2	1	CAfl102	○									
				外国文学Ⅱ	2	1	CAfl103	○									
				言語学Ⅰ	2	1	CAlg104	○									

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	教養科目	人文科学	文化	言語学Ⅱ	2	1	CAlg105	○									
				芸術論Ⅰ	2	1	CAar106	○									
				芸術論Ⅱ	2	1	CAar107	○									
				異文化コミュニケーション	2	1	CAcc108	○	○								
				現代文化論	2	1	CAmc109	○									
				音声学セミナー	2	1	CAls110	○									
				一般言語学セミナー	2	1	CAgl111	○									
				デザインセミナーⅠ	2	1	CAde112	○									
				デザインセミナーⅡ	2	1	CAde113	○									
			歴史	歴史学Ⅰ	2	1	CAhr101	○									
				歴史学Ⅱ	2	1	CAhr102	○									
				歴史学Ⅲ	2	1	CAhr103	○									
				歴史学Ⅳ	2	1	CAhr104	○									
				考古学	2	1	CAac105	○									
		社会科学	社会構造	法学	2	1	CAlw101	○									
				日本国憲法	2	1	CAjc102	○									
				経済学	2	1	CAeo103	○									
				政治学	2	1	CApc104	○									
				社会学	2	1	CAso105	○									
				マスコミ論	2	1	CAmm106	○									
				生涯学習論	2	1	CAll107	○									
			地域	地理学	2	1	CAgg101	○									
				人類学	2	1	CAap102	○									
				地誌学	2	1	CArg103	○									
				国際事情	2	1	CAia104	○									
				カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	CAcn105	○									
				カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	CAcn106	○									
		自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	2	CAes201				○				○		
				地球科学Ⅱ	2	2	CAes202				○				○		
				環境生物科学Ⅰ	2	1	CAeb103				○				○		
				環境生物科学Ⅱ	2	1	CAeb104				○				○		
				物質科学	2	1	CAem105				○				○		
				物質環境科学	2	1	CAmv106				○				○		
				宇宙科学Ⅰ	2	2	CAus207				○				○		
				宇宙科学Ⅱ	2	2	CAus208				○				○		
				地球環境セミナーⅠ	2	1	CAvs109				○				○		
				地球環境セミナーⅡ	2	1	CAvs110				○				○		
				環境生物科学セミナーⅠ	2	1	CAvb111				○				○		
				環境生物科学セミナーⅡ	2	1	CAvb112				○				○		
				化学セミナーⅠ	2	1	CAvc113				○				○		
				化学セミナーⅡ	2	1	CAvc114				○				○		
				宇宙科学セミナーⅠ	2	1	CAvu115				○				○		
				宇宙科学セミナーⅡ	2	1	CAvu116				○				○		
			普遍性	数学概論Ⅰ	2	1	CAmg101				○						
				数学概論Ⅱ	2	1	CAmg102				○						
				物理学概論Ⅰ	2	1	CApe103				○						
				物理学概論Ⅱ	2	1	CApe104				○						
				数学セミナーⅠ	2	1	CAmx105				○						
				数学セミナーⅡ	2	1	CAmx106				○						
		北海道学	－	北海道史	2	1	CAhh101									○	
				北方圏文化論	2	1	CAhc102									○	
				北海道文学	2	1	CAhl103									○	
				アイヌの言語と文化	2	1	CAha104									○	
				大学史	2	1	CAhu105									○	
	キャリア形成科目			キャリア・ガイダンス	1	1	CAcg101	○									
	体験型科目			海外文化Ⅰ	1	1	CAos101	○									
				海外文化Ⅱ	1	1	CAos102	○									
				海外文化Ⅲ	1	1	CAos103	○									
				海外文化Ⅳ	1	1	CAos104	○									
工学基礎科目	－			線形代数学Ⅰ	2	1	CBla110				○						
				線形代数学Ⅱ	2	1	CBla111				○						
				微分積分学Ⅰ	2	1	CBcu110				○						
				微分積分学Ⅱ	2	2	CBcu211				○						
				物理学Ⅰ	2	1	CBph110				○						
				物理学Ⅱ	2	1	CBph111				○						
				物理学Ⅲ	2	2	CBph230				○						
				振動・波動工学	2	2	CBvw231				○						
				代数学序論	2	1	CBab110				○						
				代数学Ⅰ	2	2	CBal211				○						
				代数学Ⅱ	2	2	CBal212				○						
				幾何学序論	2	1	CBgb113				○						
				幾何学Ⅰ	2	2	CBgm230				○						
				幾何学Ⅱ	2	2	CBgm231				○						

社会環境コース

授業科目名				単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
							A	B	C	D	E	F	G	H	I	
専門教育科目	基盤数理系	1群	確率統計	2	1	CCpt110				○						
			環境統計学・演習	1.5	2	CCtx230				○						
			品質管理・演習	1.5	2	CCqc231				○						
		2群	解析学Ⅱ	2	2	CCan212				○						
			応用数学Ⅰ	2	2	CCam210				○						
			応用数学Ⅱ	2	2	CCam211				○						
		3群	解析学序論	2	1	CCaa110				○						
			解析学Ⅰ	2	2	CCan211				○						
	環境工学系		環境工学序論	2	1	CDev120						○		○		
			環境地質学	2	2	CDeg230						○		○		
			保全生態学	2	2	CDec221						○		○		
			上下水道工学Ⅰ	2	3	CDws322						○		○		
			上下水道工学Ⅱ	2	3	CDws341						○		○		
			都市環境工学	2	3	CDue323						○		○		
			環境計測学	2	3	CDme324						○		○		
			環境計測実習	1	3	CDmp342		○				○		○		
			景観工学	2	4	CDls425						○		○		
			環境アセスメント	2	3・4	CDas326						○		○		
	水工系		水理学Ⅰ・演習	3	2	CEhy210		○			○					
			水理学Ⅱ・演習	3	2	CEhy211		○			○					
			河川工学	2	3	CErv340						○				
			防災工学	2	2	CEdp222						○				
			港湾工学	2	3	CEpo312						○				
	計画・設計・維持管理系		計画数理Ⅰ・演習	3	2	CFpl220		○								
			計画数理Ⅱ・演習	1.5	3	CFpl340		○								
			都市・交通計画	2	4	CFup421						○			○	
			道路工学	2	3	CFrd322						○			○	
			都市経営論	2	3	CFum331						○			○	
			建設マネジメント	2	3	CFcm310						○			○	
			社会基盤施設維持管理工学	2	3	CFim311						○			○	
			寒冷地舗装工学	2	3	CFcr312						○			○	
			コンクリート構造設計演習	2	4	CFcx430						○			○	
	構造・材料系		構造力学Ⅰ・演習	3	2	CGst210		○			○					
			構造力学Ⅱ・演習	3	2	CGst211		○			○					
			構造解析学	2	3	CGsa330						○				
			コンクリート工学	2	2	CGce222					○					
			コンクリート構造工学	2	3	CGcs323						○				
			地震工学	2	3	CGeq324						○				
			地盤・構造材料実験	1	3	CGgs331		○			○					
	土質・施工系		土質工学Ⅰ・演習	3	2	CHsm210		○			○					
			土質工学Ⅱ・演習	3	2	CHsm211		○			○					
			地盤工学	2	3	CHgt322						○				
			鋼構造工学	2	3	CHse323					○					
			橋梁工学	2	3	CHbr324						○				
			火薬学	2	4	CHex412						○				
	専門総合系		CE基礎セミナー	2	1	CKcb120							○			
			CE総論	2	1	CKci121						○				
			情報処理Ⅰ・演習	1.5	2	CKip222				○						
			情報処理Ⅱ・演習	1.5	2	CKip230				○						
			測量学Ⅰ	2	2	CKsv223					○					
			測量実習	1	3	CKsx324		○			○					
			測量学Ⅱ	2	3	CKsv331						○				
			プログラミング	2	3	CKpg325				○		○				
			CAD演習	1	3	CKca326				○		○				
			技術英語	2	3	CKte327			○							
			インターンシップA	1	3	CKsp342						○				
			インターンシップB	2	3	CKsp343						○				
			技術者倫理・演習	1.5	3	CKet328	○									
			プレゼンテーション	2	3	CKpr329			○							
			CEデザインセミナー	2	4	CKcd444						○	○			
			卒業研究	6	4	CKgr450			○			○	○			

環境情報コース

授業科目名				単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
							A	B	C	D	E	F	G	H	I	
専門教育科目	基盤数理系	1群	確率統計	2	1	CCpt110				○						
			環境統計学・演習	1.5	2	CCtx230				○						
			品質管理・演習	1.5	2	CCqc231				○						
		2群	応用数学Ⅰ	2	2	CCam210				○						
			応用数学Ⅱ	2	2	CCam211				○						
		3群	解析学序論	2	1	CCaa110				○						
			解析学Ⅰ	2	2	CCan211				○						
			解析学Ⅱ	2	2	CCan212				○						
	都市環境系		環境工学序論	2	1	CDev120						○		○		
			微生物学	2	1	CDmo110						○		○		
			環境地質学	2	2	CDeg230						○		○		
			保全生態学	2	2	CDec221						○		○		
			環境計測学	2	3	CDme324								○		
			環境計測実習	1	3	CDmp342		○					○	○		
			上下水道工学Ⅰ	2	3	CDws322								○		
			上下水道工学Ⅱ	2	3	CDws341						○		○		
			環境評価論	2	2	CDee211						○		○		
			都市環境工学	2	3	CDue323						○		○		
			景観工学	2	4	CDls425						○		○		
			環境アセスメント	2	3・4	CDas326						○		○		
	都市情報系		情報処理Ⅰ・演習	1.5	2	CKip222				○						
			情報処理Ⅱ・演習	1.5	2	CKip230				○						
			データ処理論実習	1	3	CKdr316				○						
			プログラミング	2	3	CKpg325				○		○				
			CAD演習	1	3	CKca326				○						
			防災情報システム	2	4	CEds410				○		○				
	都市経営系		計画数理Ⅰ・演習	3	2	CFpl220		○			○					
			計画数理Ⅱ・演習	1.5	3	CFpl340		○			○					
			住民参加論	2	2	CFrp210						○			○	
			地域交通論	2	2	CFlt211						○			○	
			都市経営論	2	3	CFum331						○			○	
			寒地政策論	2	3	CFcp330						○			○	
			社会調査法	2	3	CFsu312						○			○	
			都市・交通計画	2	4	CFup421						○			○	
			道路工学	2	3	CFrd322						○			○	
	都市防災系		リスクマネジメント	2	3	CGrm310									○	
			地震工学	2	3	CGeq324						○			○	
			寒地・都市防災論	2	4	CGud432						○			○	
			河川工学	2	3	CErv340						○			○	
			防災工学	2	2	CEdp222						○			○	
			コンクリート工学	2	2	CGce222						○			○	
			コンクリート構造工学	2	3	CGcs323						○			○	
			鋼構造工学	2	3	CHse323						○			○	
			橋梁工学	2	3	CHbr324						○			○	
			地盤工学	2	3	CHgt322						○			○	
			地盤・構造材料実験	1	3	CGgs331		○			○	○			○	
	総合系		構造の力学A・演習	1.5	2	CKms210		○			○	○				
			構造の力学B・演習	1.5	2	CKms211		○			○	○				
			流れ学A・演習	1.5	2	CKfw212		○			○	○				
			流れ学B・演習	1.5	2	CKfw213		○			○	○				
			基礎土質工学A・演習	1.5	2	CKfs214		○			○	○				
			基礎土質工学B・演習	1.5	2	CKfs215		○			○	○				
			CE基礎セミナー	2	1	CKcb120							○			
			CE総論	2	1	CKci121						○				
			測量学Ⅰ	2	2	CKsv223					○					
			測量実習	1	3	CKsx324		○			○					
			測量学Ⅱ	2	3	CKsv331					○	○				
			技術英語	2	3	CKte327			○							
			インターンシップA	1	3	CKsp342						○				
			インターンシップB	2	3	CKsp343						○				
			技術者倫理・演習	1.5	3	CKet328	○									
			プレゼンテーション	2	3	CKpr329			○							
			CEデザインセミナー	2	4	CKcd444						○	○			
			卒業研究	6	4	CKgr450			○			○	○			

社会環境工学科 カリキュラム・ツリー

【DP1】
技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力

【DP2】
専門技術者として要

DP1
【到達目標】（A）
人文・社会学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身につける。

DP1
【到達目標】（B）
自ら考えて問題にとり組む自己学習の習慣・能力を身に着け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。

DP1
【到達目標】（C）
論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を測れるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

DP2
【到達目標】（D）
数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身につける。

4年次
3年次
2年次
1年次

一般教育科目（基盤科目）

一般教育科目（教養科目）

工学基礎科目

微分積分学Ⅱ	物理学Ⅲ
振動・波動工学	代数学Ⅰ
代数学Ⅱ	幾何学Ⅰ
幾何学Ⅱ	
線形代数学Ⅰ	線形代数学Ⅱ
微分積分学Ⅰ	物理学Ⅰ
物理学Ⅱ	代数学序論
幾何学序論	

景観工学
卒業研究

上下水道工学Ⅰ・Ⅱ
計画数理Ⅱ・演習
寒冷地舗装工学
建設マネジメント
データ処理論実習
プレゼンテーション

環境統計学・演習
環境評価論
構造の力学A・B・演習
地域交通論

確率統計

求される基礎能力

【DP3】
自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力

DP2
【到達目標】(E)
構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を習得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。

DP2
【到達目標】(F)
専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を習得し，実務に対する適応力および探求心を養う。

DP3
【到達目標】(G)
プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身につける。

DP3
【到達目標】(H)
自然と人間性の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。

DP3
【到達目標】(I)
北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。

専門教育科目

都市・交通計画	寒地都市防災論	コンクリート構造設計演習	火薬学	CE デザインセミナー
環境アセスメント				
都市環境工学	環境計測学	環境計測実習	河川工学	港湾工学
道路工学	都市経営論	寒地政策論	社会調査法	社会基盤施設維持管理工学
構造解析学	コンクリート構造工学	リスクマネジメント	地震工学	地盤・構造材料実験
地盤工学	鋼構造工学	橋梁工学	測量実習	測量学Ⅱ
プログラミング	CAD 演習	技術英語	インターンシップ A・B	技術者倫理・演習
品質管理・演習	応用数学Ⅰ・Ⅱ	解析学Ⅰ・Ⅱ	環境地質学	保全生態学
水理学Ⅰ・Ⅱ・演習	流れ学 A・B・演習	防災工学	計画数理Ⅰ・演習	構造力学Ⅰ・Ⅱ・演習
コンクリート工学	土質工学Ⅰ・Ⅱ・演習	情報処理Ⅰ・Ⅱ・演習	基礎土質工学 A・B・演習	住民参加論
測量学Ⅰ				
解析学序論	環境工学序論	微生物学	CE 基礎セミナー	CE 総論

社会環境工学科　初年次教育プログラム

社会環境工学科では，以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は，工学部社会環境工学科の１年次学生である。

プログラムのねらい

（プログラムの目標）

大学生の「学び」は，「学び」に対する姿勢とそのアウトプットの２点において高校生と大きく異なる。高校までの「学び」では，明確な解答が準備された問いを与えられ，その解法を修得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は，試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく，学習時間の管理では，主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では，自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められ，修得科目を各自の興味や将来の目標に基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約の下，自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが，高校までとは明確に異なる点であろう。また自身が決めた「学び」に対して，学習スケジュールを設計し，日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に，自習の時間，部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で，大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには，自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場は，試験の答案用紙への正解の記載にとどまらず，論文やレポートの作成，ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐に渡る。公共性が高い社会基盤の設計や整備には，予め用意された解答がなく，かつ，合意形成が難しい問いが存在することを理解し，それらに対する実践的な対処法や科学的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し，大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として，社会環境工学科では以下の初年次教育プログラムを実施する。

（学生の学習目標）

本プログラム受講により，以下の事項を目標とする。

・大学生活，大学における学習に対する理解を深める。
・社会基盤と環境情報の重要性を認識し，社会環境工学科で学ぶ内容の意義を理解する。
・これからの土木系・環境工学系の技術者としての心構えを養う。
・情報の取り扱いと科学的表現の重要性を理解する。

プログラムのテーマ（内容）

社会環境工学科の初年次教育プログラムは，以下の６テーマから構成される。

１）大学生活，大学における学習に対する理解
２）学科での学びの動機づけ，キャリアデザイン
３）技術者としての気構え，技術者倫理の重要性の理解
４）情報リテラシー修得の重要性の理解
５）レポート作成技術と科学技術表現の学び，研究者倫理の重要性の理解
６）社会環境工学に関する理解

プログラムの実施計画

上記６テーマに関連した授業を，１年次専門科目・講義回において実施する。

１）大学生活，大学における学習に対する理解
　C.E.基礎セミナー：第01回『大学生活，大学における学びについて』
２）学科での学びの動機づけ，キャリアデザイン
　C.E.基礎セミナー：第02回『社会環境工学科の概説，JABEEについて』
　　第03回『社会環境工学とは何か，土木技術者の仕事』

3）技術者としての気構え，技術者倫理の重要性の理解
C.E.基礎セミナー：第02回『社会環境工学科の概説，JABEEについて』
第14回『外部講師による講演』
4）情報リテラシー修得の重要性の理解
C.E.基礎セミナー：第04回『情報リテラシー入門』
5）レポート作成技術と科学技術表現の学び，研究者倫理の重要性の理解
C.E.基礎セミナー：第05回『技術表現法，科学レポートの書き方，研究者倫理』
第09回『生活と水～飲料水安全と水質環境保全』
6）社会環境工学に関する理解
C.E.基礎セミナー：第06回『恋愛微分方程式から学ぶ力学の世界』
第07回『身近な地盤工学に関する問題』
第08回『自然と人間活動～環境インフラとは何か』
第09回『生活と水～飲料水安全と水質環境保全』
第10回『橋の話～橋の計画から維持管理』
第11回『寒冷地の地盤工学』
第12回『洪水災害を防ぐ河川技術者になるためには』
第13回『都市交通問題と交通管理』
第14回『外部講師による講演』
C.E.総論：第01回『講義内容の全体説明』（社会環境工学科が責務を負う社会資本について）
第02回『戦後の社会資本整備の歴史である全国総合開発計画について』
（社会資本整備の歴史）

I 教　育　課　程

【社会環境工学科】

2017年度（平成29年度）以降入学者

社会環境工学科の目指す技術者像と学習･教育到達目標

社会環境工学科の目指す技術者像

社会環境工学は人間の生活と生産の舞台となる社会基盤を整備し，持続可能な社会システムを構築するための学問です。近年生活の豊かさが問い直され，地球規模での環境問題が議論されるなかで，誰もが安全で快適に活動でき，美しく恵みのある自然が共存した都市・地域づくりと，そのための社会基盤整備が求められています。これに応えるため，これからの技術者には専門的な技術力はもとより，新たな視点から，自然環境ならびに地域特性を考慮した環境保全技術やライフサイクルを考慮した維持管理技術，および倫理観やグローバルな社会性などを身に付けることが必要となっています。これらの背景から社会環境工学科では維持管理,防災,設計・デザイン等を主とした「社会環境コース」および環境，情報，都市等を主とした「環境情報コース」に共通の教育理念として，以下に示す能力を備えた自立した技術者像を掲げています。

Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力を身に付けた人
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力を身に付けた人
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力を身に付けた人

社会環境工学科の学習・教育到達目標

上記の技術者像の実現に向けて，社会環境工学科では以下の（A）から（I）の学習・教育到達目標を設定しています。また，それぞれの学習・教育到達目標に対応したカリキュラムを構成し，４年間の一貫教育を実施して社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

Ⅰ．【技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力】

(A) 人文･社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。
(B) 自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。
(C) 論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。

Ⅱ．【専門技術者として要求される基礎能力】

(D) 数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。
(E) 構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。
(F) 専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探求心を養う。

Ⅲ．【自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力】

(G) プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。
(H) 自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。
(I) 北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。

社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法

社会環境工学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け，現在継続中です。JABEEの基準として学習・教育到達目標を修了生全員が達成していることが求められます。社会環境工学科における，JABEEの学習・教育到達目標の評価方法を以下に説明します。

１．本学科の学習・教育到達目標

本学科の学習・教育到達目標A～Iは，社会環境コースと環境情報コースで共通で，P45，P49に添付した表－１および表－３に記載されています。また表に示すとおり各学習・教育到達目標はＡ１，Ａ２などのように，より具体的に「項目別学習・教育到達目標（以下，項目と略する）」に分けられ，それらの項目の評価に関係する科目名が表の「関連科目」の欄にそれぞれ説明されています。

２．学習・教育到達目標の達成度の評価方法

学生は，項目Ａ１～Ｉの15項目について，それぞれに定められている学習・教育到達目標を卒業までに全て達成する必要があります。目標の達成は以下のように評価されます。

２－１　講義科目の評価と点数

P17に示したように各講義科目は，〝秀〟，〝優〟，〝良〟，〝可〟，〝不可〟，〝欠〟などで評価され，それぞれは，〝秀〟：４，〝優〟：３，〝良〟：２，〝可〟：１，〝不可〟および〝欠〟：０，と点数化されます。これをGP（Grade Point）といいます。

２－２　JABEEの達成度評価（SAP）

JABEEにおける学習・教育到達目標の達成度評価は，社会環境工学科で独自に定めたSAP（Student Achievement Point）という基準で行っています。学習・教育到達目標ごとの達成度はP45の表－１，P49の表－３に示すそれぞれの項目の関連科目のGPを用いて計算します。表の達成度評価に書かれている単位修得条件を最低限として項目毎の評価点が０～４で表され，１以上で達成になります。評価に用いられるGPはそれぞれの科目を最終的に修得した時のもので，修得済みの単位の評価となります。SAPを段階（SAG：Student Achievement Grade）で区分し，解説を加えたルーブリック表がP47表－２，P51表－４にありますので達成内容の参考にしてください。

なおSAPとは別に，全学的に用いられる学習達成度の評価基準として，P17に示したGPA（Grade Point Average）があります。これはそれまでに履修した全科目の，単位の重みを付けたその時点におけるGPの平均で，JABEEおよび学習・教育到達目標に関係なく，成績優秀者の選定などに用いられています。

２－３　SAPの計算方法

学習・教育到達目標の各項目のSAPの計算方法は，達成されている場合とされていない場合とで異なります。

１）達成されている場合

表－１および表－３の項目別の「関連科目」の総修得単位が，項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしている場合で，SAPは項目ごとに次のように計算されます。

SAP＝{(修得した科目の単位数)×(その科目の点数)}の総和/(総修得単位数)

２）達成されていない場合

表－１および表－３の項目別の「関連科目」の総修得単位が，項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしていない場合で，SAPは項目ごとに次のように計算されます。

SAP＝(修得した科目の単位数)の総和/(必要単位数)

つまり達成されている場合は，項目ごとに修得した科目の単位数当たりの平均点数がその項目のSAPになりますが，達成されていない場合は修得科目の点数にかかわらず，項目別必要単位数に対して修得した単位数の割合がSAPとなります。必要単位数は表－１，表－３の中に示されています。

注意しなければならないのは，項目ごとの「関連科目」の中で，必要単位数として考慮される科目とされない科目があることです。これはP56の卒業要件などにある必修科目や選択必修，科目群別の必要単位数に対応するもので，表－１および表－３の達成度評価の欄に書かれている内容を，よく理解してください。なお必要単位数として考慮されない科目も，達成された場合のSAPおよび卒業要件には関係します。

２－４　項目別評価点の計算例

《計算例１》

例えば学習・教育到達目標Ｇなど，項目に対応する関連科目が必修科目であり，その修得がすべて必要単位数にカウントされる場合です。社会環境コースのＧを例にとります。

○項目Ｇが達成される場合（Ｇの必要単位数は関連３科目の６単位）

成績　ＣＥ基礎セミナー　　優（単位２，点数３）
　　ＣＥデザインセミナー　良（単位２，点数２）
　　卒業研究　　可（単位２，点数１）

SAP＝{(2×3)＋(2×2)＋(2×1)}/6＝12/6＝2　（１以上）

○項目Ｇが達成されない場合

成績　ＣＥ基礎セミナー　　優（単位２，点数３）
　　ＣＥデザインセミナー　優（単位２，点数３）
　　卒業研究　　不可（単位２，点数０）

SAP＝{(2)＋(2)}/6＝4/6＝0.67　（１未満）

要求されている必修３科目のうち卒業研究の単位を未修得のため，上記の計算になります。

《計算例２》

例えば，関連科目が選択科目や選択必修科目である場合，指定された科目群ごとに一定数しか必要単位数になりません。このような項目では，項目全体の修得単位数が必要単位数を上回っていても，必ずしも達成したことにならないので注意が必要です。学習・教育到達目標Ｄ１，Ｈなどが該当します。社会環境コースのＤ２を例にとります。

○項目Ｄ２が達成される場合（Ｄ２の必要単位数６：物理学Ⅰ２，一般教育・教養・自然科学（環境）４）

成績　物理学Ⅰ　　優（単位２，点数３）
　　環境生物科学Ⅰ　良（単位２，点数２）（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　地球科学Ⅰ　　良（単位２，点数２）（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　物理学Ⅱ　　可（単位２，点数１）

SAP＝{(2×3)＋(2×2)＋(2×2)＋(2×1)}/8＝16/8＝2　（１以上）

○項目Ｄ２が達成されない場合

成績　物理学Ⅰ　　優（単位２，点数３）
　　環境生物科学Ⅰ　優（単位２，点数３）
　　（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　物理学Ⅱ　　優（単位２，点数３）
　　（達成度に考慮されない）
　　振動・波動論　　優（単位２，点数３）
　　（達成度に考慮されない）

SAP＝{(2)＋(2)}/6＝4/6＝0.67　（１未満）

要求されている修得条件のうち，一般教育科目・教養・自然科学（環境）からの修得単位数が不足しているので，上記の計算になります。

結果は，右図に示すようにレーダーチャートを用いると視覚的に示すことができます。

項目	SAP
A１	3
A２	2
B１	2.5
B２	0.8
C１	1
C２	2.8
D１	0.5
D２	0.4
D３	1.2
E	3.5
F１	4
F２	1.5
G	2.5
H	0.9
I	4

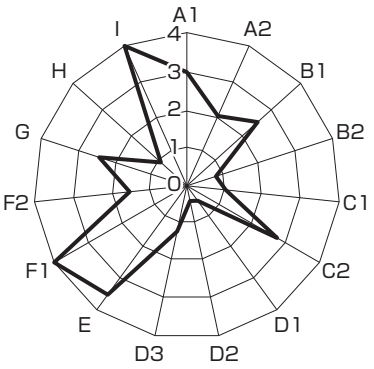


図　SAPの例とレーダーチャート表示

表－１　社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		達成度評価		
				開講学年	科目名等	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力								
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A１	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし，同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
		A２	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目**「技術者倫理・演習(1.5)」**	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B１	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目**「地盤・構造材料実験(1)」，「測量実習(1)」**，「環境計測実習(1)」	専門教育科目の「地盤・構造材料実験」および「測量実習」の単位修得を条件とし，さらに「環境計測実習」の成績を合わせて評価する。	2	
		B２	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目**「構造力学Ⅰ・演習(3)」，「構造力学Ⅱ・演習(3)」，「土質工学Ⅰ・演習(3)」，「土質工学Ⅱ・演習(3)」，「水理学Ⅰ・演習(3)」，「水理学Ⅱ・演習(3)」，「計画数理Ⅰ・演習(3)」**	専門教育科目の演習を含む必修８科目「構造力学Ⅰ・演習」，「構造力学Ⅱ・演習」，「土質工学Ⅰ・演習」，「土質工学Ⅱ・演習」，「水理学Ⅰ・演習」，「水理学Ⅱ・演習」，「計画数理Ⅰ・演習」，「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，これらの科目で評価する。	22.5	
				３年	専門教育科目**「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」**			
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C１	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	３年	専門教育科目**「プレゼンテーション(2)」**	専門教育科目「プレゼンテーション」の単位修得を条件とし，さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び，発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については，プレゼンテーション能力：30点（10点×教員３名）および論文記述能力：10点（卒業研究担当教員が評価）の合計40点満点で評価し，36以上を「秀」，32以上36未満を「優」，28以上32未満を「良」，24以上28未満を「可」，24未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				４年	専門教育科目**「卒業研究（２単位相当）」**			
		C２	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	一般教育科目･基盤科目の英語科目２科目２単位以上の修得を条件とし，さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	2	
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
				３年	専門教育科目「技術英語(2)」			
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力								
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D１	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ(2)」，「線形代数学Ⅱ(2)」，２群「微分積分学Ⅰ(2)」，「微分積分学Ⅱ(2)」，４群「代数学序論(2)」，「代数学Ⅰ(2)」，「代数学Ⅱ(2)」，「幾何学序論(2)」，「幾何学Ⅰ(2)」，「幾何学Ⅱ(2)」，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計(2)」，「環境統計学・演習（1.5)」，「品質管理・演習（1.5)」，２群「応用数学Ⅰ(2)」，「応用数学Ⅱ(2)」，３群「解析学序論(2)」，「解析学Ⅰ(2)」，「解析学Ⅱ(2)」	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から１科目，２群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から１科目，専門教育科目･基盤数理系１群「確率統計」と「環境統計学･演習」と「品質管理･演習」から１科目の合計5.5単位の修得を条件とし，さらに工学基礎科目４群「代数学序論」，「代数学Ⅰ」，「代数学Ⅱ」，「幾何学序論」，「幾何学Ⅰ」，「幾何学Ⅱ」，専門教育科目･基盤数理系２群「応用数学Ⅰ」，「応用数学Ⅱ」，３群「解析学序論」，「解析学Ⅰ」，「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	３つの選択必修各科目群それぞれから，最低１科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において，２科目以上修得していても１科目とカウントする。
		D２	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境），工学基礎科目３群**「物理学Ⅰ(2)」**，「物理学Ⅱ(2)」，「物理学Ⅲ(2)」，「振動・波動工学(2)」	工学基礎科目３群「物理学Ⅰ」，および一般教育科目・教養・自然科学（環境）から２科目４単位以上の修得を条件とし，さらに工学基礎科目３群の「物理学Ⅱ」，「物理学Ⅲ」，「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	一般教育科目・教養・自然科学（環境）からの単位は，４単位以上修得していても必要単位数に対しては４単位とカウントする。
		D３	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術を身につける。	２年	専門教育科目**「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」，「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」**	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習」，「情報処理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに「プログラミング」，「CAD演習」の成績を合わせて評価する。	3	
				３年	専門教育科目「プログラミング(2)」，「CAD演習(1)」			
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目**「構造力学Ⅰ・演習(3)」，「構造力学Ⅱ・演習(3)」，「土質工学Ⅰ・演習(3)」，「土質工学Ⅱ・演習(3)」，「水理学Ⅰ・演習(3)」，「水理学Ⅱ・演習(3)」，「コンクリート工学(2)」，「鋼構造工学(2)」，「測量学Ⅰ(2)」**	専門教育科目の「構造力学Ⅰ・演習」，「構造力学Ⅱ・演習」，「土質工学Ⅰ・演習」，「土質工学Ⅱ・演習」，「水理学Ⅰ・演習」，「水理学Ⅱ・演習」，「コンクリート工学」，「鋼構造学」，「測量学Ⅰ」，「測量実習」，「地盤・構造材料実験」の単位修得を条件としこれらの科目で評価する。	26	
				３年	専門教育科目**「測量実習(1)」，「地盤・構造材料実験(1)」**			
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F１	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目**「卒業研究（２単位相当)」，「CEデザインセミナー(2)」**	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて，基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については，基本的な技術の習得度を30点（10点×教員３名）満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		F２	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目（１年次２科目，２年次３科目，３年次23科目，４年次５科目の合計33科目）	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目から，35単位以上の修得を条件とし，これらの科目により評価する。	35	
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力								
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目**「CE基礎セミナー(2)」**	専門教育科目「CE基礎セミナー」，「CEデザインセミナー」，「卒業研究」の単位の修得を条件とし，これらの科目で評価する。	6	「卒業研究」については，デザイン能力等を30点満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				４年	専門教育科目**「CEデザインセミナー(2)」，「卒業研究（２単位相当)」**			
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から２科目４単位以上，専門教育科目の環境工学系から４単位の単位修得を条件とし，さらにそれぞれから単位を修得した科目を合わせて評価する。	8	必要単位数に対しては，一般教育科目・教養・自然科学（環境）から４単位以上，専門教育科目の環境工学系から４単位以上修得していても，それぞれ４単位とカウントする。
				１年	専門教育科目「環境工学序論(2)」			
				２年	専門教育科目「環境地質学(2)」，「保全生態学(2)」			
				３年	専門教育科目「上下水道工学Ⅰ(2)」，「上下水道工学Ⅱ(2)」，「環境アセスメント(2)」，「都市環境工学(2)」，「環境計測学(2)」，「環境計測実習(1)」			
				４年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」，「景観工学(2)」			
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		３年	専門教育科目「建設マネジメント(2)」，「社会基盤施設維持管理工学(2)」，「寒冷地舗装工学(2)」，「道路工学(2)」，「都市経営論(2)」	専門教育科目の計画・設計・維持管理系から２科目４単位の修得を条件とし，さらに同系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	4	
				４年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習(2)」，「都市・交通計画(2)」			

表－２　社会環境コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		ルーブリック評価基準			
				開講学年	科目名等	秀（4.00～3.50）	優（3.49～2.50）	良（2.49～1.50）	可（1.49～1.00）
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力									
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	人文・社会科学の知的基盤について，**高度な教養**を身に付け，自ら考察し，さらなる素養を身に付け，**議論**することができる。	人文・社会科学の知的基盤について，**十分な教養**を身に付け，社会人として豊かな素養を，さらに**発展**させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について，その**概念**を理解し，今後の応用や発展が**期待**できる。	人文・社会科学の知的基盤について，**最低限必要となる基礎的な**能力を身に付け，今後の知識獲得の方法を**理解**している。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
		A2	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習（1.5）」	技術者としての**高度な**倫理観を身に付け，それに基づいた行動を取ることができ，自らの経験からさらに**高度な**倫理観を得ることができる。	技術者としての**十分な**倫理観を身に付け，それを自らの行動規範とすることができ，経験に基づいて**応用する**ことができる。	技術者としての倫理観を**理解**し，その概念の説明，応用，発展させる**能力**が認められる。	技術者としての**最低限必要となる**倫理観を身に付け，それらを自らの**行動規範**とすることができる。
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「地盤・構造材料実験（１）」，「測量実習（１）」，「環境計測実習（１）」	技術的問題にチームで取り組む時，自らリーダーシップを取り，チームの和を図り，互いの創意工夫により困難な問題を解決し，**実行する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダーとして活動することができ，り，チームのけん引役となって，互いの意見を尊重し，問題を**解決する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダー役を引き受けることができ，チームのまとめ役となって，互いの意見から，問題解決への**適応可能性を有している**。	技術的問題にチームで取り組む時，個別の問題に対して**最低限必要となる**リーダー役を引き受けることができ，チーム全体の課題解決に**貢献する**ことができる。
		B2	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習（３）」，「構造力学Ⅱ・演習（３）」，「土質工学Ⅰ・演習（３）」，「土質工学Ⅱ・演習（３）」，「水理学Ⅰ・演習（３）」，「水理学Ⅱ・演習（３）」，「計画数理Ⅰ・演習（３）」	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して，**高度な**問題を融合的に**解決する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果を生かして，解決すべき問題に自らの知識を**活用する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果から，解決すべき問題への対応策をに自ら**立案する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，**最低限必要な**知識を身につけることよって，自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への**適応可能性を有している**。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」				
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	３年	専門教育科目「プレゼンテーション（２）」	技術的，学問的成果を論理的な記述で**論文として**まとめ，口頭発表や討議などの**高度な**プレゼンテーション能力を身に付け，**誰にでもわかり易く説明できる**能力を発揮できる。	技術的，学問的成果を**論文**としてまとめ，口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け，**論点がずれることなく説明できる**能力を有している。	技術的，学問的成果をまとめ，**論文**として記述することができ，口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的，学問的成果を**最低限必要となる文言でまとめる**ことができ，論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
				４年	専門教育科目「卒業研究」（２単位相当）				
		C2	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	社会人ならびに技術者として，**高度な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につけ，技術的･社会的に**十分な**コミュニケーションができる。	社会人ならびに技術者として，**十分な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**必要な**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**通用する**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**最低限必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，**意思伝達が可能な**コミュニケーションができる。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
				３年	専門教育科目「技術英語（２）」				
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力									
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ（２）」，「線形代数学Ⅱ（２）」，２群「微分積分学Ⅰ（２）」，「微分積分学Ⅱ（２）」，４群「代数学序論（２）」，「代数学Ⅰ（２）」，「代数学Ⅱ（２）」，「幾何学序論（２）」，「幾何学Ⅰ（２）」，「幾何学Ⅱ（２）」，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計（２）」，「環境統計学･演習(1.5)」，「品質管理･演習(1.5)」，２群「応用数学Ⅰ（２）」，「応用数学Ⅱ（２）」，３群「解析学序論（２）」，「解析学Ⅰ（２）」，「解析学Ⅱ（２）」	数学，および統計学の理論を**完全に**理解し，革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決，あるいは**高度な**考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を**十分に**理解し，創造性を発揮して技術的問題の解決，あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を理解し，自ら考察して技術的問題の解決，あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論について**最低限必要とされる**理解度を有し，**自らの努力によって**技術的問題の解決，あるいは分析や解析に利用するための**適応可能性を有している**。
		D2	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	一般教育科目･教養･自然科学(環境)，工学基礎科目３群「物理学Ⅰ(２)」，「物理学Ⅱ（２）」，「物理学Ⅲ（２）」，「振動・波動工学（２）」。	物理学およびその他の自然科学の素養を**高度に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に**寄与できる**能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を**十分に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に関する**理解**を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，利用することができ，社会の持続的発展とは**何かを理解**できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して，**最低限必要とされる水準**の理解を身につけ，自然現象や，環境への影響の分析などに対して，**利用する**ことができる。
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習（1.5）」，「情報処理Ⅱ・演習（1.5）」	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術にも**理解を広げ**，適切な解析によって**十分な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術の**知識があり**，適切な解析によって**必要な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**適切な解析**によって必要な情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**最低限必要の解析**によって情報を獲得するための情報技術，および**若干の**プログラミング能力を有する。
				３年	専門教育科目「プログラミング（２）」，「CAD演習（１）」				
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習（３）」，「構造力学Ⅱ・演習（３）」，「土質工学Ⅰ・演習（３）」，「土質工学Ⅱ・演習（３）」，「水理学Ⅰ・演習（３）」，「水理学Ⅱ・演習（３）」，「コンクリート工学（２）」，「鋼構造工学（２）」，「測量学Ⅰ（２）」	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**十分に**修得し，それらを**高度に**適用または応用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，それらを**適切に**適用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，実務に対応できる**基礎能力**を有している。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**最低限必要とする水準**で修得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				３年	専門教育科目「測量実習（１）」，「地盤・構造材料実験（１）」	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**十分に**理解し，**高い**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，**十分な**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**最低限必要な水準**で理解し，**基礎的な**工学的考察能力を発揮できる。
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力，応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「CEデザインセミナー（２）」	専門分野における**高度な**デザイン能力，自ら進んで応用できる力，および**旺盛な**探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における**十分な**デザイン能力，自ら応用できる力，および探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力，応用力，および探究心を有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における必要**最低限必要な**デザイン能力，探究心を有し，これを**将来的に応用できる力**を身に付け，発揮できる能力を有する。
		F2	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目（１年次２科目，２年次３科目，３年次23科目，４年次５科目の合計33科目）	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**高度に**理解し，**十分に**実務で通用する適応力を有し，**必要に応じて**適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**十分に**理解し，実務で通用する適応力を有し，**適切に**発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を理解し，実務に関わる**基礎的適応力**を有し，これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**最低限必要の水準**で理解して，実務に関する基礎適応力を**将来的に発展させる力**を有し，これを発揮できる。
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力									
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE基礎セミナー（２）」	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**高い水準**で有機的に展開して，**優れた**創造的計画能力と分析能力，**改革**をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**有機的に**展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を**発揮**することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で**最低限必要となる**基礎と専門の知識を展開して，**将来において**創造的な計画能力と分析能力に**発展させる**ことができる。
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー（２）」，「卒業研究（２単位相当）」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**高度な水準**で理解し，未来への持続的発展を**考慮**した，循環型社会システムを築くための環境技術の**提案**を行い，これを**実施**できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**十分に**理解し，社会の持続的発展に**配慮**した循環型システムを築くための環境技術を**習得**し，実務において**適用する**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための環境技術を習得し，実務において**生かす**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための**最低限必要な**環境技術を習得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				１年	専門教育科目「環境工学序論（２）」				
				２年	専門教育科目「環境地質学（２）」，「保全生態学（２）」				
				３年	専門教育科目「上下水道工学Ⅰ（２）」，「上下水道工学Ⅱ（２）」，「環境アセスメント（２）」，「都市環境工学（２）」，「環境計測学（２）」，「環境計測実習（１）」				
				４年	専門教育科目「環境アセスメント（２）」，「景観工学（２）」				
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		３年	専門教育科目「建設マネジメント（２）」，「社会基盤施設維持管理工学（２）」，「寒冷地舗装工学（２）」，「道路工学（２）」，「都市経営論（２）」	北海道の地域特性を十分に考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**高度な水準**で理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務において**実施する**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**十分に**理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務に**生かす**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとる**必要性**を**最低限理解**し，持続可能な社会を建設するための**基本的な**技術を身に付ける。
				４年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習（２）」，「都市・交通計画（２）」				

表－３　環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		達成度評価		
				開講学年	科目名等	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力								
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A１	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし，同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
		A２	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目**「技術者倫理・演習(1.5)」**	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B１	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目**「環境計測実習(1)」，「測量実習(1)」**，「地盤・構造材料実験(1)」	専門教育科目の「環境計測実習」，「測量実習」の単位修得を条件とし，さらに「地盤・構造材料実験」の成績を合わせて評価する。	2	
		B２	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目**「計画数理Ⅰ・演習(3)」**，「構造の力学Ａ・演習(1.5))」，「構造の力学Ｂ・演習(1.5))」，「流れ学Ａ・演習(1.5))」，「流れ学Ｂ・演習(1.5))」，「基礎土質工学Ａ・演習(1.5))」，「基礎土質工学Ｂ・演習(1.5))」	専門教育科目の「計画数理Ⅰ・演習」と「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに「構造の力学Ａ・演習」または「構造の力学Ｂ・演習」，「流れ学Ａ・演習」または「流れ学Ｂ・演習」，「基礎土質工学Ａ・演習」または「基礎土質工学Ｂ・演習」の単位修得も条件として，これらの科目で評価する。	9	必要単位数は必修4.5単位，および３つの選択必修各科目群それぞれから1.5単位であり，１つの選択必修科目群において２科目修得していても1.5単位とカウントとする。
				３年	専門教育科目**「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」**			
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C１	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	３年	専門教育科目**「プレゼンテーション(2)」**	専門教育科目「プレゼンテーション」の単位修得を条件とし，さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び，発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については，プレゼンテーション能力：30点（10点×教員３名）および論文記述能力：10点（卒業研究担当教員が評価）の合計40点満点で評価し，36以上を「秀」，32以上36未満を「優」，28以上32未満を「良」，24以上28未満を「可」，24未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				４年	専門教育科目**「卒業研究（２単位相当）」**			
		C２	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	一般教育科目・基盤科目の英語科目２科目２単位以上を含む基盤科目の言語４単位以上（専門教育科目の「技術英語」も含むことができる）の修得を条件とし，さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	4	必要単位数に対しては，英語以外の外国語から２単位以上修得していても２単位とカウントする。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
				３年	専門教育科目「技術英語(2)」			
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力								
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D１	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ(2)」，「線形代数学Ⅱ(2)」，２群「微分積分学Ⅰ(2)」，「微分積分学Ⅱ(2)」，４群「代数学序論(2)」，「代数学Ⅰ(2)」，「代数学Ⅱ(2)」，「幾何学序論(2)」，「幾何学Ⅰ(2)」，「幾何学Ⅱ(2)」，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計(2)」，「環境統計学・演習（1.5）」，「品質管理・演習（1.5）」，２群「応用数学Ⅰ(2)」，「応用数学Ⅱ(2)」，３群「解析学序論(2)」，「解析学Ⅰ(2)」，「解析学Ⅱ(2)」	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から１科目，２群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から１科目，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計」と「環境統計学・演習」と「品質管理・演習」から１科目の合計5.5単位の修得を条件とし，さらに工学基礎科目４群「代数学序論」，「代数学Ⅰ」，「代数学Ⅱ」，「幾何学序論」，「幾何学Ⅰ」，「幾何学Ⅱ」，専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ」，「応用数学Ⅱ」，３群「解析学序論」，「解析学Ⅰ」，「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	３つの選択必修各科目群それぞれから，最低１科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において，２科目以上修得していても１科目とカウントする。
		D２	化学，生物等の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１年	一般教育科目・教養・自然科学（環境），工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ(2)」，「物理学Ⅱ(2)」，「物理学Ⅲ(2)」，「振動・波動工学(2)」	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から３科目６単位以上の修得を条件とし，さらに工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ」，「物理学Ⅱ」，「物理学Ⅲ」，「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位としては一般教育科目・教養・自然科学（環境）からの単位をのみを含む。
				２年				
		D３	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術，およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	２年	専門教育科目**「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」，「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」**	専門教育科目の「情報処理Ⅰ・演習」，「情報処理Ⅱ・演習」，「データ処理論実習」，「CAD演習」の単位修得を条件とし，さらに専門選択科目の都市情報系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5	
				３年	専門教育科目**「データ処理論実習(1)」，「CAD演習(1)」**			
				３，４年	専門選択科目の都市情報系科目			
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目**「計画数理Ⅰ・演習(3)」，「測量学Ⅰ(2)」**，「構造の力学Ａ・演習(1.5))」，「構造の力学Ｂ・演習(1.5))」，「流れ学Ａ・演習(1.5))」，「流れ学Ｂ・演習(1.5))」，「基礎土質工学Ａ・演習(1.5))」「基礎土質工学Ｂ・演習(1.5))」	専門教育科目の総合系から「構造の力学Ａ・演習」または「構造の力学Ｂ・演習」，「流れ学Ａ・演習」または「流れ学Ｂ・演習」，「基礎土質工学Ａ・演習」または「基礎土質工学Ｂ・演習」の３選択必修科目群，および「測量学Ⅰ」，「測量実習」，都市経営系から「計画数理Ⅰ・演習」，「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目総合系の「測量学Ⅱ」，都市防災系の「地盤・構造材料実験」を評価項目とし，これらの科目により評価する。	12	必要単位数に対しては３選択必修科目群より各１科目，および必修科目の単位のみであり，各選択必修科目群において，修得単位がなければ０単位，２科目修得していても1.5単位のみカウントする。
				３年	専門教育科目**「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」，「測量実習(1)」**，「測量学Ⅱ(2)」，「地盤・構造材料実験(1)」			
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F１	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目**「卒業研究（２単位相当）」，「CEデザインセミナー(2)」**	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて，基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については，基本的な技術の習得度を30点（10点×教員３名）満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		F２	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１年	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目（総合系の選択必修科目を含む）（１年次３科目，２年次13科目，３年次18科目，４年次５科目の合計39科目）。	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目（総合系の選択必修科目を含む）から，49単位以上の修得を条件とし，これらの科目により評価する。	49	
				２年				
				３年				
				４年				
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力								
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目**「CE基礎セミナー(2)」**	専門教育科目「CE基礎セミナー」，「環境計測実習」，「CEデザインセミナー」，「卒業研究」の単位の修得を条件とし，これらの科目で評価する。	7	「卒業研究」については，デザイン能力等を30点満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				３年	専門教育科目**「環境計測実習(1)」**			
				４年	専門教育科目**「CEデザインセミナー(2)」，「卒業研究（２単位相当）」**			
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から３科目６単位以上，専門教育科目の都市環境系の必修科目「環境計測学」，「環境計測実習」，「上下水道工学Ⅰ」，都市環境系の選択科目から４単位以上の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目の都市環境系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	15	必要単位数に対しては，一般教育科目・教養・自然科学（環境）から６単位以上，都市環境系の選択科目から４単位以上修得していても，それぞれ６単位，４単位とカウントする。
				１年	専門教育科目「環境工学序論(2)」，「微生物学(2)」			
				２年	専門教育科目「環境地質学(2)」，「保全生態学(2)」，「環境評価論(2)」			
				３年	専門教育科目**「環境計測学(2)」，「環境計測実習(1)」，「上下水道工学Ⅰ(2)」**，「上下水道工学Ⅱ(2)」，「都市環境工学(2)」，「環境アセスメント(2)」			
				４年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」，「景観工学(2)」			
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		２～４年	専門教育科目の都市経営系選択科目	専門教育科目の都市防災系必修科目の「リスクマネジメント」，都市防災系選択科目から２単位以上，専門教育科目の都市経営系選択科目から２単位以上の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目の都市防災系選択科目，都市経営系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位数に対しては，専門教育科目の都市防災系選択科目から２単位以上，都市経営系選択科目から２単位以上修得していても，それぞれ２単位とカウントする。
				２～４年	専門教育科目**「リスクマネジメント(2)」**，および都市防災系選択科目。			

表－４　環境情報コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		ルーブリック評価基準			
				開講学年	科目名等	秀（4.00～3.50）	優（3.49～2.50）	良（2.49～1.50）	可（1.49～1.00）
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力									
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	人文・社会科学の知的基盤について，**高度な教養**を身に付け，自ら考察し，さらなる素養を身に付け，**議論**することができる。	人文・社会科学の知的基盤について，**十分な教養**を身に付け，社会人として豊かな素養を，さらに**発展**させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について，その**概念**を理解し，今後の応用や発展が**期待**できる。	人文・社会科学の知的基盤について，**最低限必要となる基礎的な**能力を身に付け，今後の知識獲得の方法を**理解**している。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
		A2	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習（1.5）」	技術者としての**高度な**倫理観を身に付け，それに基づいた行動を取ることができ，自らの経験からさらに**高度な**倫理観を得ることができる。	技術者としての**十分な**倫理観を身に付け，それを自らの行動規範とすることができ，経験に基づいて**応用する**ことができる。	技術者としての倫理観を**理解**し，その概念の説明，応用，発展させる**能力**が認められる。	技術者としての**最低限必要となる**倫理観を身に付け，それらを自らの**行動規範**とすることができる。
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「環境計測実習（１）」，「測量実習（１）」，「地盤・構造材料実験（１）」	技術的問題にチームで取り組む時，自らリーダーシップを取り，チームの和を図り，互いの創意工夫により困難な問題を解決し，**実行する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダーとして活動することができ，り，チームのけん引役となって，互いの意見を尊重し，問題を**解決する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダー役を引き受けることができ，チームのまとめ役となって，互いの意見から，問題解決への**適応可能性を有している**。	技術的問題にチームで取り組む時，個別の問題に対して**最低限必要となる**リーダー役を引き受けることができ，チーム全体の課題解決に**貢献する**ことができる。
		B2	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習（３）」，および「構造の力学A・演習（1.5）」または「構造の力学B・演習（1.5）」，「流れ学A・演習（1.5）」または「流れ学B・演習（1.5）」，「基礎土質工学A・演習（1.5）」または「基礎土質工学B・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して，**高度な**問題を融合的に**解決する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果を生かして，解決すべき問題に自らの知識を**活用する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果から，解決すべき問題への対応策を**に自ら立案する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，**最低限必要な**知識を身につけることよって，自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への**適応可能性を有している**。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」				
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	３年	専門教育科目「プレゼンテーション（２）」	技術的，学問的成果を論理的な記述で**論文としてまとめ**，口頭発表や討議などの**高度な**プレゼンテーション能力を身に付け，**誰にでもわかり易く説明できる**能力を発揮できる。	技術的，学問的成果を**論文**としてまとめ，口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け，**論点がずれることなく説明できる**能力を有している。	技術的，学問的成果をまとめ，**論文**として記述することができ，口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的，学問的成果を**最低限必要となる文言でまとめる**ことができ，論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
				４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」				
		C2	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	社会人ならびに技術者として，**高度な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につけ，技術的・社会的に**十分な**コミュニケーションができる。	社会人ならびに技術者として，**十分な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**必要な**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**通用する**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**最低限必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，**意思伝達が可能な**コミュニケーションができる。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
				３年	専門教育科目「技術英語（２）」				
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力									
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ（２）」，「線形代数学Ⅱ（２）」，２群「微分積分学Ⅰ（２）」，「微分積分学Ⅱ（２）」，４群「代数学序論（２）」，「代数学Ⅰ（２）」，「代数学Ⅱ（２）」，「幾何学序論（２）」，「幾何学Ⅰ（２）」，「幾何学Ⅱ（２）」，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計（２）」，「環境統計学・演習（1.5）」，「品質管理・演習（1.5）」，２群「応用数学Ⅰ（２）」，「応用数学Ⅱ（２）」，３群「解析学序論（２）」，「解析学Ⅰ（２）」，「解析学Ⅱ（２）」	数学，および統計学の理論を**完全に**理解し，革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決，あるいは**高度な**考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を**十分に**理解し，創造性を発揮して技術的問題の解決，あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を理解し，自ら考察して技術的問題の解決，あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論について**最低限必要とされる**理解度を有し，**自らの努力によって**技術的問題の解決，あるいは分析や解析に利用するための**適応可能性を有している**。
		D2	化学，生物等の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境），工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ（２）」，「物理学Ⅱ（２）」，「物理学Ⅲ（２）」，「振動・波動工学（２）」。	物理学およびその他の自然科学の素養を**高度に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に**寄与できる**能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を**十分に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に関する**理解**を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，利用することができ，社会の持続的発展とは**何かを理解**できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して，**最低限必要とされる水準**の理解を身につけ，自然現象や，環境への影響の分析などに対して，**利用する**ことができる。
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術，およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習（1.5）」，「情報処理Ⅱ・演習（1.5）」	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術にも**理解を広げ**，適切な解析によって**十分な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術の**知識があり**，適切な解析によって**必要な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**適切な解析**によって必要な情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**最低限必要の解析**によって情報を獲得するための情報技術，および**若干の**プログラミング能力を有する。
				３年	専門教育科目「データ処理論実習（１）」，「CAD演習（１）」				
				３，４年	専門選択科目の都市情報系科目				
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習（３）」，「測量学Ⅰ（２）」，および「構造の力学A・演習（1.5）」または「構造の力学B・演習（1.5）」，「流れ学A・演習（1.5）」または「流れ学B・演習（1.5）」，「基礎土質工学A・演習（1.5）」または「基礎土質工学B・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**十分に**修得し，それらを**高度に**適用または応用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，それらを**適切に**適用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，実務に対応できる**基礎能力**を有している。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**最低限必要とする水準**で修得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」，「測量実習（１）」，「測量学Ⅱ（２）」，「地盤・構造材料実験（１）」	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**十分に**理解し，**高い**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，**十分な**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**最低限必要な水準**で理解し，**基礎的な**工学的考察能力を発揮できる。
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力，応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「CEデザインセミナー（２）」	専門分野における**高度な**デザイン能力，自ら進んで応用できる力，および**旺盛な**探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における**十分な**デザイン能力，自ら応用できる力，および探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力，応用力，および探究心を有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における必要**最低限必要な**デザイン能力，探究心を有し，これを**将来的に応用できる力**を身に付け，発揮できる能力を有する。
		F2	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力をつける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目（総合系の選択必修科目を含む）（１年次３科目，２年次13科目，３年次18科目，４年次５科目の合計39科目）。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**高度に**理解し，**十分に**実務で通用する適応力を有し，**必要に応じて**適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**十分に**理解し，実務で通用する適応力を有し，**適切に**発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を理解し，実務に関わる**基礎的適応力**を有し，これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**最低限必要の水準**で理解して，実務に関する基礎適応力を**将来的に発展させる力**を有し，これを発揮できる。
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力									
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE基礎セミナー（２）」	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**高い水準**で有機的に展開して，**優れた**創造的計画能力と分析能力，**改革**をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**有機的に**展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を**発揮**することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で**最低限必要となる**基礎と専門の知識を展開して，**将来において**創造的な計画能力と分析能力に**発展させる**ことができる。
				３年	専門教育科目「環境計測実習（１）」				
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー（２）」，「卒業研究（２単位相当）」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**高度な水準**で理解し，未来への持続的発展を**考慮**した，循環型社会システムを築くための環境技術の**提案**を行い，これを**実施**できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**十分に**理解し，社会の持続的発展に**配慮**した循環型システムを築くための環境技術を**習得**し，実務において**適用する**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための環境技術を習得し，実務において**生かす**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための**最低限必要な**環境技術を習得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				１年	専門教育科目「環境工学序論（２）」，「微生物学（２）」				
				２年	専門教育科目「環境地質学（２）」，「保全生態学（２）」，「環境評価論（２）」				
				３年	専門教育科目「環境計測学（２）」，「環境計測実習（１）」，「上下水道工学Ⅰ（２）」，「上下水道工学Ⅱ（２）」，「都市環境工学（２）」，「環境アセスメント（２）」				
				４年	専門教育科目「環境アセスメント（２）」，「景観工学（２）」				
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		２～４年	専門教育科目の都市経営系科目	北海道の地域特性を十分に考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**高度な水準**で理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務において**実施する**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**十分に**理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務に**生かす**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとる**必要性を最低限理解**し，持続可能な社会を建設するための**基本的**な技術を身に付ける。
				２～４年	専門教育科目「リスクマネジメント（２）」，および都市防災系選択科目。				

社会環境工学科の履修要件〔2017年度（平成29年度）以降入学者〕

1．目標修得単位

卒業に必要な単位数は合計124単位以上です。つまり，１年間に修得すべき平均単位数は，単純計算すると，124単位／４年間＝31単位／年となります。しかし，４年次になると卒業研究や就職活動などに非常に多くの時間や労力を必要とすることに留意しなければなりません。したがって，１～３年次の期間で充分な単位を修得しておく必要があります。

社会環境工学科では，各学年においての目標修得単位数を以下のように設定しています。

この単位数を念頭に置き，計画的に学習するよう努めてください。

（社会環境コース）

１年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学(環境)	１～３群	１～２群		
単位数	14単位以上	４単位以上（ただし，英語３科目３単位以上を含む）	４単位以上	10単位以上（必修・選択必修科目から６単位を含む）		４単位（必修２単位を含む）	40単位以上

＊　留学生科目を含む

２年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系以外	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学(環境)	１～３群	１～２群		
単位数	18単位以上		６単位以上	11単位以上（必修・選択必修科目から7.5単位以上を含む）		必修30単位	70単位以上

＊　留学生科目を含む

３年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

＊55ページ参照

４年次目標修得単位

卒業要件と同じ

＊56ページ参照

（環境情報コース）

１年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学(環境)	１～３群	１～２群		
単位数	14単位以上	４単位以上（ただし，英語３科目３単位以上を含む）	４単位以上	10単位以上（選択必修科目から４単位を含む）		４単位（必修２単位を含む）	40単位以上

＊　留学生科目を含む

2年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系以外	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	18単位以上		8単位以上	11単位以上（選択必修科目から5.5単位以上を含む）		28単位以上（必修12単位を含む）	70単位以上

＊　留学生科目を含む

3年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

＊55ページ参照

4年次目標修得単位

卒業要件と同じ

＊56ページ参照

2．進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当されている授業科目のうちから，以下の要件を全て満たした1年次学生は，2年次に進級することができます（工学部規則第13条）。この進級要件を満たさない学生は，1年次に留置きとなります。

（社会環境コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学，社会科学		
単位数	6単位以上	必修2単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目*のうち人文科学・社会科学・自然科学(環境)，工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

＊　留学生科目を含む

（環境情報コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学，社会科学		
単位数	6単位以上	必修2単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目*のうち人文科学・社会科学・自然科学(環境)，工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

＊　留学生科目を含む

3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件

３年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は，４年次に必修科目である「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この着手条件を満たさない場合，その年度には卒業できませんので十分注意してください。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="4">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td>専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>10単位以上</td><td>英語１科目１単位科目
から２単位以上</td><td rowspan="2">４単位以上</td><td colspan="2" rowspan="2">12単位以上
（必修・選択必修科目から
7.5単位以上を含む）</td><td rowspan="2">90単位
以上</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="2">18単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="4">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td>専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学（環境）</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>10単位以上</td><td>英語１科目１単位科目
から２単位以上</td><td rowspan="2">６単位以上</td><td colspan="2" rowspan="2">10単位以上
（選択必修科目から
5.5単位以上を含む）</td><td rowspan="2">90単位
以上</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="2">18単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

4．卒業見込証明書の発行条件

３年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系
以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">20単位以上</td><td>４単位以上</td><td colspan="2">12単位以上
（必修・選択必修科目から
7.5単位以上を含む）</td><td>必修33単位
以上</td><td>100単位
以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学（環境）</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">20単位以上</td><td>６単位以上</td><td colspan="2">10単位以上
（選択必修科目から
5.5単位以上を含む）</td><td>必修15単位
を含む
33単位以上</td><td>100単位
以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

5．卒業要件

社会環境工学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表9(1)及び(2)に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければなりません（工学部規則第14条）。

卒業要件を体系的にまとめると次のようになります。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>1～3群</td><td>1～2群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td>10単位以上</td><td>英語1科目
1単位科目
から2単位
以上</td><td>4単位以上</td><td>必修2単
位，1・2
群から各2
単位以上</td><td>1群から
1.5単位
以上</td><td rowspan="2">必修47単位，
かつ選択35単
位以上（ただ
し，環境工学
系，計画・設
計・維持管理
系からそれぞ
れ4単位以上
とその他の系
からそれぞれ
2単位以上を
含む）</td><td rowspan="2">124単位
以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記を含む20単位以上</td><td colspan="3">上記を含む22単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む

＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>1～3群</td><td>1～2群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td>10単位以上</td><td>4単位以上
(英語1科目
1単位科目
から2単位
以上を含む)</td><td>6単位以上</td><td>1・2群か
ら各2単位
以上</td><td>1群から
1.5単位
以上</td><td rowspan="2">必修33単位，
かつ選択49単
位以上（ただ
し，総合系選
択必修4.5単位
以上***，都市
環境系から4
単位以上，都
市経営系と都
市防災系から
それぞれ2単
位以上を含む）</td><td rowspan="2">124単位
以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記を含む20単位以上</td><td colspan="3">上記を含む22単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む

＊＊「技術英語」を含む

＊＊＊　構造の力学A・演習および構造の力学B・演習より1.5単位以上，流れ学A・演習および流れ学B・演習より1.5単位以上，基礎土質工学A・演習および基礎土質工学B・演習より1.5単位以上の計4.5単位以上

2017年度（平成29年度）以降入学者　社会環境工学科　社会環境コース　科目系統図

区分		1年		2年		3年		4年	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
科目		分野							
一般教育科目	基盤科目	○言語（英語，英語以外の外国語＜ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）		言語科目		技術英語+（専門教育科目）			
		○身体							
		○情報（コンピュータ科学）							
	教養科目	○人文科学（自己,文化,歴史） ○社会科学（社会構造,地域）		人文・社会系科目					
		○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ，Ⅱ，物質科学，物質環境科学　普遍性）		○自然科学（環境：地球科学Ⅰ，Ⅱ，宇宙科学Ⅰ，Ⅱ）					
		○北海道学							
	キャリア形成	（キャリアガイダンス）							
	体験型	（海外文化Ⅰ～Ⅳ）							
	留学生	（日本語演習Ⅰ，日本語読解・構文Ⅰ等）							
工学基礎科目	1群	**線形代数学Ⅰ***	**線形代数学Ⅱ***			*，**：選択必修			
	2群		**微分積分学Ⅰ****	**微分積分学Ⅱ****					
	3群	**[物理学Ⅰ]**	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学				
	4群		代数学序論	代数学Ⅰ	代数学Ⅱ				
			幾何学序論	幾何学Ⅰ	幾何学Ⅱ				
専門教育科目	基盤数理系 1群	**確率統計◆**		**環境統計学・演習(1.5)◆**	**品質管理・演習(1.5)◆**	◆：選択必修			
	2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ				
	3群		解析学序論	解析学Ⅰ	解析学Ⅱ				
	環境工学系	環境工学序論+		環境地質学+	保全生態学+	上下水道工学Ⅰ+	上下水道工学Ⅱ+	景観工学+	
						都市環境工学+	環境計測学+		
						環境アセスメント+	環境計測実習(1)+	環境アセスメント+	
	水工系			**[水理学Ⅰ・演習](3)**	**[水理学Ⅱ・演習](3)**	河川工学+	港湾工学		
					防災工学+				
	計画・設計・維持管理系				**[計画数理Ⅰ・演習](3)+**	**[計画数理Ⅱ・演習](1.5)+**	社会基盤施設維持管理工学	都市・交通計画+	
						道路工学+	寒冷地舗装工学	コンクリート構造設計演習	
						都市経営論+	建設マネジメント		
	構造・材料系			**[構造力学Ⅰ・演習](3)**	**[構造力学Ⅱ・演習](3)**	構造解析学	地震工学+		
					[コンクリート工学]+	コンクリート構造工学+			
						[地盤・構造材料実験](1)+			
	土質・施工系			**[土質工学Ⅰ・演習](3)**	**[土質工学Ⅱ・演習](3)**		地盤工学+	火薬学	
						[鋼構造工学]+	橋梁工学+		
	総合系	**[CE基礎セミナー]+**	CE総論+	**[情報処理Ⅰ・演習](1.5)+**	**[情報処理Ⅱ・演習](1.5)+**	プログラミング+	CAD演習(1)+	**[CEデザインセミナー]+**	**[卒業研究](6)+**
					[測量学Ⅰ]+	測量学Ⅱ+	**[プレゼンテーション]+**		
						[測量実習](1)+			
						[技術者倫理・演習](1.5)+			
						インターンシップA(1)+			
						インターンシップB+			

太字：選択必修科目
[太字]：必修科目
□□・演習(3)：講義90分＋演習90分
□□・演習(1.5)：講義45分＋演習45分
＋：両コース合同科目

2017年度（平成29年度）以降入学者　社会環境工学科　環境情報コース　科目系統図

区分			1年		2年		3年		4年	
			1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
科目			分野							
一般教育科目	基盤科目		○言語（英語，英語以外の外国語＜ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）		言語科目		技術英語⁺（専門教育科目）			
			○身体							
			○情報（コンピュータ科学）							
	教養科目		○人文科学（自己，文化，歴史） ○社会科学（社会構造，地域）		人文・社会系科目					
			○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ，Ⅱ，物質科学，物質環境科学　普遍性）		○自然科学（環境：地球科学Ⅰ，Ⅱ，宇宙科学Ⅰ，Ⅱ）					
			○北海道学							
	キャリア形成		（キャリアガイダンス）							
	体験型		（海外文化Ⅰ～Ⅳ）							
	留学生		（日本語演習Ⅰ，日本語読解・構文Ⅰ等）							
工学基礎科目	1群		**線形代数学Ⅰ***	**線形代数学Ⅱ***						
	2群			**微分積分学Ⅰ****	**微分積分学Ⅱ****		*，**：選択必修			
	3群		物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学				
	4群			代数学序論	代数学Ⅰ	代数学Ⅱ				
				幾何学序論	幾何学Ⅰ	幾何学Ⅱ				
専門教育科目	基盤数理系	1群	**確率統計◆**		**環境統計学・演習(1.5)◆**	**品質管理・演習(1.5)◆**	◆：選択必修			
		2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ				
		3群		解析学序論	解析学Ⅰ	解析学Ⅱ				
	都市環境系		環境工学序論⁺	微生物学（生命開講）	環境地質学⁺	保全生態学⁺	**[上下水道工学Ⅰ]⁺**	上下水道工学Ⅱ⁺	景観工学⁺	
					環境評価論		都市環境工学⁺	**[環境計測学]⁺**		
							環境アセスメント⁺	**[環境計測実習](1)⁺**	環境アセスメント⁺	
	都市情報系				**[情報処理Ⅰ・演習](1.5)⁺**	**[情報処理Ⅱ・演習](1.5)⁺**	**[データ処理論実習](1)**	**[CAD演習](1)⁺**	防災情報システム	
							プログラミング⁺			
	都市経営系				地域交通論	**[計画数理Ⅰ・演習](3)⁺**	**[計画数理Ⅱ・演習](1.5)⁺**	社会調査法	都市・交通計画⁺	
						住民参加論	都市経営論⁺	寒地政策論		
							道路工学⁺			
	都市防災系					防災工学⁺	河川工学⁺		寒地・都市防災論	
							[リスクマネジメント]	地震工学⁺		
							地盤・構造材料実験(1)⁺	地盤工学⁺		
							鋼構造工学⁺	橋梁工学⁺		
						コンクリート工学⁺	コンクリート構造工学⁺			
	総合系		**[CE基礎セミナー]⁺**	CE総論⁺		**[測量学Ⅰ]⁺**	測量学Ⅱ⁺	**[プレゼンテーション]⁺**	**[CEデザインセミナー]⁺**	**[卒業研究](6)⁺**
					構造の力学A・演習(1.5)○	**構造の力学B・演習(1.5)○**	**[測量実習](1)⁺**			
				○●◎：選択必修	**流れ学A・演習(1.5)●**	**流れ学B・演習(1.5)●**	**[技術者倫理・演習](1.5)⁺**			
					基礎土質工学A・演習(1.5)◎	**基礎土質工学B・演習(1.5)◎**	インターンシップA(1)⁺			
							インターンシップB⁺			

太字：選択必修科目
[太字]：必修科目
□□・演習(3)：講義90分＋演習90分
□□・演習(1.5)：講義45分＋演習45分
＋：両コース合同科目

2017年度（平成29年度）以降入学者　一般教育科目一覧表

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	基盤科目					
	（言語）					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習Ⅰ		2			2
	英語文化演習Ⅱ		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	（身体）					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	（情報）					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	教養科目					
	(人文科学)					
	・自己					
	哲学	2				2
	倫理学Ⅰ	2				2
	倫理学Ⅱ	2				2
	論理学Ⅰ	2				2
	論理学Ⅱ	2				2
	社会思想史	2				2
	行動科学	2				2
	基礎心理学	2				2
	人間関係論	2				2
	・文化					
	日本文学	2				2
	外国文学Ⅰ	2				2
	外国文学Ⅱ	2				2
	言語学Ⅰ	2				2
	言語学Ⅱ	2				2
	芸術論Ⅰ	2				2
	芸術論Ⅱ	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現代文化論	2				2
	音声学セミナー	2				2
	一般言語学セミナー	2				2
	デザインセミナーⅠ	2				2
	デザインセミナーⅡ	2				2
	・歴史					
	歴史学Ⅰ	2				2
	歴史学Ⅱ	2				2
	歴史学Ⅲ	2				2
	歴史学Ⅳ	2				2
	考古学	2				2
	人文科学特別講義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法学	2				2
	日本国憲法	2				2
	経済学	2				2
	政治学	2				2
	社会学	2				2
	マスコミ論	2				2
	生涯学習論	2				2
	・地域					
	地理学	2				2
	人類学	2				2
	地誌学	2				2
	国際事情	2				2
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2
	社会科学特別講義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地球科学Ⅰ		2			2
	地球科学Ⅱ		2			2
	環境生物科学Ⅰ	2				2
	環境生物科学Ⅱ	2				2
	物質科学	2				2
	物質環境科学	2				2
	宇宙科学Ⅰ		2			2
	宇宙科学Ⅱ		2			2
	地球環境セミナーⅠ	2				2

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	地球環境セミナーⅡ	2				2
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2
	化学セミナーⅠ	2				2
	化学セミナーⅡ	2				2
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2
	・普遍性					
	数学概論Ⅰ	2				2
	数学概論Ⅱ	2				2
	物理学概論Ⅰ	2				2
	物理学概論Ⅱ	2				2
	数学セミナーⅠ	2				2
	数学セミナーⅡ	2				2
	自然科学特別講義	2				2
	(北海道学)					
	北海道史	2				2
	北方圏文化論	2				2
	北海道文学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大学史	2				2
	開発研究所特別講義	2				2
	北海道学特別講義	2				2
	(教養科目)					
	教養科目特別講義	2				2
	計	138	8			146

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・ガイダンス	1				1
	計	1				1

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海外文化Ⅰ	1				1
	海外文化Ⅱ	1				1
	海外文化Ⅲ	1				1
	海外文化Ⅳ	1				1
	計	4				4

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日本語演習Ⅰ	2				2
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2
	日本語文章表現Ⅰ	2				2
	日本語演習Ⅱ	2				2
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2
	日本語文章表現Ⅱ	2				2
	日本語演習Ⅲ		2			2
	日本事情Ⅰ		2			2
	日本語演習Ⅳ		2			2
	日本事情Ⅱ		2			2
	計	12	8			20

授業科目履修上の注意

1．授業科目と単位数

各授業科目の単位数に関する詳細は，「授業科目と担当者一覧表」を参照してください。
授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 第20条　各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分（１時限，45分を１時間として２時間）を単位とし，原則として各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業を受けた場合，一つの学期で原則として15週の授業がありますので，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。
外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 第４条　外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。
社会環境工学科では，２年次に「講義」と「演習」を組み合わせた２時限続きの授業が行われます。この場合の通算の授業時間及び単位数は，一つの学期で講義が１時限×２時間×15週＝30時間なので２単位，演習が１時限×２時間×15週＝30時間なので１単位，合計３単位となります。また，３・４年次に２時限連続して行われる「実験」及び「実習」の場合は，一つの学期で通算の授業時間が２時限×２時間×15週＝60時間となります。「実験及び実習」については45時間で１単位なので，小数点以下は切り捨てられて１単位と計算されます。
卒業研究については，15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

2．授業科目の区分とその概要

各年次に開講されている授業科目は，原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が，下級年次に開講されている授業科目を履修することは許されていますが，下級年次の者は，上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。

「必修科目」は，必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。必修科目が不合格になった場合は，翌年度に再び履修しなければなりません。「選択必修科目」は，きめられた群の中から必要な単位数を修得しなければなりません。「選択科目」については，自由に選択して履修することができますが，卒業要件として授業科目の区分ごとに必要な単位数が定められていますので留意してください。「自由科目」については，自由に選択して履修することができますが，卒業要件等には加算されません。

授業科目は次の４つの区分に分類されますので，各区分科目の概略と履修上の注意点を以下に示します。

一般教育科目（言語以外）	すべて選択科目（101科目，189単位）

- １年次にすべて豊平校舎で開講されます。
- これらの授業科目の中には，１学期と２学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。ただし，両方を履修することはできません。
- **２年次に進級した後，一般教育科目を履修することは，キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から，原則としてできません**（体育実技を除く）。ただし，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎においても限られた一部の授業科目を開講しています。

一般教育科目（言語）	すべて選択科目（英語14科目，16単位，英語以外の外国語科目78科目，124単位）

- 英語科目については，１・２年次に開講されます。また３年次開講の専門教育科目の技術英語は必要修得単位数としては言語に含まれます。
- 社会環境工学科では，**１年次から２年次への進級に際して英語科目２科目２単位以上を修得することが望ましいです。**
- 英語以外の外国語科目として，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語が開講されています。
- １年次に開講されている一部の外国語科目については，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎でも開講しています。
- 英語以外の外国語科目については，１～４年次の各年次にわたって開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

工学基礎科目	社会環境コース：必修科目（１科目，２単位），選択必修科目（４科目，８単位），選択科目（９科目，18単位） 環境情報コース：選択必修科目（４科目，８単位），選択科目（10科目，20単位）

- １・２年次に開講されており，１群～４群の授業科目に分かれています。
- **卒業要件として社会環境コースでは，必修科目及び選択必修科目より６単位以上を修得する必要があります。また，環境情報コースでは選択必修科目より４単位以上修得する必要があります。**
- １年次に開講されている授業科目については，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎においても開講しています。

専門教育科目	社会環境コース：必修科目（20科目，47単位），選択必修科目（３科目，５単位），選択科目（38科目，73単位） 環境情報コース：必修科目（17科目，33単位），選択必修科目（９科目，14単位），選択科目（38科目，74単位）

- １～４年次の各年次にわたって開講されます。
- １年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎のみで開講されます。２年次に進級した後，これらの授業科目を履修することは，キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から，原則としてできないので注意してください。
- 卒業研究は，４年次の２学期に６単位として実施されます。

※社会環境コースの専門教育科目は，専門分野ごとに基盤数理系，環境工学系，水工系，計画・設計・維持管理系，構造・材料系，土質・施工系，総合系という７系列に分類されています。そして環境情報コースの専門教育科目は専門分野ごとに基盤数理系，都市環境系，都市情報系，都市経営系，都市防災系，総合系という６系列に分類されています。（各授業科目の講義概要は，この系列ごとに１年次～４年次開講科目の順に掲載されています。）

３．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」の着手および卒業見込証明書

社会環境工学科では，３年次終了時に合計90単位以上修得しかつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この単位数は，過去の履修事例により「卒業の可能性が何とか残されている」との判断から設定されたものです。しかし，90単位程度で卒業研究に着手した場合，卒業研究の指導を受けながら下級年次の授業科目を多数履修しなければならず，卒業要件を満足するのは容易なことではありません。

３年次終了時に合計100単位以上修得し，かつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に，卒業見込証明書の発行を受けることができます。この単位数は，やはり過去の履修事例により「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されています。当然のことながら，卒業を保証するものではありません。例えば，見込証明書が発行されても，最終的に卒業要件を満足しないために卒業ができない場合や，逆に３年次終了時で見込証明書が発行できない場合でも，４年次１学期終了時に発行条件を満たすことで見込証明書が発行される場合もあります。

卒業見込証明書が発行されない場合には，就職活動に大きな支障をきたしますので十分注意してください。

４．履修の手引の各授業科目と講義概要における記載事項

講義概要には授業科目名，開講年次，開講学期，単位数，担当者名に続いて，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。履修する授業科目を決める際には，これらの内容を良く読んで参考にしてください。特に「授業計画」は毎週の予習・復習のためにも参照してください。ただし，実際の授業の進行状況によっては，授業計画に変更もあり得ます。

授業科目における一部の選択科目では，授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を一定人数に制限している場合や，ある特定の関連する授業科目を前もって履修あるいは単位を修得しておかなければ，その授業科目を履修できない場合があります。講義概要には，この様な授業科目の履修に関する制約事項等が記載されている場合がありますので注意してください。

外国語科目や専門教育科目においては，分野ごとに上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはいけない授業科目が含まれています。従って，履修する当該年度の講義概要だけではなく，次年度に履修することになる上級年次の授業科目の講義概要についても，良く読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修願の提出期限までは一定の期間が設けられています。履修登録については，18ページ～21ページを参照して下さい。授業科目によっては，最初の授業時間に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があります。従って，履修しようと考える授業科目については，最初の授業に必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，セミナーを受講する場合の申込み方法や注意点が，この冊子の最後に記載されています。

外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの授業科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒は，これらの授業科目を履修し修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

５．測量に関する証明書について

北海学園大学工学部社会環境工学科　社会環境コース・環境情報コースは，測量法施行令第14条に規定する「相当する学科」に認定されています。

以下の条件を卒業までに修得することで卒業後に測量に関する証明書を発行できます。

〈測量に関する証明書発行条件〉

・必修科目「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」

・測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」の学科認定科目30単位以上（上記必修科目を含む）

〈各コース証明書発行条件〉
社会環境コース：
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ社会環境コースの卒業要件を満たすことで，測量に関する証明書が発行できます。

環境情報コース：
〈2017年度以降入学者対象〉
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ下表の選択科目一覧から15単位以上修得することで測量に関する証明書を発行できます。
〈2012年～2016年度入学者対象〉
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ下表の選択科目一覧から17単位以上修得することで測量に関する証明書を発行できます。

測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」認定選択科目一覧

環境情報コース2017年度以降入学者対象			環境情報コース2012-2016年度入学者対象		
科　　目	単位	摘要	科　　目	単位	摘要
環境地質学	2		環境地質学	2	
景観工学	2		景観工学	2	
プログラミング	2		プログラミング	2	
防災情報システム	2		防災情報システム	2	
地震工学	2		地震工学	2	
河川工学	2		河川工学	2	
防災工学	2		防災工学	2	
確率統計	2	選択必修	確率統計	2	選択必修
環境統計学・演習	1.5	選択必修	環境統計学・演習	1.5	選択必修
品質管理・演習	1.5	選択必修	品質管理・演習	1.5	選択必修
解析学Ⅱ	2		解析学Ⅱ	2	
応用数学Ⅰ	2		応用数学Ⅰ	2	
応用数学Ⅱ	2		応用数学Ⅱ	2	
解析学序論	2		解析学序論	2	
解析学Ⅰ	2		解析学Ⅰ	2	
都市・交通計画	2		都市・交通計画	2	
道路工学	2		道路工学	2	
橋梁工学	2		橋梁工学	2	
地盤工学	2		地盤工学	2	
構造の力学A・演習	1.5	選択必修	構造の力学A・演習	1.5	選択必修
構造の力学B・演習	1.5	選択必修	構造の力学B・演習	1.5	選択必修
流れ学A・演習	1.5	選択必修	流れ学A・演習	1.5	選択必修
流れ学B・演習	1.5	選択必修	流れ学B・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学A・演習	1.5	選択必修	基礎土質工学A・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学B・演習	1.5	選択必修	基礎土質工学B・演習	1.5	選択必修
			シビルエンジニアリング基礎セミナー	2	
合　　計	46		合　　計	48	
2017年度以降入学者は， 上記認定科目一覧から15単位以上の修得が必要			2012-2016年度入学者は， 上記認定科目一覧から17単位以上の修得が必要		

I 教　育　課　程

【社会環境工学科】

2012年度（平成24年度）～2016年度（平成28年度）入学者

社会環境工学科の目指す技術者像と学習･教育到達目標

社会環境工学科の目指す技術者像

社会環境工学は人間の生活と生産の舞台となる社会基盤を整備し，持続可能な社会システムを構築するための学問です。近年生活の豊かさが問い直され，地球規模での環境問題が議論されるなかで，誰もが安全で快適に活動でき，美しく恵みのある自然が共存した都市・地域づくりと，そのための社会基盤整備が求められています。これに応えるため，これからの技術者には専門的な技術力はもとより，新たな視点から，自然環境ならびに地域特性を考慮した環境保全技術やライフサイクルを考慮した維持管理技術，および倫理観やグローバルな社会性などを身に付けることが必要となっています。これらの背景から社会環境工学科では維持管理,防災,設計・デザイン等を主とした「社会環境コース」および環境，情報，都市等を主とした「環境情報コース」に共通の教育理念として，以下に示す能力を備えた自立した技術者像を掲げています。

Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力を身に付けた人
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力を身に付けた人
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力を身に付けた人

社会環境工学科の学習・教育到達目標

上記の技術者像の実現に向けて，社会環境工学科では以下の（A）から（I）の学習・教育到達目標を設定しています。また，それぞれの学習・教育到達目標に対応したカリキュラムを構成し，４年間の一貫教育を実施して社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

Ⅰ．【技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力】

(A) 人文･社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。
(B) 自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。
(C) 論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。

Ⅱ．【専門技術者として要求される基礎能力】

(D) 数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。
(E) 構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。
(F) 専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探求心を養う。

Ⅲ．【自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力】

(G) プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。
(H) 自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。
(I) 北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。

社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法

社会環境工学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け，現在継続中です。JABEEの基準として学習・教育到達目標を修了生全員が達成していることが求められます。社会環境工学科における，JABEEの学習・教育到達目標の評価方法を以下に説明します。

１．本学科の学習・教育到達目標

本学科の学習・教育到達目標A～Iは，社会環境コースと環境情報コースで共通で，P71，P75に添付した表－１および表－３に記載されています。また表に示すとおり各学習・教育到達目標はＡ１，Ａ２などのように，より具体的に「項目別学習・教育到達目標（以下，項目と略する）」に分けられ，それらの項目の評価に関係する科目名が表の「関連科目」の欄にそれぞれ説明されています。

２．学習・教育到達目標の達成度の評価方法

学生は，項目Ａ１～Ｉの15項目について，それぞれに定められている学習・教育到達目標を卒業までに全て達成する必要があります。目標の達成は以下のように評価されます。

２－１　講義科目の評価と点数

P17に示したように各講義科目は，〝秀〟，〝優〟，〝良〟，〝可〟，〝不可〟，〝欠〟などで評価され，それぞれは，〝秀〟：４，〝優〟：３，〝良〟：２，〝可〟：１，〝不可〟および〝欠〟：０，と点数化されます。これをGP（Grade Point）といいます。

２－２　JABEEの達成度評価（SAP）

JABEEにおける学習・教育到達目標の達成度評価は，社会環境工学科で独自に定めたSAP（Student Achievement Point）という基準で行っています。学習・教育到達目標ごとの達成度はP71の表－１，P75の表－３に示すそれぞれの項目の関連科目のGPを用いて計算します。表の達成度評価に書かれている単位修得条件を最低限として項目毎の評価点が０～４で表され，１以上で達成になります。評価に用いられるGPはそれぞれの科目を最終的に修得した時のもので，修得済みの単位の評価となります。SAPを段階（SAG：Student Achievement Grade）で区分し，解説を加えたルーブリック表がP73表－２，P77表－４にありますので達成内容の参考にしてください。

なおSAPとは別に，全学的に用いられる学習達成度の評価基準として，P17に示したGPA（Grade Point Average）があります。これはそれまでに履修した全科目の，単位の重みを付けたその時点におけるGPの平均で，JABEEおよび学習・教育到達目標に関係なく，成績優秀者の選定などに用いられています。

２－３　SAPの計算方法

学習・教育到達目標の各項目のSAPの計算方法は，達成されている場合とされていない場合とで異なります。

１）達成されている場合

表－１および表－３の項目別の「関連科目」の総修得単位が，項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしている場合で，SAPは項目ごとに次のように計算されます。

SAP＝{(修得した科目の単位数)×(その科目の点数)}の総和/(総修得単位数)

２）達成されていない場合

表－１および表－３の項目別の「関連科目」の総修得単位が，項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしていない場合で，SAPは項目ごとに次のように計算されます。

SAP＝(修得した科目の単位数)の総和/(必要単位数)

つまり達成されている場合は，項目ごとに修得した科目の単位数当たりの平均点数がその項目のSAPになりますが，達成されていない場合は修得科目の点数にかかわらず，項目別必要単位数に対して修得した単位数の割合がSAPとなります。必要単位数は表－１，表－３の中に示されています。

注意しなければならないのは，項目ごとの「関連科目」の中で，必要単位数として考慮される科目とされない科目があることです。これはP82の卒業要件などにある必修科目や選択必修，科目群別の必要単位数に対応するもので，表－１および表－３の達成度評価の欄に書かれている内容を，よく理解してください。なお必要単位数として考慮されない科目も，達成された場合のSAPおよび卒業要件には関係します。

２－４　項目別評価点の計算例

《計算例１》

例えば学習・教育到達目標Ｂ２，Ｅなど，項目に対応する関連科目が必修科目であり，その修得がすべて必要単位数にカウントされる場合です。社会環境・環境情報コースのＢ１を例にとります。

○項目Ｂ１が達成される場合（Ｂ１の必要単位数は関連３科目の３単位）

成績　環境基礎実験　優（単位１，点数３）
　　構造材料実験　良（単位１，点数２）
　　測量実習　　可（単位１，点数１）

SAP＝{(1×3)＋(1×2)＋(1×1)}/3＝6/3＝2　（１以上）

○項目Ｂ１が達成されない場合

成績　環境基礎実験　優（単位１，点数３）
　　構造材料実験　優（単位１，点数３）
　　測量実習　　不可（単位１，点数０）

SAP＝{(1)＋(1)}/3＝2/3＝0.67　（１未満）

要求されている必修３科目のうち測量実習の単位を未修得のため，上記の計算になります。

《計算例２》

例えば，関連科目が選択科目や選択必修科目である場合，指定された科目群ごとに一定数しか必要単位数になりません。このような項目では，項目全体の修得単位数が必要単位数を上回っていても，必ずしも達成したことにならないので注意が必要です。学習・教育到達目標Ｄ１，Ｈなどが該当します。社会環境コースのＤ２を例にとります。

○項目Ｄ２が達成される場合（Ｄ２の必要単位数６：物理学Ⅰ２，一般教育・教養・自然科学（環境）４）

成績　物理学Ⅰ　　優（単位２，点数３）
　　環境生物科学Ⅰ　良（単位２，点数２）（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　地球科学Ⅰ　　良（単位２，点数２）（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　物理学Ⅱ　　可（単位２，点数１）

SAP＝{(2×3)＋(2×2)＋(2×2)＋(2×1)}/8＝16/8＝2　（１以上）

○項目Ｄ２が達成されない場合

成績　物理学Ⅰ　　優（単位２，点数３）
　　環境生物科学Ⅰ　優（単位２，点数３）
　　（一般教育・教養・自然科学（環境））
　　物理学Ⅱ　　優（単位２，点数３）
　　（達成度に考慮されない）
　　振動・波動論　　優（単位２，点数３）
　　（達成度に考慮されない）

SAP＝{(2)＋(2)}/6＝4/6＝0.67　（１未満）

要求されている修得条件のうち，一般教育科目・教養・自然科学（環境）からの修得単位数が不足しているので，上記の計算になります。

結果は，右図に示すようにレーダーチャートを用いると視覚的に示すことができます。

項目	SAP
A１	3
A２	2
B１	2.5
B２	0.8
C１	1
C２	2.8
D１	0.5
D２	0.4
D３	1.2
E	3.5
F１	4
F２	1.5
G	2.5
H	0.9
I	4

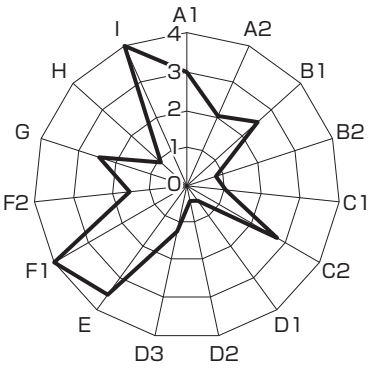


図　SAPの例とレーダーチャート表示

表－１　社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		達成度評価		
				開講学年	科目名等	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力								
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A１	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし，同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
		A２	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習(1.5)」	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B１	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「環境基礎実験(1)」，「構造材料実験(1)」，「測量実習(1)」	専門教育科目の実験系３科目「環境基礎実験」，「構造材料実験」，「測量実習」の単位修得を条件としこれらの科目で評価する。	3	
		B２	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」，「構造力学Ⅱ・演習(3)」，「土質工学Ⅰ・演習(3)」，「土質工学Ⅱ・演習(3)」，「水理学Ⅰ・演習(3)」，「水理学Ⅱ・演習(3)」，「計画数理Ⅰ・演習(3)」	専門教育科目の演習を含む必修８科目「構造力学Ⅰ・演習」，「構造力学Ⅱ・演習」，「土質工学Ⅰ・演習」，「土質工学Ⅱ・演習」，「水理学Ⅰ・演習」，「水理学Ⅱ・演習」，「計画数理Ⅰ・演習」，「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，これらの科目で評価する。	22.5	
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」			
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C１	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	４年	専門教育科目「卒業研究(２単位相当)」，「プレゼンテーション(2)」	専門教育科目「プレゼンテーション」(必修)の単位修得を条件とし，さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び，発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については，プレゼンテーション能力：30点(10点×教員３名)および論文記述能力：10点(卒業研究担当教員が評価)の合計40点満点で評価し，36以上を「秀」，32以上36未満を「優」，28以上32未満を「良」，24以上28未満を「可」，24未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		C２	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	一般教育科目･基盤科目の英語科目２科目２単位以上の修得を条件とし，さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	2	一般教育科目・基盤科目の英語の修得単位数
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
				３年	専門教育科目「技術英語(2)」			
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力								
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D１	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ(2)」と「線形代数学Ⅱ(2)」，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ(2)」と「微分積分学Ⅱ(2)」，および専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計(2)」と「環境統計学・演習(1.5)」と「品質管理・演習(1.5)」の各選択必修科目群から１科目以上の合計5.5単位以上修得。さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ(2)」，「応用数学Ⅱ(2)」，「解析学Ⅱ(2)」。	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から１科目，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から１科目，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計」と「環境統計学・演習」と「品質管理・演習」から１科目の合計5.5単位の修得を条件とし，さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ」，「応用数学Ⅱ」，「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	３つの選択必修各科目群それぞれから，最低１科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において，２科目以上修得していても１科目とカウントする。
		D２	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	工学基礎科目３群「物理学Ⅰ(2)」，および一般教育科目・教養・自然科学(環境)から２科目４単位以上修得。さらに，工学基礎科目３群の「物理学Ⅱ(2)」，「物理学Ⅲ(2)」，「振動・波動工学(2)」。	工学基礎科目３群「物理学Ⅰ」，および一般教育科目・教養・自然科学(環境)から２科目４単位以上の修得を条件とし，さらに工学基礎科目３群の「物理学Ⅱ」，「物理学Ⅲ」，「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位数として工学基礎科目３群「物理学Ⅰ」２単位は必修。一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの単位は，４単位以上修得していても必要単位数に対しては４単位とカウントする。
		D３	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」，「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習」，「情報処理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに「プログラミング」，「CAD演習」の成績を合わせて評価する。	3	
				３年	専門教育科目「プログラミング(2)」，「CAD演習(1)」			
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」，「構造力学Ⅱ・演習(3)」，「土質工学Ⅰ・演習(3)」，「土質工学Ⅱ・演習(3)」，「水理学Ⅰ・演習(3)」，「水理学Ⅱ・演習(3)」，「コンクリート工学(2)」，「鋼構造工学(2)」，「測量学Ⅰ(2)」	専門教育科目の「構造力学Ⅰ・演習」，「構造力学Ⅱ・演習」，「土質工学Ⅰ・演習」，「土質工学Ⅱ・演習」，「水理学Ⅰ・演習」，「水理学Ⅱ・演習」，「環境基礎実験」，「構造材料実験」，「コンクリート工学」，「鋼構造工学」，「測量学Ⅰ」，「測量実習」の単位修得を条件としこれらの科目で評価する。	27	
				３年	専門教育科目「測量実習(1)」，「環境基礎実験(1)」，「構造材料実験(1)」			
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F１	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究(２単位相当)」，「CEデザインセミナー(2)」	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて，基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については，基本的な技術の習得度を30点(10点×教員３名)満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		F２	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目(１年次２科目，２年次３科目，３年次19科目，４年次６科目の合計30科目)	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目から，34単位以上の修得を条件とし，これらの科目により評価する。	34	
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力								
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE総論(2)」	専門教育科目「CE総論」，「CEデザインセミナー」，「卒業研究」の単位の修得を条件とし，これらの科目で評価する。	6	「卒業研究」については，担当教員がデザイン能力等を30点満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」，「卒業研究(２単位相当)」			
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から２科目４単位以上修得。	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から２科目４単位以上，専門教育科目の環境系から４単位の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目の環境系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	8	必要単位数に対しては一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの４単位，および専門教育科目の環境系からの４単位であり，それぞれ４単位以上修得していても４単位とカウントする。
				１年	専門教育科目「環境工学概論(2)」			
				２年	専門教育科目「環境地質学(2)」，「保全生態学(2)」			
				３年	専門教育科目「水環境工学Ⅰ(2)」，「水環境工学Ⅱ(2)」，「景観工学(2)」			
				４年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」			
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		３年	専門教育科目「建設マネジメント(2)」，「社会基盤施設維持管理工学(2)」，「寒冷地舗装工学(2)」	専門教育科目の維持管理・設計系から２科目４単位の修得を条件とし，さらに同系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	4	
				４年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習(2)」，「鋼構造工学設計演習(2)」			

表－２　社会環境コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		ルーブリック評価基準			
				開講学年	科目名等	秀（4.00～3.50）	優（3.49～2.50）	良（2.49～1.50）	可（1.49～1.00）
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力									
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	人文・社会科学の知的基盤について，**高度な教養**を身に付け，自ら考察し，さらなる素養を身に付け，**議論**することができる。	人文・社会科学の知的基盤について，**十分な教養**を身に付け，社会人として豊かな素養を，さらに**発展**させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について，その**概念**を理解し，今後の応用や発展が**期待**できる。	人文・社会科学の知的基盤について，**最低限必要となる基礎的な**能力を身に付け，今後の知識獲得の方法を**理解**している。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
		A2	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習（1.5）」	技術者としての**高度な**倫理観を身に付け，それに基づいた行動を取ることができ，自らの経験からさらに**高度な**倫理観を得ることができる。	技術者としての**十分な**倫理観を身に付け，それを自らの行動規範とすることができ，経験に基づいて**応用する**ことができる。	技術者としての倫理観を**理解**し，その概念の説明，応用，発展させる**能力**が認められる。	技術者としての**最低限必要となる**倫理観を身に付け，それらを自らの**行動規範**とすることができる。
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「環境基礎実験（１）」，「構造材料実験（１）」，「測量実習（１）」	技術的問題にチームで取り組む時，自らリーダーシップを取り，チームの和を図り，互いの創意工夫により困難な問題を解決し，**実行する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダーとして活動することができ，り，チームのけん引役となって，互いの意見を尊重し，問題を**解決する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダー役を引き受けることができ，チームのまとめ役となって，互いの意見から，問題解決への**適応可能性を有している**。	技術的問題にチームで取り組む時，個別の問題に対して**最低限必要となる**リーダー役を引き受けることができ，チーム全体の課題解決に**貢献する**ことができる。
		B2	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習（３）」，「構造力学Ⅱ・演習（３）」，「土質工学Ⅰ・演習（３）」，「土質工学Ⅱ・演習（３）」，「水理学Ⅰ・演習（３）」，「水理学Ⅱ・演習（３）」，「計画数理Ⅰ・演習（３）」	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して，**高度な**問題を融合的に**解決する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果を生かして，解決すべき問題に自らの知識を**活用する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果から，解決すべき問題への対応策をに自ら**立案する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，**最低限必要な**知識を身につけることよって，自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への**適応可能性を有している**。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」				
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「プレゼンテーション（２）」	技術的，学問的成果を論理的な記述で**論文としてまとめ**，口頭発表や討議などの**高度な**プレゼンテーション能力を身に付け，**誰にでもわかり易く説明できる**能力を発揮できる。	技術的，学問的成果を**論文**としてまとめ，口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け，**論点がずれることなく説明できる**能力を有している。	技術的，学問的成果をまとめ，**論文**として記述することができ，口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的，学問的成果を**最低限必要となる文言でまとめる**ことができ，論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
		C2	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	社会人ならびに技術者として，**高度な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につけ，技術的・社会的に**十分な**コミュニケーションができる。	社会人ならびに技術者として，**十分な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**必要な**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**通用する**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**最低限必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，**意思伝達が可能な**コミュニケーションができる。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
				３年	専門教育科目「技術英語（２）」				
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力									
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ（２）」と「線形代数学Ⅱ（２）」，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ（２）」と「微分積分学Ⅱ（２）」，および専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計（２）」と「環境統計学・演習（1.5）」と「品質管理・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の合計5.5単位以上修得。さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ（２）」，「応用数学Ⅱ（２）」，「解析学Ⅱ（２）」。	数学，および統計学の理論を**完全に**理解し，革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決，あるいは**高度な**考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を**十分に**理解し，創造性を発揮して技術的問題の解決，あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を理解し，自ら考察して技術的問題の解決，あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論について**最低限必要とされる**理解度を有し，**自らの努力によって**技術的問題の解決，あるいは分析や解析に利用するための**適応可能性を有している**。
		D2	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	工学基礎科目３群「物理学Ⅰ（２）」，および一般教育科目・教養・自然科学（環境）から２科目４単位以上修得。さらに，工学基礎科目３群の「物理学Ⅱ（２）」，「物理学Ⅲ（２）」，「振動・波動工学（２）」。	物理学およびその他の自然科学の素養を**高度に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に**寄与できる**能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を**十分に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に関する**理解**を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，利用することができ，社会の持続的発展とは**何かを理解**できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して，**最低限必要とされる水準**の理解を身につけ，自然現象や，環境への影響の分析などに対して，**利用する**ことができる。
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習（1.5）」，「情報処理Ⅱ・演習（1.5）」	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術にも**理解を広げ**，適切な解析によって**十分な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術の**知識があり**，適切な解析によって**必要な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**適切な解析**によって必要な情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**最低限必要の解析**によって情報を獲得するための情報技術，および**若干の**プログラミング能力を有する。
				３年	専門教育科目「プログラミング（２）」，「CAD演習（１）」				
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習（３）」，「構造力学Ⅱ・演習（３）」，「土質工学Ⅰ・演習（３）」，「土質工学Ⅱ・演習（３）」，「水理学Ⅰ・演習（３）」，「水理学Ⅱ・演習（３）」，「コンクリート工学（２）」，「鋼構造工学（２）」，「測量学Ⅰ（２）」	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**十分に**修得し，それらを**高度に**適用または応用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，それらを**適切に**適用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，実務に対応できる**基礎能力**を有している。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**最低限必要とする水準**で修得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				３年	専門教育科目「測量実習（１）」，「環境基礎実験（１）」，「構造材料実験（１）」	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**十分に**理解し，**高い**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，**十分な**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**最低限必要な水準**で理解し，**基礎的な**工学的考察能力を発揮できる。
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力，応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「CEデザインセミナー（２）」	専門分野における**高度な**デザイン能力，自ら進んで応用できる力，および**旺盛な**探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における**十分な**デザイン能力，自ら応用できる力，および探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力，応用力，および探究心を有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における必要**最低限必要な**デザイン能力，探究心を有し，これを**将来的に応用できる力**を身に付け，発揮できる能力を有する。
		F2	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目（１年次２科目，２年次３科目，３年次19科目，４年次６科目の合計30科目）	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**高度に**理解し，**十分に**実務で通用する適応力を有し，**必要に応じて**適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**十分に**理解し，実務で通用する適応力を有し，**適切に**発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を理解し，実務に関わる**基礎的適応力**を有し，これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**最低限必要の水準**で理解して，実務に関する基礎適応力を**将来的に発展させる力**を有し，これを発揮できる。
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力									
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE総論（２）」	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**高い水準**で有機的に展開して，**優れた**創造的計画能力と分析能力，**改革**をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**有機的に**展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を**発揮**することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で**最低限必要となる**基礎と専門の知識を展開して，**将来において**創造的な計画能力と分析能力に**発展させる**ことができる。
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー（２）」，「卒業研究（２単位相当）」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から２科目４単位以上修得。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**高度な水準**で理解し，未来への持続的発展を**考慮**した，循環型社会システムを築くための環境技術の**提案**を行い，これを**実施**できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**十分に**理解し，社会の持続的発展に**配慮**した循環型システムを築くための環境技術を**習得**し，実務において**適用する**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための環境技術を習得し，実務において**生かす**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための**最低限必要な**環境技術を習得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				１年	専門教育科目「環境工学概論（２）」				
				２年	専門教育科目「環境地質学（２）」，「保全生態学（２）」				
				３年	専門教育科目「水環境工学Ⅰ（２）」，「水環境工学Ⅱ（２）」，「景観工学（２）」				
				４年	専門教育科目「環境アセスメント（２）」				
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		３年	専門教育科目「建設マネジメント（２）」，「社会基盤施設維持管理工学（２）」，「寒冷地舗装工学（２）」	北海道の地域特性を十分に考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**高度な水準**で理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務において**実施する**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**十分に**理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務に**生かす**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとる**必要性を最低限理解**し，持続可能な社会を建設するための**基本的な**技術を身に付ける。
				４年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習（２）」，「鋼構造工学設計演習（２）」				

表－３　環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		達成度評価		
				開講学年	科目名等	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力								
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A１	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし，同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
		A２	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ,それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習(1.5)」	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B１	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「環境基礎実験(1)」，「環境工学実習(1)」，「測量実習(1)」	専門教育科目の「環境基礎実験」，「環境工学実習」，および「測量実習」の単位修得を条件としこれらの科目で評価する。	3	
		B２	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」，および「構造の力学A・演習(1.5))」または「構造の力学B・演習(1.5))」，「流れ学A・演習(1.5))」または「流れ学B・演習(1.5))」，「基礎土質工学A・演習(1.5))」または「基礎土質工学B・演習(1.5))」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	専門教育科目の「計画数理Ⅰ・演習」と「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに「構造の力学A・演習」または「構造の力学B・演習」，「流れ学A・演習」または「流れ学B・演習」，「基礎土質工学A・演習」または「基礎土質工学B・演習」の単位修得も条件として，これらの科目で評価する。	9	必要単位数は，必修4.5単位，および３つの選択必修各科目群それぞれから1.5単位であり，１つの選択必修科目群において，２科目修得していても1.5単位とカウントする。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」			
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C１	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	４年	専門教育科目「卒業研究(２単位相当)」，「プレゼンテーション(2)」	専門教育科目「プレゼンテーション」(必修)の単位修得を条件とし，さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び，発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については，プレゼンテーション能力：30点(10点×教員３名)および論文記述能力：10点(卒業研究担当教員が評価)の合計40点満点で評価し，36以上を「秀」，32以上36未満を「優」，28以上32未満を「良」，24以上28未満を「可」，24未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		C２	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	一般教育科目・基盤科目の英語科目２科目２単位以上を含む基盤科目の言語４単位以上の修得を条件とし，さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	4	一般教育科目・基盤科目の英語２科目２単位以上を含む基盤科目の英語および英語以外の外国語の修得単位数。必要単位数に対しては英語以外の外国語の修得単位数は，２単位以上修得していても２単位とカウントする。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目			
				３年	専門教育科目「技術英語(2)」			
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力								
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D１	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ(2)」と「線形代数学Ⅱ(2)」，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ(2)」と「微分積分学Ⅱ(2)」，および専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計(2)」と「環境統計学・演習(1.5)」と「品質管理・演習(1.5)」の各選択必修科目群から１科目以上の合計5.5単位以上修得。さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ(2)」，「応用数学Ⅱ(2)」，「解析学Ⅱ(2)」。	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から１科目，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から１科目，専門教育科目・基盤数理系１群「確率統計」と「環境統計学・演習」と「品質管理・演習」から１科目の合計5.5単位の修得を条件とし，さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ」，「応用数学Ⅱ」，「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	３つの選択必修各科目群それぞれから，最低１科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において，２科目以上修得していても１科目とカウントする。
		D２	化学，生物等の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から３科目６単位以上修得。さらに，工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ(2)」，「物理学Ⅱ(2)」，「物理学Ⅲ(2)」，「振動・波動工学(2)」。	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から３科目６単位以上の修得を条件とし，さらに工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ」，「物理学Ⅱ」，「物理学Ⅲ」，「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位としては一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの単位をのみを含む。
				２年				
		D３	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術，およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」，「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」	専門教育科目の「情報処理Ⅰ・演習」，「情報処理Ⅱ・演習」，「データ処理論実習」，「CAD演習」の単位修得を条件とし，さらに専門選択科目の都市情報系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5	
				３年	専門教育科目「データ処理論実習(1)」，「CAD演習(1)」			
				３，４年	専門選択科目の都市情報系科目			
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」，「測量学Ⅰ(2)」，および「構造の力学A・演習(1.5))」または「構造の力学B・演習(1.5))」，「流れ学A・演習(1.5))」または「流れ学B・演習(1.5))」，「基礎土質工学A・演習(1.5))」または「基礎土質工学B・演習(1.5))」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	専門教育科目の総合系から「構造の力学A・演習」または「構造の力学B・演習」，「流れ学A・演習」または「流れ学B・演習」，「基礎土質工学A・演習」または「基礎土質工学B・演習」の３選択必修科目群，および「測量学Ⅰ」，「測量実習」，都市環境系から「環境基礎実験」，都市経営系から「計画数理Ⅰ・演習」，「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目総合系の「測量学Ⅱ」を評価項目とし，これらの科目により評価する。	13	必要単位数に対しては３選択必修科目群より各１科目，および必修科目の単位のみであり，各選択必修科目群において，修得単位がなければ０単位，２科目修得していても1.5単位のみカウントする。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」，「環境基礎実験(1)」，「測量実習(1)」，および「測量学Ⅱ(2)」			
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F１	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究(２単位相当)」，「CEデザインセミナー(2)」	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて，基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については，基本的な技術の習得度を30点(10点×教員３名)満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
		F２	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力を身につける。	１年	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目(総合系の選択必修科目を含む)(１年次２科目，２年次12科目，３年次18科目，４年次７科目の合計39科目)。	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目(総合系の選択必修科目を含む)から，50単位以上の修得を条件とし，これらの科目により評価する。	50	
				２年				
				３年				
				４年				
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力								
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE総論(2)」	専門教育科目「CE総論」，「環境工学実習」，「CEデザインセミナー」，「卒業研究」の単位の修得を条件とし，これらの科目で評価する。	7	「卒業研究」については，担当教員がデザイン能力等を30点満点で評価し，27以上を「秀」，24以上27未満を「優」，21以上24未満を「良」，18以上21未満を「可」，18未満を「不可」とする。単位数は２単位相当とする。
				３年	専門教育科目「環境工学実習(1)」			
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」，「卒業研究(２単位相当)」			
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から３科目６単位以上修得。	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から３科目６単位以上，および専門教育科目の「環境計測学」，「環境基礎実験」，「環境工学実習」の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目の都市環境系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	10	必要単位数に対しては一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの６単位，および専門教育科目の必修科目からの４単位のみを含み，一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの単位を６単位以上修得していても６単位とカウントする。
				１年	専門教育科目「寒冷地環境論(2)」			
				２年	専門教育科目「環境計測学(2)」，「環境地質学(2)」，「保全生態学(2)」，「環境微生物学(2)」			
				３年	専門教育科目「環境基礎実験(1)」，「環境工学実習(1)」，「水環境工学Ⅰ(2)」，「水環境工学Ⅱ(2)」，「環境評価論(2)」，「都市環境工学(2)」			
				４年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」，「景観工学(2)」			
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		２～４年	専門教育科目の都市経営系科目(ただし計画数理Ⅰ・演習，計画数理Ⅱ・演習を除く)。	専門教育科目の「リスクマネジメント」の単位修得を条件とし，さらに専門教育科目の都市経営系科目(計画数理Ⅰ・演習，計画数理Ⅱ・演習を除く)および専門教育科目の都市防災系選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	2	
				２～４年	専門教育科目「リスクマネジメント(2)」，および都市防災系選択科目。			

表－４　環境情報コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目		ルーブリック評価基準			
				開講学年	科目名等	秀（4.00～3.50）	優（3.49～2.50）	良（2.49～1.50）	可（1.49～1.00）
Ⅰ．技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力									
A	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き，社会人として豊かな教養を身につける。	１年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学	人文・社会科学の知的基盤について，**高度な教養**を身に付け，自ら考察し，さらなる素養を身に付け，**議論**することができる。	人文・社会科学の知的基盤について，**十分な教養**を身に付け，社会人として豊かな素養を，さらに**発展**させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について，その**概念**を理解し，今後の応用や発展が**期待**できる。	人文・社会科学の知的基盤について，**最低限必要となる基礎的な**能力を身に付け，今後の知識獲得の方法を**理解**している。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
		A2	技術の業務遂行において，問題の技術倫理的側面を見出すことができ，それを解決出来る能力を身につける。	３年	専門教育科目「技術者倫理・演習（1.5）」	技術者としての**高度な**倫理観を身に付け，それに基づいた行動を取ることができ，自らの経験からさらに**高度な**倫理観を得ることができる。	技術者としての**十分な**倫理観を身に付け，それを自らの行動規範とすることができ，経験に基づいて**応用する**ことができる。	技術者としての倫理観を**理解**し，その概念の説明，応用，発展させる**能力**が認められる。	技術者としての**最低限必要となる**倫理観を身に付け，それらを自らの**行動規範**とすることができる。
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け，互いの創意工夫により問題解決を図り，成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時，集団の和を図り，互いの創意工夫により問題を解決し，成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	３年	専門教育科目「環境基礎実験（１）」，「環境工学実習（１）」，「測量実習（１）」	技術的問題にチームで取り組む時，自らリーダーシップを取り，チームの和を図り，互いの創意工夫により困難な問題を解決し，**実行する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダーとして活動することができ，り，チームのけん引役となって，互いの意見を尊重し，問題を**解決する**ことができる。	技術的問題にチームで取り組む時，リーダー役を引き受けることができ，チームのまとめ役となって，互いの意見から，問題解決への**適応可能性を有している**。	技術的問題にチームで取り組む時，個別の問題に対して**最低限必要となる**リーダー役を引き受けることができ，チーム全体の課題解決に**貢献する**ことができる。
		B2	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習（３）」，および「構造の力学A・演習（1.5）」または「構造の力学B・演習（1.5）」，「流れ学A・演習（1.5）」または「流れ学B・演習（1.5）」，「基礎土質工学A・演習（1.5）」または「基礎土質工学B・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	技術的問題に取り組む時，身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して，**高度な**問題を融合的に**解決する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果を生かして，解決すべき問題に自らの知識を**活用する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，身につけた知識と自己学習の成果から，解決すべき問題への対応策をに自ら**立案する**ことができる。	技術的問題に取り組む時，**最低限必要な**知識を身につけることよって，自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への**適応可能性を有している**。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」				
C	論理的な記述，口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的，学問的成果を論文としてまとめ，誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「プレゼンテーション（２）」	技術的，学問的成果を論理的な記述で**論文としてまとめる**，口頭発表や討議などの**高度な**プレゼンテーション能力を身に付け，**誰にでもわかり易く説明できる**能力を発揮できる。	技術的，学問的成果を**論文**としてまとめ，口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け，**論点がずれることなく説明できる**能力を有している。	技術的，学問的成果をまとめ，**論文**として記述することができ，口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的，学問的成果を**最低限必要となる文言でまとめる**ことができ，論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
		C2	社会人として，あるいは技術者として，必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	１年	一般教育科目・基盤科目の英語，および英語以外の外国語	社会人ならびに技術者として，**高度な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につけ，技術的･社会的に**十分な**コミュニケーションができる。	社会人ならびに技術者として，**十分な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**必要な**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，技術的・社会的に**通用する**コミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として，**最低限必要な**コミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し，**意思伝達が可能な**コミュニケーションができる。
				２年	上記科目の内，一部工学部で開講される科目				
				３年	専門教育科目「技術英語（２）」				
Ⅱ．専門技術者として要求される基礎能力									
D	数学，統計学および物理，化学，生物，地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学，および統計学の理論を理解し，技術的問題の解決のために利用することができる。	１，２年	工学基礎科目１群「線形代数学Ⅰ（２）」と「線形代数学Ⅱ（２）」，工学基礎科目２群「微分積分学Ⅰ（２）」と「微分積分学Ⅱ（２）」，および専門教育科目･基盤数理系１群「確率統計（２）」と「環境統計学･演習（1.5）」と「品質管理・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の合計5.5単位以上修得。さらに専門教育科目・基盤数理系２群「応用数学Ⅰ（２）」，「応用数学Ⅱ（２）」，「解析学Ⅱ（２）」。	数学，および統計学の理論を**完全に**理解し，革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決，あるいは**高度な**考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を**十分に**理解し，創造性を発揮して技術的問題の解決，あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論を理解し，自ら考察して技術的問題の解決，あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学，および統計学の理論について**最低限必要とされる**理解度を有し，**自らの努力によって**技術的問題の解決，あるいは分析や解析に利用するための**適応可能性を有している**。
		D2	化学，生物等の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解と分析に利用することができる。	１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から３科目６単位以上修得。さらに，工学基礎科目３群の「物理学Ⅰ（２）」，「物理学Ⅱ（２）」，「物理学Ⅲ（２）」，「振動・波動工学（２）」。	物理学およびその他の自然科学の素養を**高度に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に**寄与できる**能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を**十分に**身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，適切に利用することができ，社会の持続的発展に関する**理解**を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ，自然現象の理解，環境への影響の分析などに対して，利用することができ，社会の持続的発展とは**何かを理解**できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して，**最低限必要とされる水準**の理解を身につけ，自然現象や，環境への影響の分析などに対して，**利用する**ことができる。
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術，およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	２年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習（1.5）」，「情報処理Ⅱ・演習（1.5）」	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術にも**理解を広げ**，適切な解析によって**十分な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず，データの測定技術の**知識があり**，適切な解析によって**必要な**情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**適切な解析**によって必要な情報を獲得するための情報技術，プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して，**最低限必要の解析**によって情報を獲得するための情報技術，および**若干の**プログラミング能力を有する。
				３年	専門教育科目「データ処理論実習（１）」，「CAD演習（１）」				
				３，４年	専門選択科目の都市情報系科目				
E	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，演習，実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		２年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習（３）」，「測量学Ⅰ（２）」，および「構造の力学A・演習（1.5）」または「構造の力学B・演習（1.5）」，「流れ学A・演習（1.5）」または「流れ学B・演習（1.5）」，「基礎土質工学A・演習（1.5）」または「基礎土質工学B・演習（1.5）」の各選択必修科目群から１科目以上の単位修得	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**十分に**修得し，それらを**高度に**適用または応用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，それらを**適切に**適用して，実務に対応できる。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し，実務に対応できる**基礎能力**を有している。	構造力学，土質工学，水理学，測量学，計画数理学などに関する専門分野の基礎を**最低限必要とする水準**で修得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				３年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習（1.5）」，「環境基礎実験（１）」，「測量実習（１）」，および「測量学Ⅱ（２）」	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**十分に**理解し，**高い**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，**十分な**工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し，工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習，実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を**最低限必要な水準**で理解し，**基礎的な**工学的考察能力を発揮できる。
F	専門分野における調査，計画，設計，施工に関する基本的な技術を修得し，実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力，応用力および探究心を養う。	４年	専門教育科目「卒業研究（２単位相当）」，「CEデザインセミナー（２）」	専門分野における**高度な**デザイン能力，自ら進んで応用できる力，および**旺盛な**探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における**十分な**デザイン能力，自ら応用できる力，および探究心を十分に有し，これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力，応用力，および探究心を有し，これを適切に発揮できる。	専門分野における必要**最低限必要な**デザイン能力，探究心を有し，これを**将来的に応用できる力**を身に付け，発揮できる能力を有する。
		F2	それぞれの専門分野の調査，計画，設計に関する技術を習得し，実務における適応力をつける。	１～４年	専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目（総合系の選択必修科目を含む）（１年次２科目，２年次12科目，３年次18科目，４年次７科目の合計39科目）。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**高度に**理解し，**十分に**実務で通用する適応力を有し，**必要に応じて**適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**十分に**理解し，実務で通用する適応力を有し，**適切に**発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を理解し，実務に関わる**基礎的適応力**を有し，これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査，計画，設計，施工に関する応用的理論を**最低限必要の水準**で理解して，実務に関する基礎適応力を**将来的に発展させる力**を有し，これを発揮できる。
Ⅲ．自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力									
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して，創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		１年	専門教育科目「CE総論（２）」	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**高い水準**で有機的に展開して，**優れた**創造的計画能力と分析能力，**改革**をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。**有機的に**展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を**発揮**することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して，**十分な**創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で**最低限必要となる**基礎と専門の知識を展開して，**将来において**創造的な計画能力と分析能力に**発展させる**ことができる。
				３年	専門教育科目「環境工学実習（１）」				
				４年	専門教育科目「CEデザインセミナー（２）」，「卒業研究（２単位相当）」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし，循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		１，２年	一般教育科目・教養・自然科学（環境）から２科目４単位以上修得。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**高度な水準**で理解し，未来への持続的発展を**考慮**した，循環型社会システムを築くための環境技術の**提案**を行い，これを**実施**できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを**十分に**理解し，社会の持続的発展に**配慮**した循環型システムを築くための環境技術を**習得**し，実務において**適用する**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための環境技術を習得し，実務において**生かす**ことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し，循環型社会システムを築くための**最低限必要な**環境技術を習得し，**自らの努力によって**実務への**適応可能性**を有している。
				１年	専門教育科目「寒冷地環境論（２）」				
				２年	専門教育科目「環境計測学（２）」，「環境地質学（２）」，「保全生態学（２）」，「環境微生物学（２）」				
				３年	専門教育科目「環境基礎実験（１）」，「環境工学実習（１）」，「水環境工学Ⅰ（２）」，「水環境工学Ⅱ（２）」，「環境評価論（２）」，「都市環境工学（２）」				
				４年	専門教育科目「環境アセスメント（２）」，「景観工学（２）」				
I	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		２～４年	専門教育科目の都市経営系科目（ただし計画数理Ⅰ・演習，計画数理Ⅱ・演習を除く）。	北海道の地域特性を十分に考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**高度な水準**で理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務において**実施する**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを**十分に**理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身につけ，実務に**生かす**ことができる。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとることにより，持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し，社会基盤施設の劣化など，身の回りにあるリスクを理解して事前に適切な対策をとる**必要性**を**最低限理解**し，持続可能な社会を建設するための**基本的な**技術を身に付ける。
				２～４年	専門教育科目「リスクマネジメント（２）」，および都市防災系選択科目。				

社会環境工学科の履修要件〔2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）入学者〕

１．目標修得単位

卒業に必要な単位数は合計124単位以上です。つまり，１年間に修得すべき平均単位数は，単純計算すると，124単位／４年間＝31単位／年となります。しかし，４年次になると卒業研究や就職活動などに非常に多くの時間や労力を必要とすることに留意しなければなりません。したがって，１～３年次の期間で充分な単位を修得しておく必要があります。

社会環境工学科では，各学年においての目標修得単位数を以下のように設定しています。

この単位数を念頭に置き，計画的に学習するよう努めてください。

（社会環境コース）

１年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目＊	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学（環境）	１～３群	１～２群		
単位数	14単位以上	４単位以上（ただし，英語３科目３単位以上を含む）	４単位以上	10単位以上（必修・選択必修科目より６単位を含む）		４単位（必修２単位を含む）	40単位以上

＊　留学生科目を含む

２年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目＊	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系以外	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学（環境）	１～３群	１～２群		
単位数	18単位以上		６単位以上	11単位以上（必修・選択必修科目より7.5単位以上を含む）		必修30単位	70単位以上

＊　留学生科目を含む

３年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

＊81ページ参照

４年次目標修得単位

卒業要件と同じ

＊82ページ参照

（環境情報コース）

１年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目＊	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学（環境）	１～３群	１～２群		
単位数	14単位以上	４単位以上（ただし，英語３科目３単位以上を含む）	４単位以上	10単位以上（選択必修科目より４単位を含む）		４単位（必修２単位を含む）	40単位以上

＊　留学生科目を含む

2年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学基礎科目	専門教育科目		総修得単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系以外	
	人文科学，社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	18単位以上		8単位以上	11単位以上（選択必修科目より5.5単位以上を含む）		28単位以上（必修12単位を含む）	70単位以上

＊　留学生科目を含む

3年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

＊81ページ参照

4年次目標修得単位

卒業要件と同じ

＊82ページ参照

2．進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当されている授業科目のうちから，以下の要件を全て満たした1年次学生は，2年次に進級することができます（工学部規則第13条）。この進級要件を満たさない学生は，1年次に留置きとなります。

（社会環境コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学，社会科学		
単位数	6単位以上	必修2単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目のうち人文科学，社会科学及び自然科学(環境)，工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

＊　留学生科目を含む

（環境情報コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学，社会科学		
単位数	6単位以上	必修2単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目のうち人文科学，社会科学及び自然科学(環境)，工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

＊　留学生科目を含む

3．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件

３年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は，４年次に必修科目である「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この着手条件を満たさない場合，その年度には卒業できませんので十分注意してください。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="4">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td>専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>10単位以上</td><td>英語１科目１単位科目
から２単位以上</td><td rowspan="2">４単位以上</td><td colspan="2" rowspan="2">12単位以上
（必修・選択必修科目より
7.5単位以上を含む）</td><td rowspan="2">90単位
以上</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="2">18単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="4">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td>専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学（環境）</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>10単位以上</td><td>英語１科目１単位科目
から２単位以上</td><td rowspan="2">６単位以上</td><td colspan="2" rowspan="2">10単位以上
（選択必修科目より
5.5単位以上を含む）</td><td rowspan="2">90単位
以上</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="2">18単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

4．卒業見込証明書の発行条件

３年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系
以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">20単位以上</td><td>４単位以上</td><td colspan="2">12単位以上
（必修・選択必修科目より
7.5単位以上を含む）</td><td>必修33単位
以上</td><td>100単位
以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学（環境）</td><td>１～３群</td><td>１～２群</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">20単位以上</td><td>６単位以上</td><td colspan="2">10単位以上
（選択必修科目より
5.5単位以上を含む）</td><td>必修15単位
を含む
33単位以上</td><td>100単位
以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む
＊＊「技術英語」を含む

5．卒業要件

社会環境工学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表9⑴及び⑵に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければなりません（工学部規則第14条）。

卒業要件を体系的にまとめると次のようになります。

（社会環境コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>1～3群</td><td>1～2群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td>10単位以上</td><td>英語1科目
1単位科目
から2単位
以上</td><td>4単位以上</td><td>必修2単
位，1・2
群より各2
単位以上</td><td>1群より
1.5単位
以上</td><td rowspan="2">必修48単位，
かつ選択34単
位以上（ただ
し，環境系と維
持管理・設計
系からそれぞ
れ4単位以上
とその他の系
から各2単位
以上を含む）</td><td rowspan="2">124単位
以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">上記を含む20単位以上</td><td colspan="3">上記を含む22単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む

＊＊「技術英語」を含む

（環境情報コース）

<table>
<tr><td rowspan="3">分野</td><td colspan="3">一般教育科目</td><td rowspan="2">工学
基礎科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="3">総修得
単位数</td></tr>
<tr><td>教養科目*</td><td>基盤科目</td><td>教養科目</td><td>基盤数理系</td><td rowspan="2">基盤数理系及び
技術英語以外</td></tr>
<tr><td>人文科学，社会科学</td><td>言語**</td><td>自然科学(環境)</td><td>1～3群</td><td>1～2群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td>10単位以上</td><td>4単位以上
(英語1科目
1単位科目
から2単位
以上を含む)</td><td>6単位以上</td><td>1・2群よ
り各2単位
以上</td><td>1群より
1.5単位
以上</td><td rowspan="2">必修32単位，
かつ選択50単
位以上(ただし
総合系の選択
必修4.5単位***
を含む)</td><td rowspan="2">124単位
以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">上記を含む20単位以上</td><td colspan="3">上記を含む22単位以上</td></tr>
</table>

＊　留学生科目を含む

＊＊「技術英語」を含む

＊＊＊　構造の力学A・演習および構造の力学B・演習より1.5単位以上，流れ学A・演習および流れ学B・演習より1.5単位以上，基礎土質工学A・演習および基礎土質工学B・演習より1.5単位以上の計4.5単位以上

2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）入学者　社会環境工学科　社会環境コース　科目系統図

区分			1年		2年		3年		4年	
			1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
科目			分野							
一般教育科目	基盤科目		○言語（英語，英語以外の外国語＜ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）		言語科目		技術英語+（専門教育科目）			
			○身体							
			○情報（コンピュータ科学）							
	教養科目		○人文科学（自己,文化,歴史） ○社会科学（社会構造,地域）		人文・社会系科目					
			○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ，Ⅱ，物質科学，物質環境科学　普遍性）		○自然科学（環境：地球科学Ⅰ，Ⅱ，宇宙科学Ⅰ，Ⅱ）					
			○北海道学							
	キャリア形成		（キャリアガイダンス）							
	体験型		（海外文化Ⅰ～Ⅳ）							
	留学生		（日本語演習Ⅰ，日本語読解・構文Ⅰ等）							
工学基礎科目	1群		**線形代数学Ⅰ***	**線形代数学Ⅱ***			*，**：選択必修			
	2群			**微分積分学Ⅰ****	**微分積分学Ⅱ****					
	3群		**[物理学Ⅰ](2)**	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学				
	4群			代数学序論	代数学Ⅰ	代数学Ⅱ				
				幾何学序論	幾何学Ⅰ	幾何学Ⅱ				
専門教育科目	基盤数理系	1群	**確率統計◆**		**環境統計学・演習(1.5)◆**	**品質管理・演習(1.5)◆**	◆：選択必修			
		2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ				
						解析学Ⅱ				
		3群		解析学序論	解析学Ⅰ					
	環境系		環境工学概論		環境地質学+	保全生態学+	**[環境基礎実験](1)+**		環境アセスメント+	
							水環境工学Ⅰ+	水環境工学Ⅱ+		
							景観工学+			
	水工系				**[水理学Ⅰ・演習](3)**	**[水理学Ⅱ・演習](3)**	河川水文学+	河川工学+2)		
						防災工学+		港湾工学		
	計画・道路系					**[計画数理Ⅰ・演習](3)+**	**[計画数理Ⅱ・演習](1.5)+**		都市・交通計画+	
							道路工学+		国際寒地都市論+3)	
	維持管理・設計系							社会基盤施設維持管理工学	コンクリート構造設計演習	
								建設マネジメント	鋼構造工学設計演習1)	
								寒冷地舗装工学		
	構造・材料系				**[構造力学Ⅰ・演習](3)**	**[構造力学Ⅱ・演習](3)**	構造解析学	地震工学+		
						[コンクリート工学](2)+	コンクリート構造工学+			
							[構造材料実験](1)			
							[鋼構造工学](2)+	橋梁工学+		
	土質・施工系				**[土質工学Ⅰ・演習](3)**	**[土質工学Ⅱ・演習](3)**	測量学Ⅱ+	地盤工学+	火薬学	
						[測量学Ⅰ](2)+	**[測量実習](1)+**			
	総合系		CE基礎セミナー+	**[CE総論](2)+**	**[情報処理Ⅰ・演習](1.5)+**	**[情報処理Ⅱ・演習](1.5)+**	**[技術者倫理・演習](1.5)+**		**[CEデザインセミナー](2)+**	**[卒業研究](6)**
							プログラミング+	CAD演習+		**[プレゼンテーション](2)+**
							インターンシップ+			

太字：選択必修科目
[太字]：必修科目
□□・演習(3)：講義90分＋演習90分
□□・演習(1.5)：講義45分＋演習45分
＋：両コース合同科目

1)：2017年度（平成29年度）以降は開講せず，2)：2019年度以降は開講せず，3)：2020年度以降は開講せず

2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）入学者　社会環境工学科　環境情報コース　科目系統図

区分		1年		2年		3年		4年	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
科目		分野							
一般教育科目	基盤科目	○言語（英語，英語以外の外国語＜ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）		言語科目		技術英語+（専門教育科目）			
		○身体							
		○情報（コンピュータ科学）							
	教養科目	○人文科学（自己，文化，歴史） ○社会科学（社会構造，地域）		人文・社会系科目					
		○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ，Ⅱ，物質科学，物質環境科学　普遍性）		○自然科学（環境：地球科学Ⅰ，Ⅱ，宇宙科学Ⅰ，Ⅱ）					
		○北海道学							
	キャリア形成	（キャリアガイダンス）							
	体験型	（海外文化Ⅰ～Ⅳ）							
	留学生	（日本語演習Ⅰ，日本語読解・構文Ⅰ等）							
工学基礎科目	1群	**線形代数学Ⅰ***	**線形代数学Ⅱ***			*，**：選択必修			
	2群		**微分積分学Ⅰ****	**微分積分学Ⅱ****					
	3群	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学				
	4群		代数学序論	代数学Ⅰ	代数学Ⅱ				
			幾何学序論	幾何学Ⅰ	幾何学Ⅱ				
専門教育科目	基盤数理系 1群	**確率統計◆**		**環境統計学・演習(1.5)◆**	**品質管理・演習(1.5)◆**	◆：選択必修			
	基盤数理系 2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ				
					解析学Ⅱ				
	基盤数理系 3群		解析学序論	解析学Ⅰ					
	都市環境系	寒冷地環境論		環境地質学+	保全生態学+	水環境工学Ⅰ+	水環境工学Ⅱ+	環境アセスメント+	
					環境微生物学1)	環境評価論	都市環境工学	景観工学+	
					[環境計測学](2)	**[環境基礎実験](1)+**	**[環境工学実習](1)**		
	都市情報系			**[情報処理Ⅰ・演習](1.5)+**	**[情報処理Ⅱ・演習](1.5)+**	**[データ処理論実習](1)**		防災情報システム	
						プログラミング+	**[CAD演習](1)+**		
	都市経営系				**[計画数理Ⅰ・演習](3)+**	**[計画数理Ⅱ・演習](1.5)+**	寒地政策論	国際寒地都市論+3)	
					住民参加論	都市経営論	社会調査法	都市・交通計画+	
				地域福祉論		道路工学+			
	都市防災系				防災工学+	**[リスクマネジメント](2)**	地震工学+	寒地・都市防災論	
						河川水文学+	河川工学+2)		
						鋼構造工学+	橋梁工学+		
							地盤工学+		
							コンクリート工学+	コンクリート構造工学+	
	総合系	CE基礎セミナー+	**[CE総論](2)+**		**[測量学Ⅰ]（2)+**	測量学Ⅱ+			
				構造の力学A・演習(1.5)○	**構造の力学B・演習(1.5)○**	**[測量実習](1)+**		**[CEデザインセミナー](2)+**	**[卒業研究](6)**
			○●◎：選択必修	**流れ学A・演習(1.5)●**	**流れ学B・演習(1.5)●**	**[技術者倫理・演習](1.5)+**			**[プレゼンテーション](2)+**
				基礎土質工学A・演習(1.5)◎	**基礎土質工学B・演習(1.5)◎**	インターンシップ+			

太字：選択必修科目
[太字]：必修科目
□□・演習(3)：講義90分＋演習90分
□□・演習(1.5)：講義45分＋演習45分
＋：両コース合同科目

1)：2018年度（平成30年度）以降は開講せず，2)：2019年度以降は開講せず，3)：2020年度以降は開講せず

2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）入学者　一般教育科目一覧表

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	基盤科目					
	（言語）					
	・英語					
	英語リーディングⅠ ※	1				1
	英語リーディングⅡ ※	1				1
	英語リーディングⅢ ※		1			1
	英語リーディングⅣ ※		1			1
	英語コミュニケーションⅠ ※	1				1
	英語コミュニケーションⅡ ※	1				1
	英語コミュニケーションⅢ ※		1			1
	英語コミュニケーションⅣ ※		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ ※	1				1
	英語ライティングⅡ ※	1				1
	英語文化演習Ⅰ		2			2
	英語文化演習Ⅱ		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	（身体）					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	（情報）					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

※2015年度以前入学者は英語講読Ⅰ～Ⅳを英語リーディングⅠ～Ⅳに，オーラルコミュニケーションⅠ～Ⅳを英語コミュニケーションⅠ～Ⅳに，ライティング初級Ⅰ，Ⅱを英語ライティングⅠ，Ⅱに読み替える。

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	教養科目					
	(人文科学)					
	・自己					
	哲学	2				2
	倫理学Ⅰ	2				2
	倫理学Ⅱ	2				2
	論理学Ⅰ	2				2
	論理学Ⅱ	2				2
	社会思想史	2				2
	行動科学	2				2
	基礎心理学	2				2
	人間関係論	2				2
	・文化					
	日本文学	2				2
	外国文学Ⅰ	2				2
	外国文学Ⅱ	2				2
	言語学Ⅰ	2				2
	言語学Ⅱ	2				2
	芸術論Ⅰ	2				2
	芸術論Ⅱ	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現代文化論	2				2
	音声学セミナー	2				2
	一般言語学セミナー	2				2
	デザインセミナーⅠ	2				2
	デザインセミナーⅡ	2				2
	・歴史					
	歴史学Ⅰ	2				2
	歴史学Ⅱ	2				2
	歴史学Ⅲ	2				2
	歴史学Ⅳ	2				2
	考古学	2				2
	人文科学特別講義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法学	2				2
	日本国憲法	2				2
	経済学	2				2
	政治学	2				2
	社会学	2				2
	マスコミ論	2				2
	生涯学習論	2				2
	・地域					
	地理学	2				2
	人類学	2				2
	地誌学	2				2
	国際事情	2				2
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2
	社会科学特別講義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地球科学Ⅰ		2			2
	地球科学Ⅱ		2			2
	環境生物科学Ⅰ	2				2
	環境生物科学Ⅱ	2				2
	物質科学	2				2
	物質環境科学	2				2
	宇宙科学Ⅰ		2			2
	宇宙科学Ⅱ		2			2
	地球環境セミナーⅠ	2				2

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	地球環境セミナーⅡ	2				2
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2
	化学セミナーⅠ	2				2
	化学セミナーⅡ	2				2
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2
	・普遍性					
	数学概論Ⅰ	2				2
	数学概論Ⅱ	2				2
	物理学概論Ⅰ	2				2
	物理学概論Ⅱ	2				2
	数学セミナーⅠ	2				2
	数学セミナーⅡ	2				2
	自然科学特別講義	2				2
	(北海道学)					
	北海道史	2				2
	北方圏文化論	2				2
	北海道文学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大学史	2				2
	開発研究所特別講義	2				2
	北海道学特別講義	2				2
	(教養科目)					
	教養科目特別講義	2				2
計		138	8	0	0	146

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・ガイダンス	1				1
計		1	0	0	0	1

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海外文化Ⅰ	1				1
	海外文化Ⅱ	1				1
	海外文化Ⅲ	1				1
	海外文化Ⅳ	1				1
計		4	0	0	0	4

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日本語演習Ⅰ	2				2
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2
	日本語文章表現Ⅰ	2				2
	日本語演習Ⅱ	2				2
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2
	日本語文章表現Ⅱ	2				2
	日本語演習Ⅲ		2			2
	日本事情Ⅰ		2			2
	日本語演習Ⅳ		2			2
	日本事情Ⅱ		2			2
計		12	8	0	0	20

授業科目履修上の注意

1．授業科目と単位数

各授業科目の単位数に関する詳細は，「授業科目と担当者一覧表」を参照してください。
授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 第20条　各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分（１時限，45分を１時間として２時間）を単位とし，原則として各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業を受けた場合，一つの学期で原則として15週の授業がありますので，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。
外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 第４条　外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。
社会環境工学科では，２年次に「講義」と「演習」を組み合わせた２時限続きの授業が行われます。この場合の通算の授業時間及び単位数は，一つの学期で講義が１時限×２時間×15週＝30時間なので２単位，演習が１時限×２時間×15週＝30時間なので１単位，合計３単位となります。また，３・４年次に２時限連続して行われる「実験」及び「実習」の場合は，一つの学期で通算の授業時間が２時限×２時間×15週＝60時間となります。「実験及び実習」については45時間で１単位なので，小数点以下は切り捨てられて１単位と計算されます。
卒業研究については，15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

2．授業科目の区分とその概要

各年次に開講されている授業科目は，原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が，下級年次に開講されている授業科目を履修することは許されていますが，下級年次の者は，上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。

「必修科目」は，必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。必修科目が不合格になった場合は，翌年度に再び履修しなければなりません。「選択必修科目」は，きめられた群の中から必要な単位数を修得しなければなりません。「選択科目」については，自由に選択して履修することができますが，卒業要件として授業科目の区分ごとに必要な単位数が定められていますので留意してください。「自由科目」については，自由に選択して履修することができますが，卒業要件等には加算されません。

授業科目は次の４つの区分に分類されますので，各区分科目の概略と履修上の注意点を以下に示します。

一般教育科目（言語以外）	すべて選択科目（101科目，189単位）

- １年次にすべて豊平校舎で開講されます。
- これらの授業科目の中には，１学期と２学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。ただし，両方を履修することはできません。
- **２年次に進級した後，一般教育科目を履修することは，キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から，原則としてできません**（体育実技を除く）。ただし，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎においても限られた一部の授業科目を開講しています。

一般教育科目（言語）	すべて選択科目（英語14科目，16単位，英語以外の外国語科目78科目，124単位）

- 英語科目については，１・２年次に開講されます。また３年次開講の専門教育科目の技術英語は必要修得単位数としては言語に含まれます。
- 社会環境工学科では，**１年次から２年次への進級に際して英語科目２科目２単位以上を修得することが望ましいです。**
- 英語以外の外国語科目として，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語が開講されています。
- １年次に開講されている一部の外国語科目については，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎でも開講しています。
- 英語以外の外国語科目については，１～４年次の各年次にわたって開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

工学基礎科目	社会環境コース：必修科目（１科目，２単位），選択必修科目（４科目，８単位），選択科目（９科目，18単位） 環境情報コース：選択必修科目（４科目，８単位），選択科目（10科目，20単位）

- １・２年次に開講されており，１群～４群の授業科目に分かれています。
- **卒業要件として社会環境コースでは，必修科目及び選択必修科目より６単位以上を修得する必要があります。また，環境情報コースでは選択必修科目より４単位以上修得する必要があります。**
- １年次に開講されている授業科目については，主に再履修者（新規履修者も含む）を対象として，山鼻校舎においても開講しています。

専門教育科目	社会環境コース：必修科目（21科目，48単位），選択必修科目（３科目，５単位），選択科目（35科目，70単位） 環境情報コース：必修科目（17科目，32単位），選択必修科目（９科目，14単位），選択科目（38科目，76単位）

- １～４年次の各年次にわたって開講されます。
- １年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎のみで開講されます。２年次に進級した後，これらの授業科目を履修することは，キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から，原則としてできないので注意してください。
- 卒業研究は，４年次の２学期に６単位として実施されます。

※社会環境コースの専門教育科目は，専門分野ごとに基盤数理系，環境系，水工系，計画・道路系，維持管理・設計系，構造・材料系，土質・施工系，総合系という８系列に分類されています。そして環境情報コースの専門教育科目は専門分野ごとに基盤数理系，都市環境系，都市情報系，都市経営系，都市防災系，総合系という６系列に分類されています。（各授業科目の講義概要は，この系列ごとに１年次～４年次開講科目の順に掲載されています。）

３．「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」の着手および卒業見込証明書

社会環境工学科では，３年次終了時に合計90単位以上修得しかつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この単位数は，過去の履修事例により「卒業の可能性が何とか残されている」との判断から設定されたものです。しかし，90単位程度で卒業研究に着手した場合，卒業研究の指導を受けながら下級年次の授業科目を多数履修しなければならず，卒業要件を満足するのは容易なことではありません。

３年次終了時に合計100単位以上修得し，かつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に，卒業見込証明書の発行を受けることができます。この単位数は，やはり過去の履修事例により「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されています。当然のことながら，卒業を保証するものではありません。例えば，見込証明書が発行されても，最終的に卒業要件を満足しないために卒業ができない場合や，逆に３年次終了時で見込証明書が発行できない場合でも，４年次１学期終了時に発行条件を満たすことで見込証明書が発行される場合もあります。

卒業見込証明書が発行されない場合には，就職活動に大きな支障をきたしますので十分注意してください。

４．履修の手引の各授業科目と講義概要における記載事項

講義概要には授業科目名，開講年次，開講学期，単位数，担当者名に続いて，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。履修する授業科目を決める際には，これらの内容を良く読んで参考にしてください。特に「授業計画」は毎週の予習・復習のためにも参照してください。ただし，実際の授業の進行状況によっては，授業計画に変更もあり得ます。

授業科目における一部の選択科目では，授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を一定人数に制限している場合や，ある特定の関連する授業科目を前もって履修あるいは単位を修得しておかなければ，その授業科目を履修できない場合があります。講義概要には，この様な授業科目の履修に関する制約事項等が記載されている場合がありますので注意してください。

外国語科目や専門教育科目においては，分野ごとに上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはいけない授業科目が含まれています。従って，履修する当該年度の講義概要だけではなく，次年度に履修することになる上級年次の授業科目の講義概要についても，良く読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修願の提出期限までは一定の期間が設けられています。履修登録については，18ページ～21ページを参照して下さい。授業科目によっては，最初の授業時間に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があります。従って，履修しようと考える授業科目については，最初の授業に必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，セミナーを受講する場合の申込み方法や注意点が，この冊子の最後に記載されています。

外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの授業科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒は，これらの授業科目を履修し修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

５．測量に関する証明書について

北海学園大学工学部社会環境工学科　社会環境コース・環境情報コースは，測量法施行令第14条に規定する「相当する学科」に認定されています。

以下の条件を卒業までに修得することで卒業後に測量に関する証明書を発行できます。

〈測量に関する証明書発行条件〉

・必修科目「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」

・測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」の学科認定科目30単位以上（上記必修科目を含む）

〈各コース証明書発行条件〉
社会環境コース：
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ社会環境コースの卒業要件を満たすことで，測量に関する証明書が発行できます。

環境情報コース：
〈2017年度以降入学者対象〉
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ下表の選択科目一覧から15単位以上修得することで測量に関する証明書を発行できます。
〈2012年～2016年度入学者対象〉
「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し，かつ下表の選択科目一覧から17単位以上修得することで測量に関する証明書を発行できます。

測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」認定選択科目一覧

環境情報コース2017年度以降入学者対象			環境情報コース2012-2016年度入学者対象		
科　　目	単位	摘要	科　　目	単位	摘要
環境地質学	2		環境地質学	2	
景観工学	2		景観工学	2	
プログラミング	2		プログラミング	2	
防災情報システム	2		防災情報システム	2	
地震工学	2		地震工学	2	
河川工学	2		河川工学	2	
防災工学	2		防災工学	2	
確率統計	2	選択必修	確率統計	2	選択必修
環境統計学・演習	1.5	選択必修	環境統計学・演習	1.5	選択必修
品質管理・演習	1.5	選択必修	品質管理・演習	1.5	選択必修
解析学Ⅱ	2		解析学Ⅱ	2	
応用数学Ⅰ	2		応用数学Ⅰ	2	
応用数学Ⅱ	2		応用数学Ⅱ	2	
解析学序論	2		解析学序論	2	
解析学Ⅰ	2		解析学Ⅰ	2	
都市・交通計画	2		都市・交通計画	2	
道路工学	2		道路工学	2	
橋梁工学	2		橋梁工学	2	
地盤工学	2		地盤工学	2	
構造の力学A・演習	1.5	選択必修	構造の力学A・演習	1.5	選択必修
構造の力学B・演習	1.5	選択必修	構造の力学B・演習	1.5	選択必修
流れ学A・演習	1.5	選択必修	流れ学A・演習	1.5	選択必修
流れ学B・演習	1.5	選択必修	流れ学B・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学A・演習	1.5	選択必修	基礎土質工学A・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学B・演習	1.5	選択必修	基礎土質工学B・演習	1.5	選択必修
			シビルエンジニアリング基礎セミナー	2	
合　　計	46		合　　計	48	
2017年度以降入学者は， 上記認定科目一覧から15単位以上の修得が必要			2012-2016年度入学者は， 上記認定科目一覧から17単位以上の修得が必要		

読替科目一覧表（専門教育科目）

2012年度～2016年度入学者				2017年度以降入学者				
必修○	履修コード	科目名	単位数	読替科目名	単位数	担当者	開講年次	開講学期
	21067	環境工学概論	2	環境工学序論	2	山田俊郎	1	1
	21058	寒冷地環境論	2					
	21135	地域福祉論	2	地域交通論	2	田村亨	2	1
○	21150	環境基礎実験(社会環境コース)	1	環境計測実習	1	安藤直哉	3	2
○	21150	環境基礎実験(環境情報コース)	1	地盤・構造材料実験	1	高橋・小野	3	1
○	21155	水環境工学Ⅰ	2	上下水道工学Ⅰ	2	山田俊郎	3	1
	21156	水環境工学Ⅱ	2	上下水道工学Ⅱ	2	山田俊郎	3	2
	21161	河川水文学	2	河川工学	2	嵯峨浩	3	1
○	21347	構造材料実験	1	地盤・構造材料実験	1	高橋・小野	3	1

I 教　育　課　程

【建築学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

建築学科カリキュラム・マップ

■建築学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし，次の能力・資質を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。
(2) 建築技術者としての高い倫理観を身につけている。
(3) 地域社会と連携していける能力を身につけている。
(4) 空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの各系において高度な専門知識を身につけている。
(5) 空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの全ての系を対象として総合的な視野をもって融合し，活用できる高度な専門知識を身につけている。

■建築学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

１年次には大学生にふさわしい見識と豊かな人間性を養うための学習を主体としながら専門分野の入門的な科目も配置し，２年次以降には高度な専門的知識と新しい技術を習得するための科目を配置しています。

多くの選択科目を用意し，各自の興味や目標に応じて，特定の系を集中して学ぶことができます。これらは空間デザイン系，環境デザイン系，システムデザイン系の３つの系から構成されており，アドミッション・ポリシーに掲げた３者と対応しています。もちろん，幅広い分野を総合的に学ぶこともできるようになっています。

専門科目のなかには微積や力学の基礎知識が必要な部分もありますが，入学前にそれらの科目を履修していなくても，入学後に基礎から学ぶことができるようになっています。専門科目も入門的な内容から基礎，応用，発展と段階的に進むカリキュラムになっていますので無理なく理解できます。

また，種々の演習や実験を中心にコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力，自主性や協調性を養うための工夫を施しています。

【教育理念】

建築学が対象とする学問領域は，工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ，個々の人間の感性と倫理観も重要視され，専門性と総合性の両者がともに求められます。

循環型社会への移行に伴い，人間の暮らしが息づく生活空間（環境を含む）のあり方が問い直されており，建築設計に留まらず街並みの形成（都市計画）に関する幅広い建築技術の応用に関する知識・能力を身につけることが必要となっています。また，防災・減災や環境負荷低減あるいはユニバーサルデザインなど多様な観点を踏まえた建築物の安全性・快適性はもとより，古い建築物の再生・活用を図る柔軟な発想力も求められています。

これらの背景から，建築学科では以下のような教育・学習目標のもと，多様な知識・能力を持ち様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

Ⅰ．教育目標

建築学の広い学問領域を背景として，文系・理系を問わず門戸を開いています。そのため，工学系の知識を基礎から学ぶ科目を配し，専門科目は工学系の知識に創造性も踏まえ，入門的な内容から基礎，応用，発展へと段階的に進む構成を通じて，多様な知識・能力を身につけた人材を育成します。また，多岐にわたる専門科目をバランスよく用意し，特定の系に重点を置いて学ぶことも，幅広い分野を総合的に学ぶこともできる教育体系を通じて，各自の興味や目標に応じながら様々な分野で高い倫理観も携えて活躍できる人材を育成します。

Ⅱ．学習目標

１．空間デザイン能力の習得

機能的で美しい建築や住みよい都市を構想・計画しデザインすることが出来る。

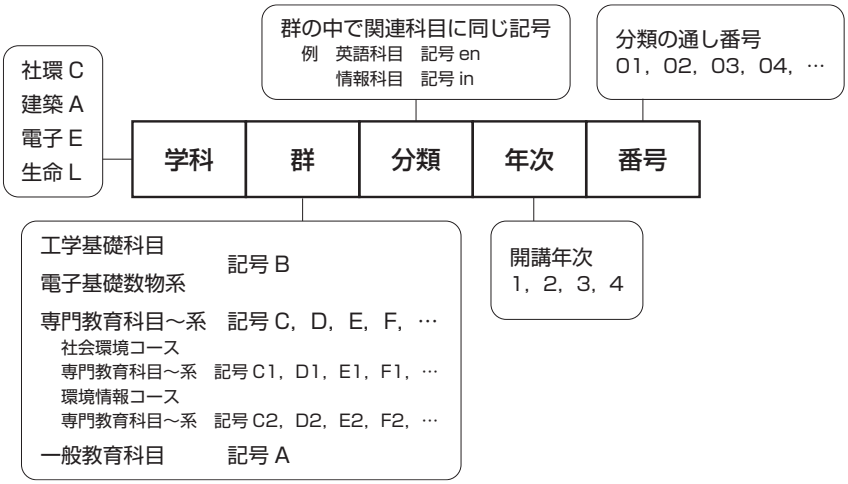
2．環境デザイン能力の習得
環境・設備面から建築や都市の快適性・利便性・安全性と環境負荷削減を追求することが出来る。

3．システムデザイン能力の習得
構造・材料・生産面で安全かつ要求される使用性・耐久性のある建築を考え造ることが出来る。

4．上記能力を活かし想像を実現する優れた人間性の醸成
適切かつ正確なコミュニケーション・質の高いプレゼンテーションを実践することが出来る。
豊かな協調性・魅力的なリーダーシップを発揮することが出来る。

〈到達目標〉		対応する学位授与方針（左から主な順）
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	(1)
C	建築に携わる人間としての高い社会性を習得し，直面する倫理的問題に対応できる。	(2)
D	異なる価値観や文化を理解･尊重し，自らを取り巻く地域社会あるいはグローバル社会と主体的に連携・協働を図り，社会の発展に貢献できる。	(3)
E	建築・都市を形成・維持するための基礎的な論理的思考・技術を理解し，習得する。	(4) - (5)
F	自己の考え・提案をわかりやすく主体的に説明・表現し，議論を通してそれらを向上させる方法を習得する。	(4) - (5)
G	身につけた基礎知識・技術を応用しながら，常に多角的な視点・分析に基づいて新たな課題を発見し，課題解決のための情報を論理的に分析し，課題解決の提案を試みることができる。	(4) - (5)
H	多様化・複合化する建築・都市への要求性能に対応できるよう，新たな視点から既存の技術を発展させる能力を習得する。	(4) - (5)
I	空間デザイン，環境デザイン，システムデザイン各系の視点を総合し，社会ニーズに対応した建築・都市を創造することができる。	(5)

■工学部ナンバリング



授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	基盤科目	言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	AAen101	○			○		○				
				英語リーディングⅡ	1	1	AAen102	○			○		○				
				英語リーディングⅢ	1	2	AAen203	○			○		○				
				英語リーディングⅣ	1	2	AAen204	○			○		○				
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	AAen105	○			○		○				
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	AAen106	○			○		○				
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	AAen207	○			○		○				
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	AAen208	○			○		○				
				英語特講Ⅰ	1	1	AAen109	○			○		○				
				英語特講Ⅱ	1	1	AAen110	○			○		○				
				英語ライティングⅠ	1	1	AAen111	○			○		○				
				英語ライティングⅡ	1	1	AAen112	○			○		○				
				英語文化演習ⅠA	2	2	AAen213	○			○		○				
				英語文化演習ⅡA	2	2	AAen214	○			○		○				
			共通	世界の言語と文化	2	1	AAco101	○			○		○				

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	基盤科目	言語	ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	AAge101	○			○		○				
				ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	AAge102	○			○		○				
				ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	AAge203	○			○		○				
				ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	AAge204	○			○		○				
				ドイツ語会話Ⅰ	1	1	AAge105	○			○		○				
				ドイツ語会話Ⅱ	1	1	AAge106	○			○		○				
				ドイツ語文化Ⅰ	2	1	AAge107	○			○		○				
				ドイツ語文化Ⅱ	2	2	AAge208	○			○		○				
				ドイツ語文化Ⅲ	2	2	AAge209	○			○		○				
				ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	AAge310	○			○		○				
				ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	AAge311	○			○		○				
				ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	AAge312	○			○		○				
				ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	AAge313	○			○		○				
				ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAge414	○			○		○				
				ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAge415	○			○		○				
			フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	AAfr101	○			○		○				
				フランス語基礎Ⅱ	1	1	AAfr102	○			○		○				
				フランス語基礎Ⅲ	1	2	AAfr203	○			○		○				
				フランス語基礎Ⅳ	1	2	AAfr204	○			○		○				
				フランス語会話Ⅰ	1	1	AAfr105	○			○		○				
				フランス語会話Ⅱ	1	1	AAfr106	○			○		○				
				フランス語文化Ⅰ	2	1	AAfr107	○			○		○				
				フランス語文化Ⅱ	2	2	AAfr208	○			○		○				
				フランス語文化Ⅲ	2	2	AAfr209	○			○		○				
				フランス語文化演習Ⅰ	2	3	AAfr310	○			○		○				
				フランス語文化演習Ⅱ	2	3	AAfr311	○			○		○				
				フランス語言語演習Ⅰ	2	3	AAfr312	○			○		○				
				フランス語言語演習Ⅱ	2	3	AAfr313	○			○		○				
				フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAfr414	○			○		○				
				フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAfr415	○			○		○				
			中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	AAch101	○			○		○				
				中国語基礎Ⅱ	1	1	AAch102	○			○		○				
				中国語基礎Ⅲ	1	2	AAch203	○			○		○				
				中国語基礎Ⅳ	1	2	AAch204	○			○		○				
				中国語会話Ⅰ	1	1	AAch105	○			○		○				
				中国語会話Ⅱ	1	1	AAch106	○			○		○				
				中国語文化Ⅰ	2	1	AAch107	○			○		○				
				中国語文化Ⅱ	2	2	AAch208	○			○		○				
				中国語文化Ⅲ	2	2	AAch209	○			○		○				
				中国語文化演習Ⅰ	2	3	AAch310	○			○		○				
				中国語文化演習Ⅱ	2	3	AAch311	○			○		○				
				中国語言語演習Ⅰ	2	3	AAch312	○			○		○				
				中国語言語演習Ⅱ	2	3	AAch313	○			○		○				
				中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAch414	○			○		○				
				中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAch415	○			○		○				
			ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	AAru101	○			○		○				
				ロシア語基礎Ⅱ	1	1	AAru102	○			○		○				
				ロシア語基礎Ⅲ	1	2	AAru203	○			○		○				
				ロシア語基礎Ⅳ	1	2	AAru204	○			○		○				
				ロシア語会話Ⅰ	1	1	AAru105	○			○		○				
				ロシア語会話Ⅱ	1	1	AAru106	○			○		○				
				ロシア語文化Ⅰ	2	1	AAru107	○			○		○				
				ロシア語文化Ⅱ	2	2	AAru208	○			○		○				
				ロシア語文化Ⅲ	2	2	AAru209	○			○		○				
				ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	AAru310	○			○		○				
				ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	AAru311	○			○		○				
				ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	AAru312	○			○		○				
				ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	AAru313	○			○		○				
				ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAru414	○			○		○				
				ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAru415	○			○		○				

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	基盤科目	言語	韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	AAko101	○			○		○				
				韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	AAko102	○			○		○				
				韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	AAko203	○			○		○				
				韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1	2	AAko204	○			○		○				
				韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1	1	AAko105	○			○		○				
				韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1	1	AAko106	○			○		○				
				韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1	2	AAko207	○			○		○				
				韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1	2	AAko208	○			○		○				
				韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2	1	AAko109	○			○		○				
				韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2	2	AAko210	○			○		○				
				韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2	2	AAko211	○			○		○				
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2	3	AAko312	○			○		○				
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2	3	AAko313	○			○		○				
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2	3	AAko314	○			○		○				
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2	3	AAko315	○			○		○				
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAko416	○			○		○				
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAko417	○			○		○				
		身体	－	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	AApe101	○									
				健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	AApe102	○									
				体育実技ⅠA	1	1	AApe103	○									
				体育実技ⅠB	1	1	AApe104	○									
				体育実技ⅡA	1	1	AApe105	○									
				体育実技ⅡB	1	1	AApe106	○									
				体育実技ⅢA	1	1	AApe107	○									
				体育実技ⅢB	1	1	AApe108	○									
				体育実技ⅣA	1	1	AApe109	○									
				体育実技ⅣB	1	1	AApe110	○									
		情報	－	コンピュータ科学	2	1	AAin101	○									
				情報技術論	2	1	AAin102	○									
				情報と社会	2	1	AAin103	○			○		○				
	教養科目	人文科学	自己	哲学	2	1	AAse101		○		○						
				倫理学Ⅰ	2	1	AAse102		○	○	○						
				倫理学Ⅱ	2	1	AAse103		○	○	○						
				論理学Ⅰ	2	1	AAse104		○		○		○				
				論理学Ⅱ	2	1	AAse105		○		○		○				
				社会思想史	2	1	AAse106		○		○						
				行動科学	2	1	AAse107		○		○						
				基礎心理学	2	1	AAse108		○		○						
				人間関係論	2	1	AAse109		○		○						
			文化	日本文学	2	1	AAcu101		○		○						
				外国文学Ⅰ	2	1	AAcu102		○		○						
				外国文学Ⅱ	2	1	AAcu103		○		○						
				言語学Ⅰ	2	1	AAcu104		○		○						
				言語学Ⅱ	2	1	AAcu105		○		○						
				芸術論Ⅰ	2	1	AAcu106		○		○						
				芸術論Ⅱ	2	1	AAcu107		○		○						
				異文化コミュニケーション	2	1	AAcu108		○		○						
				現代文化論	2	1	AAcu109		○		○						
				音声学セミナー	2	1	AAcu110		○		○						
				一般言語学セミナー	2	1	AAcu111		○		○						
				デザインセミナーⅠ	2	1	AAcu112		○			○					
				デザインセミナーⅡ	2	1	AAcu113		○			○					
			歴史	歴史学Ⅰ	2	1	AAhi101		○		○						
				歴史学Ⅱ	2	1	AAhi102		○		○						
				歴史学Ⅲ	2	1	AAhi103		○		○						
				歴史学Ⅳ	2	1	AAhi104		○		○						
				考古学	2	1	AAhi104		○								
		社会科学	社会構造	法学	2	1	AAso101		○								
				日本国憲法	2	1	AAso102		○								
				経済学	2	1	AAso103		○								
				政治学	2	1	AAso104		○								
				社会学	2	1	AAso105		○								
				マスコミ論	2	1	AAso106		○								
				生涯学習論	2	1	AAso107		○								

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	教養科目	社会科学	地域	地理学	2	1	AAlo101		○		○						
				人類学	2	1	AAlo102		○		○						
				地誌学	2	1	AAlo103		○		○						
				国際事情	2	1	AAlo104		○		○						
				カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	AAlo105		○		○						
				カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	AAlo106		○		○						
		自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	2	AAsu101		○			○					
				地球科学Ⅱ	2	2	AAsu102		○			○					
				環境生物科学Ⅰ	2	1	AAsu103		○			○					
				環境生物科学Ⅱ	2	1	AAsu104		○			○					
				物質科学	2	1	AAsu105		○			○					
				物質環境科学	2	1	AAsu106		○			○					
				宇宙科学Ⅰ	2	2	AAsu107		○			○					
				宇宙科学Ⅱ	2	2	AAsu108		○			○					
				地球環境セミナーⅠ	2	1	AAsu109		○			○					
				地球環境セミナーⅡ	2	1	AAsu110		○			○					
				環境生物科学セミナーⅠ	2	1	AAsu111		○			○					
				環境生物科学セミナーⅡ	2	1	AAsu112		○			○					
				化学セミナーⅠ	2	1	AAsu113		○			○					
				化学セミナーⅡ	2	1	AAsu114		○			○					
				宇宙科学セミナーⅠ	2	1	AAsu115		○			○					
				宇宙科学セミナーⅡ	2	1	AAsu116		○			○					
			普遍性	数学概論Ⅰ	2	1	AAun101		○			○					
				数学概論Ⅱ	2	1	AAun102		○			○					
				物理学概論Ⅰ	2	1	AAun103		○			○					
				物理学概論Ⅱ	2	1	AAun104		○			○					
				数学セミナーⅠ	2	1	AAun105		○			○					
				数学セミナーⅡ	2	1	AAun106		○			○					
		北海道学	－	北海道史	2	1	AAho101		○		○						
				北方圏文化論	2	1	AAho102		○		○						
				北海道文学	2	1	AAho103		○		○						
				アイヌの言語と文化	2	1	AAho104		○		○						
				大学史	2	1	AAho105		○								
	キャリア形成科目			キャリア・ガイダンス	1	1	AAca101		○								
	体験型科目			海外文化Ⅰ	1	1	AAov101		○								
				海外文化Ⅱ	1	1	AAov102		○								
				海外文化Ⅲ	1	1	AAov103		○								
				海外文化Ⅳ	1	1	AAov104		○								
工学基礎科目	数物系			線形代数学Ⅰ	2	1	ABla101					○					
				線形代数学Ⅱ	2	1	ABla102					○					
				微分積分学Ⅰ	2	1	ABcc101					○					
				微分積分学Ⅱ	2	2	ABcc202					○					
				幾何学序論	2	1	ABgm101					○					
				幾何学Ⅰ	2	2	ABgm202					○					
				幾何学Ⅱ	2	2	ABgm203					○					
				物理学Ⅰ	2	1	ABph101					○					
				物理学Ⅱ	2	1	ABph102					○					
				代数学序論	2	1	ABal101					○					
				代数学Ⅰ	2	2	ABal202					○					
				代数学Ⅱ	2	2	ABal203					○					
専門教育科目	空間デザイン系			空間・環境デザイン入門	2	1	ACin101					○					
				空間デザイン	2	1	ACsd101					○					
				空間デザイン演習基礎	2	2	ACsd202					○	○				
				空間デザイン演習Ⅰ	4	2	ACsd203					○	○			○	
				空間デザイン演習Ⅱ	4	3	ACsd304						○	○		○	
				空間デザイン演習Ⅲ	4	3	ACsd305						○	○		○	
				空間デザイン演習Ⅳ	4	4	ACsd406						○		○	○	
				建築計画Ⅰ	2	2	ACap201					○					
				建築計画Ⅱ	2	3	ACap302							○			
				建築計画Ⅲ	2	3	ACap303							○			
				工芸デザイン	2	2	ACcd201					○					
				建築デザイン論	2	3	ACad301							○			
				都市計画	2	3	ACcp301							○			
				インテリアデザイン	2	3	ACid301							○			
				空間リノベーション	2	4	ACsr401								○		

授業科目名			単位	開講年次	学科科目No.	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	
専門教育科目	環境デザイン系	北方建築	2	1	ADna101					○					
		建築環境基礎	2	2	ADeb201					○					
		建築環境計画Ⅰ	2	2	ADep201					○		○			
		建築環境計画Ⅱ	2	3	ADep302					○		○			
		建築環境計画Ⅲ	2	3	ADep303					○		○			
		建築環境計画演習Ⅰ	1	2	ADep204							○			
		建築環境計画演習Ⅱ	1	3	ADep305							○			
		環境計測演習	2	4	ADem401							○	○		
		設備概論	2	2	ADeo201					○					
		建築設備システム	2	3	ADes301							○			
		庭園文化論	2	3	ADgc301								○		
		都市環境デザイン	2	4	ADue401								○		
		雪氷学	2	4	ADgl401					○					
	システムデザイン系	構造・材料デザイン入門	2	1	AEin101					○					
		構造デザイン	2	1	AEsd101					○					
		構造力学基礎Ⅰ・演習	3	2	AEsm201					○					
		構造力学基礎Ⅱ・演習	3	2	AEsm202					○					
		構造力学応用Ⅰ・演習	3	3	AEsm303							○			
		構造力学応用Ⅱ・演習	3	3	AEsm304							○			
		鉄筋コンクリート構造	2	3	AErc301							○			
		鉄筋コンクリート構造演習	1	3	AErc302							○			
		鋼構造	2	3	AEss301							○			
		鋼構造演習	1	3	AEss302							○			
		構造設計法	2	3	AEdm301							○			
		建築振動論	2	4	AEdt401								○		
		構造解析	2	4	AEsa401								○		
		建築材料	2	2	AEbm201					○					
		建築仕上材料	2	2	AEfm201					○					
		建築材料実験	1	3	AEme301							○			
		建築生産	2	3	AEbp301							○			
		建築施工	2	4	AEbc401								○		
		コンクリート工学	2	4	AEce401								○		
	専門共通	造形演習Ⅰ	2	1	AFme101					○					
		造形演習Ⅱ	2	1	AFme102					○					
		建築図学	2	1	AFdg101					○					
		建築製図演習	2	2	AFde201					○					
		建築プレゼンテーション	2	2	AFap201					○	○				
		建築CAD演習	2	3	AFac301					○					
		建築一般構造	2	2	AFgb201					○					
		西洋建築史	2	2	AFhi201					○					
		日本建築史	2	2	AFhi202					○					
		情報処理	2	2	AFip201					○					
		プログラミング	2	2	AFpr201					○					
		測量学	3	3	AFsu301					○					
		インターンシップ	2	3	AFin301					○					
		建築法規	2	3	AFbr301					○					
		建築経済	2	3	AFbe301					○					
		品質管理	2	3	AFqm301					○					
		木造建築	2	1※	AFws101					○					
		技術者倫理	2	3	AFte301			○		○					
		防災計画	2	4	AFdp401					○					
		解析学序論	2	1	AFia101					○					
		解析学Ⅰ	2	2	AFan201					○					
		解析学Ⅱ	2	2	AFan202					○					
		確率統計	2	1	AFps101					○					
		数理統計学	2	2	AFms201					○					
		卒業研究	6	4	AFgr401	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※2020年度（令和2年度）以前入学者は3

建築学科 カリキュラム・ツリー

【DP1】
学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。

【DP2】
建築技術者としての高い倫理観を身につけている。

【DP3】
地域社会と連携していける能力を身につけている。

DP1
【到達目標】(A)
さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。

DP1
【到達目標】(B)
一般的・普遍的な教養を身につける。

DP2
【到達目標】(C)
建築に携わる人間としての高い社会性を習得し，直面する倫理的問題に対応できる。

DP3
【到達目標】(D)
異なる価値観や文化を理解・尊重し，自らを取り巻く地域社会あるいはグローバル社会と主体的に連携・協働を図り，社会の発展に貢献できる。

DP4 **DP5**
【到達目標】(E)
建築・都市を形成・維持するための基礎的な論理的思考・技術を理解し，習得する。

4年次

3年次

2年次

1年次

一般教育科目（基盤科目・教養科目）

工学基礎科目

- 微分積分学Ⅱ
- 幾何学Ⅰ
- 幾何学Ⅱ
- 代数学Ⅰ
- 代数学Ⅱ
- 線形代数学Ⅰ
- 線形代数学Ⅱ
- 微分積分学Ⅰ
- 物理学Ⅰ
- 物理学Ⅱ
- 代数学序論
- 幾何学序論

空間デザイン系

- 空間デザイン演習Ⅳ
- 空間リノベーション
- 空間デザイン演習Ⅱ
- 空間デザイン演習Ⅲ
- 建築計画Ⅱ
- 建築計画Ⅲ
- 建築デザイン論
- 都市計画
- インテリアデザイン
- 空間デザイン演習基礎
- 空間デザイン演習Ⅰ
- 建築計画Ⅰ
- 工芸デザイン
- 空間・環境デザイン入門
- 空間デザイン

環境デザイン系

- 環境計測演習
- 都市環境デザイン
- 雪氷学
- 建築環境計画Ⅱ
- 建築環境計画Ⅲ
- 建築環境計画演習Ⅱ
- 建築設備システム
- 庭園文化論
- 建築環境基礎
- 建築環境計画Ⅰ
- 建築環境計画演習Ⅰ
- 設備概論
- 北方建築

【DP4】
空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの各系において高度な専門知識を身につけている。

【DP5】
空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの全ての系を対象として総合的な視野をもって融合し，活用できる高度な専門知識を身につけている。

DP4 DP5

【到達目標】（F）
自己の考え・提案をわかりやすく主体的に説明・表現し，議論を通してそれらを向上させる方法を習得する。

DP4 DP5

【到達目標】（G）
身につけた基礎知識・技術を応用しながら，常に多角的な視点・分析に基づいて新たな課題を発見し，課題解決のための情報を論理的に分析し，課題解決の提案を試みることができる。

DP4 DP5

【到達目標】（H）
多様化・複合化する建築・都市への要求性能に対応できるよう，新たな視点から既存の技術を発展させる能力を習得する。

DP5

【到達目標】（I）
空間デザイン，環境デザイン，システムデザイン各系の視点を総合し，社会ニーズに対応した建築・都市を創造することができる。

専門科目

システムデザイン系

建築振動論
構造解析
建築施工
コンクリート工学

構造力学応用Ⅰ・演習
構造力学応用Ⅱ・演習
鉄筋コンクリート構造
鉄筋コンクリート構造演習
鋼構造
鋼構造演習
構造設計法
建築材料実験
建築生産

構造力学基礎Ⅰ・演習
構造力学基礎Ⅱ・演習
建築材料
建築仕上材料

構造・材料デザイン入門
構造デザイン

専門共通

防災計画
卒業研究

建築 CAD 演習
測量学
インターンシップ
建築法規
建築経済
品質管理
技術者倫理

建築製図演習
建築プレゼンテーション
建築一般構造
西洋建築史
日本建築史
情報処理
解析学Ⅰ
プログラミング
解析学Ⅱ
数理統計学

造形演習Ⅰ
造形演習Ⅱ
建築図学
木造建築
解析学序論
確率統計

建築学科　初年次教育プログラム

建築学科では，以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は，工学部建築学科の１年次学生である。

プログラムのねらい

（プログラムの目標）

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は，「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では，明確な答えが準備された問いを与えられ，その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は，試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく，学習時間の管理では，主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

一方，大学での「学び」には，自ら学ぶ主体性が求められる。習得する科目を，各自の興味や将来ビジョンに基づいて選択・設計する必要がある。進級や卒業要件を含み置く前提で，自らの意思により「学び」の方向性を決定できる環境が，高校までとは明確に異なる点であろう。自らが決めた「学び」に対して，学修スケジュールを設計し，日常を組み立てる能力も求められる。大学での講義の他，自習の時間，各種活動やアルバイトの時間などの適切な管理は必須である。高校よりも多様な活動の選択肢があるなか，大学の講義や自習に十分な時間を確保するには，自らの学ぶ姿勢に正面から向き合う必要がある。

大学での「学び」のアウトプットは，試験の答案用紙への正解の記載はもとより，論文やレポートの作成，ブレインストーミングやワークショップ，プレゼンテーションなど多岐に渡る。その過程では，自分の考えをわかりやすく表明し，他者に誤解なく認識してもらうことが欠かせない。同時に，自らの考えに客観性や独自性を持たせるため，他者の意見を誤解せず認識する能力も必要になる。アウトプットのみならずアウトカムが期待される実社会では，答えのない問いや対立する考え方が多くある。合意形成の難しい問いが存在すると理解し，それらに対する実践的な適応策や合理的な緩和策を模索する重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し，大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続するために，建築学科では以下の４テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。このプログラムの習得により，在学期間中の「学び」を充実した有意義なものなり，卒業後に社会の発展やQOLの向上に貢献する知的基盤としても活用されることを期待している。

（学生の学習目標）

本プログラムを受講する学生には，以下の事項を習得してもらう。

・少人数のグループにおいて，多様な意見を引き出せるような場を作る能力
・答えのない問いに対して，他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
・数十人が集まる場において，自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明する能力
・口頭で自らの考えを述べる際に用いるプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのパソコン操作
・レポート課題や論文などの科学技術文章を作成する際に必要となる考え方
・科学技術文章を効率的に作成するためのパソコン操作
・本学科で学びを継続していくための動機
・大学での学びと課外活動とを両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ　建築学科の初年次教育は，以下の４テーマから成る。

1．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び
2．レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ＆表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び
3．学科での学びに対する動機付け
4．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画　上記の４テーマの学修を，以下に示す１年次科目・講義回において行う。

1．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び

【構造・材料デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　構造・材料学を学んでいく上での心構え

【空間・環境デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　空間・環境デザインを学んでいく上での心構え

2．レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ＆表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び
【構造・材料デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　『建築の「構造」をキーワードとした自由レポート』の書き方
　　『建築の「材料」をキーワードとした自由レポート』の書き方

【空間・環境デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　『建築の「環境工学」をキーワードとした自由レポート』の書き方
　　『建築の「計画/設計学」をキーワードとした自由レポート』の書き方

3．学科での学びに対する動機付け
【構造・材料デザイン入門】　担当：関連分野が専門の教員
第１回　建築構造学の位置づけ
第９回　建築材料学の位置づけ

【空間・環境デザイン入門】　担当：関連分野が専門の教員
第２回　建築計画学の位置づけ
第４回　建築/都市の環境学の位置づけ
第７回　都市計画学の位置づけ
第10回　建築/都市の音環境学の位置づけ
第13回　建築デザイン学の位置づけ

4．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び
【構造・材料デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　構造・材料学を学んでいく上での心構え

【空間・環境デザイン入門】　担当：とりまとめ担当教員
第１回　空間・環境デザインを学んでいく上での心構え

I 教　育　課　程

【建築学科】

2017年度（平成29年度）以降入学者

建築学科の教育・学習目標

Ⅰ　教育理念

建築学が対象とする学問領域は，工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ，個々の人間の感性と倫理観も重要視され，専門性と総合性の両者がともに求められます。

循環型社会への移行に伴い，人間の暮らしが息づく生活空間（環境を含む）のあり方が問い直されており，建築設計に留まらず街並みの形成（都市計画）に関する幅広い建築技術の応用に関する知識・能力を身につけることが必要となっています。また，防災・減災や環境負荷低減あるいはユニバーサルデザインなど多様な観点を踏まえた建築物の安全性・快適性はもとより，古い建築物の再生・活用を図る柔軟な発想力も求められています。

これらの背景から，建築学科では以下のような教育・学習目標のもと，多様な知識・能力を持ち様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

Ⅱ　教育目標

建築学の広い学問領域を背景として，文系・理系を問わず門戸を開いています。そのため，工学系の知識を基礎から学ぶ科目を配し，専門科目は工学系の知識に創造性も踏まえ入門的な内容から基礎，応用，発展と段階的に進む構成を通じて，多様な知識・能力を身につけた人材を育成します。

また，多岐にわたる選択科目をバランスよく用意し，特定の系に重点を置いて学ぶことも幅広い分野を総合的に学ぶこともできる教育体系を通じて，各自の興味や目標に応じながら様々な分野で高い倫理観も携えて活躍できる人材を育成します。

Ⅲ　学習目標

1．空間デザイン能力の習得
　機能的で美しい建築や住みよい都市を構想・計画しデザインすることができる。
2．環境デザイン能力の習得
　環境・設備面から建築や都市の快適性を追及することができる。
3．システムデザイン能力の習得
　構造・材料・生産面で安全かつ耐久性のある建築を考え造ることができる。
4．上記能力を活かし創造を実現する優れた人間性の醸成
　適切かつ正確なコミュニケーション・質の高いプレゼンテーションを実践することができる。
　豊かな協調性・魅力的なリーダーシップを発揮することができる。

教育・学習目標		開講学年	科目名等
工学系の知識を基礎から学ぶ		1，2年	各種工学基礎科目
創造を実現する優れた人間性の醸成	多様な知識・教養	1，2年	一般教育科目のうち「教養科目」
	コミュニケーション	1，2年	一般教育科目のうち「基盤科目」
		2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	プレゼンテーション	2～4年	一般教育科目のうち「基盤科目」における各種演習科目
		2年	専門教育科目「建築プレゼンテーション」「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	協調性	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「建築材料実験」「測量学」
		4年	専門教育科目「卒業研究」
	リーダーシップ	4年	専門教育科目「卒業研究」
	倫理観	3年	専門教育科目「技術者倫理」
建築専門科目の修得		1年	専門教育科目「造形演習Ⅰ」「造形演習Ⅱ」「建築図学」「木造建築※」「確率統計」「解析学序論」
		2年	専門教育科目「建築製図演習」「建築一般構造」「情報処理」「プログラミング」「西洋建築史」「日本建築史」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」「建築プレゼンテーション」
		3年	専門教育科目「建築CAD演習」「測量学」「インターンシップ」「建築法規」「建築経済」「品質管理」「技術者倫理」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「防災計画」
空間デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「空間デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」「建築計画Ⅰ」「工芸デザイン」
	応用	3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」「建築計画Ⅱ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン論」「都市計画」「インテリアデザイン」
	発展	4年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅳ」「空間リノベーション」「卒業研究」
環境デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「北方建築」
	基礎	2年	専門教育科目「建築環境基礎」「建築環境計画Ⅰ」「建築環境計画演習Ⅰ」「設備概論」
	応用	3年	専門教育科目「建築環境計画Ⅱ」「建築環境計画Ⅲ」「建築環境計画演習Ⅱ」「建築設備システム」「庭園文化論」
	発展	4年	専門教育科目「環境計測演習」「都市環境デザイン」「雪氷学」「卒業研究」
システムデザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「構造・材料デザイン入門」「構造デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「構造力学基礎Ⅰ・演習」「構造力学基礎Ⅱ・演習」「建築材料」「建築仕上材料」
	応用	3年	専門教育科目「構造力学応用Ⅰ・演習」「構造力学応用Ⅱ・演習」「鉄筋コンクリート構造」「鉄筋コンクリート構造演習」「鋼構造」「鋼構造演習」「構造設計法」「建築材料実験」「建築生産」
	発展	4年	専門教育科目「建築振動論」「構造解析」「建築施工」「コンクリート工学」「卒業研究」
地域社会との連携		4年	専門教育科目「卒業研究」

※2020年度（令和2年度）以前入学者は3年

1．はじめに

カリキュラム（教育課程）は入学年度によって異なります。自分の入学年度のカリキュラムに従って下さい。

大学全体に共通する各種手続き（休学，退学，転学部・転学科，欠席届，証明書，その他），試験，追試験，学生相談，学則などについては『学生便覧』に，工学部全体に共通する行事日程，各種届出，学費，試験，追試験，卒業，９月卒業，成績，GPA，履修登録，G-PLUS!，掲示版などについては，この『履修の手引』の前半に記載されています。不明な点は必ず事務窓口で確認して下さい。

2．単位とは

単位とは学修量をはかる基準です。科目ごとに授業の種類や授業時間，必要とされる自習時間などを考慮して設定されています。多くの科目は１週１コマ（90分）の授業を15回受けて試験に合格すると２単位となります。ただし幾つかの外国語科目や体育実技，演習，実験，卒業研究のように，１単位，３単位，４単位，６単位などの科目もあります。単位計算の際は注意してください。単位に関する詳しい説明は後の（注）「授業時間と単位数について」に記載しています。

3．授業科目の区分

授業科目には「一般教育科目」「工学基礎科目」「専門教育科目」があります。また必修科目と選択科目の区分もあります。必修科目は必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。

各年次に開講されている科目は原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が下級年次に開講されている科目を履修することはできますが，下級年次の者が上級年次に開講されている科目を履修することはできません。次に授業科目の分野毎にその概略と履修上の注意点を記します。

一般教育科目	すべて選択科目（「表－１　一般教育科目」参照）

- １年次に開講されている一般教育科目の中には同じ科目が複数開講されている場合があります。その場合はいずれかの科目を履修して下さい。
- ２年次進級後に豊平校舎の一般教育科目を履修することは，キャンパスが離れていること，および時間割上の制約から原則としてできません。ただし，主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても一部の一般教育科目は開講しています。しかし山鼻校舎で開講されている一般教育科目は数が少なく，年度によっては開講科目も異なりますので，新年度の時間割で確認して下さい。
- 英語科目については１・２年次に開講されています。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 英語以外の外国語科目については１～４年の各年次にわたって開講されています。ただし３・４年次に開講されている外国語科目は豊平校舎での受講となります。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 体育実技は２年次以降でも豊平校舎で受講できます。
- 数学関係の科目や各種セミナーの受講を考えている人は注意事項がありますので『履修の手引』のⅢ・Ⅳを必ず読んで下さい。
- １学期に履修登録すると２学期に履修訂正（追加・削除）できない科目がありますので注意して下さい（『履修の手引』の「履修登録」の項参照）。
- 外国人留学生・帰国生徒には日本語関係の「留学生科目」が用意されています。これらの科目の修得単位は一般教育科目に算入することができます。

工学基礎科目	すべて選択科目（「表－２　工学基礎科目」参照）

- １・２年次に開講されています。やや高度な数物系科目です。１年次に開講されている科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています。詳細はこの冊子の「Ⅱ．授業科目と担当者一覧表」で確認して下さい。

4．建築学科開講科目一覧表

表－1　一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	基盤科目					
	言語					
	英語					
	英語リーディングⅠ※	1				1
	英語リーディングⅡ※	1				1
	英語リーディングⅢ※		1			1
	英語リーディングⅣ※		1			1
	英語コミュニケーションⅠ※	1				1
	英語コミュニケーションⅡ※	1				1
	英語コミュニケーションⅢ※		1			1
	英語コミュニケーションⅣ※		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ※	1				1
	英語ライティングⅡ※	1				1
	英語文化演習ⅠA		2			2
	英語文化演習ⅡA		2			2
	英語以外の外国語					
	共通					
	世界の言語と文化	2				2
	ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	身体					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	情報					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	教養科目					
	人文科学					
	自己					
	哲学	2				2
	倫理学Ⅰ	2				2
	倫理学Ⅱ	2				2
	論理学Ⅰ	2				2
	論理学Ⅱ	2				2
	社会思想史	2				2
	行動科学	2				2
	基礎心理学	2				2
	人間関係論	2				2
	文化					
	日本文学	2				2
	外国文学Ⅰ	2				2
	外国文学Ⅱ	2				2
	言語学Ⅰ	2				2
	言語学Ⅱ	2				2
	芸術論Ⅰ	2				2
	芸術論Ⅱ	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現代文化論	2				2
	音声学セミナー	2				2
	一般言語学セミナー	2				2
	デザインセミナーⅠ	2				2
	デザインセミナーⅡ	2				2
	歴史					
	歴史学Ⅰ	2				2
	歴史学Ⅱ	2				2
	歴史学Ⅲ	2				2
	歴史学Ⅳ	2				2
	考古学	2				2
	人文科学特別講義	2				2
	社会科学					
	社会構造					
	法学	2				2
	日本国憲法	2				2
	経済学	2				2
	政治学	2				2
	社会学	2				2
	マスコミ論	2				2
	生涯学習論	2				2
	地域					
	地理学	2				2
	人類学	2				2
	地誌学	2				2
	国際事情	2				2
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2
	社会科学特別講義	2				2
	自然科学					
	環境					
	地球科学Ⅰ		2			2
	地球科学Ⅱ		2			2
	環境生物科学Ⅰ	2				2
	環境生物科学Ⅱ	2				2
	物質科学	2				2
	物質環境科学	2				2
	宇宙科学Ⅰ		2			2
	宇宙科学Ⅱ		2			2
	地球環境セミナーⅠ	2				2
	地球環境セミナーⅡ	2				2
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2
	化学セミナーⅠ	2				2
	化学セミナーⅡ	2				2
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2
	普遍性					
	数学概論Ⅰ	2				2

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	数学概論Ⅱ	2				2
	物理学概論Ⅰ	2				2
	物理学概論Ⅱ	2				2
	数学セミナーⅠ	2				2
	数学セミナーⅡ	2				2
	自然科学特別講義	2				2
	北海道学					
	北海道史	2				2
	北方圏文化論	2				2
	北海道文学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大学史	2				2
	開発研究所特別講義	2				2
	北海道学特別講義	2				2
	教養科目					
	教養科目特別講義	2				2
	計	138	8			146

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・ガイダンス	1				1
	計	1				1

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海外文化Ⅰ	1				1
	海外文化Ⅱ	1				1
	海外文化Ⅲ	1				1
	海外文化Ⅳ	1				1
	計	4				4

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）					
	〈代替科目〉					
	日本語演習Ⅰ	2				2
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2
	日本語文章表現Ⅰ	2				2
	日本語演習Ⅱ	2				2
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2
	日本語文章表現Ⅱ	2				2
	日本語演習Ⅲ		2			2
	日本事情Ⅰ		2			2
	日本語演習Ⅳ		2			2
	日本事情Ⅱ		2			2
	計	12	8			20

表－2　工学基礎科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	数物系					
	線形代数学Ⅰ	2				2
	線形代数学Ⅱ	2				2
	微分積分学Ⅰ	2				2
	微分積分学Ⅱ		2			2
	幾何学序論	2				2
	幾何学Ⅰ		2			2
	幾何学Ⅱ		2			2
	物理学Ⅰ	2				2
	物理学Ⅱ	2				2
	代数学序論	2				2
	代数学Ⅰ		2			2
	代数学Ⅱ		2			2
	計	14	10			24

表－3　専門教育科目（2017年度以降入学者用）

必修科目（ 科目名 で表示）は卒業研究を含め14科目（37単位）。
○字内数字は単位数，表記のないものは総て２単位

		1　年		2　年		3　年		4　年	
		1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期
専門教育科目	空間デザイン系	空間・環境デザイン入門	空間デザイン	空間デザイン演習基礎	空間デザイン演習Ⅰ ④ 建築計画Ⅰ 工芸デザイン	空間デザイン演習Ⅱ ④ 建築計画Ⅱ 建築デザイン論	空間デザイン演習Ⅲ④ 建築計画Ⅲ 都市計画 インテリアデザイン	空間デザイン演習Ⅳ④ 空間リノベーション	
	環境デザイン系		北方建築	建築環境基礎	建築環境計画Ⅰ 建築環境計画演習Ⅰ① 設備概論	建築環境計画Ⅱ 建築設備システム 庭園文化論	建築環境計画Ⅲ 建築環境計画演習Ⅱ①	環境計測演習 都市環境デザイン 雪氷学	
	システムデザイン系	構造・材料デザイン入門	構造デザイン	構造力学基礎Ⅰ・演習 ③ 建築材料	構造力学基礎Ⅱ・演習 ③ 建築仕上材料	構造力学応用Ⅰ・演習③ 鉄筋コンクリート構造 鉄筋コンクリート構造演習① 建築材料実験 ①	構造力学応用Ⅱ・演習③ 鋼構造 鋼構造演習① 構造設計法 建築生産	建築振動論 構造解析 建築施工 コンクリート工学	卒業研究 ⑥
	専門共通	造形演習Ⅰ 建築図学※ 確率統計	造形演習Ⅱ 木造建築※ 解析学序論	建築製図演習 建築一般構造 情報処理 西洋建築史 解析学Ⅰ 数理統計学	建築プレゼンテーション 日本建築史 プログラミング 解析学Ⅱ	建築CAD演習 測量学③ インターンシップ	建築法規 建築経済 品質管理 技術者倫理	防災計画	

※2020年度（令和２年度）以前入学者は３年２学期

専門教育科目	（「表－３　専門教育科目」参照）　必修科目に注意

●専門教育科目は空間デザイン系，環境デザイン系，システムデザイン系，専門共通から構成されています。
●履修の仕方は進級・卒業要件を満たせば自由ですが，建築士の資格取得をめざしている人は後に記載する**「建築士試験の受験資格について」**をよく読んで履修して下さい。履修の仕方によっては一級建築士試験の受験資格が得られない場合があります。

５．１年次から２年次への進級要件について（2017年度以降入学者の場合）

１年次から２年次への進級要件は次のようになっています。

> １年次から２年次に進級するためには，１年次に配当されている一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から合計30単位以上を修得しなければならない（工学部規則第13条）。

１年次に配当されている科目については『履修の手引』の「表－１」「表－２」「表－３」，または『学生便覧』を参照して下さい。なお30単位の内容には特に制限を設けていません。要件を満たさない場合は１年次に留め置きとなります。毎年，１割程度の人が留め置きとなっています。

６．卒業要件について（2017年度以降入学者の場合）

建築学科の卒業要件は以下のようになっています（工学部規則第14条）。

> 建築学科にあっては，学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に，学長が卒業を許可します。
> ⑴　専門教育科目82単位以上
> ⑵　一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

なお上記の「⑴専門教育科目82単位以上」については，さらに次のように定められています（ただし2017年度以降入学者の場合）。

> ⑴　必修科目37単位
> ⑵　選択科目45単位以上

以上の要件をまとめると次のようになります。

建築学科の卒業要件（2017年度以降入学者の場合）

一般教育科目
工学基礎科目
} すべて選択科目

専門教育科目 { 必修科目……37単位
選択科目……45単位以上 } 82単位以上

} 合計124単位以上

７．卒業見込証明書の発行条件について

建築学科では「卒業見込証明書」（就職活動で求められることが多い）の発行条件を次のように定めています。

> ３年次終了時に合計100単位以上を修得していること。

この100単位の内容には特に制限を設けていません。３年次終了時に100単位未満の場合はキャリア支援セン

ター窓口で相談して下さい。

8．各授業科目と講義概要に関する注意

一部の選択科目では授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を制限している場合があります。また外国語科目や専門教育科目のなかには，ある特定の科目を前もって履修しておかなければ履修出来ない場合もあります。事前に『講義概要』や講義初回のガイダンスで確認して下さい。

9．履修計画の目安

卒業に必要な単位数は124単位以上ですから，単純に１年間の必要単位数を計算すると124÷4＝31単位となります。しかし４年次になると就職活動や卒業研究で多くの時間がとられ，また時間割の関係で下級年次の科目を再履修することができない場合もあります。そのため単位は１～３年次で多めに修得しておいた方がよいでしょう。各年次にどの程度の単位数を修得しておけばよいのか目安を整理します。

卒業するためには総単位数124単位以上，そのうち専門教育科目82単位以上が必要です。したがって残り42単位以上を一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から取ることになります。しかし，２年次以降に山鼻校舎で開講される一般教育科目は非常に数が少なくなっています。そのため一般教育科目は１年次のうちに多めに取っておいた方がよいでしょう。目安として１年次終了時点では，一般教育科目と工学基礎科目とを合わせて30単位以上，さらに専門教育科目を15単位以上の修得となります。すなわち１年次終了時点で総単位数45単位以上を修得しておくとよいでしょう。そして２年次終了時点では85単位以上，３年次終了時点では125単位以上，４年次卒業時点では135単位以上を目安にするとよいでしょう。

ただし履修科目をあまり多くすると予習・復習の時間が十分にとれず，結果として不合格になる科目が多くなることも考えられます。また「不可」や「欠」の数が多くなるとGPAも下がります。ただしGPAは進級・卒業要件とは無関係です。しかし，履修届を出した科目は着実に単位を取るようにして下さい。なお１学期・２学期ともに履修届の訂正（追加・削除）期間がありますので，その際に履修科目の調整ができます。ただし２学期に履修訂正できない科目もありますので『履修の手引』の「履修登録」の項を参照して下さい。

〈履修科目の目安〉

「建築」は単なる技術ではなく人間生活全般とかかわり，人の命を預かるものです。したがって「一般教育科目」は幅広い分野にわたって履修しておくことが望まれます。

将来の進路や就職について考えるためには「キャリアガイダンス」という科目が参考になります。数学が苦手な人は「数学概論Ⅰ」を履修しておいて下さい。一方，数学・物理が得意な人には「工学基礎科目」が用意されています。１年次に開講されている専門教育科目（８科目）については，いずれも基礎的・入門的内容なので，将来どのような分野に進むにせよ履修しておく方がよいでしょう。なお「専門教育科目」に分類されている「確率統計」「解析学序論」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」の各科目は教職（「数学」）用の科目です。注意して下さい。教員免許取得をめざしている人は，この冊子の「数学受講者に向けてのガイド」や教職のためのガイダンスに従って履修して下さい。

次に，上級年次において構造力学や建築振動論などのシステムデザイン系の科目を重点的に勉強しようと考えている人は「一般教育科目」の「数学概論Ⅰ」「物理学概論Ⅰ」，「工学基礎科目」の「線形代数学Ⅰ」「微分積分学Ⅰ」を履修しておくことが望ましいでしょう。さらに余力があれば「一般教育科目」の「物理学概論Ⅱ」，「工学基礎科目」の「微分積分学Ⅱ」「物理学Ⅰ」「物理学Ⅱ」，「専門教育科目」の「確率統計」などを履修しておくとよいでしょう。また上級年次において環境デザイン系の科目を重点的に履修しようとする人は「一般教育科目」の中の環境系の科目を履修しておくことが望ましいでしょう。デザインに興味がある人は「デザインセミナーⅠ」「デザインセミナーⅡ」を履修するとよいでしょう（セミナー申込については，この『履修の手引』のⅣ**「工学部１年次一般教育のセミナーについて」**を読んで下さい）。

なお2012年度以降の入学者から試験の合格最低点が60点となっています。講義へは必ず出席するとともに，試験の準備は早めにすることが大切です。また卒業後，一級建築士や二級建築士の資格を取得するためには，必ず履修しておかなければならない専門科目が各分野にまんべんなくあります。これについては**10.「建築士試験の受験資格について」**を参考にして下さい。

10. 建築士試験の受験資格について（2017年度以降入学者用）

本学科は選択科目が多く，自由度の高いカリキュラムが特徴ですが，一級建築士や二級建築士をめざす人は，2009年度（平成21年度）入学生から建築士試験制度が変更され，建築学の各分野の指定科目（国土交通省が指定した科目。次の**「指定科目一覧表」**参照）を一定単位数以上修得しなければ受験資格が得られないので注意して下さい。

建築士試験を受ける人は**「指定科目一覧表」**の**「二級・木造」**，**「一級」**欄の（　　）内に示す単位数以上を指定科目の中から修得して下さい。そして一級建築士試験を最短の実務経験０年で受験するためには，表の①～⑨の各分野の必要単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません），かつ①～⑩の合計が60単位以上になるように履修して下さい（50単位～60単位未満の場合は実務経験年数が３年必要になります）。一方，二級・木造建築士試験を最短の実務経験０年で受験するためには，表の①，②～④，⑤～⑦，⑧，⑨の各分野の単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません），かつ①～⑩の合計が40単位以上になるように履修して下さい。ただし，高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は在学中に二級建築士試験を受験することができます。なお，2013年度以降の入学者の場合は，本学科の卒業要件さえ満たせば自動的に二級・木造建築士試験の受験資格が得られるカリキュラムになっています。

なお専門教育科目の中には，建築士受験資格取得の指定科目に該当しない科目がありますので注意が必要です。例えば空間・環境デザイン入門，構造・材料デザイン入門，造形演習，インターンシップ，卒業研究その他は指定科目に該当しません。また「数学」の教職用の６科目（確率統計，解析学序論，解析学Ⅰ，解析学Ⅱ，数理統計学，品質管理）も，専門教育科目に分類されていますが指定科目ではありません。指定科目は**「指定科目一覧表」**に記載されている58科目です。なお二級建築士試験に合格後，一級建築士試験を学歴（指定科目の履修）によらず「二級建築士としての実務経験」のみで受験する場合には４年の実務経験が必要です。したがって初めから一級建築士の受験資格を満たすように履修した方がよいでしょう（実務経験０年で受験できます）。また一級建築士の受験資格は３年次終了時までには満たしておく方がよいでしょう。

繰り返しますが，最も重要な点は各分野（①～⑨）毎に必要な単位数を満たすことと①～⑩の合計を60単位以上にすることです。選択科目でも油断せず，取りこぼしがないよう着実に単位を修得して下さい。下級年次に落とした科目を上級年次になって再履修しようとしても，時間割が重なって履修できない場合があります。単位はできるだけ開講年次に修得しておくことが重要です。そして指定科目の修得単位数は必ず学期毎にチェックし，不足のないようにして下さい。単位数が不足している場合には，履修登録後でも，決められた訂正期間内であれば追加登録できます。

なお建築士試験の受験を申込む際には，所定の単位を修得したことを証明する「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」（本学発行）を添えて申し込みます。また建築士試験の受験資格は，上記指定科目制による他，実務経験年数による場合，あるいは国土交通大臣や知事によって認められる場合などがあります。これらの詳細や実務経験の内容・受験申込方法・時期などについては「建築技術教育普及センター」のホームページを見るか，センターに直接問い合わせて下さい。受験申込時期については，平成31年度の場合は，二級・木造建築士試験は４月から，一級建築士試験は４月からでした。

●2009年度以降の入学者は「一級建築士試験」「二級建築士・木造建築士試験」の受験申し込みをする際「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」が必要です。この証明書を入手するには，本学の証明書自動発行機，またはホームページの「学生生活」→「各種証明書の発行」から「証明書申込用紙」を入手し，必要事項を記入のうえ工学部事務に提出して下さい（１部200円）。発行は卒業式以降になりますが，所定の期間に予約すれば卒業式の日に受け取ることができます。また郵送により申し込むことも可能です。証明書の予約方法・発行日等については掲示でお知らせします。

●各建築士試験の受験のために必要な「実務経験」の内容については建築技術教育普及センターのホームページに具体例が示されています。本学の場合，実務経験なしで受験できます。

●受験資格は卒業しなければ得られません。ただし，高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は，在学中に二級建築士試験の受験が可能です。

2017年度以降入学者用「指定科目一覧表」（受験資格要件）

指定科目の分類（必要な単位数）		指定科目に該当する本学の開講科目			
２級・木造	１級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図（５単位以上）	①建築設計製図（７単位以上）	建築製図演習	2	必修	2
		空間デザイン演習Ⅰ	2	必修	4
		空間デザイン演習Ⅱ	3	必修	4
		空間デザイン演習Ⅲ	3	選択	4
		空間デザイン演習Ⅳ	4	選択	4
		建築CAD演習	3	選択	2
②～④建築計画，建築環境工学又は建築設備（７単位以上）	②建築計画（７単位以上）	建築計画Ⅰ	2	必修	2
		建築計画Ⅱ	3	必修	2
		建築計画Ⅲ	3	選択	2
		都市計画	3	選択	2
		日本建築史	2	選択	2
		西洋建築史	2	選択	2
		空間デザイン	1	選択	2
		インテリアデザイン	3	選択	2
		空間リノベーション	4	選択	2
	③建築環境工学（２単位以上）	建築環境基礎	2	必修	2
		建築環境計画Ⅰ	2	選択	2
		建築環境計画Ⅱ	3	選択	2
		建築環境計画演習Ⅰ	2	選択	1
		建築環境計画演習Ⅱ	3	選択	1
		環境計測演習	4	選択	2
		北方建築	1	選択	2
	④建築設備（２単位以上）	設備概論	2	必修	2
		建築設備システム	3	選択	2
⑤～⑦構造力学，建築一般構造又は建築材料（６単位以上）	⑤構造力学（４単位以上）	構造デザイン	1	選択	2
		構造力学基礎Ⅰ・演習	2	必修	3
		構造力学基礎Ⅱ・演習	2	必修	3
		構造力学応用Ⅰ・演習	3	選択	3
		構造力学応用Ⅱ・演習	3	選択	3
		建築振動論	4	選択	2
		構造解析	4	選択	2
	⑥建築一般構造（３単位以上）	建築一般構造	2	必修	2
		鉄筋コンクリート構造	3	選択	2
		鉄筋コンクリート構造演習	3	選択	1
		鋼構造	3	選択	2
		鋼構造演習	3	選択	1
		木造建築	1※	選択	2
		構造設計法	3	選択	2
	⑦建築材料（２単位以上）	建築材料	2	選択	2
		建築仕上材料	2	選択	2
		建築材料実験	3	必修	1
		コンクリート工学	4	選択	2

※2020年度（令和２年度）以前入学者は３

指定科目の分類（必要な単位数）		指定科目に該当する本学の開講科目			
2級・木造	1級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
⑧建築生産（1単位以上）	⑧建築生産（2単位以上）	建築生産	3	必修	2
		建築施工	4	選択	2
		建築経済	3	選択	2
⑨建築法規（1単位以上）	⑨建築法規（1単位以上）	建築法規	3	必修	2
⑩その他（適宜）	⑩その他（適宜）	建築図学	1	選択	2
		空間デザイン演習基礎	2	選択	2
		防災計画	4	選択	2
		建築デザイン論	3	選択	2
		庭園文化論	3	選択	2
		建築環境計画Ⅲ	3	選択	2
		雪氷学	4	選択	2
		測量学	3	選択	3
		建築プレゼンテーション	2	選択	2
		技術者倫理	3	選択	2
		工芸デザイン	2	選択	2
		都市環境デザイン	4	選択	2
実務経験0年で受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他，合計40単位以上が必要。	実務経験2年で受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他，合計60単位以上が必要。50～59単位の場合は3年の実務経験が必要。				

注…建築士の試験は学科試験と設計製図試験によって行われます。学科試験は主に以下のような分野から出題されます。ただし出題分野や試験の合格基準は毎年少しずつ変わります。詳細は建築技術教育普及センターのホームページで確認して下さい。過去問も掲載されています。

●一級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，建築積算等
学科Ⅱ…環境工学，建築設備等
学科Ⅲ…建築法規等
学科Ⅳ…構造力学，鉄筋コンクリート，鋼構造，建築一般構造，建築材料等
学科Ⅴ…建築生産，施工，各部工事等

●二級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，環境，設備等
学科Ⅱ…建築法規等
学科Ⅲ…構造力学，一般構造，建築材料等
学科Ⅳ…建築生産，施工，各部工事等

（注）授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，原則，各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています（学生便覧参照のこと）。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で原則として15週（曜日によっては，これよりも多くなる場合や，行事により曜日を振替える場合もあります。）の授業を受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。さらに，その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。また，例えば２時限連続して授業が行われる場合には，一つの学期の通算の授業時間は２×２時間×15週＝60時間となります。さらに，その授業が「実験」の場合には60時間／45時間＝1.33単位となりますが，端数は切り捨てられ１単位として計算されます。

●工学部規則第４条により，

①外国語科目については，以下のことが定められています。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ，世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

ただし，これらの授業科目は，一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間はやはり30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

なお，より詳細な各科目毎の単位数については**「建築学科開講科目一覧表」**を参照してください。

②専門科目の演習科目については，以下のことが定められています。

> 演習科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 空間デザイン演習Ⅰ～Ⅳ

上記の科目は，一つの学期で毎週２回（２時限）の授業が行われるので通算の授業時間は60時間となり，４単位として計算されます。

I 教　育　課　程

【建築学科】

2013年度（平成25年度）～2016年度（平成28年度）入学者

建築学科の教育・学習目標

Ⅰ　教育理念

建築学が対象とする学問領域は，工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ，個々の人間の感性と倫理観も重要視され，専門性と総合性の両者がともに求められます。

循環型社会への移行に伴い，人間の暮らしが息づく生活空間（環境を含む）のあり方が問い直されており，建築設計に留まらず街並みの形成（都市計画）に関する幅広い建築技術の応用に関する知識・能力を身につけることが必要となっています。また，防災・減災や環境負荷低減あるいはユニバーサルデザインなど多様な観点を踏まえた建築物の安全性・快適性はもとより，古い建築物の再生・活用を図る柔軟な発想力も求められています。

これらの背景から，建築学科では以下のような教育・学習目標のもと，多様な知識・能力を持ち様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

Ⅱ　教育目標

建築学の広い学問領域を背景として，文系・理系を問わず門戸を開いています。そのため，工学系の知識を基礎から学ぶ科目を配し，専門科目は工学系の知識に創造性も踏まえ入門的な内容から基礎，応用，発展と段階的に進む構成を通じて，多様な知識・能力を身につけた人材を育成します。

また，多岐にわたる選択科目をバランスよく用意し，特定の系に重点を置いて学ぶことも幅広い分野を総合的に学ぶこともできる教育体系を通じて，各自の興味や目標に応じながら様々な分野で高い倫理観も携えて活躍できる人材を育成します。

Ⅲ　学習目標

1．空間デザイン能力の習得
機能的で美しい建築や住みよい都市を構想・計画しデザインすることができる。

2．環境デザイン能力の習得
環境・設備面から建築や都市の快適性を追及することができる。

3．システムデザイン能力の習得
構造・材料・生産面で安全かつ耐久性のある建築を考え造ることができる。

4．上記能力を活かし創造を実現する優れた人間性の醸成
適切かつ正確なコミュニケーション・質の高いプレゼンテーションを実践することができる。
豊かな協調性・魅力的なリーダーシップを発揮することができる。

教育・学習目標		開講学年	科目名等
工学系の知識を基礎から学ぶ		1，2年	各種工学基礎科目
創造を実現する優れた人間性の醸成	多様な知識・教養	1，2年	一般教育科目のうち「教養科目」
	コミュニケーション	1，2年	一般教育科目のうち「基盤科目」
		2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	プレゼンテーション	2～4年	一般教育科目のうち「基盤科目」における各種演習科目
		2年	専門教育科目「建築プレゼンテーション」「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	協調性	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「建築材料実験」「測量学」
		4年	専門教育科目「卒業研究」
	リーダーシップ	4年	専門教育科目「卒業研究」
	倫理観	3年	専門教育科目「技術者倫理」
建築専門科目の修得		1年	専門教育科目「造形演習Ⅰ」「造形演習Ⅱ」「建築図学」「確率統計」「解析学序論」
		2年	専門教育科目「建築製図演習」「建築一般構造」「情報処理」「プログラミング」「西洋建築史」「日本建築史」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」「建築プレゼンテーション」
		3年	専門教育科目「建築CAD演習」「測量学」「インターンシップ」「建築法規」「建築経済」「品質管理」「木造建築」「技術者倫理」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「防災計画」「建築地球環境学」
空間デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「空間デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」「建築計画Ⅰ」「工芸デザイン」
	応用	3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」「建築計画Ⅱ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン論」「都市計画」「インテリアデザイン」
	発展	4年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅳ」「空間リノベーション」「卒業研究」
環境デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「北方建築」
	基礎	2年	専門教育科目「建築環境基礎」「建築環境計画Ⅰ」「建築環境計画演習Ⅰ」「設備概論」
	応用	3年	専門教育科目「建築環境計画Ⅱ」「建築環境計画Ⅲ」「建築環境計画演習Ⅱ」「建築設備システム」「庭園文化論」
	発展	4年	専門教育科目「環境計測演習」「都市環境デザイン」「雪氷学」「卒業研究」
システムデザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「構造・材料デザイン入門」「構造デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「構造力学基礎Ⅰ・演習」「構造力学基礎Ⅱ・演習」「建築材料」「建築仕上材料」
	応用	3年	専門教育科目「構造力学応用Ⅰ・演習」「構造力学応用Ⅱ・演習」「鉄筋コンクリート構造」「鉄筋コンクリート構造演習」「鋼構造」「鋼構造演習」「構造設計法」「建築材料実験」「建築生産」
	発展	4年	専門教育科目「建築振動論」「構造解析」「建築施工」「コンクリート工学」「卒業研究」
地域社会との連携		4年	専門教育科目「卒業研究」

1．はじめに

カリキュラム（教育課程）は入学年度によって異なります。自分の入学年度のカリキュラムに従って下さい。

大学全体に共通する各種手続き（休学，退学，転学部・転学科，欠席届，証明書，その他），試験，追試験，学生相談，学則などについては『学生便覧』に，工学部全体に共通する行事日程，各種届出，学費，試験，追試験，卒業，９月卒業，成績，GPA，履修登録，G-PLUS!，掲示版などについては，この『履修の手引』の前半に記載されています。不明な点は必ず事務窓口で確認して下さい。

2．単位とは

単位とは学修量をはかる基準です。科目ごとに授業の種類や授業時間，必要とされる自習時間などを考慮して設定されています。多くの科目は１週１コマ（90分）の授業を15回受けて試験に合格すると２単位となります。ただし幾つかの外国語科目や体育実技，演習，実験，卒業研究のように，１単位，３単位，４単位，６単位などの科目もあります。単位計算の際は注意してください。単位に関する詳しい説明は後の（注）「授業時間と単位数について」に記載しています。

3．授業科目の区分

授業科目には「一般教育科目」「工学基礎科目」「専門教育科目」があります。また必修科目と選択科目の区分もあります。必修科目は必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。

各年次に開講されている科目は原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が下級年次に開講されている科目を履修することはできますが，下級年次の者が上級年次に開講されている科目を履修することはできません。次に授業科目の分野毎にその概略と履修上の注意点を記します。

一般教育科目	すべて選択科目（「表－１　一般教育科目」参照）

- １年次に開講されている一般教育科目の中には同じ科目が複数開講されている場合があります。その場合はいずれかの科目を履修して下さい。
- ２年次進級後に豊平校舎の一般教育科目を履修することは，キャンパスが離れていること，および時間割上の制約から原則としてできません。ただし，主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても一部の一般教育科目は開講しています。しかし山鼻校舎で開講されている一般教育科目は数が少なく，年度によっては開講科目も異なりますので，新年度の時間割で確認して下さい。
- 英語科目については１・２年次に開講されています。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 英語以外の外国語科目については１～４年の各年次にわたって開講されています。ただし３・４年次に開講されている外国語科目は豊平校舎での受講となります。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 体育実技は２年次以降でも豊平校舎で受講できます。
- 数学関係の科目や各種セミナーの受講を考えている人は注意事項がありますので『履修の手引』のⅢ・Ⅳを必ず読んで下さい。
- １学期に履修登録すると２学期に履修訂正（追加・削除）できない科目がありますので注意して下さい（『履修の手引』の「履修登録」の項参照）。
- 外国人留学生・帰国生徒には日本語関係の「留学生科目」が用意されています。これらの科目の修得単位は一般教育科目に算入することができます。

工学基礎科目	すべて選択科目（「表－２　工学基礎科目」参照）

- １・２年次に開講されています。やや高度な数物系科目です。１年次に開講されている科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています。詳細はこの冊子の「Ⅱ．授業科目と担当者一覧表」で確認して下さい。

4．建築学科開講科目一覧表

表－1　一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	基盤科目					
	言語					
	英語					
	英語リーディングⅠ※	1				1
	英語リーディングⅡ※	1				1
	英語リーディングⅢ※		1			1
	英語リーディングⅣ※		1			1
	英語コミュニケーションⅠ※	1				1
	英語コミュニケーションⅡ※	1				1
	英語コミュニケーションⅢ※		1			1
	英語コミュニケーションⅣ※		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ※	1				1
	英語ライティングⅡ※	1				1
	英語文化演習ⅠA		2			2
	英語文化演習ⅡA		2			2
	英語以外の外国語					
	共通					
	世界の言語と文化	2				2
	ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	身体					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	情報					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

※2015年度以前入学者は英語講読Ⅰ～Ⅳを英語リーディングⅠ～Ⅳに，オーラルコミュニケーションⅠ～Ⅳを英語コミュニケーションⅠ～Ⅳに，ライティング初級Ⅰ，Ⅱを英語ライティングⅠ，Ⅱに読み替える。

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	教養科目					
	人文科学					
	自己					
	哲学	2				2
	倫理学Ⅰ	2				2
	倫理学Ⅱ	2				2
	論理学Ⅰ	2				2
	論理学Ⅱ	2				2
	社会思想史	2				2
	行動科学	2				2
	基礎心理学	2				2
	人間関係論	2				2
	文化					
	日本文学	2				2
	外国文学Ⅰ	2				2
	外国文学Ⅱ	2				2
	言語学Ⅰ	2				2
	言語学Ⅱ	2				2
	芸術論Ⅰ	2				2
	芸術論Ⅱ	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現代文化論	2				2
	音声学セミナー	2				2
	一般言語学セミナー	2				2
	デザインセミナーⅠ	2				2
	デザインセミナーⅡ	2				2
	歴史					
	歴史学Ⅰ	2				2
	歴史学Ⅱ	2				2
	歴史学Ⅲ	2				2
	歴史学Ⅳ	2				2
	考古学	2				2
	人文科学特別講義	2				2
	社会科学					
	社会構造					
	法学	2				2
	日本国憲法	2				2
	経済学	2				2
	政治学	2				2
	社会学	2				2
	マスコミ論	2				2
	生涯学習論	2				2
	地域					
	地理学	2				2
	人類学	2				2
	地誌学	2				2
	国際事情	2				2
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2
	社会科学特別講義	2				2
	自然科学					
	環境					
	地球科学Ⅰ		2			2
	地球科学Ⅱ		2			2
	環境生物科学Ⅰ	2				2
	環境生物科学Ⅱ	2				2
	物質科学	2				2
	物質環境科学	2				2
	宇宙科学Ⅰ		2			2
	宇宙科学Ⅱ		2			2
	地球環境セミナーⅠ	2				2
	地球環境セミナーⅡ	2				2
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2
	化学セミナーⅠ	2				2
	化学セミナーⅡ	2				2
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2
	普遍性					
	数学概論Ⅰ	2				2

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	数学概論Ⅱ	2				2
	物理学概論Ⅰ	2				2
	物理学概論Ⅱ	2				2
	数学セミナーⅠ	2				2
	数学セミナーⅡ	2				2
	自然科学特別講義	2				2
	北海道学					
	北海道史	2				2
	北方圏文化論	2				2
	北海道文学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大学史	2				2
	開発研究所特別講義	2				2
	北海道学特別講義	2				2
	教養科目					
	教養科目特別講義	2				2
	計	138	8			146

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・ガイダンス	1				1
	計	1				1

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海外文化Ⅰ	1				1
	海外文化Ⅱ	1				1
	海外文化Ⅲ	1				1
	海外文化Ⅳ	1				1
	計	4				4

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）					
	〈代替科目〉					
	日本語演習Ⅰ	2				2
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2
	日本語文章表現Ⅰ	2				2
	日本語演習Ⅱ	2				2
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2
	日本語文章表現Ⅱ	2				2
	日本語演習Ⅲ		2			2
	日本事情Ⅰ		2			2
	日本語演習Ⅳ		2			2
	日本事情Ⅱ		2			2
	計	12	8			20

表－2　工学基礎科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	数物系					
	線形代数学Ⅰ	2				2
	線形代数学Ⅱ	2				2
	微分積分学Ⅰ	2				2
	微分積分学Ⅱ		2			2
	幾何学序論	2				2
	幾何学Ⅰ		2			2
	幾何学Ⅱ		2			2
	物理学Ⅰ	2				2
	物理学Ⅱ	2				2
	代数学序論	2				2
	代数学Ⅰ		2			2
	代数学Ⅱ		2			2
	計	14	10			24

表－3　専門教育科目（2013年度～2016年度入学者用）

必修科目（ 科目名 で表示）は卒業研究を含め14科目（37単位）。
○字内数字は単位数，表記のないものは総て２単位

		1　年		2　年		3　年		4　年	
		1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期
専門教育科目	空間デザイン系	空間・環境デザイン入門	空間デザイン	空間デザイン演習基礎	空間デザイン演習Ⅰ ④ 建築計画Ⅰ 工芸デザイン	空間デザイン演習Ⅱ ④ 建築計画Ⅱ 建築デザイン論	空間デザイン演習Ⅲ④ 建築計画Ⅲ 都市計画 インテリアデザイン	空間デザイン演習Ⅳ④ 空間リノベーション	卒業研究 ⑥
	環境デザイン系		北方建築	建築環境基礎	建築環境計画Ⅰ 建築環境計画演習Ⅰ① 設備概論	建築環境計画Ⅱ 建築設備システム 庭園文化論	建築環境計画Ⅲ 建築環境計画演習Ⅱ①	環境計測演習 都市環境デザイン 雪氷学	
	システムデザイン系	構造・材料デザイン入門	構造デザイン	構造力学基礎Ⅰ・演習 ③ 建築材料	構造力学基礎Ⅱ・演習 ③ 建築仕上材料	構造力学応用Ⅰ・演習③ 鉄筋コンクリート構造 鉄筋コンクリート構造演習① 建築材料実験 ①	構造力学応用Ⅱ・演習③ 鋼構造 鋼構造演習① 構造設計法 建築生産	建築振動論 構造解析 建築施工 コンクリート工学	
	専門共通	造形演習Ⅰ 建築図学 確率統計	造形演習Ⅱ 解析学序論	建築製図演習 建築一般構造 情報処理 西洋建築史 解析学Ⅰ 数理統計学	建築プレゼンテーション 日本建築史 プログラミング(2015年度以降入学生) 解析学Ⅱ	建築CAD演習 測量学③ インターンシップ	建築法規 建築経済 品質管理 木造建築 技術者倫理 プログラミング(2014年度以前入学生)	防災計画 建築地球環境学	

専門教育科目	（「表－３　専門教育科目」参照）　必修科目に注意

●専門教育科目は空間デザイン系，環境デザイン系，システムデザイン系，専門共通から構成されています。
●履修の仕方は進級・卒業要件を満たせば自由ですが，建築士の資格取得をめざしている人は後に記載する**「建築士試験の受験資格について」**をよく読んで履修して下さい。履修の仕方によっては一級建築士試験の受験資格が得られない場合があります。

５．１年次から２年次への進級要件について（2013年度～2016年度入学者の場合）

１年次から２年次への進級要件は次のようになっています。

> １年次から２年次に進級するためには，１年次に配当されている一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から合計30単位以上を修得しなければならない（工学部規則第13条）。

１年次に配当されている科目については『履修の手引』の「表－１」「表－２」「表－３」，または『学生便覧』を参照して下さい。なお30単位の内容には特に制限を設けていません。要件を満たさない場合は１年次に留め置きとなります。毎年，１割程度の人が留め置きとなっています。

６．卒業要件について（2013年度～2016年度入学者の場合）

建築学科の卒業要件は以下のようになっています（工学部規則第14条）。

> 建築学科にあっては，学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に，学長が卒業を許可します。
> ⑴　専門教育科目82単位以上
> ⑵　一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

なお上記の「⑴専門教育科目82単位以上」については，さらに次のように定められています（ただし2013年度～2016年度入学者の場合）。

> ⑴　必修科目37単位
> ⑵　選択科目45単位以上

以上の要件をまとめると次のようになります。

建築学科の卒業要件（2013年度～2016年度入学者の場合）

- 一般教育科目・工学基礎科目：すべて選択科目
- 専門教育科目：必修科目……37単位／選択科目……45単位以上　82単位以上
- 合計124単位以上

７．卒業見込証明書の発行条件について

建築学科では「卒業見込証明書」（就職活動で求められることが多い）の発行条件を次のように定めています。

> ３年次終了時に合計100単位以上を修得していること。

この100単位の内容には特に制限を設けていません。３年次終了時に100単位未満の場合はキャリア支援セン

ター窓口で相談して下さい。

8．各授業科目と講義概要に関する注意

一部の選択科目では授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を制限している場合があります。また外国語科目や専門教育科目のなかには，ある特定の科目を前もって履修しておかなければ履修出来ない場合もあります。事前に『講義概要』や講義初回のガイダンスで確認して下さい。

9．履修計画の目安

卒業に必要な単位数は124単位以上ですから，単純に１年間の必要単位数を計算すると124÷4＝31単位となります。しかし４年次になると就職活動や卒業研究で多くの時間がとられ，また時間割の関係で下級年次の科目を再履修することができない場合もあります。そのため単位は１～３年次で多めに修得しておいた方がよいでしょう。各年次にどの程度の単位数を修得しておけばよいのか目安を整理します。

卒業するためには総単位数124単位以上，そのうち専門教育科目82単位以上が必要です。したがって残り42単位以上を一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から取ることになります。しかし，２年次以降に山鼻校舎で開講される一般教育科目は非常に数が少なくなっています。そのため一般教育科目は１年次のうちに多めに取っておいた方がよいでしょう。目安として１年次終了時点では，一般教育科目と工学基礎科目とを合わせて30単位以上，さらに専門教育科目を15単位以上の修得となります。すなわち１年次終了時点で総単位数45単位以上を修得しておくとよいでしょう。そして２年次終了時点では85単位以上，３年次終了時点では125単位以上，４年次卒業時点では135単位以上を目安にするとよいでしょう。

ただし履修科目をあまり多くすると予習・復習の時間が十分にとれず，結果として不合格になる科目が多くなることも考えられます。また「不可」や「欠」の数が多くなるとGPAも下がります。ただしGPAは進級・卒業要件とは無関係です。しかし，履修届を出した科目は着実に単位を取るようにして下さい。なお１学期・２学期ともに履修届の訂正（追加・削除）期間がありますので，その際に履修科目の調整ができます。ただし２学期に履修訂正できない科目もありますので『履修の手引』の「履修登録」の項を参照して下さい。

〈履修科目の目安〉

「建築」は単なる技術ではなく人間生活全般とかかわり，人の命を預かるものです。したがって「一般教育科目」は幅広い分野にわたって履修しておくことが望まれます。

将来の進路や就職について考えるためには「キャリアガイダンス」という科目が参考になります。数学が苦手な人は「数学概論Ⅰ」を履修しておいて下さい。一方，数学・物理が得意な人には「工学基礎科目」が用意されています。１年次に開講されている専門教育科目（８科目）については，いずれも基礎的・入門的内容なので，将来どのような分野に進むにせよ履修しておく方がよいでしょう。なお「専門教育科目」に分類されている「確率統計」「解析学序論」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」の各科目は教職（「数学」）用の科目です。注意して下さい。教員免許取得をめざしている人は，この冊子の「数学受講者に向けてのガイド」や教職のためのガイダンスに従って履修して下さい。

次に，上級年次において構造力学や建築振動論などのシステムデザイン系の科目を重点的に勉強しようと考えている人は「一般教育科目」の「数学概論Ⅰ」「物理学概論Ⅰ」，「工学基礎科目」の「線形代数学Ⅰ」「微分積分学Ⅰ」を履修しておくことが望ましいでしょう。さらに余力があれば「一般教育科目」の「物理学概論Ⅱ」，「工学基礎科目」の「微分積分学Ⅱ」「物理学Ⅰ」「物理学Ⅱ」，「専門教育科目」の「確率統計」などを履修しておくとよいでしょう。また上級年次において環境デザイン系の科目を重点的に履修しようとする人は「一般教育科目」の中の環境系の科目を履修しておくことが望ましいでしょう。デザインに興味がある人は「デザインセミナーⅠ」「デザインセミナーⅡ」を履修するとよいでしょう（セミナー申込については，この『履修の手引』のⅣ**「工学部１年次一般教育のセミナーについて」**を読んで下さい）。

なお2012年度以降の入学者から試験の合格最低点が60点となっています。講義へは必ず出席するとともに，試験の準備は早めにすることが大切です。また卒業後，一級建築士や二級建築士の資格を取得するためには，必ず履修しておかなければならない専門科目が各分野にまんべんなくあります。これについては**10.「建築士試験の受験資格について」**を参考にして下さい。

10. 建築士試験の受験資格について（2013年度～2016年度入学者用）

本学科は選択科目が多く，自由度の高いカリキュラムが特徴ですが，一級建築士や二級建築士をめざす人は，2009年度（平成21年度）入学生から建築士試験制度が変更され，建築学の各分野の指定科目（国土交通省が指定した科目。次の**「指定科目一覧表」**参照）を一定単位数以上修得しなければ受験資格が得られないので注意して下さい。

建築士試験を受ける人は**「指定科目一覧表」**の**「二級・木造」**，**「一級」**欄の（　　）内に示す単位数以上を指定科目の中から修得して下さい。そして一級建築士試験を最短の実務経験０年で受験するためには，表の①～⑨の各分野の必要単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません），かつ①～⑩の合計が60単位以上になるように履修して下さい（50単位～60単位未満の場合は実務経験年数が３年必要になります）。一方，二級・木造建築士試験を最短の実務経験０年で受験するためには，表の①，②～④，⑤～⑦，⑧，⑨の各分野の単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません），かつ①～⑩の合計が40単位以上になるように履修して下さい。ただし，高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は在学中に二級建築士試験を受験することができます。なお，2013年度以降の入学者の場合は，本学科の卒業要件さえ満たせば自動的に二級・木造建築士試験の受験資格が得られるカリキュラムになっています。

なお専門教育科目の中には，建築士受験資格取得の指定科目に該当しない科目がありますので注意が必要です。例えば空間・環境デザイン入門，構造・材料デザイン入門，造形演習，インターンシップ，卒業研究その他は指定科目に該当しません。また「数学」の教職用の５科目（確率統計，解析学序論，解析学Ⅰ，解析学Ⅱ，数理統計学）も，専門教育科目に分類されていますが指定科目ではありません。指定科目は**「指定科目一覧表」**に記載されている60科目です。なお二級建築士試験に合格後，一級建築士試験を学歴（指定科目の履修）によらず「二級建築士としての実務経験」のみで受験する場合には４年の実務経験が必要です。したがって初めから一級建築士の受験資格を満たすように履修した方がよいでしょう（実務経験０年で受験できます）。また一級建築士の受験資格は３年次終了時までには満たしておく方がよいでしょう。

繰り返しますが，最も重要な点は各分野（①～⑨）毎に必要な単位数を満たすことと①～⑩の合計を60単位以上にすることです。選択科目でも油断せず，取りこぼしがないよう着実に単位を修得して下さい。下級年次に落とした科目を上級年次になって再履修しようとしても，時間割が重なって履修できない場合があります。単位はできるだけ開講年次に修得しておくことが重要です。そして指定科目の修得単位数は必ず学期毎にチェックし，不足のないようにして下さい。単位数が不足している場合には，履修登録後でも，決められた訂正期間内であれば追加登録できます。

なお建築士試験の受験を申込む際には，所定の単位を修得したことを証明する「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」（本学発行）を添えて申し込みます。また建築士試験の受験資格は，上記指定科目制による他，実務経験年数による場合，あるいは国土交通大臣や知事によって認められる場合などがあります。これらの詳細や実務経験の内容・受験申込方法・時期などについては「建築技術教育普及センター」のホームページを見るか，センターに直接問い合わせて下さい。受験申込時期については，平成31年度の場合は，二級・木造建築士試験は４月から，一級建築士試験は４月からでした。

●2009年度以降の入学者は「一級建築士試験」「二級建築士・木造建築士試験」の受験申し込みをする際「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」が必要です。この証明書を入手するには，本学の証明書自動発行機，またはホームページの「学生生活」→「各種証明書の発行」から「証明書申込用紙」を入手し，必要事項を記入のうえ工学部事務に提出して下さい（１部200円）。発行は卒業式以降になりますが，所定の期間に予約すれば卒業式の日に受け取ることができます。また郵送により申し込むことも可能です。証明書の予約方法・発行日等については掲示でお知らせします。

●各建築士試験の受験のために必要な「実務経験」の内容については建築技術教育普及センターのホームページに具体例が示されています。本学の場合，実務経験なしで受験できます。

●受験資格は卒業しなければ得られません。ただし，高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は，在学中に二級建築士試験の受験が可能です。

2013年度～2016年度入学者用「指定科目一覧表」（受験資格要件）

指定科目の分類（必要な単位数）		指定科目に該当する本学の開講科目			
2級・木造	1級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図（5単位以上）	①建築設計製図（7単位以上）	建築製図演習	2	必修	2
		空間デザイン演習Ⅰ	2	必修	4
		空間デザイン演習Ⅱ	3	必修	4
		空間デザイン演習Ⅲ	3	選択	4
		空間デザイン演習Ⅳ	4	選択	4
		建築CAD演習	3	選択	2
②～④ 建築計画，建築環境工学又は建築設備（7単位以上）	②建築計画（7単位以上）	建築計画Ⅰ	2	必修	2
		建築計画Ⅱ	3	必修	2
		建築計画Ⅲ	3	選択	2
		都市計画	3	選択	2
		日本建築史	2	選択	2
		西洋建築史	2	選択	2
		空間デザイン	1	選択	2
		インテリアデザイン	3	選択	2
		空間リノベーション	4	選択	2
		都市環境デザイン	4	選択	2
	③建築環境工学（2単位以上）	建築環境基礎	2	必修	2
		建築環境計画Ⅰ	2	選択	2
		建築環境計画Ⅱ	3	選択	2
		建築環境計画演習Ⅰ	2	選択	1
		建築環境計画演習Ⅱ	3	選択	1
		環境計測演習	4	選択	2
		北方建築	1	選択	2
	④建築設備（2単位以上）	設備概論	2	必修	2
		建築設備システム	3	選択	2
⑤～⑦ 構造力学，建築一般構造又は建築材料（6単位以上）	⑤構造力学（4単位以上）	構造デザイン	1	選択	2
		構造力学基礎Ⅰ・演習	2	必修	3
		構造力学基礎Ⅱ・演習	2	必修	3
		構造力学応用Ⅰ・演習	3	選択	3
		構造力学応用Ⅱ・演習	3	選択	3
		建築振動論	4	選択	2
		構造解析	4	選択	2
	⑥建築一般構造（3単位以上）	建築一般構造	2	必修	2
		鉄筋コンクリート構造	3	選択	2
		鉄筋コンクリート構造演習	3	選択	1
		鋼構造	3	選択	2
		鋼構造演習	3	選択	1
		木造建築	3	選択	2
		構造設計法	3	選択	2
	⑦建築材料（2単位以上）	建築材料	2	選択	2
		建築仕上材料	2	選択	2
		建築材料実験	3	必修	1
		コンクリート工学	4	選択	2

指定科目の分類（必要な単位数）		指定科目に該当する本学の開講科目			
2級・木造	1級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
⑧建築生産（1単位以上）	⑧建築生産（2単位以上）	建築生産	3	必修	2
		建築施工	4	選択	2
		品質管理	3	選択	2
		建築経済	3	選択	2
⑨建築法規（1単位以上）	⑨建築法規（1単位以上）	建築法規	3	必修	2
⑩その他（適宜）	⑩その他（適宜）	建築図学	1	選択	2
		空間デザイン演習基礎	2	選択	2
		防災計画	4	選択	2
		建築デザイン論	3	選択	2
		庭園文化論	3	選択	2
		建築環境計画Ⅲ	3	選択	2
		雪氷学	4	選択	2
		建築地球環境学	4	選択	2
		測量学	3	選択	3
		建築プレゼンテーション	2	選択	2
		技術者倫理	3	選択	2
		工芸デザイン	2	選択	2
実務経験0年で受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他，合計40単位以上が必要。	実務経験2年で受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他，合計60単位以上が必要。50～59単位の場合は3年の実務経験が必要。				

注…建築士の試験は学科試験と設計製図試験によって行われます。学科試験は主に以下のような分野から出題されます。ただし出題分野や試験の合格基準は毎年少しずつ変わります。詳細は建築技術教育普及センターのホームページで確認して下さい。過去問も掲載されています。

●一級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，建築積算等
学科Ⅱ…環境工学，建築設備等
学科Ⅲ…建築法規等
学科Ⅳ…構造力学，鉄筋コンクリート，鋼構造，建築一般構造，建築材料等
学科Ⅴ…建築生産，施工，各部工事等

●二級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，環境，設備等
学科Ⅱ…建築法規等
学科Ⅲ…構造力学，一般構造，建築材料等
学科Ⅳ…建築生産，施工，各部工事等

（注）授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，原則，各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています（学生便覧参照のこと）。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で原則として15週（曜日によっては，これよりも多くなる場合や，行事により曜日を振替える場合もあります。）の授業を受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。さらに，その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。また，例えば２時限連続して授業が行われる場合には，一つの学期の通算の授業時間は２×２時間×15週＝60時間となります。さらに，その授業が「実験」の場合には60時間／45時間＝1.33単位となりますが，端数は切り捨てられ１単位として計算されます。

●工学部規則第４条により，

①外国語科目については，以下のことが定められています。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ，世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

ただし，これらの授業科目は，一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間はやはり30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

なお，より詳細な各科目毎の単位数については**「建築学科開講科目一覧表」**を参照してください。

②専門科目の演習科目については，以下のことが定められています。

> 演習科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 空間デザイン演習Ⅰ～Ⅳ

上記の科目は，一つの学期で毎週２回（２時限）の授業が行われるので通算の授業時間は60時間となり，４単位として計算されます。

I 教　育　課　程

【電子情報工学科】

2018年度（平成30年度）以降入学者

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

電子情報工学科カリキュラム・マップ

■電子情報工学科の教育理念

電子情報工学科は，電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い教育と研究を通して，自然環境にも配慮した科学技術の発展に熱意を持って取り組む，高度な専門能力を備えた創造性豊かな人材の育成を目指す。

■電子情報工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし，次の能力・資質を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけていること。
(2) 電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につけていること。
(3) 社会の要求を踏まえて専門的課題を設定し，解決できること。
(4) 自らの創造力や他者との論理的なコミュニケーションを通して，新しい技術を生み出せること。
(5) 科学技術の発展に熱意を持ち，かつ電子情報技術者として社会に対する責任を自覚していること。

■電子情報工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

電子情報工学科は，ハードウェアとソフトウェアの両方に精通した技術者を育成するため，豊かな素養と基礎的な学力を身につける「基盤」「教養」「体験型」の科目群からなる一般教育科目，ならびに基礎数物系，応用数物系，電子系，情報系，応用系の５系列の専門科目をバランスよく配置した教育体系を展開します。また，卒業認定･学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ，カリキュラムの体系性･系統性を示すカリキュラムツリーを提示し，カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。
教育内容，教育方法，学修成果の評価については以下のように定めます。

1）教育内容

(1) 初年次には大学生としての見識と豊かな人間性を養う学習を主体とし，同時に電子系および情報系分野の入門的な科目も配置します。
(2) 数理法則の基礎概念と自然科学に関する基礎的知識を身につけ，自然界を支配する一般的法則や現象を理解し，電子情報工学を広い視点で理解する基礎的能力を養う科目を配置します。
(3) 電気・電子現象を具体的に理解するための基礎技能を身につけるとともに，電子系科目の基礎知識に基づき，エレクトロニクスに関する専門的な知識を習得し，エレクトロニクスに関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
(4) コンピュータリテラシーを含む基本的な情報処理能力を身につけるとともに，情報系科目の基礎知識に基づき，情報処理技術に関する専門的な知識を習得し，情報処理技術に関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
(5) 電子系および情報系科目の基礎理論と知識に基づき，計測，制御，通信などの分野における専門的な知識を習得し，それらに関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
(6) コンピュータプログラムの作成・実行や実験の計画・遂行を自律しておこない，結果を工学的に考察し，まとめる能力を養い，社会の要求を踏まえて課題を設定し解決できるデザイン能力を養う科目を配置します。

2）教育方法

(1) 初年次教育においては学習効果を上げるために少人数授業を実施し，さらに演習によるきめ細やかな指導を行うことで高校までの数物系の知識を固めます。また，専門分野となる電子系および情報系分野に早い段階で慣れ親しむため，専門科目担当教員も初年次の授業を担当することとしています。
(2) 各学生に対して教員一人がアカデミック・アドバイザーとなり，学生からの相談を受ける機会として年２回，学期ごとに面談を行い，その中で学業成績や履修状況に応じて，修学や進路に関する指導を行います。

(3) 学生と教員の双方向のコミュニケーションを円滑にし，学習効率を向上させるため，講義資料の配布や採点後レポートの返却など学生に情報を提供する際や，WEBテストや授業評価アンケートの実施など学生から情報を集める際に，積極的にLMSを活用します。
(4) 電子系および情報系分野のテクノロジーを講義・演習を通して体系的に学び，さらに具体的な内容を通してより深い理解を得るため，最新の設備・機器を使った多くの実験，実習を実施します。
(5) 実践力の育成を重視する授業においては，学生・教員間のコミュニケーションや学生同士の議論を通して学生の主体的発想力と協調的問題解決力を養うため，クリッカー・グループワーク・反転授業などを活用したアクティブ・ラーニングを実施します。
(6) 学習の集大成として４年次に取り組む卒業研究においては，問題に対する思考・分析・解決の能力を身につけ，また自らの考えや研究の結果を他人に伝える表現力を身につけることを目的とし，少人数によるインタラクティブな教育を実施します。

3) 学修成果の評価

学修成果の評価方法は各科目のシラバスで提示しています。各科目の方法に従った評価をします。

電子情報工学科 カリキュラム・ツリー

【DP1】
学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけていること。

【DP2】
電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につけていること。

【DP3】
社会の要求を踏まえて専門的課題を設定し，解決できること。

DP1
【到達目標】（A）
さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。

DP1
【到達目標】（B）
一般的・普遍的な教養を身につける。

DP2
【到達目標】（C）
数理法則の基礎概念と自然科学に関する基礎知識を身につける。

DP2
【到達目標】（D）
電子工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。

DP2
【到達目標】（E）
情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。

DP3
【到達目標】（F）
習得した専門知識と自らの判断能力を駆使して，専門的課題を解決する。

4年次

3年次

2年次

1年次

一般教育科目（基盤科目）

一般教育科目（教養科目）

応用数物系
- 数値解析Ⅱ
- 数理工学
- 数値解析Ⅰ
- 応用数学Ⅰ
- 応用数学Ⅱ
- 物理数学

基礎数物系
- 微分積分学Ⅱ
- 数理統計学
- 代数学Ⅰ
- 代数学Ⅱ
- 幾何学Ⅰ
- 幾何学Ⅱ
- 解析学Ⅰ
- 解析学Ⅱ
- 線形代数学Ⅰ
- 線形代数学Ⅱ
- 微分積分学Ⅰ
- 確率統計
- 代数学序論
- 幾何学序論
- 解析学序論
- 物理学Ⅰ
- 物理学Ⅱ

【DP4】
自らの創造力や他者との論理的なコミュニケーションを通して，新しい技術を生み出せること。

【DP5】
科学技術の発展に熱意を持ち，かつ電子情報技術者として社会に対する責任を自覚していること。

DP3
【到達目標】（G）
社会の要求を踏まえて課題を設定し，解決までの道筋をデザインする。

DP4
【到達目標】（H）
論理的な記述や口頭発表，討議を通して相手と正しく理解し合える。

DP4
【到達目標】（I）
創造性豊かな専門能力を備え，新しい技術を生み出せる。

DP5
【到達目標】（J）
自然環境や生活の豊かさに配慮した科学技術の発展に熱意を持つ。

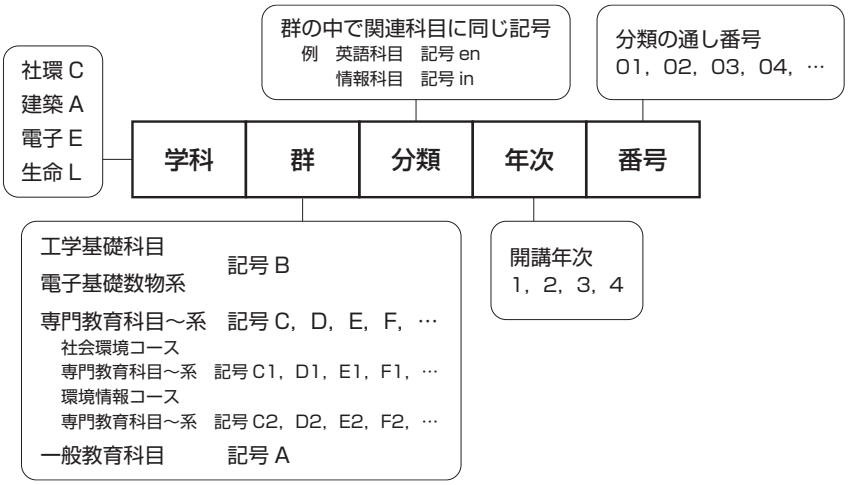
DP5
【到達目標】（K）
電子情報技術者として倫理観を持ち，社会に対する責任を自覚する。

専門科目

電子系	情報系	応用系	実験実習等
電気電子材料学	知識情報工学	センサ工学	卒業研究
集積回路		システム工学	
		通信法規	
電子回路Ⅰ	計算機言語学Ⅱ	光工学Ⅰ	計算機実習Ⅲ
電子デバイス	自然言語処理	光工学Ⅱ	プロジェクト実習A
光エレクトロニクス	システムとネットワーク	制御工学Ⅰ	プロジェクト実習B
論理回路	アルゴリズム通論	制御工学Ⅱ	電子情報工学実験Ⅱ
電波工学	情報理論	通信工学通論	インターンシップ
	データ工学	工学倫理	
	画像工学	電気工学通論	
		音響工学	
		情報通信システム	
電気回路Ⅰ	プログラミング序論Ⅰ	プレゼンテーション	計算機実習Ⅰ
電気回路Ⅱ	プログラミング序論Ⅱ	電子計測	計算機実習Ⅱ
電子回路Ⅰ	計算機アーキテクチャ		電子情報工学実験Ⅰ
電気磁気学Ⅰ	オペレーティングシステム		
電気磁気学Ⅱ	計算機言語学Ⅰ		
電子物性			
固体電子工学			
電子工学基礎Ⅰ	情報工学基礎Ⅰ		情報リテラシー演習
電子工学基礎Ⅱ	情報工学基礎Ⅱ		基礎演習
電気回路基礎			数学演習
			物理学演習

〈到達目標〉		対応する学位授与方針
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	(1)
C	数理法則の基礎概念と自然科学に関する基礎知識を身につける。	(2)
D	電子工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。	(2)
E	情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。	(2)
F	習得した専門知識と自らの判断能力を駆使して，専門的課題を解決する。	(3)
G	社会の要求を踏まえて課題を設定し，解決までの道筋をデザインする。	(3)
H	論理的な記述や口頭発表，討議を通して相手と正しく理解し合える。	(4)
I	創造性豊かな専門能力を備え，新しい技術を生み出せる。	(4)
J	自然環境や生活の豊かさに配慮した科学技術の発展に熱意を持つ。	(5)
K	電子情報技術者として倫理観を持ち，社会に対する責任を自覚する。	(5)

■工学部ナンバリング



授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標										
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
一般教育科目	基盤科目	言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	EAen101	○										
				英語リーディングⅡ	1	1	EAen102	○										
				英語リーディングⅢ	1	2	EAen203	○										
				英語リーディングⅣ	1	2	EAen204	○										
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	EAen105	○										
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	EAen106	○										
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	EAen207	○										
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	EAen208	○										
				英語特講Ⅰ	1	1	EAen109	○										
				英語特講Ⅱ	1	1	EAen110	○										
				英語ライティングⅠ	1	1	EAen111	○										
				英語ライティングⅡ	1	1	EAen112	○										
				英語文化演習Ⅰ	2	2	EAen213	○										
				英語文化演習Ⅱ	2	2	EAen214	○										
			共通	世界の言語と文化	2	1	EAco101	○										

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標										
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
一般教育科目	基盤科目	言語	ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	EAge101	○										
				ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	EAge102	○										
				ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	EAge203	○										
				ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	EAge204	○										
				ドイツ語会話Ⅰ	1	1	EAge105	○										
				ドイツ語会話Ⅱ	1	1	EAge106	○										
				ドイツ語文化Ⅰ	2	1	EAge107	○										
				ドイツ語文化Ⅱ	2	2	EAge208	○										
				ドイツ語文化Ⅲ	2	2	EAge209	○										
				ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	EAge310	○										
				ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	EAge311	○										
				ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	EAge312	○										
				ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	EAge313	○										
				ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	EAge414	○										
				ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	EAge415	○										
			フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	EAfr101	○										
				フランス語基礎Ⅱ	1	1	EAfr102	○										
				フランス語基礎Ⅲ	1	2	EAfr203	○										
				フランス語基礎Ⅳ	1	2	EAfr204	○										
				フランス語会話Ⅰ	1	1	EAfr105	○										
				フランス語会話Ⅱ	1	1	EAfr106	○										
				フランス語文化Ⅰ	2	1	EAfr107	○										
				フランス語文化Ⅱ	2	2	EAfr208	○										
				フランス語文化Ⅲ	2	2	EAfr209	○										
				フランス語文化演習Ⅰ	2	3	EAfr310	○										
				フランス語文化演習Ⅱ	2	3	EAfr311	○										
				フランス語言語演習Ⅰ	2	3	EAfr312	○										
				フランス語言語演習Ⅱ	2	3	EAfr313	○										
				フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	EAfr414	○										
				フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	EAfr415	○										
			中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	EAch101	○										
				中国語基礎Ⅱ	1	1	EAch102	○										
				中国語基礎Ⅲ	1	2	EAch203	○										
				中国語基礎Ⅳ	1	2	EAch204	○										
				中国語会話Ⅰ	1	1	EAch105	○										
				中国語会話Ⅱ	1	1	EAch106	○										
				中国語文化Ⅰ	2	1	EAch107	○										
				中国語文化Ⅱ	2	2	EAch208	○										
				中国語文化Ⅲ	2	2	EAch209	○										
				中国語文化演習Ⅰ	2	3	EAch310	○										
				中国語文化演習Ⅱ	2	3	EAch311	○										
				中国語言語演習Ⅰ	2	3	EAch312	○										
				中国語言語演習Ⅱ	2	3	EAch313	○										
				中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	EAch414	○										
				中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	EAch415	○										
			ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	EAru101	○										
				ロシア語基礎Ⅱ	1	1	EAru102	○										
				ロシア語基礎Ⅲ	1	2	EAru203	○										
				ロシア語基礎Ⅳ	1	2	EAru204	○										
				ロシア語会話Ⅰ	1	1	EAru105	○										
				ロシア語会話Ⅱ	1	1	EAru106	○										
				ロシア語文化Ⅰ	2	1	EAru107	○										
				ロシア語文化Ⅱ	2	2	EAru208	○										
				ロシア語文化Ⅲ	2	2	EAru209	○										
				ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	EAru310	○										
				ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	EAru311	○										
				ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	EAru312	○										
				ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	EAru313	○										
				ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	EAru414	○										
				ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	EAru415	○										

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標										
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
一般教育科目	基盤科目	言語	韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	EAko101	○										
				韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	EAko102	○										
				韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	EAko203	○										
				韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1	2	EAko204	○										
				韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1	1	EAko105	○										
				韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1	1	EAko106	○										
				韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1	2	EAko207	○										
				韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1	2	EAko208	○										
				韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2	1	EAko109	○										
				韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2	2	EAko210	○										
				韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2	2	EAko211	○										
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2	3	EAko312	○										
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2	3	EAko313	○										
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2	3	EAko314	○										
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2	3	EAko315	○										
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	EAko416	○										
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	EAko417	○										
		身体	－	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	EApe101	○										
				健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	EApe102	○										
				体育実技ⅠA	1	1	EApe103	○										
				体育実技ⅠB	1	1	EApe104	○										
				体育実技ⅡA	1	1	EApe105	○										
				体育実技ⅡB	1	1	EApe106	○										
				体育実技ⅢA	1	1	EApe107	○										
				体育実技ⅢB	1	1	EApe108	○										
				体育実技ⅣA	1	1	EApe109	○										
				体育実技ⅣB	1	1	EApe110	○										
		情報	－	コンピュータ科学	2	1	EAin101	○										
				情報技術論	2	1	EAin102	○										
				情報と社会	2	1	EAin103	○										
	教養科目	人文科学	自己	哲学	2	1	EAse101		○									
				倫理学Ⅰ	2	1	EAse102		○									
				倫理学Ⅱ	2	1	EAse103		○									
				論理学Ⅰ	2	1	EAse104		○									
				論理学Ⅱ	2	1	EAse105		○									
				社会思想史	2	1	EAse106		○									
				行動科学	2	1	EAse107		○									
				基礎心理学	2	1	EAse108		○									
				人間関係論	2	1	EAse109		○									
			文化	日本文学	2	1	EAcu101		○									
				外国文学Ⅰ	2	1	EAcu102		○									
				外国文学Ⅱ	2	1	EAcu103		○									
				言語学Ⅰ	2	1	EAcu104		○									
				言語学Ⅱ	2	1	EAcu105		○									
				芸術論Ⅰ	2	1	EAcu106		○									
				芸術論Ⅱ	2	1	EAcu107		○									
				異文化コミュニケーション	2	1	EAcu108		○									
				現代文化論	2	1	EAcu109		○									
				音声学セミナー	2	1	EAcu110		○									
				一般言語学セミナー	2	1	EAcu111		○									
				デザインセミナーⅠ	2	1	EAcu112		○									
				デザインセミナーⅡ	2	1	EAcu113		○									
			歴史	歴史学Ⅰ	2	1	EAhi101		○									
				歴史学Ⅱ	2	1	EAhi102		○									
				歴史学Ⅲ	2	1	EAhi103		○									
				歴史学Ⅳ	2	1	EAhi104		○									
				考古学	2	1	EAhi105		○									
		社会科学	社会構造	法学	2	1	EAso101		○									
				日本国憲法	2	1	EAso102		○									
				経済学	2	1	EAso103		○									
				政治学	2	1	EAso104		○									
				社会学	2	1	EAso105		○									
				マスコミ論	2	1	EAso106		○									
				生涯学習論	2	1	EAso107		○									

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標										
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
一般教育科目	教養科目	社会科学	地域	地理学	2	1	EAlo101		○									
				人類学	2	1	EAlo102		○									
				地誌学	2	1	EAlo103		○									
				国際事情	2	1	EAlo104		○									
				カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	EAlo105		○									
				カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	EAlo106		○									
		自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	1	EAsu101		○									
				地球科学Ⅱ	2	1	EAsu102		○									
				環境生物科学Ⅰ	2	1	EAsu103		○									
				環境生物科学Ⅱ	2	1	EAsu104		○									
				物質科学	2	1	EAsu105		○									
				物質環境科学	2	1	EAsu106		○									
				宇宙科学Ⅰ	2	1	EAsu107		○									
				宇宙科学Ⅱ	2	1	EAsu108		○									
				地球環境セミナーⅠ	2	1	EAsu109		○									
				地球環境セミナーⅡ	2	1	EAsu110		○									
				環境生物科学セミナーⅠ	2	1	EAsu111		○									
				環境生物科学セミナーⅡ	2	1	EAsu112		○									
				化学セミナーⅠ	2	1	EAsu113		○									
				化学セミナーⅡ	2	1	EAsu114		○									
				宇宙科学セミナーⅠ	2	1	EAsu115		○									
				宇宙科学セミナーⅡ	2	1	EAsu116		○									
			普遍性	数学概論Ⅰ	2	1	EAun101		○									
				数学概論Ⅱ	2	1	EAun102		○									
				物理学概論Ⅰ	2	1	EAun103		○									
				物理学概論Ⅱ	2	1	EAun104		○									
				数学セミナーⅠ	2	1	EAun105		○									
				数学セミナーⅡ	2	1	EAun106		○									
		北海道学	－	北海道史	2	1	EAho101		○									
				北方圏文化論	2	1	EAho102		○									
				北海道文学	2	1	EAho103		○									
				アイヌの言語と文化	2	1	EAho104		○									
				大学史	2	1	EAho105		○									
	キャリア形成科目			キャリア・ガイダンス	1	1	EAca101		○									
	体験型科目			海外文化Ⅰ	1	1	EAov101		○									
				海外文化Ⅱ	1	1	EAov102		○									
				海外文化Ⅲ	1	1	EAov103		○									
				海外文化Ⅳ	1	1	EAov104		○									
専門教育科目	基礎数物系			線形代数学Ⅰ	2	1	EBla101			○								
				線形代数学Ⅱ	2	1	EBla102			○								
				微分積分学Ⅰ	2	1	EBcc101			○								
				微分積分学Ⅱ	2	2	EBcc202			○								
				確率統計	2	1	EBst101			○								
				数理統計学	2	2	EBst202			○								
				代数学序論	2	1	EBal101			○								
				代数学Ⅰ	2	2	EBal202			○								
				代数学Ⅱ	2	2	EBal203			○								
				幾何学序論	2	1	EBgm101			○								
				幾何学Ⅰ	2	2	EBgm202			○								
				幾何学Ⅱ	2	2	EBgm203			○								
				解析学序論	2	1	EBan101			○								
				解析学Ⅰ	2	2	EBan202			○								
				解析学Ⅱ	2	2	EBan203			○								
				物理学Ⅰ	2	1	EBph101			○								
				物理学Ⅱ	2	1	EBph102			○								
	応用数物系			応用数学Ⅰ	2	2	ECam201			○	○	○						
				応用数学Ⅱ	2	2	ECam202			○	○	○						
				物理数学	2	2	ECpm201			○	○							
				数理工学	2	3	ECme301			○	○	○						
				数値解析Ⅰ	2	3	ECna301			○		○	○					
				数値解析Ⅱ	2	4	ECna402					○	○					

授業科目名			単位	開講年次	学科科目No.	到達目標										
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
専門教育科目	電子系	電子工学基礎Ⅰ	2	1	EDeb101			○	○							
		電子工学基礎Ⅱ	2	1	EDeb102			○	○							
		電気回路基礎	2	1	EDec101			○	○							
		電気回路Ⅰ	2	2	EDec202				○							
		電気回路Ⅱ	2	2	EDec203				○							
		電子回路Ⅰ	2	2	EDec204				○							
		電子回路Ⅱ	2	3	EDec305				○		○					
		電気磁気学Ⅰ	2	2	EDel201			○	○							
		電気磁気学Ⅱ	2	2	EDel202				○							
		電子物性	2	2	EDel203			○	○							
		固体電子工学	2	2	EDel204			○	○							
		電子デバイス	2	3	EDel305			○	○		○					
		光エレクトロニクス	2	3	EDoe301				○							
		論理回路	2	3	EDec306				○							
		電波工学	2	3	EDel306				○		○					
		電気電子材料学	2	4	EDel407				○		○					
		集積回路	2	4	EDec407				○							
	情報系	情報工学基礎Ⅰ	2	1	EEib101					○					○	○
		情報工学基礎Ⅱ	2	1	EEib102			○		○						
		プログラミング序論Ⅰ	2	2	EEpr201					○						
		プログラミング序論Ⅱ	2	2	EEpr202					○						
		計算機アーキテクチャ	2	2	EEat201					○						
		オペレーティングシステム	2	2	EEat202					○						
		計算機言語学Ⅰ	2	2	EEpr203					○						
		計算機言語学Ⅱ	2	3	EEpr304					○						
		自然言語処理	2	3	EEap301					○	○					
		システムとネットワーク	2	3	EEat303					○	○					○
		アルゴリズム通論	2	3	EEth301					○						
		情報理論	2	3	EEth302					○						
		データ工学	2	3	EEap302					○	○					
		画像工学	2	3	EEap303					○						
		知識情報工学	2	4	EEap404					○				○		
	応用系	プレゼンテーション	2	2	EFpt201								○			
		電子計測	2	2	EFas201				○	○						
		光工学Ⅰ	2	3	EFoe302				○	○	○		○			
		光工学Ⅱ	2	3	EFoe303				○	○						
		制御工学Ⅰ	2	3	EFas302				○	○						
		制御工学Ⅱ	2	3	EFas303				○	○						
		通信工学通論	2	3	EFas304				○	○				○	○	
		工学倫理	2	3	EFee301										○	○
		電気工学通論	2	3	EFas305				○						○	○
		音響工学	2	3	EFas306				○		○			○	○	
		情報通信システム	2	3	EFas307				○	○	○					
		センサ工学	2	4	EFas408				○	○						
		システム工学	2	4	EFas409				○	○	○					
		通信法規	2	4	EFcl401						○					○
	実験実習等	情報リテラシー演習	1	1	EGie101					○			○			○
		基礎演習	1	1	EGre101			○					○			
		数学演習	1	1	EGre102			○					○			
		物理学演習	1	1	EGre103			○					○			
		計算機実習Ⅰ	1	2	EGie202					○	○		○			
		計算機実習Ⅱ	1	2	EGie203					○	○		○			
		計算機実習Ⅲ	1	3	EGie304					○		○	○			
		プロジェクト実習A	1	3	EGie305					○			○	○		
		プロジェクト実習B	1	3	EGro301				○	○		○	○			
		電子情報工学実験Ⅰ	1	2	EGex201			○	○				○			
		電子情報工学実験Ⅱ	1	3	EGex302				○	○	○		○			
		インターンシップ	2	3	EGis301							○	○			○
		卒業研究	6	4	EGgr401						○	○	○	○	○	○

電子情報工学科　初年次教育プログラム

電子情報工学科では，以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は，工学部電子情報工学科の１年次学生である。

プログラムのねらい

（プログラムの目標）

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は，「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では，明確な答えが準備された問いを与えられ，その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は，試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく，学習時間の管理では，主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では，自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められる。どのような科目を習得するかを，各自の興味や将来ビジョンに基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約はあるが，自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが，高校までとは明確に異なる点であろう。学生一人一人が何を目指すのか，そのために大学在学中にどのような目標をもつべきなのかを考えることで，大学での学びの道筋が決まるはずである。入学後の早い段階で，キャリアと本学科の専門性との関連を理解する必要があるだろう。

また，自身が決めた「学び」に対して，学習スケジュールを設計し，日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に，自習の時間，部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で，大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには，自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場は，論文やレポートの作成，ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐に渡る。レポートや論文を書く際には，科学技術に関する文書の執筆法（テクニカル・ライティング）に基づき，情報を正確に，わかりやすく書くことが求められる。また，ディスカッションやプレゼンテーションにおいては，自分の考えをより客観的で深みのあるものにするために，他者の意見に耳を傾ける能力も必要になる。実社会には答えのない問いや対立する考え方が多くあり，合意形成が難しい場面が存在することを理解し，それらに対する実践的な対処法や合理的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し，大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として，電子情報工学科では以下の５テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。初年次にこのプログラムを習得することで，大学での「学び」を充実した有意義なものとし，卒業後の社会活動・人生設計の知的基盤として活用できるようになることを期待している。

（学生の学習目標）

本プログラムを受講する学生には，以下の事項を習得してもらう。

・レポートや論文などの科学技術文書を作成する際に必要となる考え方
・数十人が集まる場において，自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明するプレゼンテーション能力
・少人数のグループにおいて，多様な意見を引き出せるような場を作る能力
・答えのない問いに対して，他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
・電子情報工学科で学びを継続していくための動機
・科学技術文書やプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのコンピュータ操作
・大学での学びと課外活動とを両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ　電子情報工学科の初年次教育は，以下の５テーマから成る。

1．レポートや論文の書き方などの文章作法の習得
2．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法の習得
3．学科での学びに対する動機付け
4．コンピュータやネットワークに関する知識と大学での学びに必要となるコンピュータの操作方法の習得

5．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画　上記のテーマ１～４については，１年次に開講される電子情報工学科専門科目『基礎演習』，『情報リテラシー演習』，『電子工学基礎Ⅰ』，『情報工学基礎Ⅰ』，一般教育科目『コンピュータ科学』で体系的に実施する。さらに，テーマ５については『クラス顧問ガイダンス』，『アカデミックアドバイザー制度』において実施する。

1．レポートや論文の書き方などの文章作法の習得
【基礎演習】　担当：内田　ゆず
第２回　　電子メールの作法
第３回　　科学技術文書における日本語表現
第４回　　レポートの作法
第５～６回　正しい文章を書くためのトレーニング
第７回　　グラフの作法と使い分け
第12回　　プレゼンテーションの作法

2．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法の習得
【基礎演習】　担当：菊地　慶仁，高氏　秀則，菅原　滋晴，内田　ゆず
第８～10回　電子工作とプログラミングの基礎
　電子ブロックMESHを利用して電子工作とプログラミングを行う。操作方法を学んだ後，４名程度のグループで『役に立つもの』を作成する。完成品の特徴をまとめた文書を作成したうえで，プレゼンテーションを行う。
第12～15回　討論
　４名程度のグループでの討論を通して，基礎演習第４～７回での学びを実践する。
　１つのテーマについて調査・実験を行い，グループ内で意見を交換し，自分とは異なるものの見方，考え方があることを知る。そのうえで，討論の経過をレポートにまとめ，グループとしての見解をプレゼンテーションする。

3．学科での学びに対する動機付け
【電子工学基礎Ⅰ】　担当：元木　邦俊
第１回　　電子工学で学ぶこと
　現代の情報社会を支えるエレクトロニクス技術の概要を説明する。高度な技術を理解しさらに発展させるために身に着けなければならない数理的な基礎知識について説明する。高校までに学習した数学や物理の知識がどのように役に立つのか考える。

【情報工学基礎Ⅰ】　担当：魚住　純
第１回　　情報工学で学ぶこと
　現代の情報技術（IT）について学ぶ情報工学の概要を説明する。情報工学を構成する学びの系統と，電子情報工学科における情報系科目の構成について概観し，情報工学と電子工学の関係，さらにその周辺分野との関係についても説明する。

【基礎演習】　担当：菊地　慶仁，高氏　秀則，菅原　滋晴，内田　ゆず
第11回　　技術者講習
　現役のエンジニアをお招きして，電気・機械・IT業界研究，商品開発の現場，就職へ向けて大学生が取り組むべきこと等について講演していただく。卒業後の進路と就職について知る機会を設けることで，本学科での学びの意義を考える機会とする。

4．コンピュータやネットワークに関する知識と大学での学びに必要となるコンピュータの操作方法の習得
【情報リテラシー演習】　担当：大西　真一
第２回　　情報セキュリティ
第３回　　コンピュータとデバイスの利用法

第４回　　コンピュータネットワーク
第５回　　Eメールの仕組み
第９回　　情報倫理
第10～11回　画像ファイルの仕組み
第12～13回　情報検索の仕組み

【コンピュータ科学】　担当：船川　大樹
第２回　　Windowsコンピュータの基本的な使い方・メール
第３～５回　文書作成ソフトウェアWordの操作
第６～11回　表計算ソフトウェアExcelの操作
第12～14回　プレゼンテーションソフトウェアPowerPointの操作

５．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び
【クラス顧問ガイダンス】　担当：クラス顧問
　大学での学習方法や，学生生活を送るうえでの注意事項を説明する。

【アカデミックアドバイザー】　担当：電子情報工学科の各教員
　各学生に対して１名の教員がアカデミックアドバイザーとなり，１年に２回個別面談を行い，成績や単位の修得状況をもとに，学生生活や進路についてアドバイスを行う。

電子情報工学科開講科目系統図

区分		1年		2年		3年		4年	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
一般教育科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体，情報 教養科目 人文科学，社会科学，自然科学，北海道学 キャリア形成科目 体験型科目，留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （山鼻校舎にて開講）		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎にて開講）		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎にて開講）	
専門教育科目	基礎数物系	**線形代数学Ⅰ** **物理学Ⅰ** 確率統計	**線形代数学Ⅱ** **微分積分学Ⅰ** **物理学Ⅱ** 代数学序論 幾何学序論 解析学序論	**微分積分学Ⅱ** 幾何学Ⅰ 数理統計学 代数学Ⅰ 解析学Ⅰ	幾何学Ⅱ 代数学Ⅱ 解析学Ⅱ				
	応用数物系			**[応用数学Ⅰ]** **[物理数学]**	応用数学Ⅱ	**[数理工学]**	**[数値解析Ⅰ]**	数値解析Ⅱ	
	電子系	電子工学基礎Ⅰ	電子工学基礎Ⅱ 電気回路基礎	**[電気回路Ⅰ]** **[電気磁気学Ⅰ]** **[電子物性]**	電気回路Ⅱ 電気磁気学Ⅱ 固体電子工学 **[電子回路Ⅰ]**	**[電子デバイス]** 電子回路Ⅱ	光エレクトロニクス 論理回路 電波工学	電気電子材料学 集積回路	
	情報系	情報工学基礎Ⅰ	情報工学基礎Ⅱ	**[計算機アーキテクチャ]** **[プログラミング序論Ⅰ]**	オペレーティングシステム **[計算機言語学Ⅰ]** **[プログラミング序論Ⅱ]**	計算機言語学Ⅱ システムとネットワーク データ工学	アルゴリズム通論 自然言語処理 情報理論 画像工学	知識情報工学	
	応用系				**[電子計測]** プレゼンテーション	**[光工学Ⅰ]** **[制御工学Ⅰ]** **[工学倫理]** 通信工学通論	光工学Ⅱ 制御工学Ⅱ 電気工学通論 音響工学 情報通信システム	センサ工学 システム工学 通信法規	
	実習等実験	情報リテラシー演習 基礎演習 数学演習	物理学演習	**計算機実習Ⅰ**	**計算機実習Ⅱ** **電子情報工学実験Ⅰ**	計算機実習Ⅲ **電子情報工学実験Ⅱ** インターンシップ	プロジェクト実習A プロジェクト実習B	**卒業研究**	

太字：必修科目
[ ] で囲まれた太字科目：選択必修科目

2018年度（平成30年度）以降入学者　一般教育科目一覧表

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	基盤科目					
	（言語）					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習Ⅰ		2			2
	英語文化演習Ⅱ		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	（身体）					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	（情報）					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	教養科目					
	(人文科学)					
	・自己					
	哲学	2				2
	倫理学Ⅰ	2				2
	倫理学Ⅱ	2				2
	論理学Ⅰ	2				2
	論理学Ⅱ	2				2
	社会思想史	2				2
	行動科学	2				2
	基礎心理学	2				2
	人間関係論	2				2
	・文化					
	日本文学	2				2
	外国文学Ⅰ	2				2
	外国文学Ⅱ	2				2
	言語学Ⅰ	2				2
	言語学Ⅱ	2				2
	芸術論Ⅰ	2				2
	芸術論Ⅱ	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現代文化論	2				2
	音声学セミナー	2				2
	一般言語学セミナー	2				2
	デザインセミナーⅠ	2				2
	デザインセミナーⅡ	2				2
	・歴史					
	歴史学Ⅰ	2				2
	歴史学Ⅱ	2				2
	歴史学Ⅲ	2				2
	歴史学Ⅳ	2				2
	考古学	2				2
	人文科学特別講義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法学	2				2
	日本国憲法	2				2
	経済学	2				2
	政治学	2				2
	社会学	2				2
	マスコミ論	2				2
	生涯学習論	2				2
	・地域					
	地理学	2				2
	人類学	2				2
	地誌学	2				2
	国際事情	2				2
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2
	社会科学特別講義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地球科学Ⅰ	2				2
	地球科学Ⅱ	2				2
	環境生物科学Ⅰ	2				2
	環境生物科学Ⅱ	2				2
	物質科学	2				2
	物質環境科学	2				2
	宇宙科学Ⅰ	2				2
	宇宙科学Ⅱ	2				2
	地球環境セミナーⅠ	2				2

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	地球環境セミナーⅡ	2				2
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2
	化学セミナーⅠ	2				2
	化学セミナーⅡ	2				2
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2
	・普遍性					
	数学概論Ⅰ	2				2
	数学概論Ⅱ	2				2
	物理学概論Ⅰ	2				2
	物理学概論Ⅱ	2				2
	数学セミナーⅠ	2				2
	数学セミナーⅡ	2				2
	自然科学特別講義	2				2
	(北海道学)					
	北海道史	2				2
	北方圏文化論	2				2
	北海道文学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大学史	2				2
	開発研究所特別講義	2				2
	北海道学特別講義	2				2
	(教養科目)					
	教養科目特別講義	2				2
計		146				146

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・ガイダンス	1				1
計		1				1

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海外文化Ⅰ	1				1
	海外文化Ⅱ	1				1
	海外文化Ⅲ	1				1
	海外文化Ⅳ	1				1
計		4				4

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計
	留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日本語演習Ⅰ	2				2
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2
	日本語文章表現Ⅰ	2				2
	日本語演習Ⅱ	2				2
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2
	日本語文章表現Ⅱ	2				2
	日本語演習Ⅲ		2			2
	日本事情Ⅰ		2			2
	日本語演習Ⅳ		2			2
	日本事情Ⅱ		2			2
計		12	8			20

進級および卒業要件・目標修得単位

1．進級要件（1年次から2年次へ）

以下の要件を満たした1年次学生は，2年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は，1年次に留め置きとなります。

一般教育科目……14単位以上修得
専門教育科目　基礎数物系必修……6単位以上修得
　　選択……7単位以上修得（基礎数物系を除く）

この単位数は，「1年次に修得しておく必要のある最低限の単位数」を元に設定しており，進級や卒業に向けて安心できる単位数ではありません。したがって，後述の目標修得単位を元に慎重に履修計画を立てる必要があります。

2．進級要件（3年次から4年次へ）

以下の要件を満たした3年次学生は，4年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は，3年次に留め置きとなります。

総単位数……90単位以上修得

この単位数は，過去の例から「卒業の可能性が最低限残されている」との判断から設定されています。しかし，90単位程度で進級した場合には，下級年次の科目を多数履修しながら卒業研究を行うことになるので卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3．卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。卒業見込証明書がない場合には，就職活動に大きな支障となるので注意してください。

総単位数……100単位以上修得

この単位数は，過去の例から「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されていますが，卒業を保証するものではありません。卒業見込証明書が発行されても，卒業要件を満足しないために卒業できない場合があります。4年次の開始時に100単位未満であっても，4年次1学期終了時に100単位以上を修得した場合は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

4．卒業要件

電子情報工学科では，学部長が教授会の議を経て以下の単位の修得を認定した者に，学長が卒業を許可します。

一般教育科目……22単位以上
　　（英語4科目4単位以上を含む）
専門教育科目　必修……22単位
　　選択……76単位以上
　　（選択必修30単位以上を含む，基礎数物系を除く）
ほか全体から……8単位以上
} 総計128単位以上

５．目標修得単位

卒業に必要な単位数は128単位以上なので，単純に１年間の平均修得単位数を計算すると128/４＝32単位となります。しかし，４年次開講の専門教育科目は，20単位（１学期14単位，２学期は通年の卒業研究のみ）しかありません。４年次では，卒業研究や就職活動，大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに128単位は，あくまで最低限の総単位数ですので，総単位数のみを見て機械的に履修することなく，余裕を見ながら卒業に必要な各要件を満たしていく必要があります。一方，あまりに多くの科目を履修した場合には，予習，復習の時間が十分に取れず，結果として不合格になる科目が多くなることも考えられるので，無理の無い履修を勧めます。

一般に，１年次では専門科目基礎数物系の必須科目を履修するとともに，一般教育科目を多く履修することを勧めます。２・３年次では，専門教育科目や実験および実習の比重が高くなるため，多くの科目を履修することは難しくなります。

電子情報工学科では，各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画を立ててください。

１年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	15単位以上(英語２科目２単位を含む)	基礎数物系必修５科目10単位および基礎数物系を除く選択７科目12単位以上	44単位以上

２年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語４科目４単位を含む)	60単位以上	82単位以上

３年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語４科目４単位を含む)	90単位以上	112単位以上

履修上の注意

1．授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で15回の授業があります。毎週１回の授業を一つの学期に受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位,「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により,15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

２・３年次で電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ，計算機実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，プロジェクト実習Ａ・Ｂが２時限連続して行われます。この場合の授業時間数は，一つの学期で２時間×２×15週＝60時間となりますが，各１単位です。また，卒業研究は15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

各科目毎の単位数については，「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

2．授業科目について

各年次に開講されている科目は，原則としてその年次に履修してください。上級年次の者は，下級年次に開講されている科目を履修できますが，下級年次の者は，上級年次に開講されている科目を履修することはできません。

必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には，翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は全科目を履修し卒業要件に定めた単位を修得する必要があります。選択科目は，自由に選択し履修することができますが，各区分ごとに卒業に必要な単位数が定められていますので注意してください。

各科目区分毎に，その概略と履修上の注意点を記すと以下のようになります。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目（189科目，321単位）

- 外国語科目を除き１年次にすべて豊平校舎で開講されます。これらの科目の中には**２つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。**ただし，両方をともに履修することはできません。
- **２年次に進級後，これらの科目を履修することは校舎が離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から，原則としてできません（体育実技を除く）。**ただし，主に再履修（新規履修も含む）者を対象として，山鼻校舎でも限られた一部の科目を開講しています。
- 英語科目については，１・２年次に開講されます。
- 英語以外の外国語科目として，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語が開講されます。
- 電子情報工学科では，**１・２年次の各学期において１科目１単位以上の英語科目の履修が必要**です。また，**卒業単位数（128単位以上）の中に英語４科目４単位以上**を含んでいなければなりません。
- 英語以外の外国語科目は，韓国・朝鮮語を除いて１～４年次に開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目（11科目，22単位），選択必修科目（17科目，34単位），選択科目（54科目，101単位）

- １～４年次に開講されます。
- 専門教育科目は，〝基礎数物系〟，〝応用数物系〟，〝電子系〟，〝情報系〟，〝応用系〟，〝実験実習等〟の科目群からなっています。
- **１年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎でのみ開講**されます。**２年次に進級後，これらの科目を履修することは，校舎が離れていること，および時間割の制約上から，できません**ので注意してください。
- 選択必修科目は，全科目を履修し卒業要件に定めた単位を修得する必要があります。
- 卒業研究は，通年で６単位です。

３．その他の注意

講義概要には科目名，担当者，単位数，開講期，開講年次，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで，履修する際の参考にしてください。また，「授業計画」は当初の計画であり，実際の授業の進行状況によっては，変更もあり得ますが，予習・復習の際の参考にしてください。なお，これらの授業科目のうち，一部の選択科目ではその科目の内容によって，履修者を一定人数に制限している場合や，関連する科目を前もって履修しておかなければ，その科目を履修できない場合があります。講義概要には，これらの点についても記載されているので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には，下級年次に開講される科目との関連に注意しなくてはいけない科目が含まれています。したがって，履修する年次だけではなく，次年度以降に履修予定の上級年次の科目の講義概要についても，よく読んでおいてください。

授業開始から履修届の提出期限までの間には，一定の期間が設けられています。授業科目によっては，最初の授業で履修のためのガイダンスが行われる場合があるので，履修する可能性がある場合には，必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，この冊子の最後に受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお，外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目の単位を一般教育科目の単位に算入することができます。

I 教　育　課　程

【電子情報工学科】

2012年度（平成24年度）〜2017年度（平成29年度）入学者

・カリキュラム・マップ……p.141参照
・カリキュラム・ツリー……p.144参照

電子情報工学科の教育

教育理念

電子情報工学科は，電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い教育と研究を通して，自然環境にも配慮した科学技術の発展に熱意を持って取り組む，高度な専門能力を備えた創造性豊かな人材の育成を目指す。

教育目的

豊かな素養と基礎的な学力を身につけるための「基盤」,「教養」,「体験型」の科目群からなる一般教育科目，ならびに基礎数物系，応用数物系，電子系，情報系，応用系の５系列の専門科目をバランスよく配置した教育体系を展開し，ハードウェアとソフトウェアの両方に精通した技術者を育成する。講義，演習などに加えて，実験，実習，卒業研究などの実践的な少人数教育を通して，基礎学力，基礎技術，専門技術，そして優れた問題解決能力と高い倫理性を備えた自律的な技術者を育成する。

電子情報工学科　教育プログラム

電子情報工学科では，以下のＡ～Ｇの区分に対して学習・教育目標を設定し，４年間で修得する科目の位置付けを明確にしています。

Ａ．地球的視点から多方面に物事を考える能力とその素養

Ｂ．技術の社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など，技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）

Ｃ．数学，自然科学，情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

Ｄ．該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

⑴　プログラムの目標実現に必要な基礎となる数理法則と物理原理に関する理論的知識（専門に関する基礎学力）

⑵　プログラムの目標に適合する実験を計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，かつ説明する能力（実験の計画遂行能力）

⑶　プログラムの目標に適合する課題を専門知識，技術を駆使して探求し，組み立て，解決する能力（与えられた専門課題を解決する能力）

⑷　プログラムの示す領域において，技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解する能力（専門的課題の設定能力）

Ｅ．種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

Ｆ．日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議などのコミュニケーション能力および国際的に適用するコミュニケーション基礎能力

Ｇ．変化に対応して自主的，継続的に学習できる能力

区分	学習・教育目標		関連する科目
A	地球上で生活する人間の諸課題を，文化，歴史，言語，科学などの視点から多面的に理解し，考える能力を養う。		〈一般教育科目〉 ［基盤］科目群 ［教養］科目群 ［体験型］科目群
B	［教養］科目の中の環境に関する科目群を通して，電子情報工学の社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力を深めるとともに，「工学倫理」を通して技術者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。（技術者倫理）	B－1　人類が健全に生存するための地球環境に関する基礎知識の習得と電子情報技術者として環境を保全する責務を考える力を養う。	〈一般教育科目〉 ［教養］科目 「環境生物科学Ⅰ・Ⅱ」，「物質科学」，「物質環境科学」，「地球科学Ⅰ・Ⅱ」，「宇宙科学Ⅰ・Ⅱ」，「地球環境セミナーⅠ・Ⅱ」，「宇宙科学セミナーⅠ・Ⅱ」，「環境生物科学セミナーⅠ・Ⅱ」，「化学セミナーⅠ・Ⅱ」
		B－2　電子情報技術者として，専門技術の研究，開発，実施において，全人類社会の幸福と福祉に貢献し，また，地球資源の有効利用において技術者の責任を自覚し，環境にも配慮する倫理観を身につけ，考える能力を養う。	〈専門科目〉 ［応用系］科目 「工学倫理」 〈一般教育科目〉 ［教養］科目 「倫理学Ⅰ・Ⅱ」
C	〈一般教育科目〉［教養］，［基盤］科目の数学，物理，情報に関する科目，および〈専門科目〉［基礎数物系］，［応用数物系］科目，ならびに１，２年次の［電子系］，［情報系］の科目などを通して，数学，物理，電子工学，情報工学の基礎知識を習得するとともに「計算機実習」，「電子情報工学実験」，「プロジェクト実習」を通して基礎力を養う。	C－1　線形代数学，微分積分学などを通して数理法則の基礎概念と一般的法則を理解するとともに，応用数学，数理工学などにおいて具体的な数学的課題を解決する能力を身につける。	〈一般教育科目〉 ［教養］科目 「数学概論Ⅰ・Ⅱ」，「数学セミナーⅠ・Ⅱ」 〈専門科目〉 ［基礎数物系］科目 「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」，「微分積分学Ⅰ・Ⅱ」，「幾何学序論」，「幾何学Ⅰ・Ⅱ」，「確率統計」，「数理統計学」，「代数学序論」，「代数学Ⅰ・Ⅱ」，「解析学序論」，「解析学Ⅰ・Ⅱ」 ［応用数物系］科目 「応用数学Ⅰ・Ⅱ」，「数理工学」，「数値解析Ⅰ・Ⅱ」
		C－2　自然科学に関する基礎的知識を身につけ，自然界を支配する基本的法則や現象を理解し，電子情報工学を広い視点で理解する基礎的能力を養う。	〈一般教育科目〉 ［教養］科目 「物理学概論Ⅰ・Ⅱ」，「自然科学特別講義」 〈専門科目〉 ［基礎数物系］科目 「物理学Ⅰ・Ⅱ」 ［応用数物系］科目 「工業物理学」
		C－3　電気・電子に関する基礎理論を習得するとともに，電子情報工学実験を通して電気・電子現象を具体的に理解するための基礎技能を身につけ，課題を解決する能力を養う。	［電子系（１，２年次）］科目 「電子工学基礎Ⅰ・Ⅱ」，「電気回路基礎」，「電気回路Ⅰ・Ⅱ」，「電気磁気学Ⅰ・Ⅱ」，「電子回路Ⅰ」，「電子物性」，「固体電子工学」，「電子情報工学実験Ⅰ」
		C－4　情報処理技術の基礎的な知識を習得するとともに，計算機実習を通してコンピュータリテラシーを含む基本的な情報処理能力を身につける。	〈一般教育科目〉 ［基盤］科目 「コンピュータ科学」，「情報技術論」，「情報と社会」 〈専門科目〉 ［情報系（１，２年次）］科目 「情報工学基礎Ⅰ・Ⅱ」，「情報リテラシー演習」，「プログラミング序論」，「計算機アーキテクチャⅠ・Ⅱ」，「オペレーティングシステム」，「計算機言語学Ⅰ」，「計算機実習Ⅰ・Ⅱ」
D	３年次以降の［電子系］，［情報系］および［応用系］科目を通して，電子情報技術者にとって必要な専門的基礎知識を習得する。さらに，「計算機実習」，「電子情報工学実験」，「プロジェクト実習」，「卒業研究」を通して，応用能力と問題解決能力を養う。	D－1　電子系科目の基礎理論の知識に基づき，エレクトロニクスに関する専門的な知識を習得し，エレクトロニクスに関連した問題を解決するための応用能力を養う。	［電子系（３，４年次）］科目 「電子デバイス」，「論理回路」，「電子回路Ⅱ」，「電気電子材料学」，「集積回路」，「光エレクトロニクス」，「電子情報工学実験Ⅱ」，「電波工学」，「プロジェクト実習」
		D－2　情報系科目の基礎知識に基づき，情報処理技術に関する専門的な知識を習得し，情報処理技術に関連した問題を解決するための応用能力を養う。	［情報系（３，４年次）］科目 「データ工学」，「情報理論」，「自然言語処理」，「画像工学」，「計算機言語学Ⅱ」，「アルゴリズム通論」，「知識情報工学」，「システムとネットワーク」，「計算機実習Ⅲ」，「プロジェクト実習」
		D－3　電子系および情報系科目の基礎理論と知識に基づき，計測，制御，通信などの分野における専門的な知識を習得し，それらに関連した問題を解決するための応用能力を養う。	［応用系］科目 「電子計測」，「光工学Ⅰ・Ⅱ」，「制御工学Ⅰ・Ⅱ」，「通信工学通論」，「音響工学」，「電気工学通論」，「情報通信システム」，「センサ工学」，「システム工学」，「通信法規」，「卒業研究」
E	３年次以降の「計算機実習」，「電子情報工学実験」，「プロジェクト実習」および「卒業研究」などを通して，計算機プログラムの作成・実行や実験の計画・遂行を自律しておこない，結果を工学的に考察し，まとめる能力を養い，社会の要求を踏まえて課題を設定し解決できるデザイン能力を養う。		〈専門科目〉 「計算機実習Ⅲ」，「電子情報工学実験Ⅱ」，「プロジェクト実習」，「インターンシップ」，「卒業研究」
F	一般教育科目の外国語，［人文科学］，［社会科学］，［北海道学］の科目群を通して，多様な文化を学び，相手と正しく理解し合えるコミュニケーション能力を養う。国際的に交流するための基礎能力は複数の英語科目を通して学び，学術発表能力はプレゼンテーション技法とあわせて「卒業研究」などで学ぶ。		〈一般教育科目〉 ［基盤］科目 「外国語」科目群 ［教養］科目 「人文科学」科目群，「社会科学」科目群，「北海道学」科目群 〈専門科目〉 「基礎演習」，「卒業研究」，「プレゼンテーション」
G	「卒業研究」を通して，習得した専門知識と自らの判断能力を駆使して，直面する研究テーマにねばり強く継続的に取り組む学習能力を養うとともに，課題を解決し，それを説明するために自主的，継続的に学習する能力を養う。		〈専門科目〉 「卒業研究」

電子情報工学科開講科目系統図

区分		1年		2年		3年		4年	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
一般教育科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体 情報 教養科目 人文科学 社会科学 自然科学 北海道学 キャリア形成科目 体験型科目 留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （山鼻校舎において開講）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎において開講）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎において開講）	
専門教育科目	基礎数物系	**線形代数学Ⅰ** **物理学Ⅰ** 確率統計	**線形代数学Ⅱ** **微分積分学Ⅰ** **物理学Ⅱ** 代数学序論 幾何学序論 解析学序論	**微分積分学Ⅱ** 幾何学Ⅰ 数理統計学 代数学Ⅰ 解析学Ⅰ	幾何学Ⅱ 代数学Ⅱ 解析学Ⅱ				
	応用数物系			**応用数学Ⅰ** **工業物理学**	応用数学Ⅱ	**数理工学**	**数値解析Ⅰ**	数値解析Ⅱ	
	電子系	電子工学基礎Ⅰ	電子工学基礎Ⅱ 電気回路基礎	**電気回路Ⅰ** **電気磁気学Ⅰ** **電子物性**	電気回路Ⅱ 電気磁気学Ⅱ 固体電子工学 **電子回路Ⅰ**	**電子デバイス** 電子回路Ⅱ	光エレクトロニクス 論理回路 電波工学	電気電子材料学 集積回路	
	情報系	情報工学基礎Ⅰ	情報工学基礎Ⅱ	**計算機アーキテクチャⅠ** **プログラミング序論**	計算機アーキテクチャⅡ オペレーティングシステム **計算機言語学Ⅰ**	計算機言語学Ⅱ 画像工学 システムとネットワーク データ工学	アルゴリズム通論 自然言語処理 情報理論	知識情報工学	
	応用系				**電子計測** プレゼンテーション	**光工学Ⅰ** **制御工学Ⅰ** 通信工学通論 **工学倫理**	光工学Ⅱ 制御工学Ⅱ 電気工学通論 音響工学 情報通信システム	センサ工学 システム工学 通信法規	
	実習等実験	情報リテラシー演習 基礎演習		**計算機実習Ⅰ**	**計算機実習Ⅱ** **電子情報工学実験Ⅰ**	計算機実習Ⅲ **電子情報工学実験Ⅱ** インターンシップ	プロジェクト実習	**卒業研究**	
	自由科目	数学演習	物理学演習						

太字：必修科目

進級および卒業要件・目標修得単位

1．進級要件（1年次から2年次へ）

以下の要件を満たした1年次学生は，2年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は，1年次に留め置きとなります。

一般教育科目……14単位以上修得
専門教育科目　選択……6単位以上修得（基礎数物系及び自由科目を除く）

この単位数は，「1年次に修得しておく必要のある最低限の単位数」を元に設定しており，進級や卒業に向けて安心できる単位数ではありません。したがって，後述の目標修得単位を元に慎重に履修計画を立てる必要があります。

2．進級要件（3年次から4年次へ）

以下の要件を満たした3年次学生は，4年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は，3年次に留め置きとなります。

総単位数……90単位以上修得

90単位には自由科目の単位は含まれません。この単位数は，過去の例から「卒業の可能性が最低限残されている」との判断から設定されています。しかし，90単位程度で進級した場合には，下級年次の科目を多数履修しながら卒業研究を行うことになるので卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3．卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。卒業見込証明書がない場合には，就職活動に大きな支障となるので注意してください。

総単位数……100単位以上修得

100単位には自由科目の単位は含まれません。この単位数は，過去の例から「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されていますが，卒業を保証するものではありません。卒業見込証明書が発行されても，卒業要件を満足しないために卒業できない場合があります。4年次の開始時に100単位未満であっても，4年次1学期終了時に100単位以上を修得した場合は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

4．卒業要件

電子情報工学科では，学部長が教授会の議を経て以下の単位の修得を認定した者に，学長が卒業を許可します。

一般教育科目……22単位以上
（英語4科目4単位以上を含む）
専門教育科目　必修……54単位
　　選択……44単位以上（基礎数物系を除く）
ほか全体から……8単位以上
} 総計128単位以上

卒業に必要な単位数に自由科目の単位は含まれません。

５．目標修得単位

卒業に必要な単位数は128単位以上なので，単純に１年間の平均修得単位数を計算すると128/４＝32単位となります。しかし，４年次開講の専門教育科目は，20単位（１学期14単位，２学期は通年の卒業研究のみ）しかありません。４年次では，卒業研究や就職活動，大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに128単位は，あくまで最低限の総単位数ですので，総単位数のみを見て機械的に履修することなく，余裕を見ながら卒業に必要な各要件を満たしていく必要があります。一方，あまりに多くの科目を履修した場合には，予習，復習の時間が十分に取れず，結果として不合格になる科目が多くなることも考えられるので，無理の無い履修を勧めます。

一般に，１年次では専門科目基礎数物系の必須科目を履修するとともに，一般教育科目を多く履修することを勧めます。２・３年次では，専門教育科目や実験および実習の比重が高くなるため，多くの科目を履修することは難しくなります。

電子情報工学科では，各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画を立ててください。

１年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	15単位以上(英語２科目２単位を含む)	必修５科目10単位および基礎数物系を除く選択７科目12単位以上	44単位以上

２年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語４科目４単位を含む)	60単位以上	82単位以上

３年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語４科目４単位を含む)	90単位以上	112単位以上

履修上の注意

1．授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で15回の授業があります。毎週１回の授業を一つの学期に受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位,「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により,15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

２・３年次で電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ，計算機実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，プロジェクト実習が２時限連続して行われます。この場合の授業時間数は，一つの学期で２時間×２×15週＝60時間となりますが，各１単位です。また，卒業研究は15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

各科目毎の単位数については,「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

2．授業科目について

各年次に開講されている科目は，原則としてその年次に履修してください。上級年次の者は，下級年次に開講されている科目を履修できますが，下級年次の者は，上級年次に開講されている科目を履修することはできません。

必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には，翌年度に再び履修しなければなりません。選択科目は，自由に選択し履修することができますが，各区分ごとに卒業に必要な単位数が定められていますので注意してください。

各科目区分毎に，その概略と履修上の注意点を記すと以下のようになります。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目（189科目，321単位）

- 外国語科目を除き１年次にすべて豊平校舎で開講されます。これらの科目の中には**２つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。**ただし，両方をともに履修することはできません。
- **２年次に進級後，これらの科目を履修することは校舎が離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から，原則としてできません（体育実技を除く）。**ただし，主に再履修（新規履修も含む）者を対象として，山鼻校舎でも限られた一部の科目を開講しています。
- 英語科目については，１・２年次に開講されます。
- 英語以外の外国語科目として，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語が開講されます。
- 電子情報工学科では，**１・２年次の各学期において１科目１単位以上の英語科目の履修が必要**です。また，**卒業単位数（128単位以上）の中に英語４科目４単位以上**を含んでいなければなりません。
- 英語以外の外国語科目は，韓国・朝鮮語を除いて１～４年次に開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目（27科目，54単位），選択科目（54科目，102単位）

- １～４年次に開講されます。
- 専門教育科目は，〝基礎数物系〟，〝応用数物系〟，〝電子系〟，〝情報系〟，〝応用系〟，〝実験実習等〟の科目群からなっています。
- **１年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎でのみ開講**されます。**２年次に進級後，これらの科目を履修することは，校舎が離れていること，および時間割の制約上から，できません**ので注意してください。
- 卒業研究は，通年で６単位です。
- 自由科目２科目２単位は，卒業単位数には含まれません。

３．その他の注意

講義概要には科目名，担当者，単位数，開講期，開講年次，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで，履修する際の参考にしてください。また，「授業計画」は当初の計画であり，実際の授業の進行状況によっては，変更もあり得ますが，予習・復習の際の参考にしてください。なお，これらの授業科目のうち，一部の選択科目ではその科目の内容によって，履修者を一定人数に制限している場合や，関連する科目を前もって履修しておかなければ，その科目を履修できない場合があります。講義概要には，これらの点についても記載されているので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には，下級年次に開講される科目との関連に注意しなくてはいけない科目が含まれています。したがって，履修する年次だけではなく，次年度以降に履修予定の上級年次の科目の講義概要についても，よく読んでおいてください。

授業開始から履修届の提出期限までの間には，一定の期間が設けられています。授業科目によっては，最初の授業で履修のためのガイダンスが行われる場合があるので，履修する可能性がある場合には，必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，この冊子の最後に受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお，外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目の単位を一般教育科目の単位に算入することができます。

I 教　育　課　程

【生命工学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

生命工学科カリキュラム・マップ

■生命工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし，次の能力・資質を身に付けた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。
(2) 生命科学と情報工学の両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得している。
(3) 生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持っている。
(4) 既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦することができる。
(5) 他者との協働においてコミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，自主性や協調性に基づいて適切に行動することができる。

■生命工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

生命工学科は「人間」と「生命環境」にやさしい先端テクノロジーを中心に，環境調和型のコミュニケーション社会に必要とされる知識とスキルを幅広く学ぶことを目標とします。そのために本学科の専門科目は，理学系科目を中心とした「生命科学系」と，工学系科目を中心とした「人間情報工学系」の２つの柱で構成されます。「生命科学系」では，分子生物学を中心に，ゲノムテクノロジーや分子医学，あるいは近年注目を集めているグリーンテクノロジーなど，急速に発展を続ける「ライフサイエンス」に関する先端知識と基本スキルを習得します。「人間情報工学系」では，人間工学や感性工学，応用情報学など，「人にやさしいテクノロジー」を目指すために必要不可欠な「ヒューマンウェア」に関する先端知識と基本スキルを習得します。

【教育理念】

生命工学科では，生命科学と情報工学のそれぞれの分野で活躍する専門技術者の養成に加え，両分野の専門知識とスキルを併せ持ち，生命と情報が融合した新分野の技術開発に積極的に資することのできる人材を社会に輩出してゆくことを目指しています。そのため，両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得し，生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持つ人材，既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦する人材，そして，他者との協働の際に高いコミュニケーション能力に基づき適切に行動に移せる人材を育成します。

Ⅰ　教育目標

１年次から２年次にかけ広く総合的な判断力や批判力を身につけるために学ぶ「一般教育科目」と，４年間を通じ生命科学と人間情報工学の両分野を深く理解するために開講される「専門教育科目」を，バランスよく習得することが重要であると考えています。

一般教育科目では，言語科目や人文科学・社会科学・自然科学分野の科目について，学生自身の知的好奇心に即した多様な講義の選択ができるようにしています。専門教育は，生命科学系と人間情報工学系の講義ならびに実験・実習科目で構成されており，両分野の専門家として欠くことのできない専門的基礎理論からより高度な専門課程へと，知識とスキルの両面で無理なく着実に学習が展開できるよう配慮されています。

生命系では急速に発展する分子生物学を中心に学び，人間情報系ではこれからの情報コミュニケーション社会に必要なヒューマンウェアに関する情報技術を学びます。また，生命科学と情報工学の両分野の実験・実習科目を必修科目として課し，バイオ技術と情報処理という２つの先端テクノロジーの基本を具体的に体得させ，人間と生命環境にやさしい次世代工学技術の創生に貢献できる意欲的な人材を養成するカリキュラムとなっています。

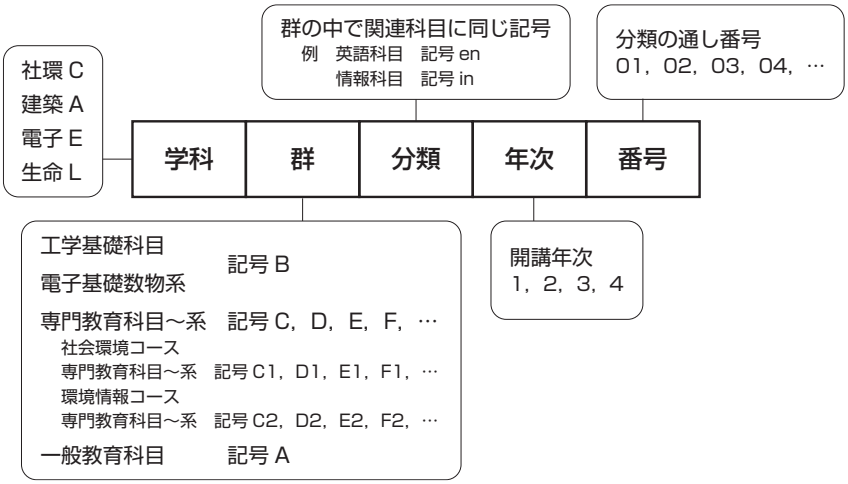
Ⅱ　学習目標

１．様々な学修に通じる基礎的な知識やスキル，リテラシーを習得する。
２．一般的・普遍的な教養を身につける。
３．分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。

4．専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。
5．工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。
6．生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を醸成する。
7．生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。
8．未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。
9．グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得する。
10．他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。
11．他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。
12．他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。

〈到達目標〉		対応する学位授与方針（左から主な順）
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得している。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につけている。	(1)
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得している。	(2) - (4)
D	専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得している。	(2) - (4)
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得している。	(2) - (4)
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有している。	(3) - (5)
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得している。	(3) - (5)
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得している。	(4)
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得している。	(4)
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得している。	(5)
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得している。	(5)
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動できる。	(5)

■工学部ナンバリング



授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
一般教育科目	基盤科目	言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	LAen101	○											
				英語リーディングⅡ	1	1	LAen102	○											
				英語リーディングⅢ	1	2	LAen203	○											
				英語リーディングⅣ	1	2	LAen204	○											
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	LAen105	○											
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	LAen106	○											
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	LAen207	○											
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	LAen208	○											
				英語特講Ⅰ	1	1	LAen109	○											
				英語特講Ⅱ	1	1	LAen110	○											
				英語ライティングⅠ	1	1	LAen111	○											
				英語ライティングⅡ	1	1	LAen112	○											
				英語文化演習Ⅰ	2	2	LAen213	○											
				英語文化演習Ⅱ	2	2	LAen214	○											
			共通	世界の言語と文化	2	1	LAla101	○											
			ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	LAge101	○											
				ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	LAge102	○											
				ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	LAge203	○											
				ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	LAge204	○											
				ドイツ語会話Ⅰ	1	1	LAge105	○											
				ドイツ語会話Ⅱ	1	1	LAge106	○											
				ドイツ語文化Ⅰ	2	1	LAge107	○											
				ドイツ語文化Ⅱ	2	2	LAge208	○											
				ドイツ語文化Ⅲ	2	2	LAge209	○											
				ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	LAge310	○											
				ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	LAge311	○											
				ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	LAge312	○											
				ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	LAge313	○											
				ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	LAge414	○											
				ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	LAge415	○											
			フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	LAfr101	○											
				フランス語基礎Ⅱ	1	1	LAfr102	○											
				フランス語基礎Ⅲ	1	2	LAfr203	○											
				フランス語基礎Ⅳ	1	2	LAfr204	○											
				フランス語会話Ⅰ	1	1	LAfr105	○											
				フランス語会話Ⅱ	1	1	LAfr106	○											
				フランス語文化Ⅰ	2	1	LAfr107	○											
				フランス語文化Ⅱ	2	2	LAfr208	○											
				フランス語文化Ⅲ	2	2	LAfr209	○											
				フランス語文化演習Ⅰ	2	3	LAfr310	○											
				フランス語文化演習Ⅱ	2	3	LAfr311	○											
				フランス語言語演習Ⅰ	2	3	LAfr312	○											
				フランス語言語演習Ⅱ	2	3	LAfr313	○											
				フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	LAfr414	○											
				フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	LAfr415	○											
			中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	LAch101	○											
				中国語基礎Ⅱ	1	1	LAch102	○											
				中国語基礎Ⅲ	1	2	LAch203	○											
				中国語基礎Ⅳ	1	2	LAch204	○											
				中国語会話Ⅰ	1	1	LAch105	○											
				中国語会話Ⅱ	1	1	LAch106	○											
				中国語文化Ⅰ	2	1	LAch107	○											
				中国語文化Ⅱ	2	2	LAch208	○											
				中国語文化Ⅲ	2	2	LAch209	○											
				中国語文化演習Ⅰ	2	3	LAch310	○											
				中国語文化演習Ⅱ	2	3	LAch311	○											
				中国語言語演習Ⅰ	2	3	LAch312	○											
				中国語言語演習Ⅱ	2	3	LAch313	○											
				中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	LAch414	○											
				中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	LAch415	○											

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
一般教育科目	基盤科目	言語	ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	LAru101	○											
				ロシア語基礎Ⅱ	1	1	LAru102	○											
				ロシア語基礎Ⅲ	1	2	LAru203	○											
				ロシア語基礎Ⅳ	1	2	LAru204	○											
				ロシア語会話Ⅰ	1	1	LAru105	○											
				ロシア語会話Ⅱ	1	1	LAru106	○											
				ロシア語文化Ⅰ	2	1	LAru107	○											
				ロシア語文化Ⅱ	2	2	LAru208	○											
				ロシア語文化Ⅲ	2	2	LAru209	○											
				ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	LAru310	○											
				ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	LAru311	○											
				ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	LAru312	○											
				ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	LAru313	○											
				ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	LAru414	○											
				ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	LAru415	○											
			韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	LAko101	○											
				韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	LAko102	○											
				韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	LAko203	○											
				韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1	2	LAko204	○											
				韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1	1	LAko105	○											
				韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1	1	LAko106	○											
				韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1	2	LAko207	○											
				韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1	2	LAko208	○											
				韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2	1	LAko109	○											
				韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2	2	LAko210	○											
				韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2	2	LAko211	○											
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2	3	LAko312	○											
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2	3	LAko313	○											
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2	3	LAko314	○											
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2	3	LAko315	○											
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	LAko416	○											
				韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	LAko417	○											
		身体	－	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	LAsp101	○											
				健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	LAsp102	○											
				体育実技ⅠA	1	1	LAsp103	○											
				体育実技ⅠB	1	1	LAsp104	○											
				体育実技ⅡA	1	1	LAsp105	○											
				体育実技ⅡB	1	1	LAsp106	○											
				体育実技ⅢA	1	1	LAsp107	○											
				体育実技ⅢB	1	1	LAsp108	○											
				体育実技ⅣA	1	1	LAsp109	○											
				体育実技ⅣB	1	1	LAsp110	○											
		情報	－	コンピュータ科学	2	1	LAin101	○											
				情報技術論	2	1	LAin102	○											
				情報と社会	2	1	LAin103	○											
	教養科目	人文科学	自己	哲学	2	1	LAse101		○										
				倫理学Ⅰ	2	1	LAse102		○										
				倫理学Ⅱ	2	1	LAse103		○										
				論理学Ⅰ	2	1	LAse104		○										
				論理学Ⅱ	2	1	LAse105		○										
				社会思想史	2	1	LAse106		○										
				行動科学	2	1	LAse107		○										
				基礎心理学	2	1	LAse108		○										
				人間関係論	2	1	LAse109		○										

授業科目名					単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
								A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
一般教育科目	教養科目	人文科学	文化	日本文学	2	1	LAcu101		○										
				外国文学Ⅰ	2	1	LAcu102		○										
				外国文学Ⅱ	2	1	LAcu103		○										
				言語学Ⅰ	2	1	LAcu104		○										
				言語学Ⅱ	2	1	LAcu105		○										
				芸術論Ⅰ	2	1	LAcu106		○										
				芸術論Ⅱ	2	1	LAcu107		○										
				異文化コミュニケーション	2	1	LAcu108		○										
				現代文化論	2	1	LAcu109		○										
				音声学セミナー	2	1	LAcu110		○										
				一般言語学セミナー	2	1	LAcu111		○										
				デザインセミナーⅠ	2	1	LAcu112		○										
				デザインセミナーⅡ	2	1	LAcu113		○										
			歴史	歴史学Ⅰ	2	1	LAhi101		○										
				歴史学Ⅱ	2	1	LAhi102		○										
				歴史学Ⅲ	2	1	LAhi103		○										
				歴史学Ⅳ	2	1	LAhi104		○										
				考古学	2	1	LAhi105		○										
				人文科学特別講義	2	1	LAhi106									○			
		社会科学	社会構造	法学	2	1	LAso101		○										
				日本国憲法	2	1	LAso102		○										
				経済学	2	1	LAso103		○										
				政治学	2	1	LAso104		○										
				社会学	2	1	LAso105		○										
				マスコミ論	2	1	LAso106		○										
				生涯学習論	2	1	LAso107		○										
			地域	地理学	2	1	LAlo101		○										
				人類学	2	1	LAlo102		○										
				地誌学	2	1	LAlo103		○										
				国際事情	2	1	LAlo104		○										
				カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	LAlo105		○										
				カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	LAlo106		○										
				社会科学特別講義	2	1	LAlo107									○			
		自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	1	LAne101		○										
				地球科学Ⅱ	2	1	LAne102		○										
				環境生物科学Ⅰ	2	1	LAne103		○										
				環境生物科学Ⅱ	2	1	LAne104		○										
				物質科学	2	1	LAne105		○										
				物質環境科学	2	1	LAne106		○										
				宇宙科学Ⅰ	2	1	LAne107		○										
				宇宙科学Ⅱ	2	1	LAne108		○										
				地球環境セミナーⅠ	2	1	LAne109		○										
				地球環境セミナーⅡ	2	1	LAne110		○										
				環境生物科学セミナーⅠ	2	1	LAne111		○										
				環境生物科学セミナーⅡ	2	1	LAne112		○										
				化学セミナーⅠ	2	1	LAne113		○										
				化学セミナーⅡ	2	1	LAne114		○										
				宇宙科学セミナーⅠ	2	1	LAne115		○										
				宇宙科学セミナーⅡ	2	1	LAne116		○										
			普遍性	数学概論Ⅰ	2	1	LAun101		○										
				数学概論Ⅱ	2	1	LAun102		○										
				物理学概論Ⅰ	2	1	LAun103		○										
				物理学概論Ⅱ	2	1	LAun104		○										
				数学セミナーⅠ	2	1	LAun105		○										
				数学セミナーⅡ	2	1	LAun106		○										
				自然科学特別講義	2	1	LAun107									○			
			北海道学	北海道史	2	1	LAho101		○										
				北方圏文化論	2	1	LAho102		○										
				北海道文学	2	1	LAho103		○										
				アイヌの言語と文化	2	1	LAho104		○										
				大学史	2	1	LAho105		○										
				開発研究所特別講義	2	1	LAho106									○			
				北海道学特別講義	2	1	LAho107									○			

授業科目名			単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
一般教育科目	キャリア形成科目	キャリア・ガイダンス	1	1	LAca101		○										
	体験型科目	海外文化Ⅰ	1	1	LAov101		○										
		海外文化Ⅱ	1	1	LAov102		○										
		海外文化Ⅲ	1	1	LAov103		○										
		海外文化Ⅳ	1	1	LAov104		○										
専門教育科目	専門基礎	線形代数学Ⅰ	2	1	LBMa101					○							
		線形代数学Ⅱ	2	1	LBMa102					○							
		微分積分学Ⅰ	2	1	LBMa103					○							
		微分積分学Ⅱ	2	2	LBMa204					○							
		確率統計	2	1	LBMa105					○							
		現代物理学入門	2	1	LBPh106					○							
		物理学Ⅰ	2	1	LBPh107					○							
		物理学Ⅱ	2	2	LBPh208					○							
		物理化学	2	2	LBPh209					○							
		Academic English	2	2	LBEn210										○	○	○
		シュミレーション科学	2	3	LBSi311					○				○			
		WEBビジネス論	2	3	LBBu312					○				○	○	○	
		科学技術英語	2	3	LBEn313					○				○	○	○	
		バイオビジネス論	2	3	LBBu314					○				○	○	○	
		プレゼンテーション	2	3	LBAn315										○	○	○
		生命工学総論	2	1	LBGe116					○			○	○			
	生命科学系	生命工学倫理	2	1	LCLi101						○	○	○	○	○	○	
		化学概論	2	1	LCCh102			○									
		生物学基礎	2	1	LCLi103			○									
		環境工学序論	2	1	LCNe104			○									
		生物学概論	2	1	LCLi105			○									
		有機化学	2	1	LCCh106			○									
		微生物学	2	1	LCLi107			○									
		先端生命科学	2	1	LCLi108			○		○		○	○		○	○	○
		環境・エネルギーシステム論	2	2	LCNe209			○									
		生物多様性論	2	1	LCLi110			○									
		地球環境論	2	2	LCNe211			○									
		生化学Ⅰ	2	2	LCCh212			○		○		○	○	○			
		生化学Ⅱ	2	2	LCCh213			○									
		分子生物学Ⅰ	2	2	LCLi214			○									
		分子生物学Ⅱ	2	2	LCLi215			○									
		バイオテクノロジーセミナー	2	3	LCLi316			○					○	○	○	○	○
		細胞生物学Ⅰ	2	3	LCLi317			○			○	○		○	○	○	○
		細胞生物学Ⅱ	2	3	LCLi318			○			○	○		○	○	○	○
		遺伝子工学Ⅰ	2	3	LCGe319			○									
		遺伝子工学Ⅱ	2	3	LCGe320			○									
		バイオインフォマティクス	2	3	LCLi321			○									
		生命科学の未来	2	4	LCLi422			○			○	○	○	○	○	○	○
	人間情報工学系	情報処理論	2	1	LDIn101					○							
		アルゴリズム概論	2	2	LDCo202				○	○		○					
		コンピュータアーキテクチャ	2	2	LDCo203				○								
		データベースとネットワーク	2	2	LDCo204				○	○							
		システム概論	2	2	LDCo205				○	○		○					
		言語処理概論	2	2	LDCo206				○	○			○				
		ソフトウェア通論	2	2	LDCo207				○	○		○	○	○	○		
		情報セキュリティ	2	3	LDIn308					○	○						
		情報マネジメント	2	3	LDIn309				○								
		人間工学概論	2	2	LDTe210				○	○							
		計測工学	2	2	LDTe211				○								
		社会心理学	2	2	LDSo212				○								
		感覚情報処理	2	3	LDIn313				○	○							
		情報数理学Ⅰ	2	3	LDIn314				○								
		情報数理学Ⅱ	2	3	LDIn315				○								
		情報理論	2	3	LDIn316				○								
		音声工学概論	2	3	LDTe317				○								
		生活支援工学	2	3	LDTe318				○								
		運動機能計測	2	4	LDMe419				○								
		ユニバーサルデザイン論	2	4	LDDe420				○								

授業科目名			単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
専門教育科目	実験・実習・演習	地学実験	1	1	LEEx101								○	○	○	○	○
		生物学実験	1	2	LEEx202								○	○	○	○	○
		物理学実験	1	3	LEEx303								○	○	○	○	○
		化学実験	1	2	LEEx204								○	○	○	○	○
		バイオテクノロジー実習Ⅰ	1	3	LEPr305			○					○	○	○	○	○
		バイオテクノロジー実習Ⅱ	1	3	LEPr306			○					○	○	○	○	○
		情報リテラシー演習	1	1	LEPr107					○					○		
		データ解析演習	1	2	LEPr208								○	○	○	○	
		プログラミング実習Ⅰ	1	2	LEPr209				○						○	○	
		プログラミング実習Ⅱ	1	3	LEPr310				○				○	○	○	○	○
		情報数理学演習	1	3	LEPr311								○	○	○	○	
		WEBデザイン演習	1	3	LEPr312								○	○	○	○	○
		人間計測工学実験	1	4	LEEx413					○					○		○
		インターシップA	1	3	LEWo314								○	○	○	○	○
		インターシップB	2	3	LEWo315								○	○	○	○	○
		卒業研究	6	4	LERe416						○	○	○	○	○	○	○

生命工学科 カリキュラム・ツリー

【DP1】
学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。

【DP2】
生命科学と情報工学の両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得している。

【DP3】
生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持っている。

DP1
【到達目標】（A）
さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得している。

DP1
【到達目標】（B）
一般的・普遍的な教養を身につけている。

DP2 DP4
【到達目標】（C）2
分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得している。

DP2 DP4
【到達目標】（D）
専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得している。

DP2 DP4
【到達目標】（E）
工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得している。

DP3 DP5
【到達目標】（F）
生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有している。

4年次

3年次

2年次

1年次

一般教育科目（基盤科目）

一般教育科目（教養科目）

専門基礎科目

- シュミレーション科学
- WEB ビジネス論
- 科学技術英語
- バイオビジネス論
- プレゼンテーション
- 微分積分学Ⅱ
- 物理学Ⅱ
- 物理化学
- Academic English
- 線形代数学Ⅰ
- 線形代数学Ⅱ
- 微分積分学Ⅰ
- 現代物理学入門
- 物理学Ⅰ
- 確率統計
- 生命工学総論

生命

- 生命科学の未来
- バイオテクノロジーセミナー
- 細胞生物学Ⅰ
- 遺伝子工学Ⅰ
- 環境・エネルギーシステム論
- 生化学Ⅰ
- 分子生物学Ⅰ
- 生物学概論
- 生命工学倫理
- 生物学基礎
- 有機化学
- 先端生命科学

【DP4】
既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦することができる。

【DP5】
他者との協働においてコミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，自主性や協調性に基づいて適切に行動することができる。

DP3 DP5
【到達目標】（G）
生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得している。

DP4
【到達目標】（H）
未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得している。

DP4
【到達目標】（I）
グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得している。

DP5
【到達目標】（J）
他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得している。

DP5
【到達目標】（K）
他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得している。

DP5
【到達目標】（L）
他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動することができる。

専門科目

科学系

バイオインフォマティクス
細胞生物学Ⅱ
遺伝子工学Ⅱ

地球環境論
生化学Ⅱ
分子生物学Ⅱ

化学概論
環境工学序論
微生物学
生物多様性論

人間情報工学系

運動機能計測
ユニバーサルデザイン論

感覚情報処理
情報理論
情報数理学Ⅰ
情報数理学Ⅱ
情報セキュリティ
情報マネジメント
音声工学概論
生活支援工学

コンピュータアーキテクチャ
データベースとネットワーク
アルゴリズム概論
システム概論
言語処理概論
ソフトウェア通論
人間工学概論
計測工学
社会心理学

情報処理論

実験・実習・演習

人間計測工学実験
卒業研究

物理学実験
プログラミング実習Ⅱ
バイオテクノロジー実習Ⅰ
バイオテクノロジー実習Ⅱ
情報数理学演習
WEB デザイン演習
インターシップ A
インターシップ B

生物学実験
化学実験
データ解析演習
プログラミング実習Ⅰ

地学実験
情報リテラシー演習

生命工学科　初年次教育プログラム

生命工学科では，以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は，工学部生命工学科の１年次学生である。

プログラムのねらい

（プログラムの目標）

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は，「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では，明確な答えが準備された問いを与えられ，その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は，試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく，学習時間の管理では，主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では，自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められる。どのような科目を習得するかを，各自の興味や将来ビジョンに基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約はあるが，自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが，高校までとは明確に異なる点であろう。また自身が決めた「学び」に対して，学習スケジュールを設計し，日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に，自習の時間，部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で，大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには，自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場は，試験の答案用紙への正解の記載にとどまらず，論文やレポートの作成，ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐に渡る。その過程では，自分の考えをわかりやすく表明し他者に理解してもらうことが求められる。また自分の考えをより客観的で深みのあるものにするために，他者の意見に耳を傾ける能力も必要になる。実社会には答えのない問いや対立する考え方が多くあり，合意形成することが難しい問いが存在することを理解し，それらに対する実践的な対処法や合理的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し，大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として，生命工学科では以下の４テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。初年次にこのプログラムを習得することで，大学での「学び」を充実した有意義なものとし，卒業後の社会活動・人生設計の知的基盤として活用できるようになることを期待している。

（学生の学習目標）

本プログラムを受講する学生には，以下の事項を習得してもらう。

・少人数のグループにおいて，多様な意見を引き出せるような場を作る能力
・答えのない問いに対して，他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
・数十人が集まる場において，自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明する能力
・口頭で自らの考えを述べる際に用いるプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのパソコン操作
・レポート課題や論文などの科学技術文章を作成する際に必要となる考え方
・科学技術文章を効率的に作成するためのパソコン操作
・本学科で学びを継続していくための動機
・大学での学びと課外活動を両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ　生命工学科の初年次教育は，以下の４テーマから成る。

1．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び
2．レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ＆表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び
3．学科での学びに対する動機付け
4．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画　上記の４テーマの学修を，以下に示す１年次専門科目・講義回において行う。

１．協働，プレゼンテーション，ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び

【生命工学倫理】　担当：髙橋　考太

第９回　　ディスカッションと合意形成（Ⅰ）：テーマ：いつ人になりいつ人でなくなるのか？

第14回　　ディスカッションと合意形成（Ⅱ）：テーマ：生命の商品化とエンハンスメント

【情報リテラシー演習】　担当：喜田　拓也，越前谷　博

第６回　　PowerPointを用いた資料作成（作図とプレゼンテーション）

【先端生命科学】　担当：水谷　武臣

第８回　　グループワーク１：先端の生命科学技術を用いた研究テーマの創出について，グループでディスカッションし，発表する

第15回　　グループワーク２：生命科学と情報科学技術を融合させた研究テーマの創出について，グループでディスカッションし，発表する

２．レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ＆表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び

【現代物理学入門】　担当：森越　文明

第７回　　レポートにおけるわかりやすい文章の書き方について

【情報リテラシー演習】　担当：喜田　拓也，越前谷　博

第３回　　Excelを用いた表計算１（基本操作とグラフの作成）

第４回　　Excelを用いた表計算２（データ処理）

第５回　　Wordを用いた文書作成（文書の構造とレイアウト）

３．学科での学びに対する動機付け

【生命工学総論】　担当：生命工学科の全教員

第２～15回　各回の担当教員が生命工学科での基礎的な学びの先にある研究の話をし，受講生の学習意欲を向上させる

４．学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

【生命工学総論】　担当：生命工学科の教務委員

第１回　　生命工学科で学んでいく上での心構え

Ⅰ 教　育　課　程

【生命工学科】

2017年度（平成29年度）以降入学者

区分	学習・教育到達目標	関連する科目
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	「一般教育科目，基盤科目」全体
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	「一般教育科目，教養科目」全体
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。	「専門教育科目，B群：生命科学系」全体
D	専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。	「専門教育科目，C群：人間情報工学系」全体
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。	「専門教育科目，A群：専門基礎」全体，情報処理論
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有する。	生命工学倫理，情報セキュリティ
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。	先端生命科学，ソフトウェア通論
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，生化学Ⅰ，言語処理概論
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，バイオテクノロジーセミナー
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，細胞生物学Ⅰ
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，生命科学の未来

生命工学科開講科目系統図

区分			1年 1学期	1年 2学期	2年 1学期	2年 2学期	3年 1学期	3年 2学期	4年 1学期	4年 2学期
一般教育科目			基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体 情報 教養科目 人文科学 社会科学 自然科学 北海道学 キャリア形成科目 体験型科目 留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）	
専門教育科目	専門基礎	A群	**[生命工学総論]** 線形代数学Ⅰ 確率統計 現代物理学入門	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ	物理学Ⅱ 微分積分学Ⅱ 物理化学	Academic English	シミュレーション科学 WEBビジネス論 科学技術英語	プレゼンテーション バイオビジネス論		
	生命科学系	B群	**[生命工学倫理]** 生物学基礎 化学概論 環境工学序論	生物学概論 有機化学 微生物学 先端生命科学 生物多様性論	**[生化学Ⅰ]** **[分子生物学Ⅰ]** 環境・エネルギーシステム論	**[生化学Ⅱ]** **[分子生物学Ⅱ]** 地球環境論	**[細胞生物学Ⅰ]** **[遺伝子工学Ⅰ]** [バイオテクノロジーセミナー]	**[細胞生物学Ⅱ]** **[遺伝子工学Ⅱ]** バイオインフォマティクス	生命科学の未来	
	人間情報工学系	C群		**[情報処理論]**	**[アルゴリズム概論]** **[ソフトウェア通論]** 人間工学概論	[データベースとネットワーク] [コンピュータアーキテクチャ] **[システム概論]** **[言語処理概論]** 社会心理学 計測工学	**[情報セキュリティ]** **[情報マネジメント]** 情報数理学Ⅰ 感覚情報処理	情報理論 情報数理学Ⅱ 音声工学概論 生活支援工学	ユニバーサルデザイン論 運動機能計測	
	実験・実習・演習	D群	**[情報リテラシー演習]** 地学実験		**データ解析演習** 生物学実験	**化学実験** **プログラミング実習Ⅰ**	**バイオテクノロジー実習Ⅰ** **プログラミング実習Ⅱ** 情報数理学演習 インターンシップA・B	**バイオテクノロジー実習Ⅱ** 物理学実験 WEBデザイン演習	人間計測工学実験 **卒業研究**	

太字：必修科目　　**[太字]**：選択必修科目

生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数

1．進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当された科目を履修し，以下の要件を満たした1年次学生は2年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は1年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……28単位以上

［注］この単位数は，「1年次に豊平キャンパスで修得しておく必要のある最低限の単位数」です。余裕を持って4年次への進級や卒業ができるように，後述の目標修得単位数を目指して履修計画を立ててください。

2．進級要件（3年次から4年次へ）

3年次までに配当された科目を履修し，以下の要件を満たした3年次学生は4年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は3年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……90単位以上

［注］この単位数の下限は，「卒業の可能性がぎりぎり残されている」と判断される単位数です。しかしながら，90単位程度で進級した場合には，下級年次の授業科目を多数履修しながら卒業研究に取り組むことになりますので，卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3．卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

合計修得単位数……100単位以上

4年次開始時にこの条件を満たさずに卒業見込証明書の発行が受けられなかった場合でも，4年次1学期終了時にこの条件を満たした場合には，その時点で卒業見込証明書の発行を受けることができます。

［注］卒業見込証明書がない場合には，就職活動に大きな支障となるので注意してください。その発行条件は，過去の事例に基づき「卒業の見込みがかなりある単位数」として設定されています。当然のことながら，卒業見込証明書は卒業を保証するものではありません。証明書が発行されても，最終的に卒業要件を満足しないと卒業できません。

4．卒業要件

生命工学科の卒業要件は以下の通りです。この要件を満たした学生について，工学部長が工学部教授会の議を経て単位の修得を認定し，学長が卒業を許可します。

修得単位数

⑴　一般教育科目の言語2科目2単位以上
⑵　専門教育科目80単位以上（必修12単位と選択必修29単位以上を含む）
⑶　一般教育科目および専門教育科目の合計が124単位以上

５．目標修得単位数

卒業に必要な単位数は124単位であり，単純に１年間の平均修得単位数を計算すると124/4＝31単位となります。しかしながら，４年次開講で修得可能な専門教育科目は13単位（１学期開講の７単位と通年開講の卒業研究６単位）しかありません。しかも，４年次では，卒業研究や就職活動，大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに，124単位はあくまで卒業に必要な最低限の単位数であるため，総単位数のみを見て機械的に履修することなく，余裕を持って卒業に必要な各要件を満たしていきましょう。一方，１年間に履修できる単位数の上限は60単位ですが，あまりに多くの科目を履修した場合には，予習，復習の時間が十分に取れず，結果として不合格になることも考えられるため，無理の無い履修を薦めます。

工学部では，１年次の教育は豊平キャンパスで，２年次以降の教育は山鼻キャンパスで行われます。そのため，１年次でしか履修できない科目があることに注意してください。例えば，専門教育科目では，１年次に選択必修科目として生命工学総論，生命工学倫理，情報処理論，情報リテラシー演習の計７単位が開講されています。これらは２年次以降には履修することができませんので，１年次のうちにすべて修得することを薦めます。また，１年次では一般教育科目の選択肢が２年次以降に比べて格段に豊富です。その環境を活かして，人文科学，社会科学，自然科学等の一般教育科目をバランス良く履修することを心がけてみてください。

生命工学科では，各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画をたててください。

１年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	24単位以上（言語２科目２単位を含む）	選択必修４科目７単位と選択９科目18単位	50単位

２年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位（言語２科目２単位を含む）	50単位	82単位

３年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位（言語２科目２単位を含む）	84単位	116単位

４年次終了時

卒業要件に同じ

授業科目履修上の注意

1．授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，原則として各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で原則として15回の授業があります。毎週１回の授業を一つの学期に受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

２・３年次でバイオテクノロジー実習とプログラミング実習が２時限連続して行われます。この場合の授業時間数は，一つの学期で２時間×２×15週＝60時間となります。「実験」と「実習」については，45時間の授業で１単位となりますから，これらの実験と実習の単位は小数点以下が切り捨てられて各１単位となります。また，卒業研究は15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

詳細な科目毎の単位数については，「授業科目と担当者一覧」を参照してください。

２．授業科目について

授業科目には，一般教育科目と専門教育科目という分類とは別に，重要度に応じて必修科目，選択必修科目，選択科目の区別があります。詳しくは「生命工学科開講科目系統図」(p.188) をご覧ください。必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には，翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は必修科目と同様に重要な科目です。卒業要件にある単位数（29単位以上）を履修し修得しなければなりません。選択科目は自由に選択し履修することができる科目です。卒業に必要な単位数（一般教育科目の言語２科目２単位以上，専門科目80単位以上，総修得単位数124単位以上）を満たすように履修してください。

それぞれの授業科目には開講年次が設定されています。各年次に開講されている授業科目は，原則としてその年次において履修することが推奨されます。上級年次生が，下級年次に開講されている授業科目を履修することは時間割上問題が無ければ可能ですが，下級年次生は，上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。履修計画を立てる際には必要な科目・単位数だけでなく開講年次にも注意してください。

以下に一般教育科目と専門教育科目の概略と履修上の注意点を記します。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目

- 豊平校舎で開講される一般教育科目の中には２つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。ただし，両方をともに履修することはできません。
- １年次に開講されている一部の授業科目については，山鼻校舎でも開講しています。
- **２年次に進級後に，豊平校舎で開講されている授業科目を履修することはキャンパスが離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から，原則としてできません**（体育実技を除く）。
- 英語科目と英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）科目は１・２年次に開講されています。
- 生命工学科では，**２科目２単位以上の英語または英語以外の外国語科目の履修が必要**となります。
- 英語以外の外国語科目については，韓国・朝鮮語を除いて１～４年次の各年次にわたって開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目および選択必修科目（28科目，53単位），選択科目（46科目，82単位）

- １～４年次の各年次にわたって開講されます。
- **１年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎でのみ開講**されます。**２年次に進級後に，これらの授業科目を履修することは，キャンパスが離れていること，および時間割の制約上から，できません**ので注意してください。
- 卒業研究は，通年で６単位として実施されます。

３．履修の手引の各授業科目と講義概要の記載事項に関する注意

講義概要には科目名，担当者，単位数，開講期，開講年次，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「事後指導・フィードバック」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで，履修する際の参考にしてください。また，「授業計画」は当初の計画であり，実際の授業の進行状況によっては，変更もあり得ますが，予習・復習の際の参考にしてください。なお，これらの授業科目のうち，一部の選択科目ではその科目の内容によって，授業を行う教室等の施設，設備等の制約から履修者を一定人数に制限している場合や，ある特定の別の関連する授業科目を前もって履修しておかなければ，その授業科目を履修できない場合があります。講義概要には，これらの点についても記載されている場合があるので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には，分野毎に上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはいけない授業科目が含まれています。したがって，履修する年次だけではなく，次年度に履修することになる上級年次の授業科目の講義概要についても，よく読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修届の提出期限までの間には，一定の期間が設けられています。授業科目によっては，最初

の授業の時に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があるので，履修する可能性がある場合には，必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，この冊子の最後にセミナーを受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお，外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目を履修し，修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

Ⅰ 教　育　課　程

【生命工学科】

2012年度（平成24年度）～2016年度（平成28年度）入学者

区分	学習・教育到達目標	関連する科目
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	「一般教育科目，基盤科目」全体
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	「一般教育科目，教養科目」全体
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。	「専門教育科目，B群：生命科学系」全体
D	専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。	「専門教育科目，C群：人間情報工学系」全体
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。	「専門教育科目，A群：生命科学系」全体，情報処理技術
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有する。	生命工学倫理，セキュリティ倫理
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。	ソフトウェア工学
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。	「専門教育科目，F群：実験・実習等」全体，生化学Ⅰ
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得する。	「専門教育科目，F群：実験・実習等」全体
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。	「専門教育科目，F群：実験・実習等」全体
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。	「専門教育科目，F群：実験・実習等」全体，細胞生物学Ⅰ
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。	「専門教育科目，F群：実験・実習等」全体，生命科学の未来

生命工学科開講科目系統図

区分			1年 1学期	1年 2学期	2年 1学期	2年 2学期	3年 1学期	3年 2学期	4年 1学期	4年 2学期
一般教育科目			基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体 情報 教養科目 人文科学 社会科学 自然科学 北海道学 キャリア形成科目 体験型科目 留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）	
専門教育科目	生命科学系	A群	線形代数学Ⅰ 確率統計 物理学Ⅰ	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 物理学Ⅱ	微分積分学Ⅱ 物理学Ⅲ	エネルギー論	シミュレーション科学	地球環境論		
		B群	**生命工学総論** 化学概論 生物学概論	有機化学 微生物学 生命工学倫理	**[生化学Ⅰ]** **[分子生物学Ⅰ]** 物理化学	**[生化学Ⅱ]** **[分子生物学Ⅱ]** 生物多様性論	**[細胞生物学Ⅰ]** **[分子生物学Ⅲ]**	**[細胞生物学Ⅱ]** **[遺伝子工学]** バイオインフォマティクス	生命科学の未来	
	人間情報工学系	C群		**[情報処理技術]**		[人間メディアネットワーク] **[情報数理学Ⅰ]** [コンピュータアーキテクチャ] **[ソフトウエア工学]**	**[セキュリティ倫理]** 情報数理学Ⅱ	情報理論		
		D群			人間工学概論	音声工学概論 計測工学	**[感覚情報処理]** [ヒューマンインタフェース]	生活支援工学	ユニバーサルデザイン論 運動機能計測	
		E群	環境工学概論		地域環境システム論	社会心理学 ICT英語	合意形成論 WEBビジネス論 科学技術英語	バイオビジネス論 プレゼンテーション		
	実験・実習等	F群	**情報リテラシー演習Ⅰ** 地学実験	化学実験	**情報リテラシー演習Ⅱ** 生物学実験	**プログラミング実習Ⅰ** 情報数理学演習	**プログラミング実習Ⅱ** **バイオテクノロジー実習Ⅰ** インターンシップ	**バイオテクノロジー実習Ⅱ** 物理学実験 WEBデザイン演習	人間計測工学実験 **卒業研究**	

太字：必修科目　　**[太字]**：選択必修科目

生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数

1．進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当された科目を履修し，以下の要件を満たした1年次学生は2年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は1年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……23単位以上（一般教育科目14単位以上と専門教育科目9単位以上を含む）

［注］この単位数は，「1年次に豊平キャンパスで修得しておく必要のある最低限の単位数」です。余裕を持って4年次への進級や卒業ができるように，後述の目標修得単位数を目指して履修計画を立ててください。

2．進級要件（3年次から4年次へ）

3年次までに配当された科目を履修し，以下の要件を満たした3年次学生は4年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は3年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……90単位以上（一般教育科目のうち英語科目2科目2単位以上を含む16単位以上と専門教育科目60単位以上を含む）

［注］この単位数の下限は，「卒業の可能性がぎりぎり残されている」と判断される単位数です。しかしながら，90単位程度で進級した場合には，下級年次の授業科目を多数履修しながら卒業研究に取り組むことになりますので，卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3．卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は，卒業見込証明書の発行を受けることができます。

合計修得単位数……100単位以上

4年次開始時にこの条件を満たさずに卒業見込証明書の発行が受けられなかった場合でも，4年次1学期終了時にこの条件を満たした場合には，その時点で卒業見込証明書の発行を受けることができます。

［注］卒業見込証明書がない場合には，就職活動に大きな支障となるので注意してください。その発行条件は，過去の事例に基づき「卒業の見込みがかなりある単位数」として設定されています。当然のことながら，卒業見込証明書は卒業を保証するものではありません。証明書が発行されても，最終的に卒業要件を満足しないと卒業できません。

4．卒業要件

生命工学科の卒業要件は以下の通りです。この要件を満たした学生について，工学部長が工学部教授会の議を経て単位の修得を認定し，学長が卒業を許可します。

修得単位数について，

⑴　一般教育科目22単位以上　（英語2科目2単位以上を含む）
⑵　専門教育科目70単位以上　（必修16単位と選択必修24単位以上を含む）
⑶　一般教育科目および専門教育科目の合計が124単位以上

５．目標修得単位

卒業に必要な単位数は124単位であり，単純に１年間の平均修得単位数を計算すると124/4＝31単位となります。しかしながら，４年次開講で修得可能な専門教育科目は13単位（１学期開講の７単位と通年開講の卒業研究６単位）しかありません。しかも，４年次では，卒業研究や就職活動，大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに，124単位はあくまで卒業に必要な最低限の単位数であるため，総単位数のみを見て機械的に履修することなく，余裕を持って卒業に必要な各要件を満たしていきましょう。一方，１年間に履修できる単位数の上限は60単位ですが，あまりに多くの科目を履修した場合には，予習，復習の時間が十分に取れず，結果として不合格になることも考えられるため，無理の無い履修を薦めます。

工学部では，１年次の教育は豊平キャンパスで，２年次以降の教育は山鼻キャンパスで行われます。そのため，１年次でしか履修できない科目があることに注意してください。１年次では専門科目の生命工学総論と情報リテラシー演習Ｉを必須に修得する必要がありますが，卒業に必要な数の一般教育科目を履修してしまうことも薦めます。２年・３年次では，専門教育科目や実験及び実習の比重が高くなるため，多くの一般教育科目を履修することは難しくなります。

生命工学科では，各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて学習計画をたててください。

１年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	26単位以上(英語２科目２単位を含む)	必修２科目３単位および選択必修１科目と選択９科目20単位	50単位

２年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位（英語２科目２単位を含む）	50単位	82単位

３年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位（英語２科目２単位を含む）	84単位	116単位

４年次卒業時

卒業要件に同じ

授業科目履修上の注意

1．授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

> 各授業科目の単位数の計算は，次の各号に掲げる基準による。
> ⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
> ⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。
> 　ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。
> ⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

授業時間は90分を単位（１時限）として，原則として各曜日とも５時限で授業時間割が組まれています。毎週１回（１時限）の授業（45分を１時間として計算）を２時間とし，一つの学期で原則として15回の授業があります。毎週１回の授業を一つの学期に受けた場合には，通算の授業時間は２時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には２単位，「外国語，演習，体育実技」の場合には１単位として計算されます。外国語科目については，さらに以下のことが定められています（工学部規則第４条）。

> 外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

15時間の授業をもって１単位とする科目は，以下のとおりです。

> 英語文化演習Ⅰ及びⅡ
> 世界の言語と文化
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化Ⅰ，Ⅱ及びⅢ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
> （ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週１回（１時限）の授業が行われるので，通算の授業時間は30時間となり，２単位として計算されます。上記以外の外国語科目については，通算の授業時間は同様に30時間ですが，すべて１単位として計算されます。

２・３年次でバイオテクノロジー実習とプログラミング実習が２時限連続して行われます。この場合の授業時間数は，一つの学期で２時間×２×15週＝60時間となります。「実験」と「実習」については，45時間の授業で１単位となりますから，これらの実験と実習の単位は小数点以下が切り捨てられて各１単位となります。また，卒業研究は15時間の授業をもって１単位となります（工学部規則第４条）。

詳細な各科目毎の単位数については，「授業科目と担当者一覧」を参照してください。

２．授業科目について

授業科目には，一般教育科目と専門教育科目という分類とは別に，重要度に応じて必修科目，選択必修科目，選択科目の区別があります。詳しくは「生命工学科開講科目系統図」(p.198) をご覧ください。必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には，翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は必修科目と同様に重要な科目です。卒業要件にある単位数（24単位以上）を履修し修得しなければなりません。選択科目は自由に選択し履修することができる科目です。卒業に必要な単位数（英語２科目２単位を含む一般教育科目22単位以上，専門科目70単位以上，総修得単位数124単位以上）を満たすように履修してください。

それぞれの授業科目には開講年次が設定されています。各年次に開講されている授業科目は，原則としてその年次において履修することが推奨されます。上級年次生が，下級年次に開講されている授業科目を履修することは時間割上問題が無ければ可能ですが，下級年次生は，上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。履修計画を立てる際には必要な科目・単位数だけでなく開講年次にも注意してください。

以下に一般教育科目と専門教育科目の概略と履修上の注意点を記します。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目

- 豊平校舎で開講される一般教育科目の中には２つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され，どちらを履修しても良い場合があります。ただし，両方をともに履修することはできません。
- １年次に開講されている一部の授業科目については，山鼻校舎でも開講しています。
- **２年次に進級後に，豊平校舎で開講されている授業科目を履修することはキャンパスが離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から，原則としてできません**（体育実技を除く）。
- 英語科目と英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，韓国・朝鮮語）科目は１・２年次に開講されています。
- 生命工学科では，**２科目２単位以上の英語の履修が必要**となります。
- 英語以外の外国語科目については，韓国・朝鮮語を除いて１～４年次の各年次にわたって開講されています。ただし，３・４年次に開講されている外国語科目は，豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目および選択必修科目（24科目，49単位），選択科目（47科目，87単位）

- １～４年次の各年次にわたって開講されます。
- **１年次に配当されている専門教育科目は，豊平校舎でのみ開講**されます。**２年次に進級後に，これらの授業科目を履修することは，キャンパスが離れていること，および時間割の制約上から，できません**ので注意してください。
- 卒業研究は，通年で６単位として実施されます。

３．履修の手引の各授業科目と講義概要の記載事項に関する注意

講義概要には科目名，担当者，単位数，開講期，開講年次，「授業のねらい」，「授業計画」，「準備学習の内容」，「事後指導・フィードバック」，「評価方法・基準」，「履修上の留意点」，「教科書」，「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで，履修する際の参考にしてください。また，「授業計画」は当初の計画であり，実際の授業の進行状況によっては，変更もあり得ますが，予習・復習の際の参考にしてください。なお，これらの授業科目のうち，一部の選択科目ではその科目の内容によって，授業を行う教室等の施設，設備等の制約から履修者を一定人数に制限している場合や，ある特定の別の関連する授業科目を前もって履修しておかなければ，その授業科目を履修できない場合があります。講義概要には，これらの点についても記載されている場合があるので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には，分野毎に上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはいけない授業科目が含まれています。したがって，履修する年次だけではなく，次年度に履修することになる上級年次の授業科目の講義概要についても，よく読んでおくことを薦めます。

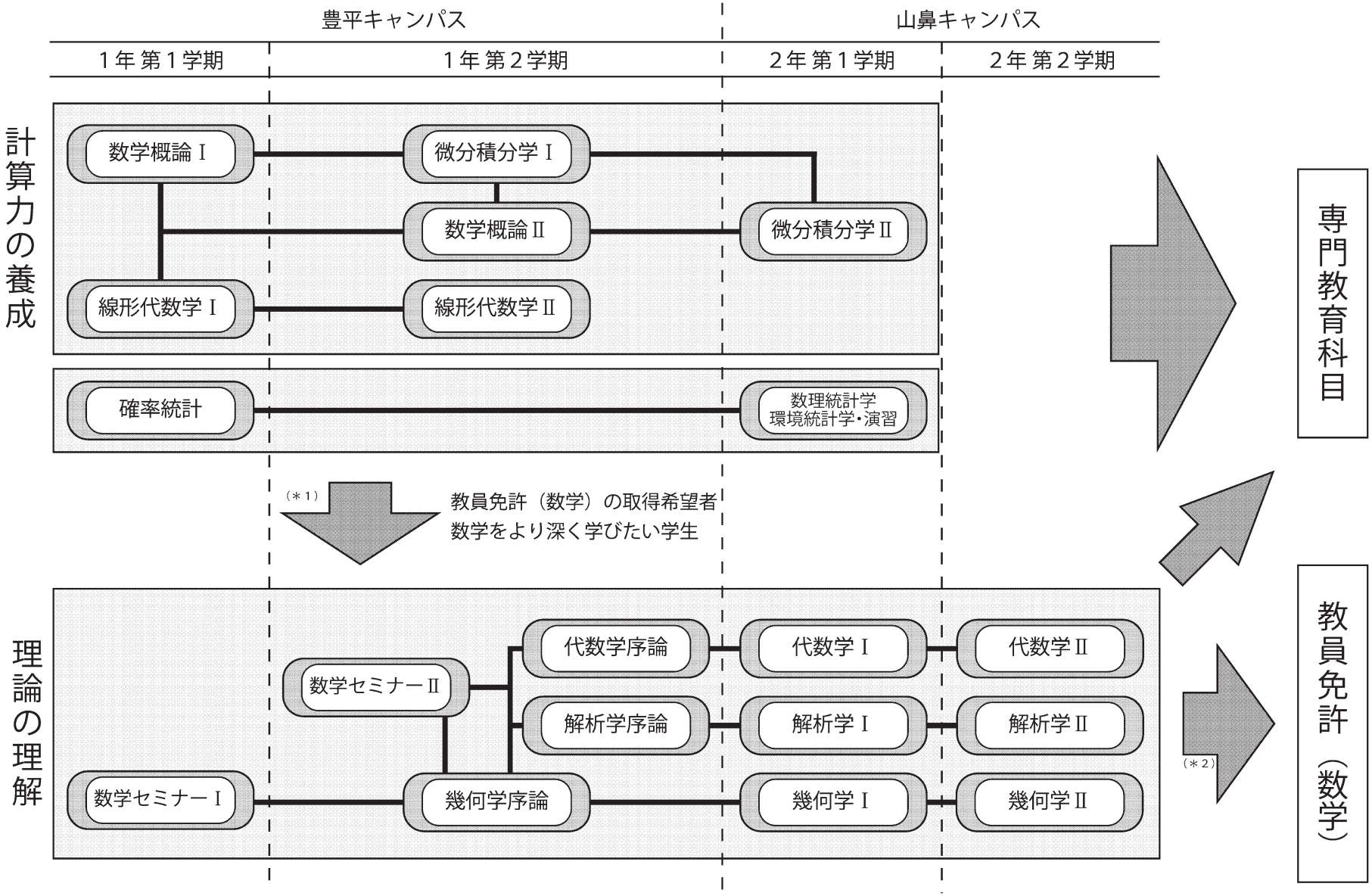
授業開始から履修届の提出期限までの間には，一定の期間が設けられています。授業科目によっては，最初

の授業の時に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があるので，履修する可能性がある場合には，必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては，この冊子の最後にセミナーを受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお，外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており，これらの科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目を履修し，修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

Ⅱ 数学受講に向けてのガイド



（＊1）入学年度や学科によっては開講されていない科目もあるため，「履修の手引」などで確認してください。また，必修・選択の指定も各学科・各コースごとに異なります。
（＊2）教職に関する科目などの履修が必要になります。詳しくは教職課程の「履修の手引」などを見てください。

本学では数学関係科目がたくさん開講されていて，どの科目を履修したらよいのか迷うかもしれません。ここで各科目の内容と特徴を解説しますので，履修上の参考にしてください。なお，学科やコースによって必修科目と選択科目の指定があります。

数学概論，線形代数学，微分積分学は計算力を充実させることを目標にしています。いわば腕力をつけるということです。また，代数学，幾何学，解析学，確率統計は理論面を重視した内容になります。授業内容の詳細は講義概要を参考にしてください。

以下，それぞれのケースに分けて解説します。（前頁，図参照）

● 数学が苦手な人 はまず**数学概論Ⅰ**でしっかり勉強してください。少人数のクラス編成なので，授業の進め方については受講者の学力程度に見合った無理のない形式となります。ノートに自分の解いた問題や配布資料をバラバラにならないように日付を付けてしっかり整理してください。分からないところはそのままにしないで質問してください。あなたの分からないところは他の人が分からないことが多いのです。その積み重ねを毎回することで数学はあなたのものになって行きます。面倒がらずに詰め込みをしないでコツコツと問題を解いてください。予習と復習，図書館の利用をお勧めします。**線形代数学Ⅰ**は行列を主な学習対象として，計算力の充実を本線に線形性の概念を修得することを目標にしていますから，多少数学が苦手な人でも十分ついていけるはずです。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。困ったときは一人で悩まずに担当教員に相談してください。

● 数学が苦手というほどではない人 は，やはり**数学概論Ⅰ**，**数学概論Ⅱ**で確認と補強をしてください。**微分積分学Ⅰ**や**微分積分学Ⅱ**はそれらをもとに広範囲な内容を学習します。ノートをしっかり整理することや予習と復習，図書館の利用は苦手の人の場合と同じです。線形代数学は将来いろいろな所に顔を出してきますので，**線形代数学Ⅰ**の受講を勧めます。**幾何学序論**や**確率統計**の理論主体の科目もチャレンジしてみてはどうでしょうか。数学の核心をなすものは，単なる計算だけではなく厳密な論理展開や証明といったものであることが理解できるはずです。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。分からないときはいつでも良いですから質問を，また困ったときは一人で悩まずに担当教員に相談してください。

● 数学が好き，面白いと思っている人 は，**数学概論Ⅰ**，**数学概論Ⅱ**は復習ということになるでしょう。しかし，通りいっぺんの学習をしただけで消化不良になっていないか，確認をおこたらないでください。線形代数学は将来いろいろな所に顔を出してきます。まずは，入学しての新規科目として**線形代数学Ⅰ**を勉強してください。ノートをしっかり整理し，予習復習を習慣づけ，新たな数学の世界に立ち向かってください。同じ問題でもいろいろな解法があります。図書館を最大限に利用することも大切です。**幾何学序論**や**確率統計**の理論重視の科目で磨きをかけてみてください。今まで学んだ数学とは異なる厳密な論理や緻密な証明にふれることができます。また，**微分積分学Ⅰ**や**微分積分学Ⅱ**では高校で学んだ「数学Ⅲ」を超えた広範囲な内容を学習します。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。あなたの興味と数学の力を伸ばしていってください。分からないときはいつでも質問を，またスランプや壁にぶつかったら一人で悩まずに担当教員に相談してください。

● 数学の教員免許の取得を目指す人 は開講されている数学の科目を全て履修し，修得するようにしてください。図にあるように数学の広い分野にわたる科目が開設されています。特に理論重視の科目である**代数学**，**幾何学**，**解析学**，**確率統計**，**数理統計学**や**環境統計学・演習**は**数学の教職課程の必修科目**になっています。先に学ぶ科目は後で学ぶ科目の基礎になるので，先の分をキッチリ勉強しておけば自然に積み上げが効いて自信が出てくると同時に，数学の本質的な部分も理解できるようになってくると思います。そのときは，単に公式を覚えて適用すれば良いという考えはあなたから消えてしまうでしょう。計算力充実を目標とする科目である**数学概論**，**線形代数学**，**微分積分学**も学習しておきましょう。すでに学習したものは分からなくて困っている人を教えてやるぐらいの余裕も欲しいものです。これから教員の職も厳しくなるようなので，少なくとも数学には自信を持って心配なくやっていけるよう，開講されている科目の受講だけで満足せずに４年間，十分な数学の勉強を積んでください。なお，**代数学序論**，**幾何学序論**，**解析学序論**と**確率統計**は山鼻校舎では開講されていないので，進級してからの受講は大変です。その他の事項も教職課程の「履修の手引」などで十分に確認して受講してください。

● 数学セミナー は平成22年度から新しく始まりました。教職課程の必須科目になっている理論重視科目（主に代数学，幾何学，解析学）を学習していくための力をつけるためのものです。このために，履修者による黒板での発表や証明を常時行いますので，事前の準備やレポートの作成に時間を必要としますが，数学の教員免許を目指す人には受講が欠かせないと言えます。

Ⅲ 工学部１年次一般教育科目のセミナーについて

工学部１年次　一般教育科目のセミナーについて

1．受講希望者は，次ページの一覧表にて受講申込の有無を確認してください。
2．受講申込が必要な科目の受講希望者は，別ページのセミナー受講申込書に必要事項を記入の上，希望するセミナーの初回講義に出席し提出してください。
3．受講申込科目の許可発表は，初回講義時もしくは，受講者数が多数の場合は選抜し数日以内に工学部掲示板で発表します。
　また，再募集するセミナーがある場合は最初の受講許可者発表と同時に掲示しますので，選抜にもれた学生で，受講希望をする場合は担当教員の受講許可を得てください。
4．受講申込科目の履修登録は，必ず受講許可発表の確認をしてから行ってください。（受講許可者以外は履修を認めません。）また，受講許可者以外が履修登録した場合，当該科目は履修登録確認書から削除されますので注意してください。
5．受講申込みが必要な科目の受講を許可された学生は，たとえ履修変更期間であっても，許可なく履修を変更することができませんので，十分検討したうえで申込みをしてください。（※履修変更の可否については次ページで確認してください。）また，履修変更可能な科目であっても，担当教員に許可を得たうえで，履修変更期間内に教務センター窓口まで申し出てください。
6．第２学期受講希望者も第１学期の初回講義に必ず出席してください。（受講申込不要科目を除く。）

※2021年度については，履修登録期間前に，LMSを通じて事前申込を行う科目もありますので，一般教育科目のセミナーを受講予定の学生はLMSを確認してください。

一般教育科目セミナー一覧

科目名	担当教員	受講申込 必要＝○ 不要＝×	履修変更				テーマ
			1学期		2学期		
			追加	削除	追加	削除	
①音声学セミナー	小野　智香子	×	×	○	×	○	人間の音声はどのように生み出されるのか
②一般言語学セミナー		×	×	○	×	○	未知の言語を解読する方法を学ぶ
①デザインセミナーⅠ	原井　憲二	○	×	○	要相談	○	構想を練り，イメージしたものを形にする，一連の行為としてのデザイン
②デザインセミナーⅡ		○	×	○		○	
①地球環境セミナーⅠ	髙橋　伸幸	○	要相談	○	要相談	○	札幌周辺における自然環境
②地球環境セミナーⅡ		○		○		○	日本付近の気象・気候
①宇宙科学セミナーⅠ	岡崎　敦男	○	要相談	○	要相談	○	宇宙を観る，宇宙を知る
②宇宙科学セミナーⅡ		○		○		○	
①環境生物科学セミナーⅠ	早矢仕　有子	○	×	○	要相談	○	身近な鳥類をとおして自然環境を考える
②環境生物科学セミナーⅡ		○	×	○		○	
①②化学セミナーⅠ	久保　勘二	○	×	○	要相談	○	ものづくりを通して身近な物質を知る
①②化学セミナーⅡ		○	×	○		○	
①数学セミナーⅠ ※受講申込　不要	船川　大樹	×	○	○	○	○	論理学，集合論，証明法の初歩を学ぶ
②数学セミナーⅡ ※受講申込　不要	山本　隆範	×	○	○	○	○	凸解析，線形計画法

※①第1学期，②第2学期。

一般教育科目セミナー受講申込書

工学部　　学科　　コース　1　年　　組　　番

フリガナ	
氏　　名	

曜日	時限	担当教員名	科目名

（志望理由）　※セミナーによっては, 志望理由の内容を指定している場合がありますので注意してください。

注）この用紙を複数必要な場合は各自でコピーしてください。

履修登録
G-PLUS!　操作方法

①スケジュール

◆履修登録期間

2021年4月13日（火）～4月19日（月）23：59まで

◆履修登録確認

2021年4月21日（水）10：00～

G-PLUS！履修アイコンの「履修確認」で確認してください。

※履修登録期間終了後から履修登録確認開始前までは，「履修確認」メニューは利用できません。

※MY時間割・MYPAGEの履修情報も更新されます。

◆履修変更

2021年4月22日（木）～4月26日（月）23：59まで

※履修変更の確認は，4月28日（水）10：00以降に「履修確認」で確認してください。

◆履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

本書の履修登録に関するページや所属学部掲示板等で確認してください。

◆第2学期履修変更

2021年9月29日（水）～9月30日（木）23：59まで

※第2学期履修変更の確認は，10月2日（土）10：00以降に「履修確認」で確認してください。

◆第2学期履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

本書の履修登録に関するページや所属学部掲示板等で確認してください。

②学内ネットワーク利用のユーザIDとパスワードの取得

◆履修登録はG-PLUS！を利用します。G-PLUS！を利用するには**ユーザIDとパスワードが必要**です。新入生には学内ネットワーク利用ガイダンス（オンライン）で配付します。

ユーザIDとパスワードを紛失した場合の再発行については，『学内ネットワーク利用の手引き』を参照してください。

③注意事項

◆学期開始時にLMSで仮エントリーをしても履修登録の完了とはなりません。必ずG-PLUS!で履修登録をしてください。

◆4月の履修登録期間に必ず第1学期，第2学期両方の履修登録を行ってください。

◆履修登録期間終了間際は多くのアクセスが予想され，G-PLUS!や履修登録メニューの接続に時間がかかるなど，動作が不安定になることが懸念されますので注意してください。

◆履修登録期間中，履修登録に関係する情報をG-PLUS！のお知らせで配信することがありますので，必ず確認してください。配信されたお知らせを見逃さないように，G-PLUS！お知らせ設定のメッセージ転送設定でよく使うメールアドレスに転送することをお奨めします。

◆4月20日（火）以前，また履修変更期間に変更登録を行った時など，履修が確定していない場合は，休講情報や教室変更情報をお知らせとして受信することはできません。G-PLUS！教務お知らせ一覧の「休講情報一覧」等から確認してください。

◆履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。掲示板等で許可発表を確認した上で，許可された科目を履修登録してください。

④G-PLUS！利用環境

◆G-PLUS！の利用可能時間は午前6：00から翌午前3：00までとなります。
上記時間以外は，システムデータ連携のため利用できません。

◆G-PLUS！利用推奨環境は，以下のOS・ブラウザです。

OS：Windows OS, Mac OS, iOS, Android

ブラウザ：Chrome, Firefox, Safari, Edge

◆G-PLUS！は3時間操作せずに放置すると，タイムアウトとなりセッションが断たれます。履修登録も初めからやり直しになるので注意してください。

⑤問い合わせ

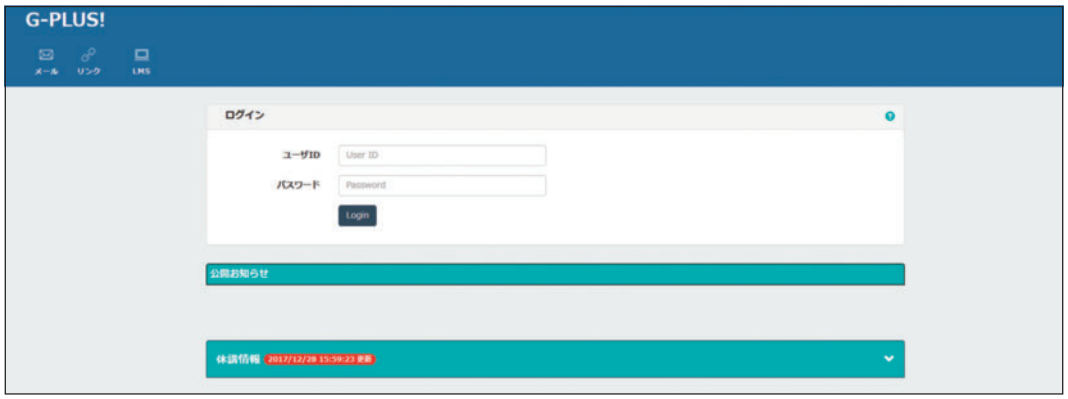
◆履修登録におけるG-PLUS！操作に関する質問は，メールで受け付けます。
学生番号・氏名を明記のうえ，info-help@hgu.jp宛に送信してください。

◆開講科目・時間割等のカリキュラムに関する質問は，所属学部事務室へ問い合わせてください。

履修登録操作方法

1)履修登録画面をひらく

G-PLUS！（https://gplus.hgu.jp/）を開き，
「ユーザID」と「パスワード」を入力し，ログインしてください。



ログイン後，アイコンバーの【履修】をクリックし，
【履修登録】を選択してください。

2) 履修登録画面について

履修登録は下の時間割表の画面で行います。
画面上部の履修単位数を確認しながら，第1学期，第2学期の登録をしてください。

動作不良の原因となるため，ブラウザの⬅（戻る）ボタンは使用しないでください。
時間割表の画面はパソコン・スマートフォンで異なります。
スマートフォンの画面は❻ページを参照してください。

①履修単位情報	現在画面上で登録している科目の単位数が表示されます。（次ページ参照）
②学期，集中講義の切替え	第1 学期，第2 学期，集中講義の切替えができます。
③各ボタン	
講義検索	開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索できる画面に移動します。（❾ページ参照）
課程申請	今年度から新規に課程を申請する場合に，課程申請の画面に移動します。（⓫ページ参照）
④時間割画面	開講曜日・時限で履修登録する科目の検索や，登録した科目名・担当教員名が表示されます。 空白のマスはその曜日・時限が未登録である状態です。 網掛けのマスは選択できる科目がない状態です。
変更不可	事前に履修登録が決められていて，変更することができないことを表します。
特試	（工学部生のみ）特試科目を表します。
前半 後半	開講期が各学期の前半または後半の科目を表します。
エラー	エラーが発生している曜日・時限を表します。

履修単位数集計欄の見方

		第1学期		第2学期		通年	合計	
①	履修単位	24		28		0	52	
②	下限 上限	0	–	0	–	–	0	52
③	履修上限外	2		0		0	2	
④	総合計	26		28		0	54	

		1部		2部	
①	履修単位	52		0	
②	下限 上限	0	52	0	–

	履修内訳（科目種別）			
⑤	一般	専門	履修上限外	総合計
	28	24	2	54

①履修単位

履修単位の合計が，各学期・通年・1部・2部ごとに表示されます。ただし，課程科目・自由科目・特試科目など，下限・上限の制限外の科目は含みません。

②下限・上限

当該学期・合計・1部・2部によって設定されています。
上記の例だと，1部で合計52単位まで履修登録することが可能で，学期や通年の下限部分のように「－」または「0」が入っている欄は制限がないことを意味します。

③履修上限外

課程科目・自由科目・特試科目など，下限・上限の制限に含まれない科目の履修単位数が表示されます。

④総合計

履修上限外の科目も含んだ合計履修単位数が表示されます。
上記の例だと，左表の第1学期履修単位数が24単位，第1学期履修上限外単位数が2単位となっているため，総合計の単位数は26単位となります。

⑤履修内訳（科目種別）

履修科目の一般教育科目・専門科目・履修上限外科目ごとの履修単位数が表示されます。

スマートフォン版　履修登録画面

スマートフォン版の履修登録画面では時間割表の上部ボタンで[全曜日]と[各曜日]の表示切替ができます。
各マスを選択すると講義選択画面に移動します。
ただし, 履修変更不可の曜日・時限や, 選択できる講義がないマスは移動しません。

[全曜日]表示

全曜日表示では,
各マスの色で以下の状態を表しています。

色なし　科目が未選択の曜日・時限です。

科目が選択されている曜日・時限です。

エラーが発生している曜日・時限です。

事前に履修登録が決められていて, 変更することができない曜日・時限です。

[各曜日]表示

各曜日表示では,
履修コード・科目名・教員名が表示されます。

マークによって以下の状態を表しています。

エラー　エラーが発生している曜日・時限です。

変更不可　事前に履修登録が決められていて, 変更することができない曜日・時限です。

特試　（工学部生のみ）特試科目を表します。

3)履修科目を選択する(履修登録[講義選択]画面)

履修登録画面で各曜日・時限の空白枠内をクリックすると,その曜日・時限に開講されていて履修登録することができる科目の一覧が表示されます。
例えば,履修登録[時間割更新]画面で火曜日2時限目の枠をクリックすると下図のような[講義選択]画面になります。

①選択

登録したい科目のチェックボックスをクリックし,チェックを入れます。
※申請をしていない課程科目のチェックボックスはクリックできません。
※一度申請した科目を取り消したい場合は,チェックを外した上で登録する必要があります。

②特試

工学部専門科目のみ関係します。
前回「特試」か「特欠」の評価が付いた科目はチェックボックスをクリックし,チェックすることができます。
同一時間に他の科目と重複しても特試科目の場合は,両方履修することができるようになります。
※「①選択」をチェックすると,特試の登録はされません。

③講義名

課程科目の講義名の前には[課程(未)]または[課程]の表示がされます。
[課程(未)]　その科目の課程を申請していないことを表します。
[課程]　その科目の課程が申請済みであることを表します。
※課程を受講する場合は,事前に課程申請画面で申請する必要があります(⓫ページ参照)。

④シラバス

参照ボタンをクリックすると,その科目のシラバスページが開きます。シラバスは授業の目的,到達目標,授業計画などが記載されています。履修登録はシラバスをよく読んで行いましょう。

講義選択画面に表示される科目の中には，履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。
掲示板等で許可発表を確認した上で，許可された科目を履修登録してください。
画面に表示される科目に時間割（冊子）やカリキュラムと不整合がある場合は，所属学部事務室までお知らせください。

申請のエラー表示（例）

【注意】表示について
履修登録時に注意事項がある場合，履修登録画面の上部に注意ウインドウが表示されます。
表示される内容は以下の2種類に分類されます。

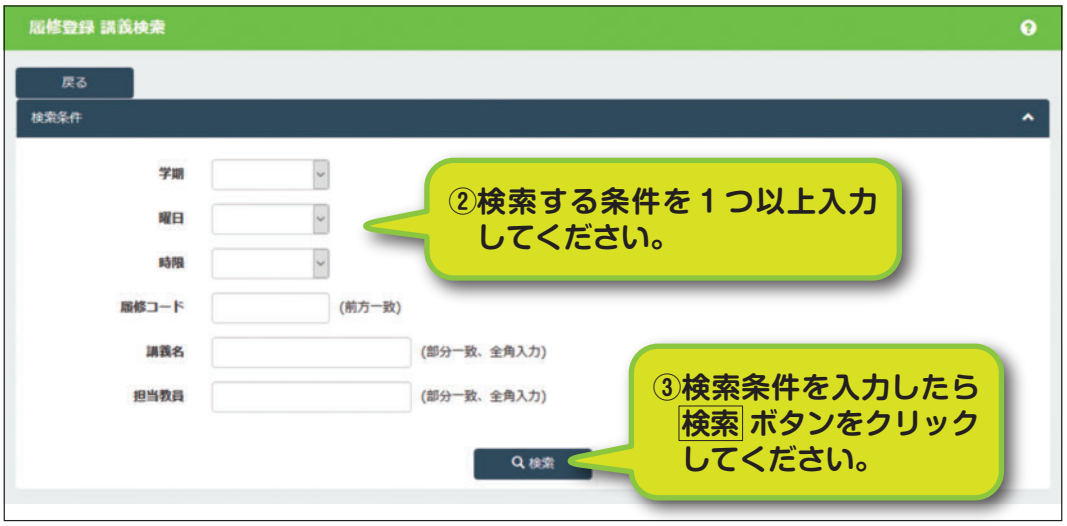
履修エラー　履修の上限・下限単位数の条件を満たさない場合や，上記の例のように選択している科目の組み合わせに問題がある場合などに表示されます。
内容を修正しなければ履修申請することができません。

卒業／進級確認　卒業または進級の要件が設定されている学年で，要件を満たしていない場合に不足単位数が表示されます。

4)履修科目を選択する(履修登録[講義検索]画面)

開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索することもできます。

履修登録[講義検索]画面に移動します。



検索時の注意

講義名もしくは担当教員を入力する際は，全角文字を使用してください。

講義検索結果が表示されます。

科目の並び順は，学期，曜日時限，履修コード順です。

検索結果の中に履修したい科目があれば，該当する科目の選択チェックボックスをクリックし，チェックを入れてください。

チェックを入れたら，講義選択 ボタンをクリックしてください。

5)新規に課程の受講を申請する

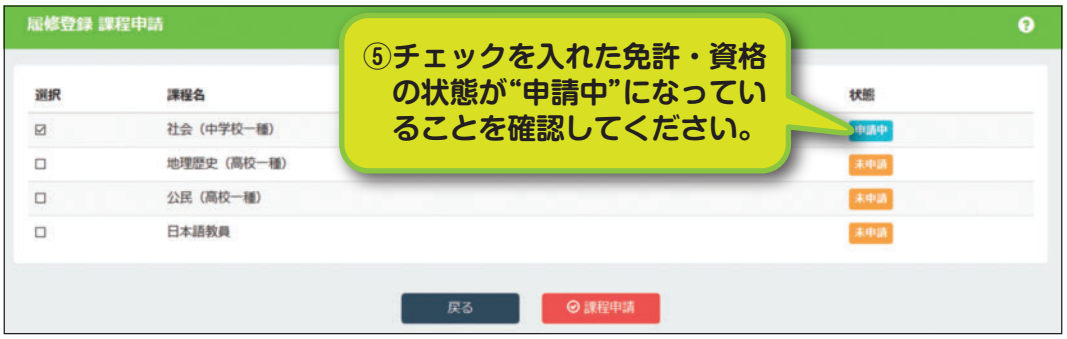
今年度から新規で課程の受講を希望する際に必要です。

課程申請画面に移動します。

確認メッセージが表示されます。

課程の申請が完了しました。

時間割画面に戻ったあと，課程申請画面を開き，状態が「申請中」になっていることを確認してください。



時間割画面に戻ると，申請した課程の科目のチェックボックスにチェックできるようになります。

課程の申請に関する注意

認定心理士を除く各課程の受講には，受講料が発生します（日本語教員養成課程については人文学部学生は免除）。
新規に課程の申請をする場合は，事前に申請する課程のガイダンスに必ず出席してください。

課程の申請を取り下げる場合（履修登録期間）

課程申請画面で取り下げたい課程申請のチェックを外してください。
課程申請を取り下げたことにより，履修対象外になる科目は，履修申請が自動的に取り下げられます。

課程の申請を取り下げる場合（第1学期履修登録変更期間）

取り下げたい課程科目の履修申請を取り下げてから，所属学部の窓口へ申し出てください。
また，新たに課程の申請をする場合は，⓫ページ「5）新規に課程の受講を申請する」の手順に従って申請してください。

過年度の課程の申請を取り下げることはできません。

6）履修登録作業の完了（履修登録［時間割更新］画面）

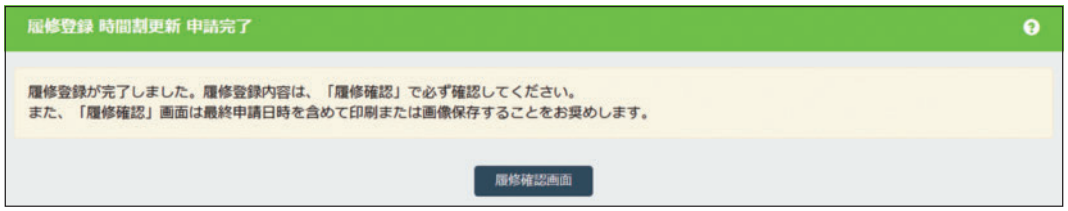
履修する科目の選択（❼～⓬ページ）が終わったら，
申請 ボタンをクリックします。

この画面で 申請 を押さずに画面を閉じたり，別の画面に移動すると内容が反映されなくなります。

一時的に中断する場合でも同様に 申請 → OK ボタンを押し申請完了画面まで進んでください。

確認メッセージが表示されます。

履修登録作業が完了しました。

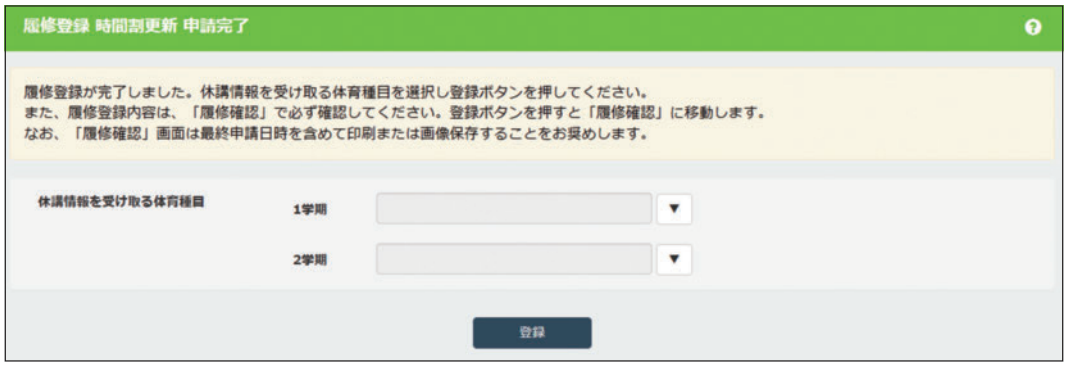


履修登録期間内であれば申請をした後でも科目の変更は可能です。

❼～⓮ページの作業を再度行ってください。

体育実技を履修登録する場合

体育実技の教務お知らせ（休講や講義連絡など）は体育種目（サッカーなど）ごとに発信します。
履修登録作業の完了と同時にお知らせを受け取る種目を登録してください。
※お知らせの受信に関わる設定です。種目の申込登録ではありません。必ず許可を受けた種目を登録してください。
この設定は履修登録期間後もお知らせアイコンのお知らせ設定から修正することができます。



7）履修登録の確認（履修確認画面）

※履修登録作業終了時

履修登録後，必ず以下の操作で履修登録内容の確認をしてください。

控えとして，ブラウザの印刷機能でプリントアウトすることをお奨めいたします。

履修確認[時間割形式]画面になります。

一覧形式 をクリックすると履修確認[一覧形式]画面になります。

期間	履修コード	講義名	分野系列	単位	担当教員	備考
火1時限	09022	※ＣＳ－Ａ	総合実践英語	4	複数の教員	変更不可
火3時限	03026	英語リーディングⅡ	一般教育	1	複数の教員	
水1時限	01097	体育実技ⅣＢ	一般教育	1	複数の教員	
水3時限	09088	心理学概論Ⅱ	導入	2	複数の教員	
水5時限	09181	※アカデミック・リテⅡ	キャリア	2	複数の教員	変更不可
木1時限	03579	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
木3時限	03475	中国語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
金3時限	09082	情報リテラシー	導入	4	複数の教員	変更不可, 通年
金5時限	01180	法学	一般教育	2	複数の教員	

時間割形式 をクリックすると履修確認［時間割形式］画面になります。

卒業要件 履修単位（第1・2学期）＿＿＿＿＿単位　　課程科目含 総履修単位（第1・2学期）＿＿＿＿＿単位

新規登録課程・資格＿＿

第１学期　時間割

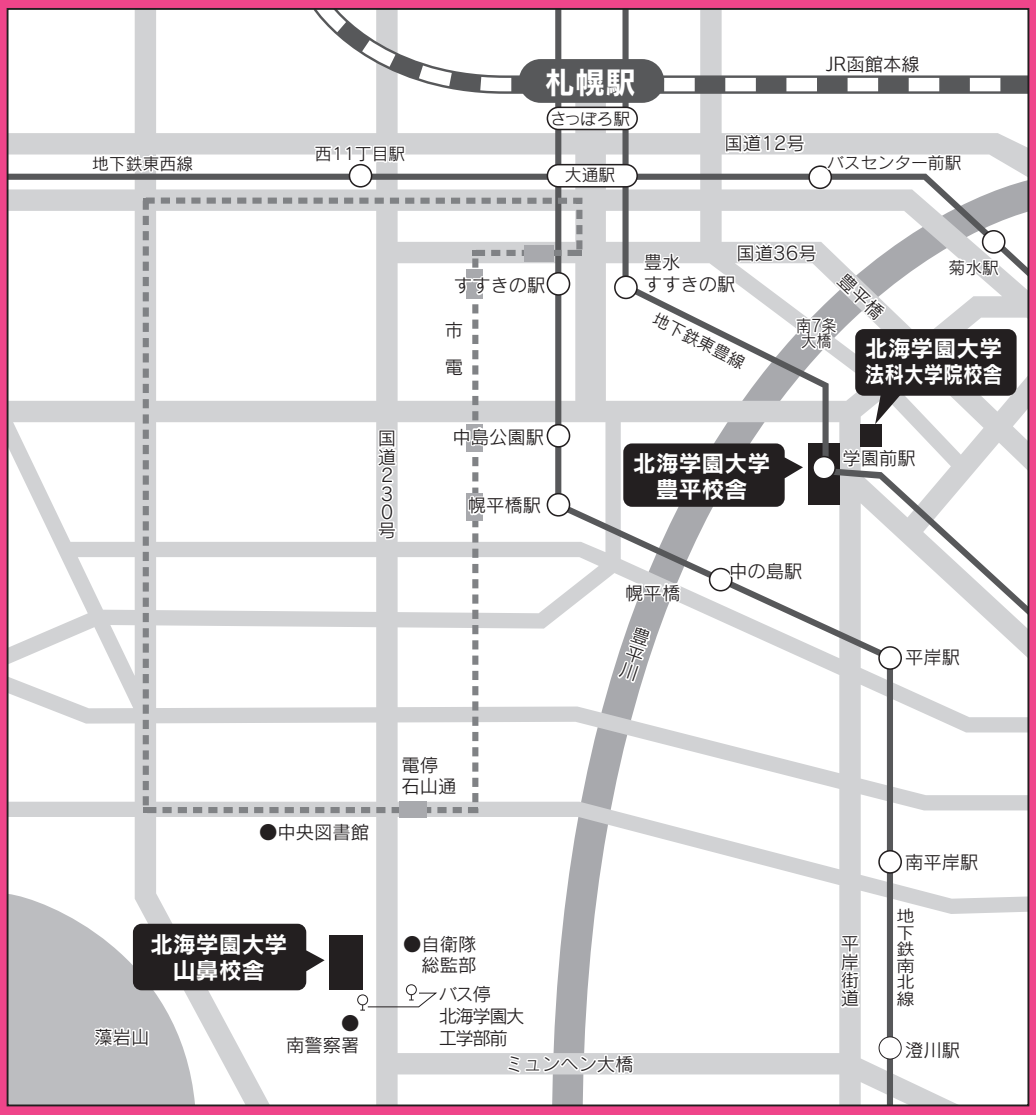
時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						
4						
5						
1						
2						
集中講義等						

第２学期　時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						
4						
5						
1						
2						
集中講義等						

Memo

北海学園大学
工　学　部
〒064-0926
札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
電話(代表)011-841-1161
FAX011-551-2951
URL https://hgu.jp



北海学園大学

■豊平校舎(経済・経営・法・人文学部)

〒062-8605 札幌市豊平区旭町４丁目１番40号　　代表(011)841-1161

■山鼻校舎(工学部)

〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目１番１号　代表(011)841-1161

学生便覧 2021年度

北海学園大学工学部

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

建 学 の 精 神

北海学園大学は，「開拓者精神」（Pioneer Spirit）を建学の精神としています。初代学長の上原轍三郎（1883-1972）は，第一回入学式の式辞のなかで，「開拓精神」あるいは「開拓者精神」をもって本学学生のモットーとすべきことを説きました。爾来，学生たちや教職員の間で，「開拓者精神」が本学の建学の精神と見なされています。

この精神は，明示的には「北海学園の父」と称される浅羽靖（1854-1914）に由来するものですが，それはさらに大津和多理（1857-1917）にまで遡ることができます。札幌農学校第三期生の大津が1885（明治18）年に設立した北海英語学校は，学校法人北海学園のそもそもの揺籃ですが，この学校は北海道開拓に資する人材育成のために創設された，札幌農学校に入学するための予備校でした。したがって，「開拓精神」ないし「開拓者精神」は，大津をして北海英語学校の設立へと駆り立てた，当の精神でもあったのです。

大津の志を継いだ浅羽靖のもとで，やがて北海中学（北海高等学校の前身）と札幌商業学校（北海学園札幌高等学校の前身）が設立され，風雪に耐えたその基盤と教育実績の上に，1950（昭和25）年に北海短期大学が，さらにその２年後に短大を改組転換して，現在の北海学園大学が創設されました。本学は４年制大学としては，今年で69年目となりますが，その背後には136年に及ぶ長い苦節の歴史があるのです。

「徒に官に依拠せず自らの努力をもて立つ」という自主独立の開拓者精神は，近時は「二つのじりつ」── 自立と自律 ──と言い換えられることもあります。かくして，今では「開拓者精神」と「自立と自律」が，本学のスクール・モットーとなっています。

北海学園大学の歩み

1950（昭和25）年　北海短期大学を創設し，経済科１部，２部を開設

1952（昭和27）年　北海学園大学（４年制）を創設し，経済学部１部経済学科を開設

1953（昭和28）年　北海学園大学経済学部２部経済学科を開設

1957（昭和32）年　北海学園大学開発研究所を開設

1962（昭和37）年　北海短期大学土木科１部，２部（南26条西11丁目）を開設

1964（昭和39）年　北海学園大学法学部１部法律学科，２部法律学科を開設

1965（昭和40）年　北海短期大学を北海学園大学短期大学部と改称

1966（昭和41）年　北海学園大学経済学部１部経営学科，２部経営学科を開設

1968（昭和43）年　北海学園大学工学部土木工学科，建築学科を開設

1970（昭和45）年　北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻修士課程を開設

1986（昭和61）年　北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程を開設

1987（昭和62）年　北海学園大学工学部電子情報工学科を開設

1991（平成３）年　北海学園大学大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻修士課程を開設

1992（平成４）年　北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻博士（後期）課程を開設

1993（平成５）年　北海学園大学人文学部１部日本文化学科，２部日本文化学科，１部英米文化学科，２部英米文化学科を開設

1995（平成７）年　北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士（後期）課程，大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻博士（後期）課程を開設

1999（平成11）年　北海学園大学法学部１部政治学科，２部政治学科を開設
北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻修士課程を開設

2000（平成12）年　北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を開設

2001（平成13）年　北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻博士（後期）課程を開設

2002（平成14）年　北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻博士（後期）課程を開設

2003（平成15）年　北海学園大学経済学部１部地域経済学科，２部地域経済学科を開設
北海学園大学経営学部１部経営学科，１部経営情報学科を開設
北海学園大学経営学部２部経営学科を開設
北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程を開設
北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻修士課程を開設

2005（平成17）年　北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻博士（後期）課程を開設
北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻博士（後期）課程を開設
北海学園大学大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻専門職学位課程を開設
北海学園大学工学部土木工学科を社会環境工学科と改称

2012（平成24）年　北海学園大学工学部生命工学科を開設

2016（平成28）年　北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻修士課程を開設

2018（平成30）年　北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻博士（後期）課程を開設

「個人情報の取り扱い」について

本学では，教育・研究，学生支援，社会貢献などに必要な業務をおこなうにあたり，大学に関わりのある個人（学生およびその学費支給者・保証人・受験生・卒業生・教職員など）の情報を活用しています。これらの個人情報については関連する法令を遵守し，以下のとおり，利用目的を明確にし，個人情報の適正な利用と適切な保護に努め，必要な安全管理措置を講じています。学生各位の理解と協力をお願いします。

１．個人情報の利用目的

学生の個人情報は，以下の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するために利用し，利用目的を変更した場合は，本人に通知又は掲示板等に公表します。

⑴学生の個人情報

１）入学に関する業務：入学志願，入学試験実施，合否判定，入学手続きに関する業務など

２）学籍に関する業務：個人基本情報の管理，学籍異動，学費，クラス編成，学生証交付，証明書作成に関する業務など

３）教育に関する業務：履修登録，授業・試験実施，成績処理，進級・卒業判定，学位記授与，海外留学に関する業務など

４）研究に関する業務：研究活動支援に関する業務など

５）学修支援に関する業務：教務指導，履修相談，図書館・コンピュータ実習室など学内施設利用に関する業務など

６）学生生活支援に関する業務：奨学金，学生相談，健康維持促進，課外活動に関する業務など

７）就職活動およびその支援に関する業務：キャリア形成，就職相談，求職登録，就職斡旋に関する業務など

８）学生・学費支給者・保証人などへの連絡業務：学修支援のための連絡，成績通知，進級・卒業判定通知，学生生活支援のための連絡業務など

⑵学費支給者および保証人の個人情報

学費支給者・保証人への連絡業務：成績通知，進級・卒業判定通知発送，学費納付に関する連絡，各種送付物の発送，学修支援のための連絡，学生生活支援のための連絡業務など

２．個人情報の第三者提供について

個人情報は，原則として，あらかじめ本人の同意を得ることなく第三者に提供することはありませんが，法令に基づく場合，人の生命・身体・財産その他の権利・利益を保護するために必要であると判断できる場合，および緊急の必要がある場合などは，例外的に個人情報を開示することがあります。

３．学費支給者への成績開示などについて

学費支給者に対しては，学期ごとの学修成果を「成績通知書」として送付し，教務指導や学修・生活相談における教職員からの指導や助言が必要な場合には，履修登録情報や成績情報などを開示します。

４．本学内における学生への連絡方法について

教育指導上あるいは学生生活支援上，本学内において学生本人への連絡・通知などが必要になった場合には，原則として，関係掲示板に「学生番号」を掲示します。

５．相談窓口

個人情報について開示・訂正・削除・利用停止などを請求することができます。不明な点や手続きなどについては，学部事務窓口に相談してください。

目　　次

1．本冊子の利用について…… 2
2．学生番号の見方…… 3
3．各種窓口手続等…… 3
⑴　事務取扱い（1年次：教務センター内工学部窓口，2～4年次：山鼻校舎工学部事務室）…… 3
⑵　学生証…… 4
⑶　通学定期乗車券の購入…… 5
⑷　各種証明書…… 5
⑸　各種届出…… 5
⑹　各種願出…… 6
⑺　学籍異動関係①―休学，退学，除籍― …… 7
⑻　学籍異動関係②―復学，再入学，復籍― …… 7
⑼　その他の学籍異動関係―転学部，転部，転学科，転コース― …… 8
⑽　懲戒による学籍異動―退学― …… 8
4．学生連絡…… 9
5．教務ガイダンス（学修上の指導）…… 9
6．学生相談…… 10
7．授業…… 10
8．試験…… 11
9．免許・資格取得・その他…… 12
10．図書館・開発研究所・判例演習室…… 13
⑴　図書館案内・工学部図書室案内…… 13
⑵　開発研究所案内…… 15
⑶　判例演習室案内…… 16
11．教育用コンピュータ実習室案内（豊平校舎）・工学部計算機実習室案内（山鼻校舎）…… 17
12．学則及び関連規則，規程関係…… 19
⑴　北海学園大学学則…… 19
⑵　北海学園大学学則別表（授業科目一覧）…… 34
⑶　北海学園大学工学部規則…… 45
⑷　北海学園大学工学部転学部規程…… 48
⑸　北海学園大学工学部転学科規程…… 48
⑹　北海学園大学奨学規程…… 49
⑺　北海学園大学表彰規程…… 49
⑻　北海学園大学海外留学規程…… 50
⑼　北海学園大学研究生規程…… 51
⑽　北海学園大学科目等履修生規程…… 51
⑾　北海学園大学授業料等に関する規程…… 53
⑿　北海学園大学大学院学則…… 56
⒀　北海学園大学大学院学則別表…… 63
⒁　北海学園大学学位規則・別記様式…… 64
13．校舎見取り図（教室配置図）…… 68

1．本冊子の利用について

新入生のみなさんへ

この「学生便覧」は，みなさんが大学生活を送る上で，指針となることがらをまとめて編集したものです。快適な大学生活を送っていただくために，入学から卒業まで必要となる情報を幅広く提供していますので，できるだけ早い時期に一読されることをすすめます。みなさんにとって特に重要な講義の履修方法については，各年度にガイダンスを行い，詳しく説明しますが，この学生便覧を参考にして学習計画を立ててください。本冊子の内容で不明な個所がありましたら，教員や教務センター内工学部窓口（１年次），工学部事務室（２～４年次）に問い合わせてください。

なお，在学中は学生便覧に基づいて教育・指導が行われますので，卒業まで大切に扱ってください。

2．学生番号の見方

1．学生番号は数字の７桁で構成されています。
2．学生番号は北海学園大学における学生の身分を表すもので，原則として，卒業するまで変わることはありません。
3．学生番号は，学内における試験，あるいは諸手続きの際，氏名と共に必ず記入することになりますのでしっかりと覚えてください。

例えば2021年４月工学部社会環境工学科１年Ｐ１組に入学した場合の学生番号は

学生番号	41	21	1	01
表示区分	学部・部・学科区分	入学年(西暦)	クラス区分	個人番号

学部・部・学科区分	41－社会環境工学科 43－建築学科 45－電子情報工学科 47－生命工学科

《2021年度　入学者クラス編成及び学生番号表》

学部	学科	コース	組	学生番号
工学部	社会環境工	社会環境	Ｐ１	4121101～
		環境情報	Ｐ２	4121201～
	建築	－	Ｑ１	4321101～
		－	Ｑ２	4321201～
	電子情報工	－	Ｒ１	4521101～
		－	Ｒ２	4521201～
	生命工	－	Ｗ１	4721101～
		－	Ｗ２	4721201～

3．各種窓口手続等

(1)　事務取扱い（学部事務室）

1．窓口事務の取扱い時間

	1　部	2　部
平　日	9：00 ｜ 12：40 窓口受付 12：40 ｜ 13：40 （昼休み） 13：40 ｜ 16：00 窓口受付	17：30 ｜ 19：30 窓口受付
土曜日	9：00 ｜ 12：40 窓口受付	17：30 ｜ 19：30 窓口受付

※工学部は２部の時間帯は取扱いを行わない。

2．学部事務室の業務取扱い（共通）

業務内容	①授業時間の配当および授業時間割に関すること。 ②学級の編成，教室の配置および教具設備に関すること。 ③授業および休講に関すること。 ④試験および学業成績に関すること。 ⑤在学証明書，成績証明書，卒業（見込）証明書，その他証明書の発行に関すること。 ⑥学生証の発行に関すること。 ⑦学生の欠席，休学，退学，除籍，復学，再入学，復籍，転部，転学部，転学科に関すること。 ⑧科目履修に関すること。 ⑨その他教務に関すること。

3．窓口業務を行わない日（2021年度）

日曜日，祝祭日及び振替休日のほか，次の日は窓口業務を行わない。

窓口業務を行わない月日（曜日）	備　考
５月16日（日）	学園創立記念日
８月13日（金）～８月16日（月）	全学休業
12月26日(日)～2022年１月７日(金)	年末年始の休業日
2022年１月14日（金）	大学入学共通テスト準備日
１月15日（土）～１月16日（日）	大学入学共通テスト
２月８日（火）	一般選抜準備日
２月９日（水）～２月12日（土）	一般選抜

4．学生総合支援システム G-PLUS!
学生生活を支援するためのポータルサイト。

URL	https://gplus.hgu.jp/
IDとパスワード	学内ネットワーク利用ガイダンスで申請・交付
稼働時間	6：00～翌日3：00
主な機能（コンテンツ）	［お知らせ］ お知らせ受信一覧 教務お知らせ一覧(休講，補講，教室変更，講義連絡等) 落し物情報一覧 ［MYPAGE］ 成績情報，その他各種情報 ［履修］ 履修登録，履修確認 ［シラバス］ シラバス参照，検索 ［キャビネット］ 各種届出・願出のダウンロード
マニュアル	G-PLUS!のキャビネットからダウンロード
その他	「学内ネットワーク利用の手引き」を参照すること。 コンテンツの追加等については，別途G-PLUS!で連絡する。

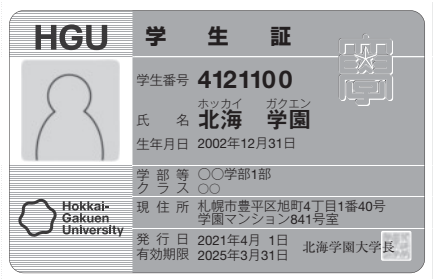
(2) 学生証

学生証は本学の学生としての身分を証明するものであるから外出，登下校の際には，必ず携帯すること。また，本学の学生証は通常の場合，発行日から原則，４年間使用することになるので破損や紛失をすることのないよう大切に保持し，下記の事項に留意すること。

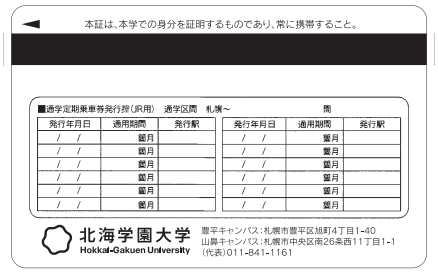
学生証に関する留意事項	
発　行 交　付	学生証は，入学手続書類（事項届，学生カード，学生証用写真）に基づき発行し，新入生ガイダンス時に交付する。 ※経済学部及び法学部は２年生進級時に学生番号が変更となるため，新２年生ガイダンス時に再度交付する。
有効期間	発行日から原則，４年間。（再発行，更新を除く）ただし，留年・卒業延期等により有効期間である４年を超えた場合は速やかに更新手続きを行うこと。
提　示	学生証は次の場合これを提示しなければならない。 ①試験を受ける場合 ②各種証明書の発行を受ける場合 ③大学教職員の請求があった場合 ④通学定期乗車券または，学生割引乗車券を購入する際，及び，それを利用中に係員の請求があった場合 ⑤図書館を利用する場合
更　新	学生証の記載事項に変更（住所変更・身分異動等）があった場合及び留年・卒業延期等により有効期間を超えた場合は，直ちに所属の学部事務室に届けて更新しなければならない。 （更新手続） G-PLUS!のキャビネットから「学生証更新願」をダウンロードし，必要事項を記入した上で，所属の学部事務室に提出すること。
再発行	学生証を紛失または汚損した場合は，直ちに所属の学部事務室に届けて再発行を受けなければならない。なお，発行日は翌日となるので注意すること。 （再発行手続） 自動証明書発行機で再発行手数料（1,000円）を支払い，購入した申請書と，G-PLUS!のキャビネットからダウンロードした「学生証再発行願」に必要事項を記入した上で，所属の学部事務室に提出すること。
返　還	退学，除籍によって学籍を離れたときは，直ちに学生証を所属の学部事務室へ返還しなければならない。
その他	学生証は他人に貸与または譲渡してはならない。学生証に学長印ならびに写真の無いものは無効とする。

（学生証見本）

（オモテ）



（ウラ）



(3) 通学定期乗車券の購入

本学に通学する上で，何等かの公共交通機関を利用する学生は，下記の手続により通学定期乗車券を購入することができる。ただし，通学区間は自宅所在地の最寄りの駅（停留所）から本学所在地の最寄りの駅（停留所）までの最短距離とする。

交通機関	購入手続
JR北海道 （鉄道･バス）	学生証裏面の通学定期乗車券発行控の通学区間の欄に自分が利用する区間の駅名 札幌～　間 を黒のペンかボールペンで記入し，定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし，新入生が学生証交付前に初めて購入する際は，「通学証明書」が必要となる。なお，通学定期乗車券発行控の記載欄に空欄がなくなった場合は，所属の学部事務室まで申し出ること。
市営交通 （地下鉄･市電） ・ じょうてつバス	通学定期乗車券は定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし，新入生が学生証交付前に初めて購入する際は，「合格通知書」が必要となる。
中央バス	通学定期乗車券は定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし，新入生が学生証交付前に初めて購入する際は，本学証明済みの定期乗車券購入申込書が必要となる。

(4) 各種証明書

各種証明書は，①自動証明書発行機によってその場で交付，②窓口での交付の二方式がある。

窓口での交付は，すべての種類の証明書が可能であるが，自動証明書発行機での交付は下記①の証明書に限られる。自動証明書発行機による発行が可能なものは，基本的に自動証明書発行機で交付を受けるものとする。

発行機は，豊平校舎は３号館１階学部事務室前に２台設置されており，取り扱い時間は，月曜日から土曜日の９：00～19：30である。山鼻校舎では，２号館２階に１台設置されており，月曜日から金曜日の９：00～18：00，土曜日の９：00～12：40に発行が可能である。

なお，窓口での発行の際には，自動証明書発行機に証明書発行手数料を支払い申請書を入手し，必要事項を記入のうえ，該当する窓口に申し込み，後日引換書を持参し窓口で交付を受ける必要がある。

証明書の発行方式・種類・手数料等については以下のとおりである。

①自動証明書発行機により即日交付可能な証明書

種　　類	手数料（１通分）	申請書で申し込む場合の窓口	窓口申込時の発行日
在学証明書	100円	各学部事務室	翌　日
単位修得学業成績証明書	200円	各学部事務室	翌　日
卒業見込証明書	100円	各学部事務室	翌　日
司書教諭所要資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌　日
司書となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌　日
社会教育主事となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌　日
学芸員となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌　日
健康診断証明書	100円	医務室	翌々日
学校学生・生徒旅客運賃割引証	無料	学生部事務室	翌　日

②申請書による申込が必要な証明書

種　　類	手数料（１通分）	申込窓口	発行日
卒業証明書	100円	各学部事務室	翌　日
学位授与証明書	100円	各学部事務室	翌　日
休学証明書	100円	各学部事務室	翌　日
退学証明書	100円	各学部事務室	翌　日
除籍証明書	100円	各学部事務室	翌　日
教育職員免許状取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌　日
学力に関する証明書（教免申請用）*1	200円	教務センター事務室	翌　日
日本語教員養成課程修了証明書	100円	人文学部事務室	翌　日
日本語教員養成課程単位修得学業成績証明書	200円	人文学部事務室	翌　日
科目等履修生単位修得証明書	200円	各学部事務室	翌　日
科目等履修生等在籍期間証明書	100円	各学部事務室	翌　日
科目等履修生日本語教員養成課程単位修得証明書	200円	人文学部事務室	翌　日
英文証明書	400円	各学部事務室	１週間後
学生証の再発行	1,000円	各学部事務室	翌　日
JABEE認定プログラム修了証明書	100円	工学部事務室	翌　日
一級建築士指定科目修得単位証明書･卒業証明書	200円	工学部事務室	翌　日
二級･木造建築士指定科目修得単位証明書･卒業証明書	200円	工学部事務室	翌　日
火薬取扱に関する証明書	200円	工学部事務室	翌　日
測量に関する証明書	200円	工学部事務室	翌　日

*1新学期などは通常よりも日数がかかる場合があるため，早めに申し込むこと。

※発行日は原則として以上のとおりであるが，発行日が日曜・祝日，その他窓口業務を行わない日にあたる場合は，翌窓口業務取扱い日に発行となるので注意すること。

(5) 各種届出

入学時に本学に届け出た事項の変更や授業や試験の欠席については，下記の要領に従って速やかに届出をすること。なお，各届出用紙については，G-PLUS!のキャビネットからダウンロードするか所属の学部事務室でその旨を申し出て受けとること。届出の受付についてはすべて所属の学部事務室で行う。

届出の種類	届出の内容	届出時期
事 項 届	本人の戸籍に基づいて，氏名・生年月日・本籍地等を記載する。外国籍の学生は他に在留カードの写しの添付が必要となる。 なお，本学における学籍の作成及び証明書等の発行はすべてこれに基づいて行われる。	入 学 時
学生・学費支給者・保証人住所届	本人，学費支給者及び保証人の氏名と現住所を記載する。保証人は保護者等学費支給者とし，学生の連帯責任者となる。	入 学 時
住所変更届（本人・学費支給者・保証人）※	入学後あるいは在学中に，本人または学費支給者・保証人の現住所が変更になった場合。なお，本人の住所が変更になった場合は，合わせて学生証の更新手続きも行うこと。	随　　時
学費支給者・保証人変更届※	入学後あるいは在学中に，学費支給者及び保証人が変更になった場合に，その氏名及び現住所を記載する。	随　　時

届出の種類	届出の内容	届出時期
身分異動届※	入学時に届けた（事項届等）本人の身分等に変更があった場合は，変更事項の記載とそれを証明する戸籍抄本の添付が必要となる。なお，身分の異動によって姓名が変わる場合は，合わせて学生証の更新手続きも行うこと。	随　　時
欠席届※	1．短期欠席（1週間以内） 病気・災害・勤務（出張・研修）の都合，その他の事情により欠席するときは，所定の欠席届に欠席事由を証明する書類を添えて，授業科目の担当教員宛に提出しなければならない。 2．長期欠席（1週間を超える場合） 病気・災害・勤務（出張・研修）の都合，その他の事情により1週間を超えて続けて欠席するときは，所定の欠席届に欠席事由を証明する書類を添えて，所属の学部長宛に提出しなければならない。	欠席期間の前後数日以内
試験欠席届※	1．定期試験をやむを得ず欠席した場合は，各学部事務室に備え付けの試験欠席届に必要事項を記入のうえ，欠席理由により以下の証明書を添付して提出すること。やむを得ない欠席と認められる事由および届け出に必要な証明書類等について不明な点がある場合は，事務室に問い合わせること。 (1) 病気・けがの場合は，病名・診察日・通院期間が記載された診断書。なお，当日何らかの理由により受診できなかった場合，後日通院可能となり次第速やかに受診し，診断書の発行を受けること。（診断書がない場合は，病気又はけがによる欠席であることを証明できる書類） (2) 入社試験受験の場合は，試験日時・試験場所の記載された会社発行の証明書 (3) 出張（2部学生）の場合は，出張期間の記載された職場長の出張証明書 (4) 公共交通機関を利用して通学途中交通事故等に遭遇した場合は，当該交通機関の管理者の発行する証明書 (5) 近親者の葬儀への出席の場合は，葬儀が行われ出席したことを証明する文書（会葬礼状など） (6) 上記以外の事由の場合は，その事由を証明する書類 2．試験本部で正当な理由があると認められた場合を除き，遅刻による欠席届は受理しない。 3．欠席届の受理が直ちに追試験の受験資格を保証するものではない。	学部掲示板及びG-PLUS!で案内する
学生証紛失届	退学等を願い出る時に学生証を紛失していた場合は「退学願」に学生証紛失届を添付すること。	発 生 時

※印の付いている届出用紙は，G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

(6) 各種願出

下記の各種の願出については，事由が発生した時点で，必要な書類を添付して，速やかに所属の学部事務室へ出向いて手続きを行うこと。

なお，休学・退学・復学・再入学・復籍など学籍異動に伴う手続き・方法等については，「学生異動関係」の欄を参照したうえで，早めに所属の学部事務室で相談すること。

届出の種類	内容及び添付書類等	受付窓口
休 学 願	疾病の他，やむを得ない理由で3カ月以上就学できない場合。（疾病の場合は，医師の診断書が必要）	学部事務室
退 学 願	疾病やその他の理由で，本学の学籍を離れる場合。学生証を添付すること。	学部事務室
復 学 願	休学を許可された者が，休学理由の解消とともに，再び修学可能となった場合。（疾病等で休学した場合は，復学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要）	学部事務室
再入学願	退学を許可された者が，その後の状況等の変化により，再度本学への入学を希望する場合。（疾病等で退学した場合は，再入学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要）	学部事務室
復 籍 願	学則第31条第1項の第3号，第4号または第5号で除籍された者で，その後の状況等の変化により，本学における学籍の復活とともに，修学を希望する場合。	学部事務室
休 学 願（延長）	休学を許可された者が，休学期間満了後も休学理由の解消が見込めないか，その他特別な理由で，更に休学期間の延長を希望する場合。（疾病の場合は，医師の診断書が必要）	学部事務室
転学部願	本学部の学生が，本学の他の学部への転学部を希望する場合。	所属学部と他学部事務室
転 部 願	1部（昼間部）から2部（夜間部）へ，または，2部から1部への転部を希望する場合。	学部事務室
転学科願	2学科以上を設置している学部で，所属の学科から，他の学科への転学科を希望する場合。	学部事務室
他大学受験許可願並びに受験許可証交付願	本学に在籍したまま，他大学の入学試験，編入学または転入学試験の受験を希望する場合。(注)受験許可を受けた学生は，その受験結果について合否の如何を問わず所属の学部事務室へ報告すること。また，これらの試験に合格して，他大学へ入学，編入学または転入学する場合には，速やかに，本学所定の「退学願」（3月31日付）用紙に必要事項を記入し，所属の学部事務室へ提出すること。	学部事務室
学生証更新願※	学生証の記載事項に変更があった場合。住所変更届を提出する際は必ず提出すること。	学部事務室
学生証再発行願※	学生証を紛失または汚損した場合。 自動証明書発行機より再発行手数料（1,000円）を支払い申請書を入手する必要がある。	学部事務室

※印の付いている願出用紙は，G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

(7) 学籍異動関係①―休学，退学，除籍―

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
休学	(1)内　　容 疾病，その他のやむを得ない理由により，３カ月以上就学することが困難になったときや，その他の特別な理由があると認められたときなど，一時的に修学の状態から離れる場合。 (2)休学期間 ①当該年度限り（その年度の３月31日まで）とする。ただし，特別の理由があると認められるときは，願出により，更に１年間の休学を許可されることがある。 学則第27条２項により，第１学期を休学したものについては，特別の理由があると認められるときは，願出により，当該年度内において更に６カ月間の休学を，また更に次年度内において６カ月ないし１年間の休学を許可されることがある。また，当該年度の第２学期のみ休学した者（学期途中からの休学を含む）については，特別の理由があると認められるときは，願出により，次年度内において６ヵ月ないし１年間，更に次の年度内において６ヵ月の休学を許可されることがある。 ②休学できる期間は通算して，４年以内とする。 ③休学期間は，修業年限及び在学期間に加えない。 (3)手 続 き ①やむを得ない理由，その他特別な理由により休学しようとするときは，所定の「休学願」用紙に休学理由を具体的かつ明確に記入し，保証人連署のうえ，所属学部長を経て学長に願い出ること。なお，疾病やけがの場合は，医師の診断書を，また２部の勤労学生で，勤務等の都合により休学する場合は，職場長の証明書または理由書を必ず添付すること。 （休学期間の延長） ②以下の場合は，休学期間満了前に，改めて所定の「休学願（延長）」用紙に必要事項を記入し，所属学部長を経て学長に願い出ること。 ・休学期間満了後も休学理由の解消が見込めない場合 ・その他特別な理由で更に1ヵ年の休学期間の延長を希望する場合 ・学則第27条第２項により，第１学期を休学した者が，更に当該年度内における６ヵ月の，また更に次年度内における６ヵ月ないし１ヵ年の休学期間の延長を希望する場合 ・当該年度の第２学期のみ休学した者（学期途中からの休学を含む）が次年度内において６ヵ月ないし１ヵ年の，更に次年度内における６ヵ月の休学期間の延長を希望する場合 (4)授業料等 ①休学を願い出るときは，その願い出る期までの授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。 ②休学を許可された期間中の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費は徴収しない。 (5)そ の 他 休学期間満了前に復学，退学または休学の願出のないものは，休学期間満了と同時に除籍となる。	学則第27条 学則第28条
退学	(1)内　　容 疾病，その他やむを得ない理由により，修学の継続が困難となったときや，修学の意志がなくなったとき，または他大学への編入学や転入学をするときなど本学の学籍を離れる場合。 (2)手 続 き 退学しようとする場合は，所定の「退学願」用紙にその理由を具体的かつ明確に記入し，保証人連署のうえ学生証を添えて所属学部長を経て学長に願い出ること。 (3)授業料等 退学を願い出るときは，その願い出る期までの授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。	学則第29条
除籍	(1)内　　容 次の各号の一に該当する者を，学長が所属学部教授会の議を経て，本学の学籍から除くことをいう。 (2)対象事項 ①学則第７条に規定する在学期間（８年）を超えた者 ②死亡した者 ③行方不明になった者 ④授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しない者 ⑤休学期間満了前に，復学，退学又は休学の願出がない者 ⑥入学を辞退した者 (3)そ の 他 除籍になった場合は，速やかに学生証を所属していた学部事務室へ返還すること。	学則第31条

(8) 学籍異動関係②―復学，再入学，復籍―

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
復学	(1)願出資格：内容 疾病，その他のやむを得ない理由により，３カ月以上就学することが困難となったときや，その他の特別な理由があると認められて休学を許可された者で，休学理由の解消に伴い，休学期間満了とともに，所属学部長を経て学長に願い出て許可を得た者が，再度，就学の状態に復することをいう。 (2)願出手続 ①上記の者が復学しようとする場合は，所定の「復学願」用紙に，その理由を具体的かつ明確に記入し，保証人連署のうえ，休学期間満了前までに，所属学部長を経て学長に願い出ること。 ②疾病・けが等の理由で休学していた場合は，復学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。 (3)復学の時期 復学は，年度初めに許可するものとし，年度の途中では許可しない。ただし，学則第27条第２項および第３項によって休学した者については，第２学期の始めに許可する。 (4)許可後の手続 ①復学の許可通知を受けたときは，10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復学料は新入生検定料の２分の１の額とし，復学後の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費は，当該学部の復学した年次のものを適用する。 ③４月１日より復学するときは，復学料および第１期分の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。学則第27条第２項および第３項によって休学した者が10月１日より復学するときは，復学料および第２期分の授業料，教育充実費（１部50,000円，２部30,000円），実験実習費の２分の１の額，大学諸費の全額を納入しなければならない。	学則第27条

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
再入学	(1)願出資格内容 疾病，その他のやむを得ない理由等により，本学を退学した者で，その後の状況の変化にともない，退学後３年以内に願い出て，所属学部教授会の議を経て学長の許可を得た者が，再度修学の状態に復する事をいう。 (2)願出手続 ①上記の者が再入学しようとする場合は，所定の「再入学願」に，その理由を具体的かつ明確に記入し，保証人連署のうえ，所属学部長を経て学長に願い出ること。 ②疾病等の理由で退学した場合は，再入学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。 (3)再入学の時期 再入学は，年度初めに許可するものとし，年度の途中では許可しない。 (4)許可後の手続 ①再入学の許可通知を受けたときは，10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②再入学料は新入生検定料と同額，入学金は新入生の入学金と同額とし，再入学後の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費は当該学部の再入学した年次のものを適用する。 ③再入学するときは，再入学料，入学金および第１期分の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④再入学手続きの際には，所定の用紙に学生証用写真（３カ月以内撮影，単身，正面，上半身，無帽）を１枚貼付し，提出しなければならない。	学則第30条
復籍	(1)願出資格内容 学則第31条第１項の第３号，第４号または第５号により，本学を除籍された者で，その後の状況の変化にともない，除籍後３年以内に願い出て，所属学部教授会の議を経て学長の許可を得，学籍を復活された者が，再度修学の状態に復する事をいう。 (2)願出手続 上記の者が，復籍をしようとする場合は，所定の「復籍願」に，その理由を具体的かつ明確に記入し，保証人連署のうえ，所属学部長を経て学長に願い出ること。 (3)復籍の時期 復籍は，年度初めに許可するものとし，年度の途中では許可しない。 (4)許可後の手続 ①復籍の許可通知を受けたときは，10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復籍料は新入生検定料と同額，入学金は新入生の入学金と同額とし，復籍後の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費は，当該学部の復籍した年次のものを適用する。 ③復籍するときは，復籍料，入学金および第１期分の授業料，教育充実費，実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④復籍手続きの際には，所定の用紙に学生証用写真（３カ月以内撮影，単身，正面，上半身，無帽）を１枚貼付し，提出しなければならない。	学則第31条

(9) その他の学籍異動関係
―転学部，転部，転学科，転コース―

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
転学部	(1)内　　容 一つの学部の学生が他の学部へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので，転学部を希望する学生は，あらかじめ，転学部を希望する学部事務室，および，現在所属している学部事務室へ問い合わせること。	学則第13条
転部	(1)内　　容 １部（昼間部）から２部（夜間部）へ，または，２部から１部へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので，転部を希望する学生は，あらかじめ，それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。	各学部規則
転学科	(1)内　　容 ２学科以上を設置している学部で，一の学科から，他の学科へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので，転学科を希望する学生は，あらかじめ，それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。	各学部規則
転コース	(1)内　　容 ２コース以上を設置している学科内で所属のコースから，他のコースへ転ずることをいう。 (2)問合せ先 転コースを希望する学生は，あらかじめ，工学部事務室の窓口へ問い合わせること。	工学部規則

(10) 懲戒による学籍異動―退学―

種類	内容などに関する事項	関係学則等
退学	(1)内　　容 学則第49条（懲戒）により，次の各号の一に該当する者は退学とする。 ①性行不良で改善の見込みがないと認められる者 ②学力劣等で成業の見込みがないと認められる者 ③正当な理由がなく出席が常でない者 ④本大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者	学則第49条

4．学生連絡

1．学生への連絡方法

(1) 掲示板
(2) G-PLUS!
(3) 電子掲示板
※掲示板および電子掲示板の学内での位置は巻末の『13. 校舎見取り図』で確認すること。

2．掲示板やG-PLUS!での主なお知らせ内容

(1) 各種ガイダンス
(2) 履修登録
(3) 授業時間等に関する変更（休講，補講，教室変更，担当者変更等）
(4) レポート提出
(5) 試験実施
(6) 呼び出しなどの学生連絡
(7) その他のお知らせ

3．電子掲示板での主なお知らせ内容

(1) 休講・補講情報　※G-PLUS!でも知らせる。
(2) 落し物
(3) その他のお知らせ

4．電子掲示板の見方

(1) 電子掲示板は，４面が１セットで構成されており，左から３面が休講・補講掲示である。掲示内容は，左から，１部一般教育・課程，１部専門科目，２部（全科目）休講・補講掲示となっている。また，山鼻校舎では，２面が１セットで構成されており，右側が休講・補講掲示である。
(2) 表示項目について（左から）は，月日・時限・科目名・担当者名・備考となっている。
(3) 電子掲示板の休講・補講掲示開始日は，原則として休講・補講日の２週間前からである。

5．G-PLUS!での確認方法（https://gplus.hgu.jp/）

(1) 一般的なお知らせ
トップ画面のお知らせ情報，「お知らせアイコン」の「お知らせ受信一覧」
(2) 休講情報
「お知らせアイコン」の「教務お知らせ一覧」の「休講情報一覧」
(3) 補講情報
「お知らせアイコン」の「教務お知らせ一覧」の「補講情報一覧」
※履修登録後は，お知らせ受信一覧やトップ画面の「講義のお知らせ」，「MY時間割」からも確認可能

5．教務ガイダンス（学修上の指導）

各学部で行われる教務ガイダンスでは，その年度の「履修の手引」，「授業時間割」，「講義概要」等が配布され，科目の履修上の注意，履修登録の要領，その他教務の総括的な説明を行うので，入学時に配布された「学生便覧」を持参して，必ず出席すること。

項　目	内　　容
実施日時・教室	各学部によって日時・教室が異なるので，必ず学部掲示板およびG-PLUS!で確認すること。 なお，新入生については，「新入生ガイダンス日程表」を参照のこと。
配布資料等	①「履修の手引」 ②「授業時間割」 ③「講義概要」 ④「学生便覧」（新入生のみ） ⑤学内ネットワーク利用の手引き（新入生のみ） ⑥その他
通学証明書の発行	「JR北海道」の通学定期乗車券購入希望者で，購入しようとする日に学生証が交付されていない場合に発行。
ガイダンスの説明事項等	①学部教育の目的および内容 ②卒業要件等 ③授業時間割の見方 ④履修上の注意事項 ⑤科目履修登録要領 ⑥演習等の申込要領 ⑦その他（学修上の注意，窓口手続き等）
個別ガイダンス	全体の「教務ガイダンス」終了後に，個々の質問や履修等の相談がある場合には，所属学部事務室へ申し出ること。

6．学生相談

大学では，一人ひとりが自分らしく充実した学生生活を送ることができるよう，さまざまな悩みの相談に応じています。不安や戸惑いを感じることがあれば，決して一人で悩まず，お気軽に担当窓口へご相談ください。

〈担当教職員が対応する相談〉

①学修相談

授業で困っていること，単位についての心配，成績通知書でわからないことがあるなど

②キャリア相談

進路についての悩み，就職や資格取得に関する相談など

〈相談員（カウンセラーを含む）が対応する相談〉

③健康相談　（プライバシー厳守）

心身の不調，健康についての不安・悩み，健康管理，禁煙相談，受診先の相談など

④こころの相談

人間関係の悩み，孤独感が強くなった，将来についての不安，気持ちが疲れた時など

⑤ハラスメント相談

これはハラスメントかもしれないと感じた場合の相談

⑥障がい学生支援

学生生活の悩みや障壁を取り除くための支援。授業や試験に関する要望，サークルや課外活動に関する相談，配慮を依頼したい場合など

⑦学生なんでも相談

上記の項目以外の相談，どこに相談したらよいかわからないなど，学生生活全般に関する相談

相談窓口，相談方法については，大学ホームページの「在学生の方へ→相談･支援依頼窓口」から詳細を確認し，申し込んでください。

オフィスアワーについて

工学部ではオフィス・アワーという制度を設けています。オフィス・アワーとは，教員が学生からの履修，授業，学生生活などに関する相談や質問に応じるために設定した時間帯です。その時間帯は教員が所定の研究室で待機していますので直接会って話をすることができます。（ただし会議・出張等で不在にする場合もあるので確実に会うためには，電話や電子メール等であらかじめ連絡をとることをお勧めします。）

オフィス・アワーの時間帯・運用方法については各学科の掲示板などで確認してください。

7．授　　業

各学部で行われる教務ガイダンス時に，学生に配布される授業時間割については，下記の事項に留意すること。

項　目	内　　容		
授業(講義)時間	1時限は90分。		
授業時間帯	部　別	時　限	時間帯
	1部	1時限目	9：00～10：30
		2時限目	10：40～12：10
		3時限目	12：40～14：10
		4時限目	14：20～15：50
		5時限目	16：00～17：30
	2部	1時限目	17：50～19：20
		2時限目	19：30～21：00
時間割表の配布と，その見方	「授業時間割」は，各学部の教務ガイダンス時に配布し，その見方について説明する。		
時間割の変更	時間割表に変更（教室，担当教員，曜日，時間帯等）がある場合には，各学部及び教務センターの掲示板に掲示するとともに，G-PLUS!で連絡する。		
休　講	講義が休講になる場合は，あらかじめG-PLUS!で連絡するとともに電子掲示板に掲示する（原則，休講日の2週間前から）。また，講義担当教員の急病等で緊急に休講となる場合は，G-PLUS!で連絡，電子掲示板に掲示するとともに，職員が教室に掲示または口頭で連絡する。なお，講義開始時間から30分以上経過しても担当教員が来ない場合，受講者は所属学部事務室へ連絡をし，指示を受けること。		
補　講	通常の講義のうち休講があった場合は，それを補う講義（補講）は各学期の予備日にこれを実施する。その場合は，G-PLUS!で連絡するとともに電子掲示板に掲示する（原則，補講日の2週間前から）。		
集中講義	夏季および冬季休業中に，集中して行う授業（通常の時間帯の中で実施することもある）で，その時間割については，その都度学部又は課程掲示板に掲示する。		
授業の出席と単位の認定	学則第22条により，出席時数が3分の2以下の者については，単位を認定しない。ただし，3分の1の欠席を認めるものではない。		
授業の欠席	授業の欠席については，「欠席届」* に欠席理由等を記入し，欠席事由を証明する書類を添えて短期の場合は，直接担当教員に，長期の場合は，所属学部事務室に提出すること。		
その他	携帯電話およびこれに類するものは，教室では電源を切ること。		

＊G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

8．試　　験

試験は，授業とそれに関しての自学自習の成果を試すものであり，単位の修得や卒業の要件に深く関わってくるので，平素からの授業および自学自習を大切にし，万全を期して試験にのぞめるよう心掛けること。

種類	項　目	内　　容
定期試験	要　　旨	原則として，第１学期定期試験と第２学期定期試験の２回実施する。ただし，科目によっては，実施しない場合もあるので注意すること。
	実施時期及び期間	第１学期試験は第１学期末，第２学期試験は第２学期末に実施する。実施時期及び期間については，大学の「行事日程表」を参照のこと。
	試験時間	原則として，60分で行う。
	試験時間割	試験実施の１週間前までに，掲示板に掲示するとともに，G-PLUS!で連絡する。
	受験できない場合	次のいずれかに該当する場合は，定期試験を受けることができない。 ①履修登録をしていない科目 ②試験時間に遅刻した者（ただし，試験開始から20分までは，入室及び受験を認める。） ③学生証を所持しない者（ただし，試験期間中，１日に限り，学部事務室発行の「仮受験票」での受験を認める。）
	受験上の注意	定期試験の受験に際しては，「受験心得」を熟知して臨むこと。

種類	項　目	内　　容
追試験	要　　旨	定期試験を欠席した者で，その欠席理由が正当と認められた場合に実施する試験をいう。
	手続き	定期試験をやむをえない理由で欠席した場合は，所定の期間内（期間については，学部掲示板及びG-PLUS!で案内する）に，「試験欠席届」* に欠席理由を証明する証明書を添付して，学部事務室へ提出し，その理由が正当と認められた場合，後日，自動証明書発行機より受験料（１科目500円）を支払い申請書を入手し，学部事務室備え付けの「追試験受験申込書」とあわせて必要事項を記入し申込み，「追試験受験許可証」の発行を受けること。
	受験上の注意	追試験の受験に際しては，「受験心得」を熟知して臨むこと。
追試験の手続時期及び期間		手続き及び試験の時期・期間については，「履修の手引」を参照すること。また，「追試験時間割」は，試験開始日の３日前までに掲示するとともに，G-PLUS!で連絡する。

＊G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

※2021年度は，新型コロナウイルス感染症対策のため，定期試験及び追試験を実施しません。成績評価方法は，筆記試験，LMSでの試験またはレポート提出等，科目担当者によって異なりますので，詳細はLMS及びシラバスを確認してください。

	項　目	内　　容
再試験	要　　旨	定期試験で不合格になった４年次開講科目について，本人の申込により実施する試験をいう。工学部のみで実施。ただし，定期試験を欠席した者は，再試験を受験することができない。また，再試験の結果が合格の場合でも，成績の評価は可に留まる。
	手続き	「再試験受験申込書」と，自動証明書発行機より１科目1,000円を支払って申請書を入手し，あわせて必要事項を記入のうえ学部事務室へ申込み，「再試験受験許可書」の発行を受けること。
	受験上の注意	受験する際は，学生証のほかに「再試験受験許可証」も合わせて持参すること。その他は，すべて，定期試験の「受験心得」に準ずる。
再試験の手続時期及び期間		手続き及び試験の時期・期間については，「行事予定表」参照すること。また，「追・再試験時間割」は，試験開始日の３日前までに掲示するとともに，G-PLUS!で連絡する。

期間外試験，その他

種類	項　目	内　　容
期間外試験	外国語科目の試験	外国語科目については，原則として，それぞれの学期末の最後の授業時間内に実施する。また，これ以外に，通常の授業の中で，臨時に小テストなどを行う場合もある。
	授業中に実施する試験	科目によっては，通常の授業時間の中，あるいは，それぞれの学期の最後の授業時間に試験を実施することがある。
	レポートの提出	定期試験に代えて，レポートの提出を課する科目もある。
	期間外試験については，事前に詳細（実施日時，教室等）を該当学部の掲示板またはG-PLUS!等で連絡する。期間外試験を欠席した場合は，科目担当者に直接問い合わせること。レポートの提出科目についても，事前に詳細（課題，字数，提出期限等）を掲示板またはG-PLUS!等で連絡する。	
その他	演習，実技，実習の科目	演習，実技，実習については，授業への出席状況や授業時間中の発表やレポート，あるいは技術の習熟度等によって，科目担当の教員が判断し評価する。

成績および評価

学業成績は，科目ごとに，次の基準で評価される。

評　点	評　価		GP*	合　否
90～100点	S	秀	4	合　格
80～ 89点	A	優	3	
70～ 79点	B	良	2	
60～ 69点	C	可	1	
59点以下	D	不可	0	不 合 格
欠　　席	E	欠		

＊本学では学習到達度を客観的に評価するためにGPA制度を導入している。GPA制度については，『履修の手引』に記載されている「GPA制度について」をよく読むこと。
ただし，この成績評価になじまない一部の科目は合，否とし，GPは付かない。

受験心得

本学では，定期試験，追試験（工学部の場合は追・再試験）及び臨時の試験を厳正かつ公正に実施するため，「受験心得」を定めている。受験にあたっては，各試験ごとに掲示される「受験心得」をよく読み，真摯な態度で臨まねばならない。なお，『履修の手引』に記載されている「受験心得」もよく読み，試験に臨む姿勢について日頃から心掛けておくこと。

9．免許・資格取得・その他

本学には，通常の課程において取得できる免許・資格のほかに，通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては，それぞれのガイダンスへ出席して，説明を受けること。

1）教職課程
2）図書館学課程
3）社会教育主事課程
4）学芸員課程
5）その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの，卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については，各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

社会環境工学科

技術士・技術士補（www.engineer.or.jp）
測量士・測量士補（www.jsurvey.jp）
火薬類製造保安責任者（www.zenkakyo-ex.or.jp）
火薬類取扱保安責任者（www.zenkakyo-ex.or.jp）
１級・２級造園施工管理技士（www.jctc.jp）
RCCM（Registered Civil-engineering Consulting Manager）（www.jcca.or.jp）
コンクリート技士・主任技士（www.jci-net.or.jp）
コンクリート診断士（www.jci-net.or.jp）
プレストレストコンクリート技士（www.jpci.or.jp）
１級・２級舗装施工管理技術者（www.dohkenkyo.com）
１級・２級土木施工管理技士（www.jctc.jp）
１級・２級管工事施工管理技士（www.jctc.jp）
土地家屋調査士（www.chosashi.or.jp）
地質調査技士（www.zenchiren.or.jp）
ダム水路主任技術者（www.meti.go.jp）
廃棄物処理施設技術管理者（www.jesc.or.jp）
品質管理推進責任者（www.jsa.or.jp）
水道技術管理者（www.jwwa.or.jp）

建築学科

1）在学中に受験可能な資格の例

二級建築士（www.jaeic.or.jp）
木造建築士（www.jaeic.or.jp）
（但し，高等専門学校において指定科目を修めて卒業した者）
宅地建物取引士（www.retio.or.jp）
インテリアコーディネーター（www.interior.or.jp/ic/）
インテリアプランナー（www.jaeic.or.jp/shiken/ip/index.html）
カラーコーディネーター（www.kentei.org/color/）
再開発プランナー（www.urca.or.jp/planner/index.html）
土地家屋調査士（www.chosashi.or.jp/res/index.html）
福祉住環境コーディネーター（www.kentei.org/fukushi/）

2）卒業と同時に受験可能な資格の例

一級建築士（www.jaeic.or.jp）（指定科目の条件あり）
二級建築士（www.jaeic.or.jp）
木造建築士（www.jaeic.or.jp）
（指定科目の条件あり）
２級インテリア設計士（www.jp-interior.or.jp）
消防設備士（www.shoubo-shiken.or.jp/shoubou/）
測量士・測量士補（www.jsurvey.jp/shikaku.htm）
技術士補（www.engineer.or.jp）

3）卒業後一定の実務経験を経て受験可能な資格の例

建築設備士（www.jaeic.or.jp）
構造設計一級建築士（www.jaeic.or.jp）
設備設計一級建築士（www.jaeic.or.jp）
１級・２級建築施工管理技士（www.ecc-jp.com/w/kentiku01.html）
１級・２級土木施工管理技士（www.ecc-jp.com/w/doboku01.html）
１級・２級建設機械施工技士（www.ecc-jp.com/w/kikai01.html）
コンクリート技士･コンクリート主任技士（www.jci-net.or.jp/j/exam/gishi）
コンクリート診断士（www.jci-net.or.jp/j/exam/shindan/index.html）
１級インテリア設計士（www.jp-interior.or.jp）
商業施設士（www.jtocs.or.jp）
技術士（www.engineer.or.jp）
１級・２級造園施工管理技士（www.ecc-jp.com/w/zouen01.html）
１級・２級電気工事施工管理技士（www.ecc-jp.com/w/denki01.html）
１級・２級管工事施工管理技士（www.ecc-jp.com/w/kan01.html）
労働安全／衛生コンサルタント（www.exam.or.jp/index.htm）
第一種・第二種衛生管理者（www.exam.or.jp/index.htm）

電子情報工学科

1）電子情報工学科の学生が目指す主な資格

ITパスポート試験
基本情報技術者試験
応用情報技術者試験
ネットワークスペシャリスト試験
データベーススペシャリスト試験
エンベデッドシステムスペシャリスト試験
（www.jitec.ipa.go.jp）
第一級・二級陸上無線技術士（http://www.nichimu.or.jp/denpa/02-shikaku.html）
電気通信主任技術者
（伝送交換主任技術者，線路主任技術者）
工事担当者
（AI第1種，DD第1種，AI・DD総合種）
（http://www.shiken.dekyo.or.jp/）
電気主任技術者（第三種），電気工事士（第二種）（https://www.shiken.or.jp/chief.html）

2）所定の科目を修得し，卒業後取得できる資格

第一級陸上特殊無線技士
第二級海上特殊無線技士
（www.nichimu.or.jp/denpa/02-shikaku.html）

生命工学科

バイオ技術者認定試験（中級および上級）（www.bio-edu.or.jp/qualification）
バイオインフォマティクス技術者認定試験（www.jsbi.org/nintei/）
ITパスポート試験
情報セキュリティマネジメント試験
基本情報技術者試験
応用情報技術者試験
システム監査技術者試験
ネットワークスペシャリスト試験
（www.jitec.ipa.go.jp）

10. 図書館・開発研究所・判例演習室

(1) 図書館案内

1．図書館概要

本館：本学の創立100周年記念事業の一環として，昭和62年４月に開館。

工学部図書室：昭和62年５月，山鼻キャンパスの中心に開館。

蔵書冊数　約850,000冊

所蔵雑誌数　約9,200種

（2020年３月末）

2．図書館利用時間

			月～金曜日	土曜日
本館	1階	ラウンジ	9:00～22:30	
		返却ポスト	21:45～22:30 8:00～ 8:50	
	2階	ワーク・エリア	9:00～22:00	
		貸出／返却（資料）	9:00～21:45	
		レファレンス・サービス	9:00～12:40 13:30～16:30	9:00～12:00
		閉架書庫	9:00～21:30	
	3階	サイレント・エリア	9:00～22:00	
	4階	アクティブ・エリア	10:00～21:00	10:00～17:00
		貸出／返却（機器等）	10:00～20:45	10:00～16:45
工学部図書室	1階	閲覧室	9:00～20:00	9:00～12:50
		貸出／返却（資料）	9:00～19:45	9:00～12:30
		レファレンス・サービス	9:00～16:30	9:00～12:00

※**休館日**：日曜日，国民の祝日，入学式実施日，創立記念日，全学休業日，年末年始の休業日，入学試験準備日及び入学試験日，蔵書点検日，その他臨時休館日は図書館ホームページ等でお知らせします。

※**レファレンス・サービス**：上記時間外は，サービス・カウンターにお申し出ください。

※夏・春季休業期間中，本館４階の開館時間は，10：00～17：00となります。

※夏・春季休業期間中，工学部図書室の開館時間は，月・水・金曜日が9：00～19：30，火・木曜日が9：00～17：00，土曜日が9：00～12：50となります。

※工学部図書室閉架・閉架B1資料の取出時間（通常期及び夏・春季休業期間中）は図書館ホームページの「開館時間」をご確認ください。

3．利用資格

本学の学部生，大学院生，教職員，その他館長が特に認めた者とします。

ただし，本館１階から３階と工学部図書室は卒業生，修了生及び大学図書館相互利用サービス加盟校の学生・教職員も利用できます。

4．図書館利用証

学生証が図書館利用証を兼ねます。学生証を常に携帯し，必要に応じ提示して図書館を利用してください。

学生証は他人に貸与又は譲渡することはできません。

紛失及び破損した場合は，所属学部事務室（工学部１年生は教務センター）にて，再発行手続を行ってください。

5．利用上の注意

図書館の利用に際しては次の注意事項を守ってください。

・サークル活動など，学修以外の目的での利用はできません。

・飲食はペットボトルなど蓋付きの容器に入った飲み物のみ可能です。ただし，汁ものやにおいの強いものでなければ，本館１階に限り食事も可能です。

・スマートフォン，携帯電話等による通話，電子機器類からの音声出力（本館４階は一部可），無許可の撮影，長時間にわたる私物の放置など，他の利用者の迷惑となる行為はできません。

・貸出手続を受けない図書を持ち出すと，出口で警報音が鳴ります。

・貴重品の管理には十分に注意してください。盗難・紛失等があっても，当館では責任を負えません。

6．資料の探し方

本学図書館に所蔵している図書・雑誌は，蔵書検索システム「OPAC」で検索することができます。

7．館内での利用

①開架図書

開架されている図書及び雑誌は，書架から自由に取り出して館内で利用することができます。

②閉架図書

書庫にある図書は閉架図書といいます。

OPACによる検索の結果，配置場所が「○○閉架」「Ｂ１△△」と表示された場合は，閲覧請求票を出力の上，サービス・カウンターに申し出てください。

雑誌のバックナンバーを閲覧したい場合は，事前にタイトル・巻号数と発行年月日などの情報を調べておく必要があります。

入庫希望者は学生証を提示してください。

③禁帯出資料

辞書・事典類，六法全書，雑誌，新聞，新聞縮刷版，視聴覚資料，マイクロ資料，古文書等は，館外に持ち出すことはできません。図書館内でご利用ください。

8．館外貸出

①貸出手続

貸出希望の図書を持参し，学生証を提示してください。

②貸出冊数・期間（開架書庫・閉架書庫を問わず）

学部生は，最大５冊15日間です。なお，夏季・冬季・春季休業期間中は長期貸出を受けることができます。

③特別長期貸出制度

卒業論文等の作成を支援するため，特別長期貸出制度（通常借りられる５冊15日間とは別に最大７冊30日間）があります。

④返却手続

返却期限内にサービス・カウンターに返却してください。期限を超過すると，新たな貸出手続ができません。

⑤貸出更新手続

返却期限内に貸出更新手続をすることにより，１回まで延長して借りることができます。図書と学生証を持参して手続を行ってください。なお，他の利用者の予約が入っていたり，夏季・冬季・春季長期貸出のあとは更新できません。

⑥予約手続

利用希望の図書が貸出中の場合，予約することができます。

⑦紛失・汚損
図書を紛失・汚損した場合は，すみやかにサービス・カウンターに申し出てください。

9．レファレンス・サービス
本館はレファレンス・カウンター，工学部図書室はサービス・カウンターにてご利用いただけます。
図書館を十分に活用していただくために，以下のようなサービスを行っています。
・OPACの使い方や資料の探し方等，図書館の利用方法全般を説明。
・参考図書やオンラインデータベースを活用して，探している文献に関係する情報を調査。
・他の図書館・機関等との相互協力サービスによって，本学図書館で所蔵していない資料を提供。
文献複写：他の図書館・機関等から必要箇所のコピーを取り寄せることができます。コピー代と送料等は申込者の負担となります。
相互貸借：他の図書館・機関等が所蔵する図書を借り受けることができます。往復の送料等は申込者の負担となります。また，相互貸借図書は原則として館内利用となります。
他館利用願の発行：本学図書館が発行する他館利用願（紹介状）を持参することにより，他の図書館を利用することができます。なお，北海道地区大学図書館相互利用サービス参加館を利用する際には他館利用願は必要ありません。（詳細は同頁14.を参照してください。）

10. 複写機について
・図書館では著作権法の範囲内で文献複写サービスを行っています。
・複写機は，本館２階に３台，４階に１台，閉架M２階に１台，工学部図書室では１台設置しています。
・複写機利用は，コピーカード式とコイン式があります。なお，工学部図書室はコイン式のみとなっています。
・複写できる資料は図書館所蔵の図書・雑誌類に限ります。ノートやプリント類など私物の複写はできません。

11. 情報検索用パソコン・視聴覚ブース
①情報検索用パソコンブース
備え付けのパソコンを利用することで，インターネットでの情報検索，電子ブック・電子ジャーナル・データベースの利用，マイクロ資料の閲覧・複写・データ保存などが行えます。
なお，利用には，学内ネットワークのID・パスワードが必要です。また，特定のデータベースを利用の際には，カウンターで申し込みが必要です。
②視聴覚ブース
視聴覚ブースは，サービス・カウンターで申し込みの上，ご利用ください。ブルーレイ，DVD，CDなどの館内貸出資料の利用ができます。サービス・カウンター横に視聴覚資料の所蔵目録がありますのでご利用ください。個人資料の持ち込みはできません。

12. 図書館ポータルサイト「MyLibrary」
「MyLibrary」（マイライブラリー）では，ご自身の貸出，予約，購入依頼，文献複写・貸借（ILL）の状況確認や予約依頼の取消，OPAC検索条件の保存ができます。
利用にあたっては，学内ネットワークのID・パスワードが必要です。
〈接続方法（２種類）〉
・G-PLUS!にログインし，リンクアイコンの「MyLibrary」をクリック
・OPACを開き，サイドバーの「MyLibraryログイン」又は「MyLibraryメニュー」をクリック
「MyLibrary」はG-PLUS!と連携しており，G-PLUS!で返却期限日や予約資料確保のお知らせなどを受信できます。「MyLibrary」とあわせて確認してください。

13. 購入希望図書の申し込み・図書館への意見
図書館に所蔵していない購入希望図書がありましたらOPACの「MyLibraryメニュー」の「新規購入依頼」から申し込みをしてください。
また，図書館に対しての意見・希望等は，図書館ホームページの「お問い合わせ」の「図書館の利用に関すること」を選択し，記載されているアドレスにメールを送信してください。

14. 北海道地区大学図書館相互利用サービス
北海道地区大学図書館相互利用サービスは，北海道内の大学図書館間の相互協力を更に推進して，教育・研究活動の発展に貢献することを目指すものです。それぞれの参加館ごとに学外者の利用登録を行う必要はありますが，図書館間の相互貸借によらず，学生証・教職員身分証等の提示だけで他大学学生・教職員に直接閲覧，複写，貸出のサービスを実施しています。参加館によっては貸出不可や貸出条件がある場合があります。
利用の際は，あらかじめ利用大学図書館の開館スケジュール，資料の所蔵情報，利用登録時に必要なもの等を確認してください。また，利用大学の「図書館利用規則」を遵守してください。
（詳しくは，館内のポスターをご覧ください）

工学部図書室案内

図書室は工学部キャンパス２号館１階にあります。
自然科学・工学系を中心に専門書・専門雑誌を所蔵しています。

利用時間
月～金曜日　9：00～20：00　土曜日　9：00～12：50

休館日
日曜日，国民の祝日，入学式実施日，創立記念日，全学休業日，年末年始の休業日，入学試験準備日及び入学試験日，蔵書点検日，その他臨時休館日は図書館ホームページ等でお知らせします。

図書室概要
総床面積　519m^2　　閲覧席数　124席
蔵書冊数　約192,000冊　　開架冊数　約39,100冊
所蔵雑誌数　823誌　　開架雑誌数　約69誌

利用手続
Ⅰ．館内利用
開架されている資料は書架から自由に取り出して館内で利用することができます。
１．参考図書
辞典・事典・便覧・年鑑・年報・白書等は，館外へ

持ち出すことはできません。館内でご利用ください。

2．開架図書

開架書架には，利用頻度の高い自然科学・工学系を中心に図書約39,100冊と雑誌のバックナンバーを配架しています。

3．新着雑誌

雑誌書架には，一般誌・自然科学・工学系の最新号等を配架しています。

(最新号･未製本雑誌は,館外へ持ち出すことはできません。)

4．閉架書庫の図書・雑誌

OPAC検索の結果「工学部閉架」「工学部閉架Ｂ１」と表示された場合は，閲覧請求票をカウンター係に提出してください。

5．禁帯出資料

辞書・事典類，六法全書，雑誌，新聞，視聴覚資料，マイクロ資料等は館外へ持ち出すことはできません。館内でご利用ください。

6．AV資料

ブルーレイ・DVD・CD等の視聴をすることができます。(AV資料は，館外へ持ち出すことはできません。)

Ⅱ．館外貸出

1．貸出手続

貸出希望資料に学生証を添えてカウンター係に提出してください。

2．貸出冊数と期間（開架書庫・閉架書庫を問わず）

学部生は５冊15日間です。

3．特別長期貸出制度

ゼミ・卒業論文等の作成支援のため，通常貸出冊数以外に７冊30日間貸出できます。

4．貸出更新手続

返却期限内で他の利用予約が無い場合１回延長貸出ができます。

5．予約手続

利用希望の図書が貸出中の場合，予約することができます。

6．取り寄せ

本館（豊平）所蔵資料の取り寄せ貸出ができます。

Ⅲ．相互利用

本学に所蔵がなく，他大学・公共図書館等で所蔵している資料は，複写依頼・図書の借用ができます。これに要する費用は利用者負担となります。

諸施設

1．カウンター

貸出手続・レファレンスサービス等図書館全般の質問，相談に応じます。

2．OPAC（蔵書検索システム）

山鼻校舎・豊平校舎の蔵書を検索できます。

(図書館ホームページ(https://webopac.hgu.jp)からも検索できます。)

3．ブック・ディテクション・システム（B．D．S）

図書未手続防止装置です。必ず貸出手続きをしてください。

4．コピー機（コイン式複写機）

複写は著作権法に基づいて行うことができます。著作権法にふれぬよう注意してください。(ノートやプリント類・私物の複写はできません)

5．AVコーナー

本学所蔵のブルーレイ・DVD・CD等を視聴できます。AVブース横に視聴覚資料の所蔵目録がありますのでご利用ください。個人資料の持ち込みはできません。

6．PCブース

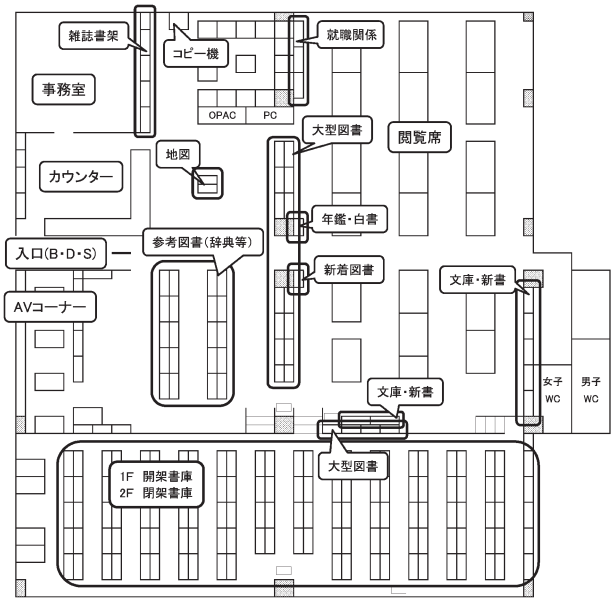
インターネットで文献検索（電子ジャーナル・データベース）ができます。利用には学内ネットワークのID・パスワードが必要です。

7．ブラウジング・コーナー

新着雑誌等をソファーでくつろいで閲覧することができます。

※飲食（蓋付きの容器であれば可能）･携帯電話等の利用は，図書室内で行わないでください。

図書室見取図



(2) 開発研究所案内

1．研究所の目的・特色

本研究所は，1957年に上原轍三郎初代学長（兼開発研究所長）によって設立された。設立目的は，北海道開発の視点から，同地域の歴史・経済・政治・社会・文化・技術などに関する基礎的・応用的諸研究を行い，学界に貢献するとともに，その成果を広く一般社会に普及することを通して，地域の発展に寄与するところにある。

特色は，その活動が特定の学科や専門領域に限定されることなく，学際的であることにある。また近年の著しい国際化に対応すべく，海外の研究機関との連携にも力を入れている。

2．研究所の諸活動

(1) 調査研究活動：総合研究，個別研究による調査研究の実施

(2) 図書資料の収集・整理：開発に関する文献資料の収集，整理

(3) 機関誌，その他資料の編集･発行：研究の成果を「開発論集」，多様な活動と成果を「ニュースレター」に掲載

(4) 他の研究機関との連携：内外の研究機関・研究者との学術交流や共同研究の実施

⑸　講演会，研究会の開催：道内市町村での開発特別講座，市民を対象とした講演会・シンポジウム，専門研究者による研究会の開催
⑹　その他：所蔵資料の閲覧・貸出，全国の図書館等と連動したレファレンスサービスの実施

3．文献サービス

本研究所は，開発問題に関する文献の収集を行ってきたが，近年は，世界的視野にたったOECD（経済協力開発機構）資料やアジア経済関係資料の充実を図るとともに，国内的には，道内市町村史などの地域関係資料，行政資料（統計・白書等含む），各種研究機関の研究報告書などの収集に力を注いでいる。

また，2000年度から専門図書館北海道地区協議会の資料センターを併設したことにより，政府関係機関の各種行政資料（統計・白書等含む）が豊富に所蔵されている。2014年度からは専門図書館協議会の北海道における資料センターに改組された。

これらの資料は，いずれも広く学内外の方が利用出来るよう，ホームページなどで公開されている。

⑴　図書：現在，日本語文献約13,750冊，外国語文献約4,700冊が利用可能である。この他に，北海道新聞創設期からのマイクロフィルムが充実している。
⑵　雑誌：現在，和・洋雑誌合わせて約650タイトルが利用可能である。
⑶　専門図書館協議会の資料センター
2000年度以降，政府関係機関の発行する資料（行政資料・統計・白書等）を主に国立国会図書館から年間約370点受け入れている。資料の充実に伴い，行政資料の専門図書館として学内外から利用されている。

4．近年の総合研究の成果と計画

経済・経営・法学・人文・工学と幅広い学部を有する大学の特色を生かして，総合的な研究課題について，本研究員がそれぞれの専門領域を生かしつつ学際的に研究を行っています。この研究成果は，開発論集（年２回発行）として広く公開しています。

「北海道の社会経済を支える高等教育に関する学際的研究―北海学園大学が果たす役割」（2012年～2014年），「北海道における発展方向の創出に関する基礎的研究」（2015年～2017年），「地域資源開発の総合的研究―北海道の産業遺産，北海道の歴史遺産，北海道の文化遺産，北海道の自然遺産からの接近と再構築―」（2018年～2020年）

5．場　　所

研究室棟（４号館）１階
利用時間
　月・水・金曜日　午前９時30分～午後７時30分
　火・木曜日　　午前９時30分～午後４時30分
　土曜日　　午前９時30分～午後０時30分
　（昼休み時間：午後０時40分～午後１時40分）
休館日
　日曜，祝日，入学式，創立記念日，全学休業日，年末年始の休業日，入学試験日・準備日，卒業式，その他，臨時で休館する場合があります。

※ゼミのレポート作成などで，調べものをしたい時には，遠慮なくお越しください。

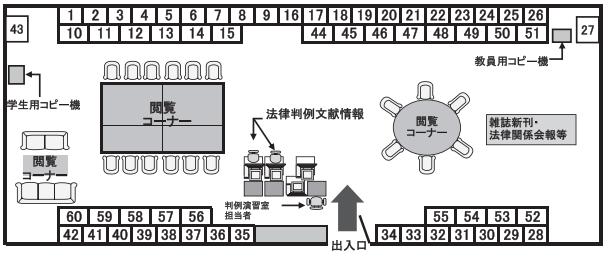
⑶　判例演習室案内

判例演習室は，わが国の法令集，判例集，判例および判例研究を収めた法律専門雑誌（大学紀要を除く）を整備し，わが国の判例を研究・教育するための施設として教員および学生の利用に供されている。また，求めに応じて一般の利用も認められる。収蔵されている判例集は18種，法律専門雑誌は60種以上にのぼり，それらの検索のために，「ロー・ライブラリー」「LLI統合型法律情報システム」「第一法規法情報総合データベース」「Westlaw」を導入し，検索サービスを行っている。なお，以上の基本的な判例集等の一層の充実のほか，文献情報を的確に入手できる最新諸機器の導入をはかり本学の特色の１つとなっている。

〔学生閲覧内規〕

1．法学部学生および大学院法学研究科および大学院法務研究科の学生は，備付けの図書を閲覧し，または検索用機器を利用することを目的とする場合に限り，本室を利用することができる。
2．入室の際には，本室係員に学生証を提出しなければならない。
　なお，本室に施錠してあって入室できないときは，法学部事務室で鍵を借りて本室を利用することができる。その場合，その者の学生証を法学部事務室で保管する（午後７時30分まで利用可）。
3．第１項の学生を除く学部の学生または大学院の学生で，とくに本室の利用を希望する学生は，本室係員にその旨を申し出るものとする。
　利用の手続きについては，第１項の学生に準じて扱う。
4．本室備付け図書は，室外に帯出することはできない。
5．本室備付け図書を複写するするために，設置のコピー機を利用することができる（コピーカードのみ使用可）。複写できる範囲は著作権法の定めるところに従う。
6．本室内での携帯電話の利用，飲食および喫煙を禁止する。
7．開室時間
　月～金曜日　午前10時00分～午後８時00分
　土曜日　　午前10時00分～午後３時00分

判例演習室備付図書一覧



1．大審院民事判例集（判決録）
1－2．大審院刑事判例集（判決録）
2．裁判粋誌大審院判決例
　判例民法（判例民事法）
　労働関係民事裁判例集
3．行政事件裁判例集
4．高等裁判所判例集（刑事・民事）
　高等裁判所刑事裁判特報
　高等裁判所刑事判決特報
　東京高等裁判所刑事判決時報
　東京高等裁判所民事判決時報
5．下級裁判所民事裁判例集
　下級裁判所刑事裁判例集
　刑事裁判月報
6．公正取引
　別冊商事法務
7．旬刊商事法務（商事法務研究）
8．手形研究
　銀行法務21
8－9．国際商事法務
9．月刊監査役
　研修（1～33号は研修月報）
10－11．法律時報
11．別冊法律時報
　法律時報増刊
12－13．金融法務事情
13．資料版商事法務
14．NBL（NewBusinessLaw）
15．金融・商事判例
16－18．判例時報
18．判例評論
19－21．判例タイムズ
21．別冊判例タイムズ
22－23．ジュリスト
24．別冊ジュリスト
　（判例百選・争点シリーズ等）
　ジュリスト増刊
25－26．民商法雑誌
26．民事研修（みんけん）
27．警察研究
28．ビジネス法務
31－32．判例体系
32．命令体系・不当労働行為
　労働法規総覧
33－34．現行法規総覧
34．判例・通達実務大六法
35－36．法学協会雑誌
36．比較法研究
37．アメリカ法
　金融法研究
　信託法研究
　世界法年報
　労働経済判例速報
　労働法律旬報
　海法会誌
38－39．労働判例
38．北海学園大学法学研究
39．日本労働研究雑誌（日本労働協会雑誌）
40．大審院刑事判決録
　税務事例
　国民生活
　民事法情報
41．私法判例リマークス
　生命保険判例集
　消費者法ニュース
42．法曹
　環境・公害関係資料集
　法律判例文献情報
　修士・博士論文
43．法学セミナー
44－45．最高裁判所民事判例集
45－46．最高裁判所刑事判例集
46．公正取引委員会審決集
　公正取引委員会排除命令集
47－48．法曹時報
48－49．法学教室
　別冊付録判例セレクト
49－50．家庭裁判月報
50．戸籍
51．交通事故民事裁判例集
　家庭の法と裁判
52．最高裁判所判例解説　刑事篇
　最高裁判所判例解説　民事篇
　DHCコンメンタール相続税法
　DHC不動産税務釈義
　DHCコンメンタール所得税法
53．裁判所時報
　週刊法律新聞
　法律のひろば
54．警察学論集
　判例地方自治
55．刑事法ジャーナル
　自由と正義
　捜査研究
　Lexis企業法務
　Lexis判例速報
56．法律新聞
　現代法律百科大辞典
57．Business Law Journal
　衆議院憲法調査会報告書
　大審院民事判決録
　大審院判決全集
　大審院判例（大審院判例拾遺）
　北海学園大学法学研究
58．税（税　別冊）
　税理
59．税理（税理　別冊）
　日本労働法学会誌（労働法）
60．公正取引情報
　重要労働判例総覧
　知的財産法政策学研究
　日本工業所有権法学会年報
　日本国際経済法学会
　別冊労働判例
　労働判例・定期刊行物総合索引

＊書物は帯出禁止です。当室のコピー機で，ご利用願います（コピー・カードのみの使用となります）。

11．教育用コンピュータ実習室案内（豊平校舎）

1．教育用コンピュータ実習室概要

本実習室施設は情報教育の一環として，昭和60年４月に２号館３階に開設されました（現コンピュータ実習室Ｂ）。その後，利用者急増による施設拡充として平成元年１月には５号館３階に新たな実習室（コンピュータ実習室Ａ）が開設，平成15年４月には３号館３階に実習室（コンピュータ実習室ＣおよびＤ）が開設されました。また，平成15年度の新学部新学科の増設に伴い，平成15年９月には７号館５・６階にも実習室（地域経済情報検索室，マルチメディア実習室，コンピュータ実習室Ｅ）が開設されました。

これら実習室は，情報関連科目及びコンピュータを利用する授業展開科目，授業時間外での実習（予習・復習），一般授業においてのデータ収集やレポート作成といった授業の補助的な利用など，教育・研究における利用を主たる目的としています。

2．利用資格

以下のいずれかに該当し，学内ネットワークの利用許可を受けた者とする。

(1)　本学教職員
(2)　本学学部生，大学院生，研究生
(3)　その他，教育用コンピュータ実習室運営委員会が利用を認めた者

利用有効期間は，(1)は在職中，(2)は在学中，(3)は当該年度とします。

※科目等履修生，委託生，特別聴講学生については，(3)に該当します。

3．利用の手続き

実習室を利用するためには，学内ネットワークの利用申請が必要です。

申請手続きについては，学内ネットワーク利用ガイダンスを受講し，説明を受けてください。

4．設備

各実習室の設備は以下のとおりです。

◯パソコン

①コンピュータ実習室Ａ
　実習室１　富士通FMV ESPRIMO K558/B　64台
　実習室２　富士通FMV ESPRIMO K558/B　64台
　実習室３　富士通FMV ESPRIMO K558/B　56台
②コンピュータ実習室Ｂ★
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　96台
③コンピュータ実習室Ｃ
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　56台
④コンピュータ実習室Ｄ★
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　32台
⑤コンピュータ実習室Ｅ
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　72台
⑥マルチメディア実習室
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　30台
⑦地域経済情報検索室
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　48台
⑧CALL教室
　富士通FMV ESPRIMO K558/B　60台

（※“授業以外での利用”は，上記で「★」がつい

ている実習室を主に開放しています。）

○ソフトウェア

Word2019, Excel2019, Access2019, Power Point2019, Publisher2019等

○その他

プリンタ，スキャナ，中間モニタ，ヘッドセット等

5．利用時間

授業外実習（自学自習）の利用時間

○授業開講期間（予備日・定期試験期間を含む）

月～金　9：00～22：00

土　9：00～16：30

○長期休業期間（夏期・春期）

掲示物やG-PLUS!等でお知らせします。

○閉室日

日曜日，祝祭日，入学式，創立記念日（5月16日），全学休業日（8月中旬），年末年始休業，入学試験日（2月8日～12日），大学祭（10月9日～11日），卒業式

※その他，メンテナンス等による閉室もありますので，掲示物やG-PLUS!等で確認してください。

6．利用上の注意

学内ネットワークガイダンス時に配布される冊子『学内ネットワーク利用の手引き』に実習室利用に関する詳細が記載されていますので，熟読のうえ，規程・規則等を守って利用してください。

ウイルスを発生させた学生，または不正アクセス等（なりすまし，著作権・肖像権の侵害，ファイル共有ソフトの利用等）をした学生は，学内の規程等に基づき処罰（利用資格の取り消し等）されますので注意してください。

工学部計算機実習室案内（山鼻校舎）

1．工学部計算機実習室概要

本実習室は，情報関連科目およびコンピュータを利用する科目の授業，授業時間外での実習（OPEN利用），一般の授業において参考となるデータの収集やレポート作成等，教育・研究を主たる目的として設置されています。

設備については，令和2年10月現在次の通りです（内容は設備更新により変更となる場合があります）。

○　実習室Ⅰ　ESPRIMO K556/M　65台

○　実習室Ⅱ　ESPRIMO K556/M　89台

○　実習室Ⅲ　ESPRIMO K556/M　10台

○　実習室Ⅳ　ESPRIMO K558/T　74台

○　ソフトウェア

実習室Ⅰ～Ⅳ

MATLAB R2020a，VectorWorks 2019，Tera Term Pro Ver4.105，Visual Studio 2017 Enterprise，Photoshop Elements 2019，エクセル統計など

2．利用時間

○　OPEN利用できる時間

◇授業開講期間（補講日を含む）

月～金　9：00～19：45

（実習室Ⅳは18：00まで）

土　9：00～14：45

（上記の時間は変更されることがありますので，掲示で確認して下さい。）

◇長期休業期間（夏季・春季）

月～金　9：00～16：45

作業期間中の閉室についてはその都度掲示，計算機実習室HPでお知らせします。

○　閉室日

日曜，祝祭日，創立記念日（5月16日），入学式，卒業式，年末・年始，入学試験日。その他学校行事及び機器保守点検・修理などによる臨時の閉室については，その都度掲示，計算機実習室HPでお知らせします。

3．利用資格

利用資格者は，次に該当する者とします。

(1)　本学教職員（非常勤講師を含む）

(2)　本学工学部学生，大学院生，研究生，科目等履修生

(3)　その他，工学部コンピュータシステム運営委員会が利用を認めた者

利用有効期間は，(1)は在職中，(2)・(3)は在籍中とします。

4．利用の手続きについて

本実習室のコンピュータを使用するためには，IDとパスワードの取得が必要です。各自のIDとパスワードは，入学時に一括で登録してあります。失念した場合などは実習室受付に問い合わせてください。

5．利用上の注意

計算機実習室受付にて配布されている，「工学部計算機システムおよび計算機実習室利用に関する厳守事項」に詳細が記載されていますので，熟読のうえ規則を守って利用してください（「工学部計算機システムおよび計算機実習室利用に関する厳守事項」は工学部計算機実習室HPでも閲覧することができます）。

規則違反をした場合，「北海学園大学工学部計算機システムおよび計算機実習室に関する運用・管理内規」第5条により，その利用者のユーザーアカウントの抹消，学則等に基づく処分がなされることがありますので注意してください。

12. 学則及び関連規則，規程関係

(1) 北海学園大学学則

昭和43年４月１日　制定
昭和45年４月１日　変更
昭和51年４月１日　〃
昭和54年４月１日　〃
昭和56年４月１日　〃
昭和57年４月１日　〃
昭和58年４月１日　〃
昭和59年４月１日　〃
昭和60年４月１日　〃
昭和61年４月１日　〃
昭和62年４月１日　〃
昭和63年４月１日　〃
平成元年４月１日　〃
平成２年４月１日　〃
平成３年４月１日　〃
平成３年12月１日　〃
平成４年４月１日　〃
平成５年４月１日　〃
平成６年４月１日　〃
平成７年４月１日　〃
平成８年４月１日　〃
平成９年４月１日　〃
平成10年４月１日　〃
平成11年４月１日　〃
平成12年４月１日　〃
平成13年４月１日　〃
平成14年４月１日　〃
平成15年４月１日　〃
平成16年４月１日　〃
平成17年４月１日　〃
平成18年４月１日　〃
平成19年４月１日　〃
平成20年４月１日　〃
平成21年４月１日　〃
平成22年４月１日　〃
平成23年４月１日　〃
平成24年４月１日　〃
平成25年４月１日　〃
平成26年４月１日　〃
平成27年４月１日　〃
平成28年４月１日　〃
平成29年４月１日　〃
平成30年４月１日　〃
平成31年４月１日　〃
令和２年４月１日　〃
令和３年４月１日　〃

目次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　学生
　第１節　入学，編入学，転学部，転学及び留学（第８条－第16条）
　第２節　授業科目，履修方法，単位認定基準及び試験（第17条－第26条）
　第３節　休学，退学及び除籍（第27条－第31条）
　第４節　卒業及び学士の学位（第32条・第33条）
　第５節　授業料等，授業料等の免除，受講停止（第34条－第37条）
　第６節　研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生（第38条－第46条）
　第７節　賞罰（第47条－第49条）
第３章　教育職員免許状等（第50条－第51条の２）
第４章　公開講座（第52条）
第５章　組織
　第１節　職員の組織（第53条－第56条）
　第２節　教授会，協議会，全学教授会及び委員会等（第57条－第62条）
第６章　附属施設（第63条－第68条）
附則

第１章　総則

（目　的）

第１条　北海学園大学は，法令の定めるところに従い，最高の学術とその応用とを研究教授し，さらに人格の陶冶と身体の錬成とに努め，国家社会のために有為の人材を養成することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　北海学園大学（以下「本大学」という。）は，その目的を達成するため，本大学における教育研究活動等の状況について，自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価に関する事項については，別に定める。

（認証評価）

第２条の２　本大学は，前条の措置に加え，教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

（ファカルティ･ディベロップメント及びスタッフ･ディベロップメント）

第２条の３　本大学は，授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

２　本大学は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため，その教育職員及び事務職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修（前項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

（情報公開）

第２条の４　本大学は，教育研究活動等の状況について，刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって積極的に情報を提供するものとする。

（学部，学科，入学定員，編入学定員及び収容定員）

第３条　本大学に，次の学部及び学科を置き，入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学　部	（学　科）	(入学定員)	(編入学定員)	(収容定員)
			(3年次)	
		人	人	人
経済学部１部	経　済　学　科	160		640
同　　上	地域経済学科	140		560
経済学部２部	経　済　学　科	75		300
同　　上	地域経済学科	45		180
経営学部１部	経　営　学　科	160		640
同　　上	経営情報学科	140		560
経営学部２部	経　営　学　科	100		400
法 学 部１部	法　律　学　科	155	20	660

同　上	政治学科	100	10	420
法学部２部	法律学科	120		480
同　上	政治学科	60		240
人文学部１部	日本文化学科	100		400
同　上	英米文化学科	95		380
人文学部２部	日本文化学科	40		160
同　上	英米文化学科	30		120
工学部	社会環境工学科	60		240
同　上	建築学科	70		280
同　上	電子情報工学科	70		280
同　上	生命工学科	60		240

２　各学部に関する規則は，別に定める。

３　前項の規則には，各学部・学科ごとに教育研究上の目的を定めるものとする。

４　本大学に，大学院を置く。大学院の学則は，別に定める。

（学年及び授業期間）

第４条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

２　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

第５条　学年を次の２学期に分ける。

第１学期　４月１日から９月30日まで

第２学期　10月１日から翌年３月31日まで

（休業日）

第６条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は，次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

⑶　創立記念日　５月16日

⑷　春季休業

⑸　夏季休業

⑹　冬季休業

２　前項第４号から第６号までに掲げる休業日は，別に定める。

３　学長は，協議会の議を経て休業日を変更し，臨時休業日を設け，又は休業日に授業を行うことができる。

（修業年限及び在学期間）

第７条　本大学の修業年限は，４年とし，在学期間は，修業年限の２倍を超えることができない。

第２章　学生

第１節　入学，編入学，転入学，転学部及び留学

（入　学）

第８条　入学期は，毎学年の始めとする。

第９条　本大学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当するものとする。

⑴　高等学校を卒業した者

⑵　12年の学校教育の課程を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

⑻　その他，相当の年令に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認めた者

第10条　本大学に入学を志願する者は，所定の書類に別表13に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。

第11条　入学志願者については，別に定める入学試験規程により，所定の入学試験を行い合格者を決定する。

２　前項による合格の通知を受けた志願者のうち，所定の期日までに所定の手続きを完了した者に，学長は，入学を許可する。

（編入学，転入学，転学部）

第12条　次の各号の一に該当する者について，教授会で選考のうえ，学長が編入学又は転入学を許可することができる。

⑴　大学に２年以上在学し，所定の単位を修得した者（中途退学者を含む。）で，入学を志願する者

⑵　大学を卒業した者で，入学を志願する者

⑶　短期大学又は高等専門学校を卒業した者で，入学を志願する者

⑷　専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

（ただし，学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る）

⑸　高等学校，中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科（以下「高等学校等の専攻科」という。）のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

（ただし，学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る）

⑹　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第90条第１項に規定する者に限る。）

２　前項の規定にかかわらず，大学に１年以上在学し，所定の単位を修得した者で，法学部第２年次に入学を志願する者については，法学部教授会で選考のうえ，学長が入学を許可することができる。

３　前二項の規定により入学を許可された者の入学前に履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）の一部又は全部の認定は，教授会の議を経て行うものとする。

４　前項に規定する者の入学前の大学，短期大学，高等専門学校，専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科における在学年数については，その一部又は全部を当該学部の教授会の議を経て，本大学における在学期間に算入することができる。

第13条　一つの学部の学生であって，他の学部に転学部を志願する者又は他の大学から本大学に転入学を志願する者については，欠員のある場合に限り，教授会で選考のうえ，学長が許可することができる。

２　前項の規定により転学部を志願する者にあっては，

在学する学部の，転入学を志願する者にあっては，在学する大学の許可証を所定の書類に添えなければならない。

3　前項の規定により転学部又は転入学を許可された者の転学部又は転入学前に履修した授業科目について修得した単位の一部又は全部の認定は，教授会の議を経て行うものとする。

第14条　他の大学に転入学を志願する者は，書面をもってその旨学部長を経由して学長に願い出て，その許可を受けなければならない。

（留　学）

第15条　学生が海外の大学その他の相当と認められる教育・研究機関等に留学する場合は，第24条の規定を準用するほか，別に定める規定による。

2　休学期間中に，学生が前項の機関等に留学する場合も，前項と同様とする。ただし，第24条第３項は準用しない。

（二重学籍の禁止）

第16条　本大学の学生は，他の大学に在籍することを認めない。ただし，本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定による場合は，この限りではない。

第２節　授業科目，履修方法，単位認定基準及び試験

（授業科目）

第17条　授業科目は，必修科目，選択科目及び自由科目とする。

（授業科目の区別）

第18条　各学部の授業科目，授業科目の単位数及び年次配当並びに必修科目，選択科目及び自由科目の区別は，別表１から別表９のとおりとする。

（他学部の授業科目の履修）

第19条　学生は，他の学部の授業科目を履修することができる。この場合，所属する学部の学部長及び当該他学部の学部長の許可を得なければならない。

（単位数の計算方法）

第20条　各授業科目の単位数の計算は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じて，次の各号に掲げる基準による。

⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

⑵　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。

⑶　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，15時間の授業をもって１単位とすることができる。

⑷　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。ただし，教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して，30時間の授業をもって１単位とすることができる。

⑸　体育実技については，30時間の授業をもって１単位とする。

2　本大学は，前項に規定する授業科目について，教育上有益と認めるときは，文部科学大臣が別に定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（卒業論文等）

第21条　卒業論文，卒業研究及び卒業制作の履修方法並びに単位認定については，学部規則で定める。

（単位修得の認定）

第22条　履修した授業科目の単位修得の認定は，試験成績と平素の成績とを総合し，教授会の議を経て行うものとする。ただし，授業料等未納の者及び出席時数３分の２以下の者については，単位の認定をしない。

2　前項の規定にかかわらず，別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は，教職課程委員会に，別表11の⑴に掲げる「司書に関する科目」及び別表11の⑵に掲げる「司書教諭に関する科目」の単位認定は，図書館学課程委員会に，別表11の⑶に掲げる「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は，社会教育主事課程委員会に，別表11の⑷に掲げる「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は，学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

ただし，社会教育主事に関する科目，学芸員に関する科目のうち，学部及び他の課程委員会に関わる授業科目の単位修得の認定は，社会教育主事課程委員会及び学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

3　別表12⑴及び⑵に掲げる「日本語教員養成課程授業科目」の単位認定は，人文学部教授会が行う。ただし，他学部開講の授業科目の単位認定は，当該学部が行う。

4　第20条第２項に定める授業科目の履修により修得できる単位数は，第32条第１項各号に定める所定の単位のうち，60単位を超えないものとする。

（成績の評価）

第23条　授業科目の成績の評価は，秀，優，良，可及び不可とし，秀，優，良及び可を合格とする。ただし，この成績評価になじまない一部の科目は，合，否とする。

（他大学等の授業科目の履修）

第24条　学部において，教育上有益と認めるときは，学生が他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認めることができる。

2　前項により学生が履修した授業科目について修得した単位は，60単位を超えない範囲で本大学において修得した単位とみなすことができる。

3　第１項及び前項により学生が授業科目を履修するために本大学を離れて他の地に滞在する期間は，本大学の在学期間に含めることができる。

4　学部は，第１項の実施にあたって，履修できる授業科目の範囲等必要な事項について，教授会の議に基づき学長の許可を得て，当該他大学又は短期大学と協議しなければならない。

（大学以外の教育施設等における学修）

第25条　学部において，教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本大学における授業科目の履修とみなし，別に定める認定の基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は，前条第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第26条　学部において，教育上有益と認めるときは，学生が本大学に入学する前に大学，短期大学，高等専門学校，専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を，本大学にお

ける授業科目の履修により修得したものとみなし，別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

2　学部において，教育上有益と認めるときは，学生が本大学に入学する前に行った前条に規定する学修を，本大学における授業科目の履修とみなし，別に定める認定の基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。

3　前二項により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，編入学，転学等の場合を除き，本大学において修得した単位以外のものについては，第24条第２項及び第25条第２項において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4　前項の単位は，第７条に定める修業年限の短縮を伴わない。

第３節　休学，退学及び除籍

（休　学）

第27条　学生は，疾病その他の事情で引続き３ヵ月以上就学できないとき，その他特別の理由があると認められるときは，教授会の議を経た後，学長の許可を得て，その学年の終わりまで休学することができる。

2　前項の規定にかかわらず，学年の始めにおいて既に４年の修業年限を満たしている者は，疾病その他の事情で引続き３ヵ月以上就学できないとき，その他特別の理由があると認められるときは，教授会の議を経た後，学長の許可を得て，第１学期の終わりまで休学することができる。

3　第１項の規定にかかわらず，学年の始めにおいて前年度の第２学期のみ休学した者（学期途中からの休学を含む）は，疾病その他の事情で引続き３ヵ月以上就学できないとき，その他特別の理由があると認められるときは，教授会の議を経た後，学長の許可を得て，第１学期の終わりまで休学することができる。

4　疾病のため就学することが適当でない学生については，教授会の議を経て，学長は，当該学生に休学を命じることができる。

5　休学理由が消滅し，休学期間が満了した学生については，教授会の議を経て，学長は復学させることができる。

（休学期間）

第28条　休学期間は当該年度限りとする。ただし，特別の理由があるときは，教授会の議を経た後，学長の許可を得て，さらに１ヵ年について休学することができる。

2　第27条第２項及び第３項による休学の場合，前項の「１ヵ年」は「次の学期とその翌年度の第１学期」と読み替える。

3　前二項の規定により休学延長をするときは，当初の休学期間を含めて連続して２ヵ年を限度とする。

4　通算して休学できる期間は，４年以内とする。

5　休学期間は，第７条の修業年限及び在学期間に加えない。

（退　学）

第29条　学生が退学しようとするときは，所定の書類をもって学部長を経由して学長に願い出，教授会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

（再入学）

第30条　前条による退学者が３年以内に再入学を願い出た場合は，学長は，教授会の議を経て，これを許可することができる。

（除　籍）

第31条　学生が次の各号の一に該当する場合は，学長は，教授会の議を経て，これを除籍することができる。

⑴　第７条に規定する在学期間を超えるとき

⑵　死亡したとき

⑶　行方不明になったとき

⑷　授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しないとき

⑸　休学期間満了前に，復学，退学又は休学の願い出がないとき

⑹　入学を辞退したとき

2　前項第３号，第４号又は第５号により除籍された者が復籍を願い出たときは，第30条の規定を準用する。

第４節　卒業及び学士の学位

（卒　業）

第32条　学長は，本大学に４年以上在学し，学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に卒業を許可することができる。

⑴　経済学部１部経済学科にあっては，別表１⑴に掲げる授業科目のうち，132単位以上

⑵　経済学部１部地域経済学科にあっては，別表１⑵に掲げる授業科目のうち，132単位以上

⑶　経済学部２部経済学科にあっては，別表２⑴に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑷　経済学部２部地域経済学科にあっては，別表２⑵に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑸　経営学部１部経営学科にあっては別表３⑴に掲げる授業科目のうち，138単位以上

⑹　経営学部１部経営情報学科にあっては別表３⑵に掲げる授業科目のうち，138単位以上

⑺　経営学部２部経営学科にあっては別表４⑴に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑻　法学部１部法律学科にあっては，別表５⑴に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑼　法学部１部政治学科にあっては，別表５⑵に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑽　法学部２部法律学科にあっては，別表６⑴に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑾　法学部２部政治学科にあっては，別表６⑵に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⑿　人文学部１部日本文化学科にあっては，別表７⑴に掲げる授業科目のうち，132単位以上

⒀　人文学部１部英米文化学科にあっては，別表７⑵に掲げる授業科目のうち，132単位以上

⒁　人文学部２部日本文化学科にあっては，別表８⑴に掲げる授業科目のうち，124単位以上

⒂　人文学部２部英米文化学科にあっては，別表８⑵に掲げる授業科目のうち，124単位以上

⒃　工学部社会環境工学科にあっては，社会環境コース別表９⑴及び環境情報コース別表９⑵に掲げる授業科目のうち，124単位以上

⒄　工学部建築学科にあっては，別表９⑶に掲げる授業科目のうち，124単位以上

⒅　工学部電子情報工学科にあっては，別表９⑷に掲げる授業科目のうち，128単位以上

⒆　工学部生命工学科にあっては，別表９⑸に掲げる授業科目のうち，124単位以上

2　卒業要件の細目については，学部規則で定める。

3　卒業の時期は学年末とする。
4　前項の規定にかかわらず，学年の始めにおいてすでに４年の修業年限を満たしている者で，第１学期の履修により第１項各号に定める単位を修得した者から申し出のあるときは，第１項の定めるところにより，学年途中において卒業を許可する。この場合，卒業の時期は第１学期末とする。
5　第１項の規定にかかわらず，学長は本大学に３年以上在学し，学部長が教授会の議を経て，学部の定める卒業に必要な基準を満たしたと認定した者に卒業を許可することができる。
（学位の授与）
第33条　学長は，本大学を卒業した者に，卒業証書を授与するとともに，北海学園大学学位規則に定めるところにより学士の学位を授与する。
2　北海学園大学学位規則は，別に定める。

第５節　授業料等，授業料等の免除，受講停止

（授業料等）
第34条　学生は，別表13に定める入学金，授業料，教育充実費，実験実習費及び大学諸費を，別に定めるところにより納入しなければならない。
2　特別の事情により，授業料，教育充実費，実験実習費及び大学諸費の納入が困難な場合は，学生は，別に定めるところにより当該納入金を延納することができる。
（授業料等の免除）
第35条　休学者は，その期間中の授業料，教育充実費，実験実習費及び大学諸費の納入を免除する。
　ただし，別表13による各分納期の中途で休学，退学又は転学する場合は，その期の授業料，教育充実費，実験実習費及び大学諸費の納入を免除しない。
2　第32条第４項に基づき第１学期末の卒業を認められた者については，第２期分の授業料等の納入を免除する。
（受講停止）
第36条　正当な理由なく授業料等を納入しない者は，受講を停止する。
（入学検定料等の不返還）
第37条　既に納入した入学検定料，入学金，授業料，教育充実費，実験実習費及び大学諸費は，返還しない。

第６節　研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生

（研究生）
第38条　本大学において，特定事項について研究しようとする者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，教授会の選考を経て，研究生として，これを許可することができる。
2　研究生の取扱いは，別に定める規程による。
（委託生）
第39条　公共団体又はその他の機関より，本大学の特定の授業科目について修学を委託される者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，教授会の選考を経て，委託生とし，これを許可することができる。
（科目等履修生）
第40条　本大学の特定の授業科目について，履修を希望する者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，教授会の選考を経て，科目等履修生として，これを許可することができる。
2　科目等履修生の取扱いは，別に定める規程による。
3　第１項の規定にかかわらず，司書となる資格又は司書教諭の所要資格，社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生の選考については，それぞれの課程委員会に委任するものとする。
4　科目等履修生の履修することのできる授業科目数は，これを制限することができる。
（委託生，科目等履修生の資格）
第41条　委託生又は科目等履修生を志願する者は，第９条の入学資格と同等以上の資格を有する者でなければならない。
2　教育職員の免許状授与の所要資格の取得，司書となる資格又は司書教諭の所要資格，社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生を志願する者の資格は，別に定める。
（手　続）
第42条　委託生又は科目等履修生を志願する者は，所定の入学願書に履修しようとする授業科目等を記載し，別表14に定める入学検定料を添えて，願い出なければならない。
（試験及び証明書）
第43条　委託生又は科目等履修生は，その履修した授業科目の試験を受けることができる。
2　試験に合格した授業科目について，学長は，願い出により，証明書を交付することができ，科目等履修生については，単位を認定することができる。
（特別聴講学生）
第44条　本大学において，特定の授業科目を履修し，単位を修得しようとする他の大学又は短期大学若しくは外国の大学又は短期大学の学生があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，教授会の議を経て，当該他大学又は短期大学との協議に基づき，特別聴講学生として，これを許可することができる。
（入学金及び受講料等）
第45条　研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生は，別表14に定める入学金，研究料又は受講料及び実験実習費を納入しなければならない。
2　既に納入した入学金，研究料又は受講料，実験実習費及び入学検定料又は審査料は，返還しない。
3　単位互換協定校又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金，受講料，実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。
（準　用）
第46条　研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生については，本節で定めるもののほかは，本学則及び本大学の学生に関する規定を準用する。ただし，研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生については，第32条及び第33条の規定を準用しない。

第７節　賞罰

（表　彰）
第47条　将来有為の社会人としての素質を有し，本大学の伝統を形成し得ると認められる学生は，別に定める表彰規程により表彰する。
（奨学制度）
第48条　本大学学生育英のため，奨学制度を設ける。
2　奨学規程は，別に定める。
（懲　戒）
第49条　学生が，その本分にもとる行為又は本大学の諸規程に違反する行為を行ったときは，教授会又は必要により協議会の議を経て，学長が懲戒を行う。

2　懲戒は，譴責，停学又は退学とし，退学は，次の各号の一に該当するものに対して行う。
(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2)　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
(3)　正当の理由がなく出席が常でない者
(4)　本大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

第３章　教育職員免許状等

（教育職員の免許状授与の所要資格の取得）

第50条　本大学の学部の各学科に，教育職員の免許状授与の所要資格を取得する課程（以下「教職課程」という。）を置く。

2　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，卒業に必要な単位を修得するほか，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

3　教職課程授業科目は，別表10のとおりとする。

4　教科に関する科目の一部については，同一学部の他の学科又は他の学部の授業科目を履修することができる。

5　本大学の教職課程において，当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は，次に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	(免許教科)
経済学部	1部経済学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商　業)
経済学部	1部地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
経済学部	2部経済学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商　業)
経済学部	2部地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
経営学部	1部経営学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商　業)
経営学部	1部経営情報学科	高等学校教諭一種免許状	(商　業)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情　報)
経営学部	2部経営学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商　業)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情　報)
法学部	1部法律学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
法学部	1部政治学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
法学部	2部法律学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
法学部	2部政治学科	中学校教諭一種免許状	(社　会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公　民)
人文学部	1部日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	1部英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英　語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
工学部	社会環境工学科	中学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工　業)
工学部	建築学科	中学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工　業)
工学部	電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数　学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情　報)
工学部	生命工学科	中学校教諭一種免許状	(理　科)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(理　科)

6　教職課程を履修するために必要な事項は，別に定める。

7　教職課程授業科目を履修する者は，別表14に定める受講料を納入しなければならない。

（司書となる資格，司書教諭の所要資格，社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格の取得）

第51条　本大学に，司書となる資格又は司書教諭の所要資格を取得する課程（以下「図書館学課程」という。），社会教育主事となる資格を取得する課程（以下「社会教育主事課程」という。）及び学芸員となる資格を取得する課程（以下「学芸員課程」という。）を置く。

2　本大学の図書館学課程で取得できる資格の種類は，司書となる資格又は司書教諭の所要資格とする。

3　本大学の社会教育主事課程で取得できる資格は，社会教育主事となる資格とする。また，この資格を取得した者は，社会教育士（養成課程）と称することができる。

4　本大学の学芸員課程で取得できる資格は，学芸員となる資格とする。

5　第２項，第３項及び第４項の資格を取得しようとする者は，卒業に必要な単位を修得するほか，別表11の(1)，(2)，(3)及び(4)に定める所要の単位を修得しなければならない。

6　図書館学課程，社会教育主事課程及び学芸員課程を履修するために必要な事項は，別に定める。

7　図書館学課程，社会教育主事課程及び学芸員課程の授業科目を履修する者は，別表14に定める受講料を納入しなければならない。

（日本語教員養成課程）

第51条の２　本大学に日本語教員養成課程を置く。

2　日本語教員養成課程を履修するために必要な事項は，別に定める。

3　日本語教員養成課程の授業科目を履修する者は，学則別表14(9)に定める受講料を納入しなければならない。

第４章　公開講座

（公開講座）

第52条　本大学は，公開講座を設けることができる。

第５章　組織

第１節　職員の組織

（職　員）

第53条　本大学に，次の職員を置く。

(1)　教育職員（学長，教授，准教授，講師及び助教）

(2)　事務職員

２　学長は，前項のほか，必要な職員を置くことができる。

３　教授，准教授，講師及び助教の選考基準に関する規程は，別に定める。

（学　長）

第54条　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

２　学長候補の選出については別に定める。

３　学長の任期は４年とし，これに満たない在任期間も１期とみなす。

４　再任の場合の任期は２年とし，学長在任が連続３期となる選出は認めない。

（副学長）

第54条の２　本大学に２名の副学長を置き，本大学の専任教員のうち教授をもって充てる。

２　副学長は学長を補佐し，学長の命を受け，総務または教学に関する校務をつかさどる。

３　副学長は学長が指名し，協議会の議を経て理事会に推薦する。

４　副学長の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

（学部長）

第54条の３　学部に学部長を置き，本大学の教授をもって充てる。

２　その選出方法及び職務については，別に定めるところによる。

（学生部，キャリア支援センター，入試部及び教務センター）

第55条　本大学に学生部，キャリア支援センター，入試部及び教務センターを置き，部長及びセンター長は，第59条第１項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

２　学生部，キャリア支援センター，入試部及び教務センターに関する規程は，別に定める。

（事務組織）

第56条　本大学は，その事務を遂行するため，事務組織を設ける。

２　事務組織及び事務分掌については，別に定める。

第２節　教授会，協議会，全学教授会及び委員会等

（教授会）

第57条　学部に，教授会を置き，所属の専任の教授，准教授，講師及び助教をもって構成する。

２　教授会は，次の事項を審議する。

(1)　教育研究上の目的に関する事項

(2)　学部の規則及び内規に関する事項

(3)　学部長及び協議員の選出に関する事項

(4)　教育課程の編成に関する事項

(5)　学生の入学，退学，休学，卒業その他の学籍に関する事項

(6)　学位授与に関する事項

(7)　賞罰に関する事項

(8)　研究に関する事項

(9)　教員の選考に関する事項

(10)　予算概算の要求及び配布予算の執行に関する事項

(11)　学長より諮問された事項

(12)　その他教育研究に必要な事項

３　教授会は，前項に掲げる事項のうち第１号から第11号までの事項及びその他学長が定める事項について，学長に意見を述べるものとする。

４　教授会は，学部長が招集し，その議長となる。ただし，構成員の３分の１以上の請求があるときは，これを招集しなければならない。

５　教授会は，構成員の半数以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。教授会の議事は，出席者の過半数をもって決する。

６　教員選考に関する事項は，別に定めるところによる。

７　学部長は，教授会が必要と認めるときは，他の職員の出席を求め，意見を聴くことができる。ただし，この職員は，議決に加わることはできない。

（協議会）

第58条　本大学に，重要事項の調整又は協議するため協議会を置き，次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1)　学長

(2)　副学長

(3)　学部長

(4)　研究科長

(5)　各学部の教授会から選出された教員各２人。このうち少なくとも１人は教授をもって充てる。

(6)　学生部長，キャリア支援センター長，入試部長，教務センター長，図書館長及び開発研究所長。

なお，本号に定める構成員を総称して，機関長という。

２　協議会は，次の各号に掲げる事項の調整又は協議を行う。

(1)　予算概算の方針に関する事項

(2)　人事基準の運用に関する事項

(3)　学科課程の調整に関する事項

(4)　全学的機関，学部間の調整事項

(5)　学生の厚生補導又はその賞罰に関する重要事項

(6)　学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(7)　学部，学科及び重要な施設の設置又は変更並びに廃止に関する事項

(8)　事務機構及び事務職員の配置に関する事項

(9)　大学の重要行事に関する事項

３　第１項第４号により選出された協議員の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。

４　前項の協議員の欠員により選出された協議員の任期は，前任者の残任期間とする。

５　協議会は，学長が必要あると認めたとき，教授会の議により開催の要求があったとき，又は第１項に掲げる構成員の３分の１以上から開催の要求があるとき学長が，これを招集する。

６　学長は，協議会の議長となる。学長に事故あるときは，予め学長の指名した協議員が議長となる。

７　協議会は，学部を代表する協議員１人以上が出席し，かつ，第１項に掲げる構成員の３分の２以上の出席がなければ，開催することができない。

８　協議会は，第２項第８号の事項に関して，学長の諮問に応じるため，人事委員会を設けることができ，副学長，学部長，機関長及び事務部長をもって構成する。

９　協議会には，学長の指定する所要の職員を列席させるほか，協議員以外の者に出席を求め，その意見を聴

くことができる。

（全学教授会）

第59条　本大学に重要事項を審議するため，全学教授会を置き，学長並びに各学部の専任の教授，准教授，講師及び助教をもって構成する。

2　全学教授会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

⑴　機関長の選出

⑵　協議会において，協議不調となった事項中，次に掲げる事項

イ　学部，学科又は重要な施設の設置，変更又は廃止に関する事項

ロ　学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項

ハ　大学の重要行事に関する事項

ニ　学長又は協議会が必要と認める事項

3　学長は，全学教授会を招集する。ただし，構成員の３分の１以上から前条の事項につき開催の要求があるとき，又は協議会が必要と認めるときは，これを招集しなければならない。

4　全学教授会は，構成員の過半数が出席しなければ，開催することができない。

5　学長は，全学教授会の議長となる。ただし，学長に事故あるときは，予め学長の指名した者が議長となる。

6　全学教授会の議決は，出席者の過半数をもって決し，可否同数の場合は，議長の決するところによる。

7　全学教授会には，学長の指定する所要の職員を列席させるほか，構成員以外の者に出席を求め，その意見を聴くことができる。

（学長室）

第60条　本大学に，重要事項に関する学長意見を整理するため，学長室を置き，次の各号に掲げる者をもって構成する。

⑴　学長

⑵　副学長

⑶　学部長

⑷　事務部長

⑸　大学院事務部長（兼）学長秘書業務総括担当

⑹　事務部課長

⑺　学長が必要と認め，協議会が承認した者

2　学長室は，次の各号に掲げる事項について学長意見の整理を行う。

⑴　協議会の協議事項のうち全学的に重要なことで事前整理が必要な事項

⑵　全学教授会の審議事項

⑶　北海学園大学の中長期展望

⑷　その他学長が必要と認めた事項

3　学長室に，学術，国際交流，教学，IR，産学連携，その他学長が必要と認める担当を置く。

4　第１項第６号構成員の任期は１年とする。ただし，再任を妨げない。

5　学長室は，必要に応じ構成員以外の出席を求め，その意見を聞くことができる。

（委員会）

第61条　本大学に学生委員会，キャリア支援委員会，入試委員会，図書委員会及び教務委員会を設ける。

2　委員会に関する規程は，別に定める。

第62条　前条第１項のほか，必要に応じて委員会を設けることができる。

第６章　附属施設

（図書館）

第63条　本大学に，図書館を置き，館長は，第59条第１項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2　図書館に関する規程は，別に定める。

（開発研究所）

第64条　本大学に，開発研究所を置き，所長は，第59条第１項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2　開発研究所に関する規程は，別に定める。

（厚生施設）

第65条　本大学の職員及び学生は，学園経営の厚生施設を利用することができる。

（診療所）

第66条　本大学の職員及び学生は，診療所において施療及び保健衛生に関する指導を受けることができる。

附　則

この学則は，昭和43年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和51年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は，昭和54年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は昭和53年度以降の入学者から適用し，昭和52年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

この学則は，昭和56年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は，昭和57年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は昭和57年度以降の入学者から適用し，昭和56年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

1　この学則は，昭和58年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は昭和58年度以降の入学者から適用し，昭和57年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

1　この学則は，昭和59年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は昭和59年度以降の入学者から適用し，昭和58年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

1　この学則は，昭和60年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は昭和60年度以降の入学者から適用し，昭和59年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

1　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	１部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	２部	経済学科	120

		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	100
		建築学科	100
計			1,445

附　則

1　この学則は，昭和62年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，昭和62年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附　則

1　この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，昭和63年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

3　第22条の別表１，別表３及び別表５のイの一般教育科目，別表１，別表２，別表３及び別表４のニの専門教育科目並びに第25条第５号の法学部１部，２部の単位数は，昭和63年度第１年次入学者から適用し，昭和62年度以前の入学者については，従前の規定による。

附　則

1　この学則は，平成元年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附　則

1　この学則は，平成２年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，平成２年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附　則

1　この学則は，平成３年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず，平成３年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

3　第27条第２項の規定は，平成２年度の入学生から適用する。

附　則

1　この学則は，平成４年４月１日から施行する。

2　ただし，第28条第１項の規定は平成４年度以降の入学者から適用し，平成３年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

1　この学則は，平成５年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず平成５年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3　ただし，第28条第１項の規定は平成５年度以降の入学者から適用し，平成４年度以前の入学者については従来の規定による。

附　則

1　この学則は，平成６年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず平成６年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	１部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	２部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	１部	法律学科	1,080
	２部	法律学科	480
人文学部	１部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	２部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3　ただし，第28条第１項の規定は平成６年度以降の入学者から適用し，平成５年度以前の入学者については従来の規定による。

附　則

1　この学則は，平成７年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず平成７年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	１部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	２部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	１部	法律学科	1,080
	２部	法律学科	480
人文学部	１部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	２部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3　ただし，第28条第１項の規定は平成７年度以降の入学者から適用し，平成６年度以前の入学者については従来の規定による。

4　ただし，第25条の第５号の専門教育科目工学部土木工学科の卒業単位数は，平成７年度第１年次入学者から適用し，平成７年度第２年次以降の学生については，従来の規定による。

5　ただし，別表７のへの専門教育科目は，平成７年度第３年次学生から適用し，平成７年度第４年次学生については，従来の規定によることを追加する。

附　則

1　この学則は，平成８年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず平成８年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	１部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	２部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	１部	法律学科	1,080
	２部	法律学科	480
人文学部	１部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	２部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3　ただし，第28条第１項の規定は平成８年度以降の入学者から適用し，平成７年度以前の入学者については従来の規定による。

附　則

1　この学則は，平成９年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条第１項の規定にかかわらず平成９年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
			人
経済学部	１部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	２部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	１部	法律学科	1,080
	２部	法律学科	480
人文学部	１部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	２部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3　ただし，第28条第１項の規定は平成８年度以降の入学者から適用し，平成７年度以前の入学者については従来の規定による。

附　則

1　この学則は，平成10年４月１日から施行する。

2　次の各号に該当する者については，変更後の北海学園大学学則の規定にかかわらず，なお従前の例による。

(1)　平成10年３月31日に本大学に在籍する者

(2)　平成10年３月31日以前に本大学に入学した者で，再入学（復籍）する者

(3)　平成10年４月１日以降平成12年３月31日以前に編入学する者

3　前項の取り扱いにおいて，教養部，教養部長又は教養部教授会の審議又は決定若しくは認定すべき事項については，それぞれ学部，学部長又は学部教授会が行うものとする。

4　第３条第１項の規定にかかわらず，平成10年度から平成11年度までの間の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員	収容定員
			人	人
経済学部	１部	経済学科	270	1,080

同上		経営学科	270	1,080
経済学部	2部	経済学科	120	480
同上		経営学科	120	480
法学部	1部	法律学科	270	1,080
法学部	2部	法律学科	120	480
人文学部	1部	日本文化学科	60	240
同上		英米文化学科	60	240
人文学部	2部	日本文化学科	40	160
同上		英米文化学科	30	120
工学部		土木工学科	80	320
同上		建築学科	80	320
同上		電子情報工学科	100	400
計			1,620	6,480

附　則

1　この学則は，平成11年４月１日から施行する。

2　第３条に定める編入学定員により法学部１部法律学科に編入学する者については，平成10年４月１日施行学則附則第２項第３号の規定にかかわらず，本学則を適用する。

3　第３条第１項の規定にかかわらず，平成11年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	270		1,080
同上		経営学科	270		1,080
経済学部	2部	経済学科	120		480
同上		経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	190	20	800
同上		政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同上		政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	60		240
同上		英米文化学科	60		240
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同上		英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同上		建築学科	80		320
同上		電子情報工学科	100		400
			1,700	30	6,860

附　則

1　この学則は，平成12年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成12年度から平成16年度までの入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成12年度

学部・学科等			入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	263		1,073
同上		経営学科	263		1,073
経済学部	2部	経済学科	120		480
同上		経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	183	20	953
同上		政治学科	100	10	200
法学部	2部	法律学科	120		480
同上		政治学科	60		120
人文学部	1部	日本文化学科	100		280
同上		英米文化学科	95		275
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同上		英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同上		建築学科	80		320
同上		電子情報工学科	100		400
			1,754	30	6,734

平成13年度

学部・学科等			入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	256		1,059
同上		経営学科	256		1,059
経済学部	2部	経済学科	120		480
同上		経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	176	20	859
同上		政治学科	100	10	310
法学部	2部	法律学科	120		480
同上		政治学科	60		180
人文学部	1部	日本文化学科	100		320
同上		英米文化学科	95		310
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同上		英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同上		建築学科	80		320
同上		電子情報工学科	100		400
			1,733	30	6,857

平成14年度

学部・学科等			入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	249		1,038
同上		経営学科	249		1,038
経済学部	2部	経済学科	120		480
同上		経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	169	20	758
同上		政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同上		政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		360
同上		英米文化学科	95		345
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同上		英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同上		建築学科	80		320
同上		電子情報工学科	100		400
			1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等			入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	242		1,010
同上		経営学科	242		1,010
経済学部	2部	経済学科	120		480
同上		経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	162	20	730
同上		政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480

同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	235		982
同上	経営学科	235		982
経済学部 2部	経済学科	120		480
同上	経営学科	120		480
法学部 1部	法律学科	155	20	702
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,670	30	6,866

3　ただし，第22条第３項，第51条の２は，平成10年度以降入学者から適用する。

附　則

1　この学則は，平成13年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成13年度から平成16年度までの入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成13年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	256		1,059
同上	経営学科	256		1,059
経済学部 2部	経済学科	120		480
同上	経営学科	120		480
法学部 1部	法律学科	176	20	859
同上	政治学科	100	10	310
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		180
人文学部 1部	日本文化学科	100		320
同上	英米文化学科	95		310
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,733	30	6,857

平成14年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	249		1,038
同上	経営学科	249		1,038
経済学部 2部	経済学科	120		480
同上	経営学科	120		480
法学部 1部	法律学科	169	20	758
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		360
同上	英米文化学科	95		345
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	242		1,010
同上	経営学科	242		1,010
経済学部 2部	経済学科	120		480
同上	経営学科	120		480
法学部 1部	法律学科	162	20	730
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	235		982
同上	経営学科	235		982
経済学部 2部	経済学科	120		480
同上	経営学科	120		480
法学部 1部	法律学科	155	20	702
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320

同　上　電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

附　則

1　この学則は，平成14年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成14年度から平成16年度までの入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成14年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部　1部　経済学科	249		1,038
同　上　経営学科	249		1,038
経済学部　2部　経済学科	120		480
同　上　経営学科	120		480
法学部　1部　法律学科	169	20	758
同　上　政治学科	100	10	420
法学部　2部　法律学科	120		480
同　上　政治学科	60		240
人文学部　1部　日本文化学科	100		360
同　上　英米文化学科	95		345
人文学部　2部　日本文化学科	40		160
同　上　英米文化学科	30		120
工学部　土木工学科	80		320
同　上　建築学科	80		320
同　上　電子情報工学科	100		400
	1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部　1部　経済学科	242		1,010
同　上　経営学科	242		1,010
経済学部　2部　経済学科	120		480
同　上　経営学科	120		480
法学部　1部　法律学科	162	20	730
同　上　政治学科	100	10	420
法学部　2部　法律学科	120		480
同　上　政治学科	60		240
人文学部　1部　日本文化学科	100		400
同　上　英米文化学科	95		380
人文学部　2部　日本文化学科	40		160
同　上　英米文化学科	30		120
工学部　土木工学科	80		320
同　上　建築学科	80		320
同　上　電子情報工学科	100		400
	1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部　1部　経済学科	235		982
同　上　経営学科	235		982
経済学部　2部　経済学科	120		480
同　上　経営学科	120		480
法学部　1部　法律学科	155	20	702
同　上　政治学科	100	10	420
法学部　2部　法律学科	120		480
同　上　政治学科	60		240
人文学部　1部　日本文化学科	100		400
同　上　英米文化学科	95		380
人文学部　2部　日本文化学科	40		160
同　上　英米文化学科	30		120
工学部　土木工学科	80		320
同　上　建築学科	80		320
同　上　電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

3　ただし，第50条第３項及び第５項並びに第６項の規定は，平成13年度の入学生から適用する。

附　則

1　この学則は，平成15年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成15年度から平成16年度までの入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部　1部　経済学科	167		935
同　上　地域経済学科	140		140
同　上　経営学科	－		768
経済学部　2部　経済学科	75		435
同　上　地域経済学科	45		45
同　上　経営学科	－		360
経営学部　1部　経営学科	167		167
同　上　経営情報学科	140		140
経営学部　2部　経営学科	100		100
法学部　1部　法律学科	162	20	730
同　上　政治学科	100	10	420
法学部　2部　法律学科	120		480
同　上　政治学科	60		240
人文学部　1部　日本文化学科	100		400
同　上　英米文化学科	95		380
人文学部　2部　日本文化学科	40		160
同　上　英米文化学科	30		120
工学部　土木工学科	80		320
同　上　建築学科	80		320
同　上　電子情報工学科	100		400
	1,801	30	7,060

備考　経済学部１・２部は，平成15年４月１日改組転換を実施したため経済学部１部経営学科・２部経営学科は，募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部　1部　経済学科	160		832
同　上　地域経済学科	140		280
同　上　経営学科	－		505
経済学部　2部　経済学科	75		390
同　上　地域経済学科	45		90
同　上　経営学科	－		240
経営学部　1部　経営学科	160		327
同　上　経営情報学科	140		280
経営学部　2部　経営学科	100		200

法学部 1部	法律学科	155	20	702
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,780	30	7,086

附　則

1　この学則は，平成16年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成16年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成16年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	160		832
同上	地域経済学科	140		280
同上	経営学科	－		505
経済学部 2部	経済学科	75		390
同上	地域経済学科	45		90
同上	経営学科	－		240
経営学部 1部	経営学科	160		327
同上	経営情報学科	140		280
経営学部 2部	経営学科	100		200
法学部 1部	法律学科	155	20	702
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	土木工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,780	30	7,086

備考　経済学部1･2部は，平成15年４月１日改組転換を実施したため経済学部１部経営学科・２部経営学科は，募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

附　則

1　この学則は，平成17年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成17年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

3　ただし，土木工学科から社会環境工学科に名称変更することについては，平成17年４月１日に在籍している者から適用する。

平成17年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	160		736
同上	地域経済学科	140		420
同上	経営学科	－		249
経済学部 2部	経済学科	75		345
同上	地域経済学科	45		135
同上	経営学科	－		120
経営学部 1部	経営学科	160		487
同上	経営情報学科	140		420
経営学部 2部	経営学科	100		300
法学部 1部	法律学科	155	20	681
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	社会環境工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,780	30	7,133

備考　経済学部1･2部は，平成15年４月１日改組転換を実施したため経済学部１部経営学科・２部経営学科は，募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

附　則

1　この学則は，平成18年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成18年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成18年度

学部・学科等		入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
		人	人	人
経済学部 1部	経済学科	160		647
同上	地域経済学科	140		560
同上	経営学科	－		－
経済学部 2部	経済学科	75		300
同上	地域経済学科	45		180
同上	経営学科	－		－
経営学部 1部	経営学科	160		647
同上	経営情報学科	140		560
経営学部 2部	経営学科	100		400
法学部 1部	法律学科	155	20	667
同上	政治学科	100	10	420
法学部 2部	法律学科	120		480
同上	政治学科	60		240
人文学部 1部	日本文化学科	100		400
同上	英米文化学科	95		380
人文学部 2部	日本文化学科	40		160
同上	英米文化学科	30		120
工学部	社会環境工学科	80		320
同上	建築学科	80		320
同上	電子情報工学科	100		400
		1,780	30	7,201

附　則

1　この学則は，平成19年４月１日から施行する。

2　第３条第１項の規定にかかわらず，平成19年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成19年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同上 地域経済学科	140		560
同上 経営学科	−		−
経済学部 2部 経済学科	75		300
同上 地域経済学科	45		180
同上 経営学科	−		−
経営学部 1部 経営学科	160		640
同上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	80		320
同上 建築学科	80		320
同上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,180

附　則

この学則は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成22年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は，平成24年４月１日から施行する。

２　第３条第１項の規定にかかわらず，平成24年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成24年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	60		300
同上 建築学科	70		310
同上 電子情報工学科	70		370
同上 生命工学科	60		60
	1,780	30	7,180

附　則

１　この学則は，平成25年４月１日から施行する。

２　第３条第１項の規定にかかわらず，平成25年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成25年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	60		280
同上 建築学科	70		300
同上 電子情報工学科	70		340
同上 生命工学科	60		120
	1,780	30	7,180

附　則

１　この学則は，平成26年４月１日から施行する。

２　第３条第１項の規定にかかわらず，平成26年度の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成26年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	60		260
同上 建築学科	70		290
同上 電子情報工学科	70		310

同　上　生命工学科	60		180
	1,780	30	7,180

附　則

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成29年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成30年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成31年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　ただし，第32条第５項の規定は平成31年度以降の入学者から適用し，平成30年度以前の入学者については従前の規定による。

附　則

この学則は，令和３年４月１日から施行する。

(2)　北海学園大学学則別表（授業科目一覧）

別表９　工学部

(1)　社会環境工学科社会環境コース

一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤科目						
	言語						基盤科目「言語」(技術英語を含む）のうち1科目1単位の英語科目2単位以上。基盤科目「言語」(技術英語を含む）及び教養科目（留学生科目を含む）「人文科学」・「社会科学」から20単位以上。
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語以外の外国語						
	共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
計		58	40	40	20	158	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	教養科目						
	人文科学						教養科目（留学生科目を含む）「人文科学」・「社会科学」から10単位以上。
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	音声学セミナー	2				2	
	一般言語学セミナー	2				2	
	デザインセミナーⅠ	2				2	
	デザインセミナーⅡ	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						(1)教養科目「自然科学（環境）」から4単位以上及び(2)工学基礎科目1～3群（必修2単位，1・2群から各2単位以上）及び(3)専門教育科目「基盤数理系」1・2群（1群から1.5単位以上），前記(1)～(3)から22単位以上。
	地球科学Ⅰ		2			2	
	地球科学Ⅱ		2			2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ		2			2	
	宇宙科学Ⅱ		2			2	
	地球環境セミナーⅠ	2				2	
	地球環境セミナーⅡ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2	
	化学セミナーⅠ	2				2	
	化学セミナーⅡ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	物理学概論Ⅰ	2				2	
	物理学概論Ⅱ	2				2	
	数学セミナーⅠ	2				2	
	数学セミナーⅡ	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大学史	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	教養科目						
	教養科目特別講義	2				2	
計		138	8			146	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	キャリア形成科目						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
計		1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	体験型科目						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
計		4				4	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）						
	〈代替科目〉						
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
計		12	8			20	

工学基礎科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	（1群）						選択必修
	線形代数学Ⅰ	2				2	2単位以上
	線形代数学Ⅱ	2				2	
	（2群）						選択必修

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	微分積分学Ⅰ	2				2	2単位以上
	微分積分学Ⅱ		2			2	
	（3群）						
○	物理学Ⅰ	2				2	
	物理学Ⅱ	2				2	
	物理学Ⅲ		2			2	
	振動・波動工学		2			2	
	（4群）						
	代数学序論	2				2	
	代数学Ⅰ		2			2	
	代数学Ⅱ		2			2	
	幾何学序論	2				2	
	幾何学Ⅰ		2			2	
	幾何学Ⅱ		2			2	
計		14	14			28	

専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤数理系						
	（1群）						選択必修
	確率統計	2				2	1.5単位以上
	環境統計学・演習		1.5			1.5	
	品質管理・演習		1.5			1.5	
	（2群）						
	応用数学Ⅰ		2			2	
	応用数学Ⅱ		2			2	
	（3群）						
	解析学序論	2				2	
	解析学Ⅰ		2			2	
	解析学Ⅱ		2			2	
	環境工学系						
	環境工学序論	2				2	専門教育科目（基盤数理系及び技術英語以外）のうち必修47単位，かつ選択35単位以上（ただし，環境工学系，計画・設計・維持管理系からそれぞれ4単位以上とその他の系から2単位以上を含む）。
	環境地質学		2			2	
	保全生態学		2			2	
	上下水道工学Ⅰ			2		2	
	上下水道工学Ⅱ			2		2	
	都市環境工学			2		2	
	環境計測学			2		2	
	環境計測実習			1		1	
	景観工学				2	2	
	環境アセスメント			2		2	
	水工系						
○	水理学Ⅰ・演習		3			3	一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上。
○	水理学Ⅱ・演習		3			3	
	河川工学			2		2	
	防災工学		2			2	
	港湾工学			2		2	
	計画・設計・維持管理系						
○	計画数理Ⅰ・演習		3			3	
○	計画数理Ⅱ・演習			1.5		1.5	
	都市・交通計画				2	2	
	道路工学			2		2	
	都市経営論			2		2	
	建設マネジメント			2		2	
	社会基盤施設維持管理工学			2		2	
	寒冷地舗装工学			2		2	
	コンクリート構造設計演習				2	2	
	構造・材料系						
○	構造力学Ⅰ・演習		3			3	
○	構造力学Ⅱ・演習		3			3	
	構造解析学			2		2	
○	コンクリート工学		2			2	
	コンクリート構造工学			2		2	
	地震工学			2		2	
○	地盤・構造材料実験			1		1	
	土質・施工系						
○	土質工学Ⅰ・演習		3			3	
○	土質工学Ⅱ・演習		3			3	
	地盤工学			2		2	
○	鋼構造工学			2		2	
	橋梁工学			2		2	
	火薬学				2	2	
	専門総合系						
○	シビルエンジニアリング基礎セミナー	2				2	
	シビルエンジニアリング総論	2				2	
○	情報処理Ⅰ・演習		1.5			1.5	
○	情報処理Ⅱ・演習		1.5			1.5	
○	測量学Ⅰ		2			2	
○	測量実習			1		1	
	測量学Ⅱ			2		2	
	プログラミング			2		2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	CAD演習			1		1	
	技術英語			2		2	
	インターンシップA			1		1	
	インターンシップB			2		2	
○	技術者倫理・演習			1.5		1.5	
○	プレゼンテーション			2		2	
○	シビルエンジニアリングデザインセミナー				2	2	
○	卒業研究				6	6	
計		10	45	52	16	125	

(2) **社会環境工学科環境情報コース**

一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤科目						
	言語						基盤科目「言語」（技術英語を含む）のうち1科目1単位の英語科目2単位以上を含む4単位以上。基盤科目「言語」（技術英語を含む）及び教養科目（留学生科目を含む）「人文科学」・「社会科学」から20単位以上。
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語以外の外国語						
	共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
計		58	40	40	20	158	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	教養科目						教養科目（留学生科目を含む）「人文科学」・「社会科学」から10単位以上。
	人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	音声学セミナー	2				2	
	一般言語学セミナー	2				2	
	デザインセミナーⅠ	2				2	
	デザインセミナーⅡ	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	社会構造						⑴教養科目「自然科学（環境）」から6単位以上及び⑵工学基礎科目1～3群（1・2群から各2単位以上）及び⑶専門教育科目「基盤数理系」1・2群（1群から1.5単位以上），前記⑴～⑶から22単位以上。
	法学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ		2			2	
	地球科学Ⅱ		2			2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ		2			2	
	宇宙科学Ⅱ		2			2	
	地球環境セミナーⅠ	2				2	
	地球環境セミナーⅡ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2	
	化学セミナーⅠ	2				2	
	化学セミナーⅡ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	物理学概論Ⅰ	2				2	
	物理学概論Ⅱ	2				2	
	数学セミナーⅠ	2				2	
	数学セミナーⅡ	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大学史	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	教養科目						
	教養科目特別講義	2				2	
計		138	8			146	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	キャリア形成科目						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
計		1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	体験型科目						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
計		4				4	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）〈代替科目〉						
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
計		12	8			20	

工学基礎科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	(1群)						選択必修
	線形代数学Ⅰ	2				2	2単位以上
	線形代数学Ⅱ	2				2	
	(2群)						選択必修
	微分積分学Ⅰ	2				2	2単位以上
	微分積分学Ⅱ		2			2	
	(3群)						
	物理学Ⅰ	2				2	
	物理学Ⅱ	2				2	
	物理学Ⅲ		2			2	
	振動・波動工学		2			2	
	(4群)						
	代数学序論	2				2	
	代数学Ⅰ		2			2	
	代数学Ⅱ		2			2	
	幾何学序論	2				2	
	幾何学Ⅰ		2			2	
	幾何学Ⅱ		2			2	
	計	14	14			28	

専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤数理系						
	(1群)						選択必修
	確率統計	2				2	1.5単位以上
	環境統計学・演習		1.5			1.5	
	品質管理・演習		1.5			1.5	
	(2群)						
	応用数学Ⅰ		2			2	
	応用数学Ⅱ		2			2	
	(3群)						
	解析学序論	2				2	
	解析学Ⅰ		2			2	
	解析学Ⅱ		2			2	
	都市環境系						
	環境工学序論	2				2	専門教育科目（基盤数理系及び技術英語以外）のうち必修33単位，かつ選択49単位以上（ただし，総合系の選択必修4.5単位以上，都市環境系から4単位以上，都市経営系と都市防災系からそれぞれ2単位以上を含む）。一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上。
	微生物学	2				2	
	環境地質学		2			2	
	保全生態学		2			2	
○	環境計測学			2		2	
○	環境計測実習			1		1	
○	上下水道工学Ⅰ			2		2	
	上下水道工学Ⅱ			2		2	
	環境評価論		2			2	
	都市環境工学			2		2	
	景観工学				2	2	
	環境アセスメント			2		2	
	都市情報系						
○	情報処理Ⅰ・演習		1.5			1.5	
○	情報処理Ⅱ・演習		1.5			1.5	
○	データ処理論実習			1		1	
	プログラミング			2		2	
○	CAD演習			1		1	
	防災情報システム				2	2	
	都市経営系						
○	計画数理Ⅰ・演習		3			3	
○	計画数理Ⅱ・演習			1.5		1.5	
	住民参加論		2			2	
	地域交通論		2			2	
	都市経営論			2		2	
	寒地政策論			2		2	
	社会調査法			2		2	
	都市・交通計画				2	2	
	道路工学			2		2	
	都市防災系						
○	リスクマネジメント			2		2	
	地震工学			2		2	
	寒地・都市防災論				2	2	
	河川工学			2		2	
	防災工学		2			2	
	コンクリート工学		2			2	
	コンクリート構造工学			2		2	
	鋼構造工学			2		2	
	橋梁工学			2		2	
	地盤工学			2		2	
	地盤・構造材料実験			1		1	
	総合系						
	構造の力学A・演習		1.5			1.5	選択必修
	構造の力学B・演習		1.5			1.5	1.5単位以上
	流れ学A・演習		1.5			1.5	選択必修
	流れ学B・演習		1.5			1.5	1.5単位以上
	基礎土質工学A・演習		1.5			1.5	選択必修
	基礎土質工学B・演習		1.5			1.5	1.5単位以上
○	シビルエンジニアリング基礎セミナー	2				2	
	シビルエンジニアリング総論	2				2	
○	測量学Ⅰ		2			2	
○	測量実習			1		1	
	測量学Ⅱ			2		2	
	技術英語			2		2	
	インターンシップA			1		1	
	インターンシップB			2		2	
○	技術者倫理・演習			1.5		1.5	
○	プレゼンテーション			2		2	
○	シビルエンジニアリングデザインセミナー				2	2	
○	卒業研究				6	6	
	計	12	42	2 49	16	121	

(3) **建築学科**

一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤科目						
	言語						
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語以外の外国語						
	共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	計	58	40	40	20	158	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	教養科目						
	人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	音声学セミナー	2				2	
	一般言語学セミナー	2				2	
	デザインセミナーⅠ	2				2	
	デザインセミナーⅡ	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ		2			2	
	地球科学Ⅱ		2			2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ		2			2	
	宇宙科学Ⅱ		2			2	
	地球環境セミナーⅠ	2				2	
	地球環境セミナーⅡ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2	
	化学セミナーⅠ	2				2	
	化学セミナーⅡ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	物理学概論Ⅰ	2				2	
	物理学概論Ⅱ	2				2	
	数学セミナーⅠ	2				2	
	数学セミナーⅡ	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大学史	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	教養科目						
	教養科目特別講義	2				2	
	計	138	8			146	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	キャリア形成科目						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
	計	1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	体験型科目						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	計	4				4	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）						
	〈代替科目〉						
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
	計	12	8			20	

工学基礎科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	数物系						
	線形代数学Ⅰ	2				2	
	線形代数学Ⅱ	2				2	
	微分積分学Ⅰ	2				2	
	微分積分学Ⅱ		2			2	
	幾何学Ⅰ		2			2	
	幾何学Ⅱ		2			2	
	物理学Ⅰ	2				2	
	物理学Ⅱ	2				2	
	代数学序論	2				2	
	代数学Ⅰ		2			2	
	代数学Ⅱ		2			2	
	幾何学序論	2				2	
	計	14	10			24	

専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	空間デザイン系						
	空間・環境デザイン入門	2				2	専門教育科目82単位以上。
	空間デザイン	2				2	
	空間デザイン演習基礎		2			2	一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上。
○	空間デザイン演習Ⅰ		4			4	
○	空間デザイン演習Ⅱ			4		4	
	空間デザイン演習Ⅲ			4		4	
	空間デザイン演習Ⅳ				4	4	
○	建築計画Ⅰ		2			2	
○	建築計画Ⅱ			2		2	
	建築計画Ⅲ			2		2	
	工芸デザイン		2			2	
	建築デザイン論			2		2	
	都市計画			2		2	
	インテリアデザイン			2		2	
	空間リノベーション				2	2	
	環境デザイン系						
	北方建築	2				2	
○	建築環境基礎		2			2	
	建築環境計画Ⅰ		2			2	
	建築環境計画Ⅱ			2		2	
	建築環境計画Ⅲ			2		2	
	建築環境計画演習Ⅰ		1			1	
	建築環境計画演習Ⅱ			1		1	
	環境計測演習				2	2	
○	設備概論		2			2	
	建築設備システム			2		2	
	庭園文化論			2		2	
	都市環境デザイン				2	2	
	雪氷学				2	2	
	システムデザイン系						
	構造・材料デザイン入門	2				2	
	構造デザイン	2				2	
○	構造力学基礎Ⅰ・演習		3			3	
○	構造力学基礎Ⅱ・演習		3			3	
	構造力学応用Ⅰ・演習			3		3	
	構造力学応用Ⅱ・演習			3		3	
	鉄筋コンクリート構造			2		2	
	鉄筋コンクリート構造演習			1		1	
	鋼構造			2		2	
	鋼構造演習			1		1	
	構造設計法			2		2	
	建築振動論				2	2	
	構造解析				2	2	
	建築材料		2			2	
	建築仕上材料		2			2	
○	建築材料実験			1		1	
○	建築生産			2		2	
	建築施工				2	2	
	コンクリート工学				2	2	
	専門共通						
	造形演習Ⅰ	2				2	
	造形演習Ⅱ	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	建築図学	2				2	
○	建築製図演習		2			2	
	建築プレゼンテーション		2			2	
	建築CAD演習			2		2	
○	建築一般構造		2			2	
	西洋建築史		2			2	
	日本建築史		2			2	
	情報処理		2			2	
	プログラミング		2			2	
	測量学			3		3	実習を含む
	インターンシップ			2		2	
○	建築法規			2		2	
	建築経済			2		2	
	品質管理			2		2	
	木造建築	2				2	
	技術者倫理			2		2	
	防災計画				2	2	
	解析学序論	2				2	
	解析学Ⅰ		2			2	
	解析学Ⅱ		2			2	
	確率統計	2				2	
	数理統計学		2			2	
○	卒業研究				6	6	
	計	22	47	59	28	156	

(4)電子情報工学科

一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤科目						
	言語						
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	一般教育科目22単位以上（英語4科目4単位以上を含む）。
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語以外の外国語						
	共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
計		58	40	40	20	158	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	教養科目						
	人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	音声学セミナー	2				2	
	一般言語学セミナー	2				2	
	デザインセミナーⅠ	2				2	
	デザインセミナーⅡ	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	地球環境セミナーⅠ	2				2	
	地球環境セミナーⅡ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2	
	化学セミナーⅠ	2				2	
	化学セミナーⅡ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	物理学概論Ⅰ	2				2	
	物理学概論Ⅱ	2				2	
	数学セミナーⅠ	2				2	
	数学セミナーⅡ	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大学史	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	教養科目						
	教養科目特別講義	2				2	
計		146				146	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	キャリア形成科目						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
計		1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	体験型科目						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
計		4				4	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）						
	〈代替科目〉						
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
	計	12	8			20	

専門教育科目

○印必修 △選択必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基礎数物系						
○	線形代数学Ⅰ	2				2	専門教育科目のうち選択科目76単位以上（選択必修30単位以上を含む，基礎数物系を除く）を含む98単位以上。一般教育科目及び専門教育科目合計128単位以上。
○	線形代数学Ⅱ	2				2	
○	微分積分学Ⅰ	2				2	
○	微分積分学Ⅱ		2			2	
	確率統計	2				2	
	数理統計学		2			2	
	代数学序論	2				2	
	代数学Ⅰ		2			2	
	代数学Ⅱ		2			2	
	幾何学序論	2				2	
	幾何学Ⅰ		2			2	
	幾何学Ⅱ		2			2	
	解析学序論	2				2	
	解析学Ⅰ		2			2	
	解析学Ⅱ		2			2	
○	物理学Ⅰ	2				2	
○	物理学Ⅱ	2				2	
	応用数物系						
△	応用数学Ⅰ		2			2	
	応用数学Ⅱ		2			2	
△	物理数学		2			2	
△	数理工学			2		2	
△	数値解析Ⅰ			2		2	
	数値解析Ⅱ				2	2	
	電子系						
	電子工学基礎Ⅰ	2				2	
	電子工学基礎Ⅱ	2				2	
	電気回路基礎	2				2	
△	電気回路Ⅰ		2			2	
	電気回路Ⅱ		2			2	
△	電子回路Ⅰ		2			2	
	電子回路Ⅱ			2		2	
△	電気磁気学Ⅰ		2			2	
	電気磁気学Ⅱ		2			2	
△	電子物性		2			2	
	固体電子工学		2			2	
△	電子デバイス			2		2	
	光エレクトロニクス			2		2	
	論理回路			2		2	
	電波工学			2		2	
	電気電子材料学				2	2	
	集積回路				2	2	
	情報系						
	情報工学基礎Ⅰ	2				2	
	情報工学基礎Ⅱ	2				2	
△	プログラミング序論Ⅰ		2			2	
△	プログラミング序論Ⅱ		2			2	
△	計算機アーキテクチャ		2			2	
	オペレーティングシステム		2			2	
△	計算機言語学Ⅰ		2			2	
	計算機言語学Ⅱ			2		2	
	自然言語処理			2		2	
	システムとネットワーク			2		2	
	アルゴリズム通論			2		2	
	情報理論			2		2	
	データ工学			2		2	
	画像工学			2		2	
	知識情報工学				2	2	
	応用系						
	プレゼンテーション		2			2	
△	電子計測		2			2	
△	光工学Ⅰ			2		2	
	光工学Ⅱ			2		2	
△	制御工学Ⅰ			2		2	
	制御工学Ⅱ			2		2	

○印必修 △選択必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	通信工学通論			2		2	
△	工学倫理			2		2	
	電気工学通論			2		2	
	音響工学			2		2	
	情報通信システム			2		2	
	センサ工学				2	2	
	システム工学				2	2	
	通信法規				2	2	
	実験実習等						
	情報リテラシー演習	1				1	
	基礎演習	1				1	
	数学演習	1				1	
	物理学演習	1				1	
○	計算機実習Ⅰ		1			1	
○	計算機実習Ⅱ		1			1	
	計算機実習Ⅲ			1		1	
	プロジェクト実習A			1		1	
	プロジェクト実習B			1		1	
○	電子情報工学実験Ⅰ		1			1	
○	電子情報工学実験Ⅱ			1		1	
	インターンシップ			2		2	
○	卒業研究				6	6	
	計	32	53	52	20	157	

(5) 生命工学科

一般教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	基盤科目						
	言語						一般教育科目のうち言語科目2科目2単位以上。
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語以外の外国語						
	共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	計	58	40	40	20	158	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	教養科目						
	人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	音声学セミナー	2				2	
	一般言語学セミナー	2				2	
	デザインセミナーⅠ	2				2	
	デザインセミナーⅡ	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	地球環境セミナーⅠ	2				2	
	地球環境セミナーⅡ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅠ	2				2	
	環境生物科学セミナーⅡ	2				2	
	化学セミナーⅠ	2				2	
	化学セミナーⅡ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅠ	2				2	
	宇宙科学セミナーⅡ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	物理学概論Ⅰ	2				2	
	物理学概論Ⅱ	2				2	
	数学セミナーⅠ	2				2	
	数学セミナーⅡ	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大学史	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	教養科目						
	教養科目特別講義	2				2	
	計	146				146	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	キャリア形成科目						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
	計	1				1	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	体験型科目						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	計	4				4	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）						
	〈代替科目〉						
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
	計	12	8			20	

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
○	バイオテクノロジー実習Ⅱ			1		1	
	情報リテラシー演習	1				1	
○	データ解析演習		1			1	
○	プログラミング実習Ⅰ		1			1	
○	プログラミング実習Ⅱ			1		1	
	情報数理学演習			1		1	
	ＷＥＢデザイン演習			1		1	
	人間計測工学実験				1	1	
	インターンシップＡ			1		1	
	インターンシップＢ			2		2	
○	卒業研究				6	6	
	計	36	42	47	13	138	

専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数 1	2	3	4	計	備考
	(A群)						専門教育科目のうち，必修科目12単位と選択必修29単位以上を含む80単位以上。 一般教育科目及び専門教育科目の合計124単位以上。
	線形代数学Ⅰ	2				2	
	線形代数学Ⅱ	2				2	
	微分積分学Ⅰ	2				2	
	微分積分学Ⅱ		2			2	
	確率統計	2				2	
	現代物理学入門	2				2	
	物理学Ⅰ	2				2	
	物理学Ⅱ		2			2	
	物理化学		2			2	
	Academic English		2			2	
	シミュレーション科学			2		2	
	ＷＥＢビジネス論			2		2	
	科学技術英語			2		2	
	バイオビジネス論			2		2	
	プレゼンテーション			2		2	
	生命工学総論	2				2	
	(B群)						
	生命工学倫理	2				2	
	化学概論	2				2	
	生物学基礎	2				2	
	環境工学序論	2				2	
	生物学概論	2				2	
	有機化学	2				2	
	微生物学	2				2	
	先端生命科学	2				2	
	環境・エネルギーシステム論		2			2	
	生物多様性論	2				2	
	地球環境論		2			2	
	生化学Ⅰ		2			2	
	生化学Ⅱ		2			2	
	分子生物学Ⅰ		2			2	
	分子生物学Ⅱ		2			2	
	バイオテクノロジーセミナー			2		2	
	細胞生物学Ⅰ			2		2	
	細胞生物学Ⅱ			2		2	
	遺伝子工学Ⅰ			2		2	
	遺伝子工学Ⅱ			2		2	
	バイオインフォマティクス			2		2	
	生命科学の未来				2	2	
	(C群)						
	情報処理論	2				2	
	アルゴリズム概論		2			2	
	コンピュータアーキテクチャ		2			2	
	データベースとネットワーク		2			2	
	システム概論		2			2	
	言語処理概論		2			2	
	ソフトウェア通論		2			2	
	情報セキュリティ			2		2	
	情報マネジメント			2		2	
	人間工学概論		2			2	
	計測工学		2			2	
	社会心理学		2			2	
	感覚情報処理			2		2	
	情報数理学Ⅰ			2		2	
	情報数理学Ⅱ			2		2	
	情報理論			2		2	
	音声工学概論			2		2	
	生活支援工学			2		2	
	運動機能計測				2	2	
	ユニバーサルデザイン論				2	2	
	(D群)						
	地学実験	1				1	
	生物学実験		1			1	
	物理学実験			1		1	
○	化学実験		1			1	
○	バイオテクノロジー実習Ⅰ			1		1	

(3) 北海学園大学工学部規則

（目的）

第１条　この規則は，北海学園大学学則（以下「学則」という。）第３条第２項により，工学部の学生（以下「学生」という。）に関する事項を定める。

２　学生の教育課程に関する必要な事項は，学則に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

（学科及び教育研究上の目的）

第２条　本学部には，学則第３条により，次の学科を置く。

社会環境工学科

(1)　社会環境コース

(2)　環境情報コース

建築学科

電子情報工学科

生命工学科

２　社会環境工学科の目的は次の各号とする。

(1)　社会環境コースは，国民の安全・安心のための生活基盤，および経済活動の活性化のための生産・流通基盤等の計画，設計，建設のための基礎的な技術者教育を行い，新しい時代の要請に応え得る〝専門建設技術者〟の育成を目的とする。

(2)　環境情報コースは，環境保全対策，防災政策，福祉政策に必要不可欠なリスク管理，社会調査，及び合意形成等の手法に習熟し，環境への配慮を常に欠かさない人間中心の視野を持ち，あらゆる人にとって優しい安全，安心なまちづくりを目指す〝文理融合型の技術者〟の育成を目的とする。

３　建築学科は，空間，環境，構造・材料の各分野の教育研究を通じ，機能と空間造形のあり方，建物内外の快適な環境づくり，建物の品質と安全・耐久性の確保等に関して必要な知識を身に付け，建築を創造性豊かに考究する能力を培うと共に，建築と地域・都市との関係や地球環境の未来に関する課題に取り組む幅広い問題意識を持ち，プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を発揮して積極的に社会に貢献する人材の育成を目的とする。

４　電子情報工学科は，ハードウェアとソフトウェアの両面を基礎から応用にいたるまで幅広く学び，新しい技術を生み出すための知識と能力をもつ人材の育成を目的とする。

５　生命工学科は，次世代の最先端工学である生命科学と人間情報工学の両面において深い知識を有し，地域・国際社会のニーズを的確に捉える広い洞察力と，生命・地球環境への高い倫理観を併せ持つ人材の育成を目的とする。

（授業科目）

第３条　学生の授業科目，その必修科目，選択科目，自由科目の区別，単位数及びその年次配当については，学則別表９に掲げるとおりとする。ただし，教授会の議を経て，年次配当を変更することができる。

２　履修の手引に定めた場合は，教授会の議を経て，上級年次に配当された授業科目を履修することができる。

（単位数の計算方法）

第４条　外国語科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

２　専門教育科目の演習科目のうち学則第20条第２号ただし書きの規定により，15時間の授業をもって１単位とするものは，別に定める。

３　卒業研究については，15時間の授業をもって１単位とする。

（履修）

第５条　学生は，その学年又はその学期の当初に所定の手続きによって履修する授業科目を願い出て，学部長の許可を受けなければならない。

（外国人留学生・海外帰国生徒学生の履修）

第６条　外国人留学生及び海外帰国生徒学生のための特別入学試験によって入学を許可された学生は，学則別表９に定める日本語・日本事情（外国人留学生・海外帰国生徒学生向け）科目にそれぞれ掲げる授業科目を履修することができる。これらの学生で学部長が必要と認めた者は，この科目のうち１つ又は複数の授業科目を履修しなければならない。

２　前項で修得した単位は，一般教育科目の修得単位に算入することができる。

（大学院学生の履修）

第７条　本大学大学院工学研究科の学生が，工学部の授業科目の履修を希望するときは，学部長は，教授会の議を経て，これを許可することができる。

（履修手続き）

第８条　授業科目の履修制限，履修登録手続きその他の履修に関する事項は，この規則に定めるもののほか，履修の手引その他に定めるところによる。

（単位の修得）

第９条　学生が，単位を修得するためには，履修した授業科目の試験に合格し，教授会の議を経なければならない。

２　卒業研究については，当該研究の担当教員がその成果を評価し，教授会の議を経なければならない。

（入学前の既修得単位の認定）

第10条　本学部１年次に入学した学生が，工学部に入学する前に大学，短期大学，高等専門学校又は専修学校において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を，工学部における授業科目の履修により修得したものとみなし，別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

２　学則第12条・第13条に基づいて編入学又は転入学を許可された学生が，入学する前に履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を工学部における授業科目の履修により修得したものとみなし，別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

（試験）

第11条　試験は，その授業科目の授業の終了した学期末に期間を定めて行う。ただし，必要ある場合には臨時に試験を行うことができる。

２　あらかじめ定められた試験の期日に受験できなかった学生で，所定の手続きを経て学部長の許可を受けた者については，教授会の議を経て別の期日に試験を行う。

３　試験に不合格となった授業科目については，教授会の議を経て試験を行うことができる。

（成績の評価）

第12条　授業科目の成績は，秀，優，良，可及び不可の５種によって評価し，秀，優，良及び可を合格とする。ただし，この成績評価になじまない一部の科目は，合，

否とする。

（進級）

第13条　社会環境工学科にあっては学則別表社会環境コース９⑴及び環境情報コース９⑵に掲げる授業科目で１年次に配当されている授業科目のうちから，次に定める単位を修得した１年次学生は，２年次に進級することができる。

社会環境コース

⑴　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学から６単位以上

⑵　専門教育科目の総合系のうち必修科目２単位以上

⑶　一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学・自然科学の環境，工学基礎科目の１～３群及び専門教育科目の合計14単位以上

環境情報コース

⑴　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学から６単位以上

⑵　専門教育科目の総合系のうち必修科目２単位以上

⑶　一般教育科目の基盤科目のうち言語，教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学・自然科学の環境，工学基礎科目の１～３群及び専門教育科目の合計14単位以上

２　建築学科にあっては学則別表９⑶に掲げる授業科目で１年次に配当されている授業科目のうちから，一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計30単位以上を修得した１年次学生は，２年次に進級することができる。

３　電子情報工学科にあっては学則別表９⑷に掲げる授業科目で１年次に配当されている授業科目のうちから，次に定める単位を修得した１年次学生は，２年次に進級することができる。

⑴　一般教育科目から14単位以上

⑵　専門教育科目から７単位以上（基礎数物系科目を除く），基礎数物系必修科目６単位以上

４　電子情報工学科にあっては４年次進級には，３年次終了時において総単位数90単位以上を修得していなければならない。

５　生命工学科にあっては学則別表９⑸生命工学科に掲げる授業科目で１年次に配当されている授業科目のうちから，一般教育科目及び専門教育科目合計28単位以上を修得した１年次学生は，２年次に進級することができる。

６　生命工学科にあっては４年次進級には，３年終了時において総単位数90単位以上を修得していなければならない。

（卒業）

第14条　社会環境工学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表社会環境コース９⑴及び環境情報コース９⑵に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければならない。

社会環境コース

⑴　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学及び基盤科目の言語（技術英語を含む）から20単位以上

⑵　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学から10単位以上

⑶　一般教育科目の基盤科目の言語（技術英語を含む）のうち１科目１単位の英語科目２単位以上

⑷　一般教育科目の教養科目の自然科学の環境，工学基礎科目の１～３群，専門教育科目の基盤数理系１～２群から22単位以上

⑸　一般教育科目の教養科目の自然科学の環境から４単位以上

⑹　工学基礎科目の１～３群から必修２単位，１・２群から各２単位以上

⑺　専門教育科目の基盤数理系１群から1.5単位以上

⑻　専門教育科目（基盤数理系及び技術英語以外）のうち必修47単位，かつ選択35単位以上（ただし，環境工学系，計画・設計・維持管理系からそれぞれ４単位以上とその他の系からそれぞれ２単位以上を含む）

⑼　一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

環境情報コース

⑴　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学及び基盤科目の言語（技術英語を含む）から20単位以上

⑵　一般教育科目の教養科目（留学生科目を含む）のうち人文科学・社会科学から10単位以上

⑶　一般教育科目の基盤科目の言語（技術英語を含む）のうち１科目１単位の英語科目２単位以上を含む４単位以上

⑷　一般教育科目の教養科目の自然科学の環境，工学基礎科目の１～３群，専門教育科目の基盤数理系１～２群から22単位以上

⑸　一般教育科目の教養科目の自然科学の環境から６単位以上

⑹　工学基礎科目の１・２群から各２単位以上

⑺　専門教育科目の基盤数理系１群から1.5単位以上

⑻　専門教育科目（基盤数理系及び技術英語以外）のうち必修33単位，かつ選択49単位以上（ただし，総合系選択必修4.5単位以上，都市環境系から４単位以上，都市経営系と都市防災系からそれぞれ２単位以上を含む）

⑼　一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

２　建築学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表９⑶に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければならない。

⑴　専門教育科目82単位以上

⑵　一般教育科目，工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

３　電子情報工学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表９⑷に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければならない。

⑴　一般教育科目のうち英語科目４科目４単位以上を含む22単位以上

⑵　専門教育科目のうち選択科目76単位以上（選択必修30単位以上を含む，基礎数物系科目を除く）を含む98単位以上

⑶　一般教育科目及び専門教育科目合計128単位以上

４　生命工学科を卒業し，学士（工学）の学位を得るためには，学則別表９⑸に掲げる授業科目中，次に定める単位を修得しなければならない。

⑴　一般教育科目の基盤科目の言語のうち２科目２単位以上

⑵　専門教育科目のうち必修科目12単位と選択必修科目29単位以上を含む80単位以上

⑶　一般教育科目及び専門教育科目の合計124単位以

上

（転学部・転学科・転コース）

第15条　学則第13条の規定による転学部の願い出があった場合，学部長は，教授会の議を経て，学長に許可を求めるものとする。

2　工学部の学科間の転学科を希望する者については，学部長は，教授会の議を経て，学長に許可を求めるものとする。

3　社会環境工学科の２つのコース間の転コースを希望する者については，学部長は，教授会の議を経て，学長に許可を求めるものとする。

4　転学部・転学科の許可を得た学生の既修得単位の認定は，別に定めるところによる。

（他学部及び他学科の履修）

第16条　学生が，学則第19条の規定により他学部の授業科目を履修する場合，工学部及び履修を希望する当該学部の学部長の許可を受けなければならない。

ただし，単位の認定は，別に定めるところによる。

2　学生は，工学部の他学科の授業科目を履修することができる。この場合，工学部の教授会で承認されなければならない。

ただし，単位の認定は，別に定めるところによる。

3　他学部の学生が，学則第19条の規定により工学部の授業科目を履修する場合，工学部及び所属する学部の学部長の許可を得なければならない。

（学籍異動）

第17条　学生の学籍異動に関する事項については，この規則に定めるもののほか，別に定めるところによる。

附　則

1　この規則は，平成10年４月１日から施行する。

2　次の各号に該当する者については，変更後の規則にかかわらず，原則として従前の例による。

⑴　平成10年３月31日に在籍する者

⑵　平成10年３月31日以前に入学した者で，再入学又は復籍する者

⑶　平成10年４月１日以降平成12年３月31日以前に編入学する者

3　前項の取り扱いにおいて，教養部，教養部長又は教養部教授会の審議又は決定若しくは認定すべき事項については，工学部，工学部長又は工学部教授会が行うものとする。

附　則

この規則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

1　この規則は，平成14年４月１日から施行する。

2　ただし，平成13年度以前の入学者については，従前の規則による。

附　則

1　この規則は，平成15年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条に掲げる別表９の専門教育科目は入学年度にかかわらず，平成15年度開講年次学生から適用する。

附　則

1　この規則は，平成16年４月１日から施行する。

2　ただし，第15条（他学部及び他学科の履修）は，平成15年度以前の入学者については，従前の規則による。

3　ただし，第２条に掲げる学則別表９の専門教育科目のうち「建築プレゼンテーション」「工学倫理」「データ工学」および「電子デバイス」は入学年度にかかわらず，平成16年度開講年次学生から適用する。

4　ただし，第２条に掲げる学則別表９の共通基礎科目のうち「海外文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は平成13年度入学者から適用する。

附　則

1　この規則は，平成17年４月１日から施行する。

2　ただし，平成16年度以前の入学者については，従前の規則による。

附　則

1　この規則は，平成18年４月１日から施行する。

2　ただし，第２条に掲げる学則別表９の専門教育科目のうち「構造特別セミナー」「電気電子技術入門」「電気電子技術基礎」「電気回路基礎」「情報技術入門」「情報リテラシー演習」「電気電子技術基礎演習」「電波工学」「システムとネットワーク」および「通信法規」は入学年度にかかわらず，平成18年度開講年次学生から適用する。

附　則

1　この規則は，平成19年４月１日から施行する。

2　ただし，第３条に掲げる学則別表９の専門教育科目のうち「電気電子技術演習Ⅰ」「電気電子技術演習Ⅱ」「情報技術演習Ⅰ」「情報技術演習Ⅱ」は入学年度にかかわらず，平成19年度開講年次学生から適用する。

附　則

この規則は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成21年10月１日から施行する。

附　則

1　この規則は，平成22年４月１日から施行する。

2　ただし，第３条に掲げる学則別表９の共通基礎科目のうち「数学セミナーⅠ」「数学セミナーⅡ」は入学年度にかかわらず，平成22年度開講年次学生から適用する。

附　則

この規則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成29年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成30年４月１日から施行する。

(4) 北海学園大学工学部転学部規程

（趣旨）
第１条　この規程は，工学部規則第15条に基づき，転学部に係わる必要事項を定める。
（条件）
第２条　本学部へ転学部は，定員に余裕のある場合に限り，これを許可することがある。
（学年）
第３条　本学他学部１年次及び２年次の学生は，本学部への転学部を志願することができる。
（志願）
第４条　本学部への転学部を志願する学生は，学則第13条第２項の許可証，所定の転学部志願書を指定の期日までに提出しなければならない。
２　他学部への転学部を志願する学生は，所定の転学部願いにより，指定の期日までに本学部長に願い出なければならない。
（要件）
第５条　本学部への転学部を志願できる学生は，履修登録した科目の相当数の単位を修得した者とする。
（許可）
第６条　本学部への転学部の許可は，書類審査及び所定の試験の結果に基づき，教授会で選考のうえ，学長が行う。
２　他学部への転学部を志願する学生については，教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。
（手続き）
第７条　転学部の許可を得た学生は，指定の期日までに転学部に必要な手続きをしなければならない。
（単位の認定）
第８条　転学部の許可を得た学生の既修得単位の認定は，教授会の議を経て行う。

附　則
（適用）
この規程は，平成10年12月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成13年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成20年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年４月１日から施行する。

(5) 北海学園大学工学部転学科規程

（趣旨）
第１条　この規程は，工学部規則第15条に基づき，転学科に係わる必要事項を定める。
（条件）
第２条　転学科は，定員に余裕のある場合に限り，これを許可することがある。
（学年）
第３条　本学部１年次及び２年次の学生は，本学部他学科への転学科を志願することができる。
（志願）
第４条　転学科を志願する学生は，所定の転学科願いにより，学長に願い出なければならない。なお，社会環境工学科を希望する学生はコースを願い出ることとする。
（要件）
第５条　転学科を志願できる学生は，履修登録した科目の相当数の単位を修得した者とする。
（許可）
第６条　転学科の許可は，学業成績及び所定の試験の結果に基づき，教授会で選考のうえ，学長が行う。
（手続き）
第７条　転学科の許可を得た学生は，指定の期日までに転学科に必要な手続きをしなければならない。
（単位の認定）
第８条　転学科の許可を得た学生の既修得単位の認定は，教授会の議を経て行う。

附　則
（適用）
この規程は，平成10年12月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成13年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成20年１月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年１月１日から施行する。

(6) 北海学園大学奨学規程

第１条　この制度は学則第48条に基づき本大学の優秀な学生で，経済的理由により修学困難なものに奨学金を与えることにより，教育の成果をあげることを目的とする。

第２条　奨学生を希望する学生は，所定の奨学生採用願を学長に提出するものとする。

第３条　奨学生の決定は，年度毎に協議会の議を経て学長が行う。

第４条　奨学生にふさわしくない行為があった場合には，協議会の議を経て奨学生たることを取消すものとする。

附　則

この規程は，昭和43年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，昭和56年４月１日から施行する。

(7) 北海学園大学表彰規程

第１条　この制度は，学則第47条に基づき，将来有為の社会人たる資質を有し，体育，文化活動において特に顕著な成績をおさめ，本大学の伝統を形成し得ると認められる学生を表彰することを目的とする。

第２条　表彰学生，表彰団体は，体育，文化活動において特に顕著な成績をおさめた学生の生活態度，学業成績，将来の見込等を精査の上，卒業審査教授会に付し全員の同意を得て学長が決する。

第３条　表彰は，卒業証書・学位記授与式において賞状及び副賞をもってする。

第４条　表彰にあたっては，別に表彰学生，表彰団体表彰要領を定める。

附　則

この規程は，昭和43年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

(8) 北海学園大学海外留学規程

（趣旨）

第１条　この規程は，北海学園大学学則第15条に規定する留学について，これを実施するために必要な事項を定める。

（定義）

第２条　この規程において留学とは，学生が海外に滞在し，大学その他の相当と認められる教育・研究機関等（以下「留学先」という。）における授業科目の履修又は学修を行うことをいう。

（適用範囲）

第３条　この規程は，留学先と本大学との協定に基づく留学（以下「協定留学」という。）及び協定によらない留学に適用する。

（資格）

第４条　留学をする者は，本大学に１年以上在学していなければならない。ただし，１年未満在学の者であっても夏季・冬季休業期間の場合，及び国際交流委員会が認めた場合には留学をすることができる。

２　協定留学については，その定めるところによる。

（留学期間）

第５条　学生が留学のため海外に滞在する期間は，原則として１年以内とする。

（許可）

第６条　留学は，留学許可願書の提出により，教授会の議に基づき学長が許可をする。

２　留学許可願書の提出は，原則として留学をする３月前までに行わなければならない。

３　留学許可願書には，次の書類を添付しなければならない。

(1)　留学計画書

(2)　留学先において履修する授業科目又は学修の内容を示す書類

(3)　留学先の受入証明書

(4)　成績証明書

(5)　その他本大学が必要と認める書類

４　第２項及び前項の規定にかかわらず，協定留学については別に取扱うことができる。

（計画の変更）

第７条　留学の計画を変更するときは，速やかに留学計画変更願書を提出し，教授会の議に基づき学長の許可を得なければならない。

（費用の負担）

第８条　留学のために要する授業料その他の費用は，奨学制度を利用する場合を除き，原則として全額を自己負担とする。ただし，協定留学については，その定めるところによる。

（留学報告）

第９条　留学をした者は，帰国後速やかに次の書類をその所属する学部に提出しなければならない。その後，当該学部は学長へ報告するものとする。

(1)　留学報告書

(2)　留学先において履修した授業科目又は学修の内容を示す書類

(3)　前号の科目についての成績又は学修成果を証明する書類

(4)　その他本大学が必要と認める書類

（単位認定）

第10条　留学先において授業科目の履修により修得した単位は，教授会の議を経て本大学において修得した単位とみなすことができる。

２　留学先における学修はこれを本大学における授業科目の履修とみなし，教授会の議を経て単位を与えることができる。

３　第１項及び前項により修得したとみなし，又は与えることのできる単位数は，学則第24条第２項，第25条第１項並びに第26条第１項及び第２項による単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

４　第１項又は第２項の措置を希望する者は，前条に定める書類とともに単位認定願を提出しなければならない。

（許可の取消等）

第11条　留学を不適当と認める事情があるときは，教授会の議に基づき，学長は留学の許可を取消し又は留学計画の変更を命ずることができる。

（所管）

第12条　協定留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は，これを本大学国際交流委員会規程第４条第２項に定める各専門委員会において行う。

２　協定によらない留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は，これを国際交流委員会において行なう。

附　則

この規程は，平成14年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成22年10月１日から施行する。

⑼　北海学園大学研究生規程

第１条　北海学園大学学則第38条にもとづき，研究生の取扱いをつぎのように定める。

第２条　研究生を志願することができる者は，つぎの各１号に該当する者でなければならない。

⑴　大学を卒業した者

⑵　志願する学部において，前号に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者

第３条　研究生の入学時期は，原則として学年，学期の始めとする。ただし，特別の事由があるときは，この限りでない。

第４条　研究生を志願する者は，所定の願書に，学則別表14⑴に定める審査料を添えて，志願する学部に提出しなければならない。

第５条　研究生の選考は，各学部で行い，教授会の議を経て，合格者を決定する。

第６条　研究生の選考に合格した者のうち，指定期日までに，学則別表14⑴に定める研究料等を納入し，所定の手続きを完了した者に，学長は，入学の許可を与える。

２　前項の研究料等のほか，必要に応じ研究実費を納入させることができる。

第７条　研究生の在学期間は，入学日からその年度末までとする。ただし，引き続き在学の願い出があったときは，教授会の議を経て，在学期間の延長を許可することがある。

第８条　研究生は，指導教員の指導をうけて研究に従事するものとする。

第９条　研究生は，指導教員が必要と認めたときは，学部の講義，演習若しくは実習に担当教員の許可を得て出席することができる。

第10条　学部が必要と認めたときは，研究生のため特別の講座を設けることがある。

第11条　学部長は，研究生の願い出により，研究証明書を交付することができる。

第12条　研究生が退学しようとするときは，退学願を学部長に提出し，教授会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

第13条　研究生について，本規程に規定のない事項については，本大学の学則（ただし第２章第１節ないし第４節を除く）その他学生に関する規程等を準用する。

附　則

この規程は，昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，昭和59年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成元年４月１日から施行する。

了解事項

１　第７条に定める在学期間は，３年を超えることができない。

２　第10条に定める講座については，学部学生等の聴講を認めることがある。聴講料については別に定める。

附　則

この規程は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成20年８月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

⑽　北海学園大学科目等履修生規程

第１条　北海学園大学（以下「本大学」という。）学則第40条に基づき，科目等履修生に関する事項を定める。

第１条の２　科目等履修生の履修区分は次によるものとする。

⑴　特定の授業科目の単位取得を目的とする履修（科目履修制・教職課程含む）

⑵　特定の課程（図書館学課程・社会教育主事課程・学芸員課程・日本語教員養成課程）の所要資格を得るための単位取得を目的とする履修（課程履修制）

⑶　履修証明取得を目的とする履修（履修証明プログラム制）

第２条　科目等履修生を志願することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　高等学校を卒業した者

⑵　12年の学校教育の課程を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）

⑻　その他，相当の年令に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認めた者

２　教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

３　司書となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，学校教育法第83条の大学を卒業した者，同法第108条の短期大学を卒業した者，又は同法115条の高等専門学校を卒業した者とする。

４　司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，教育職員免許法に定める小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の教諭の普通免許状を有する者又はそれを取得する見込みの者とする。

５　社会教育主事となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

６　学芸員となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

７　日本語教員養成課程修了に必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は，学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

第３条　科目等履修生の入学の時期は，学年又は学期の始めとする。

第４条　科目等履修生を志願する者は，次の各号に定め

る書類に，学則別表14(4)に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。

(1) 科目等履修生入学願書

(2) 科目等履修生入学出願理由書

(3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
ただし，前年度に引きつづいて入学を志願する者（同一学部に限る）は，免除する。

(4) 科目等履修生カード

2 前項の規定にかかわらず，履修証明プログラムの履修を志願する者は，入学検定料を免除する。

第５条 科目等履修生の選考は，志願をした学部で行い，教授会の議を経て合格者を決定する。

第６条 科目等履修生の選考に合格した者のうち，指定期日までに，学則別表14(4)に定める入学金及び受講料等の納入金を納入し，所定の入学手続を完了した者に，学長は，入学を許可する。

2 前項の規定にかかわらず，履修証明プログラムの選考に合格した者は，入学金を免除する。

第７条 科目等履修生が履修できる期間は，許可をした年度に限るものとする。

第８条 科目等履修生が履修することのできる授業科目については，当該学部又は当該委員会が許可する。

第９条 科目等履修生が１年間に履修できる単位数は，28単位以内とし，当該学部において定める。

2 前項の規定にかかわらず，教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する場合は，30単位以内とし，司書となる資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は，29単位以内，司書となる資格並びに司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は，39単位以内とする。

3 前項の規定にかかわらず，履修証明プログラムを履修する者は，履修するコースで定められた科目のみ履修することができる。

第10条 科目等履修生は，その履修した授業科目につき，試験を受けることができる。

第11条 科目等履修生が単位を修得するためには，履修した授業科目の試験に合格しなければならない。

2 単位修得の認定は，科目等履修生の合格を決定した学部教授会の議を経て決定する。

3 前項の規定にかかわらず，本大学学則別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は，教職課程委員会の議を経て，同学則別表11に掲げる「司書又は司書教諭に関する科目」の単位修得の認定は，図書館学課程委員会の議を経て，「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は，社会教育主事課程委員会の議を経て，「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は，学芸員課程委員会の議を経て，それぞれ決定する。

4 合格した授業科目については，本人の願い出により，単位修得証明書又は科目等履修証明書を交付することができる。

第12条 第１条の２第２号に規定する科目等履修生の修了要件は，履修規程に基づく。

2 第１条の２第３号に規定する科目等履修生の修了要件は別に定める。修了の認定は教務委員会規程第５条第１号に定める小委員会の議を経て決定する。

第13条 第１条の２第２号に規定する科目等履修生が，第12条の規定により修了した場合，学長は修了証書又は修了証明書を交付する。

2 第１条の２第３号に規定する科目等履修生が，第12条第２項の規定により修了した場合，学長は履修証明書を交付する。

第14条 科目等履修生が退学しようとするときは，退学願を当該学部長又は当該委員会の委員長に提出し，当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

第15条 科目等履修生が，その本分に反する行為を行ったときは，当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て，学長は，科目等履修生の許可を取り消す。

第16条 科目等履修生について，本規程に規定のない事項については，本大学の学則（ただし，第32条及び第33条の規定を除く。）その他学生に関する規定を準用する。

附　則

この規程は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成22年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成25年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

⑾　北海学園大学授業料等に関する規程

第１条　この規程は，北海学園大学学則（以下「学則」という。）第34条，第35条，第36条及び第37条に基づき授業料等納入金に関する事項を定める。

第２条　北海学園大学の入学金，授業料，教育充実費，実験実習費，大学諸費（以下「授業料等」という。）及び入学検定料は，学則別表13に掲げる額とする。

第３条　授業料等の納入期限は，学則別表13に掲げる期日とする。

２　学則第32条第４項に基づき第１学期末の卒業を認められた者については，第２期分の授業料等の納入を免除する。

第４条　退学，転入学，休学を許可，又は，命じられたものの授業料等は，その期分までを納入し，また，復学を許可された者は，その期分から納入しなければならない。

第５条　納入期日を経過してもなお納入しない学生は，学則第31条及び第36条により処分する。

第６条　経済等の事情により授業料等を定められた期日までに納入が困難な場合は，納入期限の10日前までに所定の学費延納願を保証人連署の上提出し許可を得なければならない。

第７条　学則第42条及び第45条に基づく研究生，委託生，科目等履修生，特別聴講学生に係る入学金，研究料，受講料，実験実習費及び入学検定料又は審査料は，学則別表14に掲げる額とする。

ただし，研究生の研究料及び実験実習費（工学部）は次のとおりとする。

第１学期からの入学者　　受入学部研究料，実験実習費（工学部）の全額

第２学期からの入学者　　受入学部研究料，実験実習費（工学部）の半額

２　前項の入学金，研究料，受講料，実験実習費は，所定の期日までに納入しなければならない。所定の期日までに納入しない場合は，入学を許可しない。

３　単位互換協定又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金，受講料，実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。

４　研究生講座を学部学生等が聴講する場合の受講料は，学則別表14に掲げる額とする。

第８条　学則第50条第７項，第51条第７項及び第51条の２第３項に基づく教職課程，図書館学課程，社会教育主事課程，学芸員課程及び日本語教員養成課程を受講する場合の受講料は，学則別表14に掲げる額を，所定の期日までに納入しなければならない。

第９条　学則第12条，第13条及び第30条，第31条に基づく編入学，転入学，学士入学，転学部，復学，再入学，復籍の入学金，授業料，教育充実費，実験実習費，大学諸費及び入学検定料等は，次のとおりとする。また，学部規則に基づく転部，同一学部転学科の入学金，授業料，教育充実費，実験実習費，大学諸費及び入学検定料等は，次のとおりとする。

	編入学 転入学 学士入学	転部 1部→2部	転部 2部→1部	転学部	復　学	同一学部 転学科	再入学・ 復籍
入学金	学則別表13に掲げる入学金と同額	－	学則別表13に掲げる入学金と同額（以前納入金額との差額徴収）	－	－	－	学則別表13に掲げる入学金と同額
授業料 教育充実費 実験実習費 大学諸費	編入学・転入学・学士入学年次の額	転部年次の額	転部年次の額	転学部年次の額	復学年次の額	転学科年次の額	再入学・復籍年次の額
入学検定料	学則別表13に掲げる入学検定料と同額	－	－	－	－	－	－
転部料	－	学則別表13に掲げる入学検定料と同額	学則別表13に掲げる入学検定料と同額	－	－	－	－
転学部料	－	－	－	学則別表13に掲げる入学検定料と同額	－	－	－
復学料	－	－	－	－	学則別表13に掲げる入学検定料の1/2	－	－
同一学部転学科料	－	－	－	－	－	学則別表13に掲げる入学検定料と同額	－
再入学及び復籍料	－	－	－	－	－	－	学則別表13に掲げる入学検定料と同額

２　前項の入学金，入学検定料，転部料，転学部料，復学料，同一学部転学科料並びに再入学及び復籍料は，所定の期日までに納入しなければならない。

３　学則第27条第２項に基づき休学した者が第２学期より復学するときは，復学料，第２期分の授業料，教育充実費（１部50,000円，２部30,000円），実験実習費（40,000円・工学部のみ）及び大学諸費（１部10,000円，２部4,000円）を納入しなければならない。

第10条　既納の授業料等納入金は，これを返還しない。

第11条　本規程に定めるもののほか，授業料等及びその他納付金の徴収について必要な事項は，学長がこれを定める。

附　則

この規程は，平成元年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成２年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成９年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成10年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成11年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成11年度入学者から適用し，平成10年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成12年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成12年度入学者から適用し，平成11年度以前の入学者については従前の規程によ

る。

附　則

この規程は，平成13年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成13年度入学者から適用し，平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成14年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成14年度入学者から適用し，平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成15年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成15年度入学者から適用し，平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成17年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成17年度入学者から適用し，平成13年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成19年４月１日より施行する。

ただし，この規程は，平成19年度入学者から適用し，平成18年度以前の入学者については従前の規程による。

附　則

この規程は，平成20年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成20年８月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成22年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成23年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成26年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日より施行する。

附　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

別表13　授業料等

(1)　１部

区分		金額
入学検定料	経済学部	30,000円
	経営学部	30,000
	法学部	30,000
	人文学部	30,000
	工学部	30,000
入学金	経済学部	200,000
	経営学部	200,000
	法学部	200,000
	人文学部	200,000
	工学部	200,000
授業料	経済学部	年額　872,000
	経営学部	年額　872,000
	法学部	年額　872,000
	人文学部	年額　896,000
	工学部	年額　1,140,000
教育充実費	経済学部	年額　100,000
	経営学部	年額　100,000
	法学部	年額　100,000
	人文学部	年額　100,000
	工学部	年額　100,000
実験実習費	工学部	年額　80,000
大学諸費	経済学部	年額　10,000
	経営学部	年額　10,000
	法学部	年額　10,000
	人文学部	年額　10,000
	工学部	年額　10,000

(2)　２部

区分		金額
入学検定料	経済学部	30,000円
	経営学部	30,000
	法学部	30,000
	人文学部	30,000
入学金	経済学部	100,000
	経営学部	100,000
	法学部	100,000
	人文学部	100,000
授業料	経済学部	年額　436,000
	経営学部	年額　436,000
	法学部	年額　436,000
	人文学部	年額　448,000
教育充実費	経済学部	年額　50,000
	経営学部	年額　50,000
	法学部	年額　50,000
	人文学部	年額　50,000
大学諸費	経済学部	年額　4,000
	経営学部	年額　4,000
	法学部	年額　4,000
	人文学部	年額　4,000

授業料，教育充実費，実験実習費，大学諸費の納入期限は，次のとおりとする。

第１期　４月20日

第２期　９月30日

ただし，新入学生及び再入学，復籍を許可された者に限り第１期分の授業料等は，所定の期日までに納入しなければならない。

別表14　受講料等

(1)　研究生

区分		金額
審査料		15,000円
入学金	（本学卒業者免除）	50,000
研究料	経済学部	年額　218,000
	経営学部	年額　218,000
	法学部	年額　218,000
	人文学部	年額　224,000
	工学部	年額　285,000
実験実習費	工学部	80,000

(2)　学部学生等が聴講する研究生講座

区分		金額
受講料	経済学部	１単位　8,000円
	経営学部	１単位　8,000
	法学部	１単位　8,000
	人文学部	１単位　9,000
	工学部	１単位　10,000

(3)　委託生

区分		金額
入学検定料		30,000円

入学金			50,000
受講料	経済学部	1単位	8,000
	経営学部	1単位	8,000
	法学部	1単位	8,000
	人文学部	1単位	9,000
	工学部	1単位	10,000
実験実習費	工学部	実験を履修する者	80,000

(4) 科目等履修生

区分			金額
入学検定料	(本学卒業者免除) (履修証明プログラム受講生免除)		30,000円
入学金	(本学卒業者免除) (履修証明プログラム受講生免除)		50,000
受講料	経済学部	1単位	8,000
	経営学部	1単位	8,000
	法学部	1単位	8,000
	人文学部	1単位	9,000
	工学部	1単位	10,000
	履修証明プログラム受講生		48,000
実験実習費	工学部	実験を履修する者	80,000

(5) 教職課程(在学生)

区分			金額
受講料	教科		53,000円
	1単位 (実習費は,実費徴収)		8,000

(6) 図書館学課程

区分			金額
入学検定料	(本学卒業者免除)		30,000円
受講料	司書		
	在学生		63,000
	本学卒業生		185,000
	他大学卒業生		238,000
	司書教諭		
	在学生		31,000
	本学卒業生		92,000
	他大学卒業生		118,000
	同時受講		
	在学生		66,000
	本学卒業生		212,000
	他大学卒業生		264,000
	科目受講者	1単位	8,000

(7) 社会教育主事課程

区分			金額
入学検定料	(本学卒業者免除)		30,000円
入学金	(本学卒業者免除)		50,000
受講料	在学生		23,000
	本学卒業生		68,000
	他大学卒業生		87,000
	科目受講者 (実習費は,実費徴収)	1単位	8,000

(8) 学芸員課程

区分			金額
入学検定料	(本学卒業者免除)		30,000円
入学金	(本学卒業者免除)		50,000
受講料	在学生		39,000
	本学卒業生		115,000
	他大学卒業生		147,000
	科目受講者 (実習費は,実費徴収)	1単位	8,000

(9) 日本語教員養成課程

区分			金額
入学検定料	(本学卒業者免除)		30,000円
入学金	(本学卒業者免除)		50,000
受講料	在学生		
	人文学部(免除)		
	他の学部		30,000
	卒業生		
	本大学卒業生	1単位	9,000
	他大学卒業生		
修了証書手数料			5,000

(10) 特別聴講学生

区分			金額
入学検定料			30,000円
入学金			50,000
受講料	経済学部	1単位	8,000
	経営学部	1単位	8,000
	法学部	1単位	8,000
	人文学部	1単位	9,000
	工学部	1単位	10,000
実験実習費	工学部	実験を履修する者	80,000

平成28年度より,入学検定料及び入学金の取扱いについては,次のとおりとする。
(1) 研究生,(4) 科目等履修生,(6) 図書館学課程,(7) 社会教育主事課程,(8) 学芸員課程,(9) 日本語教員養成課程に記載のある本学卒業者免除には北海商科大学卒業者を含む。

⑿　北海学園大学大学院学則

昭和45年３月26日　制定

目次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　入学，転入学，再入学，転学及び留学（第８条－第14条）
第３章　休学，退学及び除籍（第15条－第17条）
第４章　教育方法等（第18条－第25条）
第５章　課程の修了要件及び学位の授与（第26条－第29条）
第６章　賞罰（第30条・第31条）
第７章　授業料等，授業料等の免除（第32条・第33条）
第８章　運営組織（第34条－第38条）
第９章　研究生，法務研究員，委託生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び外国人学生（第39条－第46条）
第10章　附属施設（第47条）
附則

第１章　総則

（目　的）

第１条　北海学園大学大学院（以下「本大学院」という。）は，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめて，文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本大学院は，その教育研究水準の向上を図り，その目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価に関する事項については，別に定める。

（認証評価）

第２条の２　本大学院は，前条の措置に加え，教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

２　第３条の４の専門職学位課程は，前項に規定するもののほか，設置の目的に照らし，教育課程，教員組織その他教育研究活動の状況について，政令で定める期間ごとに，認証評価を受けるものとする。

３　前２項に関する事項については，別に定める。

（ファカルティ･ディベロップメント及びスタッフ･ディベロップメント）

第２条の３　本大学院は，授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

２　本大学院は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運用を図るため，その教育職員及び事務職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修（前項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

（情報公開）

第２条の４　本大学院は，教育研究活動等の状況について，刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって積極的に情報を提供するものとする。

（大学院の課程）

第３条　本大学院に，修士課程，博士（後期）課程及び専門職学位課程を置く。

２　専門職学位課程を修了した者が博士（後期）課程に進学する場合，専門職学位課程を，修士課程と同等のものとして扱う。

（修士課程）

第３条の２　修士課程は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

（博士（後期）課程）

第３条の３　博士（後期）課程は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，又はその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

（専門職学位課程）

第３条の４　専門職学位課程は，高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

（研究科，専攻，入学定員及び収容定員）

第４条　本大学院修士課程に，次の研究科及び専攻を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

研究科	専攻	入学定員	収容定員
経済学研究科	経済政策専攻	15人	30人
経営学研究科	経営学専攻	7人	14人
法学研究科	法律学専攻	7人	14人
	政治学専攻	5人	10人
文学研究科	日本文化専攻	5人	10人
	英米文化専攻	5人	10人
工学研究科	建設工学専攻	6人	12人
	電子情報生命工学専攻	6人	12人

２　本大学院博士（後期）課程に，次の研究科及び専攻を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

研究科	専攻	入学定員	収容定員
経済学研究科	経済政策専攻	3人	9人
経営学研究科	経営学専攻	3人	9人
法学研究科	法律学専攻	2人	6人
	政治学専攻	2人	6人
文学研究科	日本文化専攻	2人	6人
	英米文化専攻	2人	6人
工学研究科	建設工学専攻	2人	6人
	電子情報生命工学専攻	2人	6人

３　専門職学位課程に，次の研究科及び専攻を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

研究科	専攻	入学定員	収容定員
法務研究科	法務専攻	―人	―人

４　専門職学位課程のうち，法務研究科法務専攻の課程は，法曹養成のための教育を行うことを目的とする法科大学院の課程（専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第１項）とする。

５　研究科に関する規則は，別に定める。

（標準修業年限及び最長修業年限）

第４条の２　修士課程の標準修業年限は２年とし，４年を超えて在学することができない。

２　博士（後期）課程の標準修業年限は３年とし，６年を超えて在学することができない。

３　第25条に基づく特例学生のうち，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは，その計画的な履修（以下，「長期履修」という。）を認めることができる。

４　前項の規定により長期履修を認めることのできる期間は修士課程３年，博士（後期）課程５年とする。長

期履修に関する事項は，各研究科で別に定める。
5　専門職学位課程の標準修業年限は原則として２年とし，４年を超えて在学することができない。
6　前項の規定にかかわらず，法科大学院の課程の標準修業年限は３年とする。ただし，長期履修課程にあっては，修了年限４年の長期履修を認めることができる。
7　前項の法科大学院の課程には，６年を超えて在学することができない。
（学年及び授業時間）
第５条　本大学院の学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。
2　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。
（学　期）
第６条　学年を次の２期に分ける。
前期　４月１日から９月30日まで
後期　10月１日から翌年３月31日まで
（休業日）
第７条　本大学院において授業及び研究指導を行わない日は，次のとおりとする。ただし，特別の必要がある場合は，この限りでない。
(1)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
(2)　日曜日
(3)　創立記念日　５月16日
(4)　春季休業日
(5)　夏季休業日
(6)　冬季休業日
2　前項第４号から第６号までに掲げる休業日は，別に定める。
3　臨時休業日は，そのつど定める。

第２章　入学，転入学，再入学，転学及び留学

（入学の時期）
第８条　本大学院の入学の時期は，毎年４月とする。
（入学資格）
第９条　本大学院の修士課程及び専門職学位課程に入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。
(1)　学校教育法第83条の大学を卒業した者
(2)　外国において，学校教育における16年の課程を修了した者
(3)　大学院及び大学の専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定（昭和28年２月７日文部省告示第５号）で文部科学大臣が指定した者
(4)　専修学校の専門課程（修業年限が四年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(5)　学校教育法第104条第１項の規定により学士の学位を授与された者
(6)　大学に３年以上在学し，本大学院において，所定の科目，単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
(7)　その他本大学院において，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
2　本大学院の博士（後期）課程に入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。
(1)　修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第１項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者。
(2)　外国の大学において前号と同等又は同等以上の学力を有する者
(3)　大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者の指定（平成元年９月１日文部省告示第118号）で文部科学大臣が指定した者
(4)　その他本大学院において，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
（入学の願出）
第10条　本大学院に入学を志願する者は，所定の書類に別表第４に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。転入学についても，同じとする。
（転入学）
第11条　転入学を志願する者は，前条に掲げるもののほか，現に在学する大学院を置く大学の学長の許可書を添付しなければならない。
（再入学）
第12条　正当な理由で退学した者が，再入学を願い出たときは，研究科委員会の議を経て，学長が許可することができる。
（転　学）
第13条　他の大学院に転学しようとする者は，転学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。
（留　学）
第13条の２　学生は，学長の許可を得て，外国の大学院又はそれに相当する教育・研究機関等に留学し，必要な研究指導等を受けることができる。
2　留学を志望する者は，所定の留学許可願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。
3　留学期間は，原則として１年以内とする。ただし，研究及び教育上特に必要があると認められるときには，その期間を延長することができる。
4　前項の留学期間は，第４条の２第１項から第４項までの標準修業年限に算入する。
5　留学に関する規程は，別に定める。
（入学の許可）
第14条　本大学院に入学し，再入学し，又は転入学しようとする者については，選考を行い，研究科委員会の議を経て，合格者を決定する。
2　前項による合格者のうち，指定期日までに，別表第４に掲げる入学金等を納入し，所定の入学手続を完了した者に，学長は，入学の許可を与える。

第３章　休学，退学及び除籍

（休　学）
第15条　疾病その他特別の事情により，長期にわたり学修できず，所定様式の休学願を研究科長に提出した者は，研究科委員会の議を経て，学長の許可により，当該年度に限り，休学することができる。
2　学年の始めにおいて既に標準修業年限を満たしている者が，疾病その他特別の事情により休学を願い出る場合には，研究科委員会の議を経て，学長の許可により，前期の終わりまで休学することができる。
3　前二項の規定にかかわらず，疾病その他特別の事情により休学の願い出がある場合には，研究科委員会の

議を経て，学長の許可により，引き続き前期の終わり又は年度の終わりまで，休学することができる。
4　引き続き休学できる期間は，当初の休学期間を含めて２ヶ年を限度とする。
5　学生は，休学理由が消滅し，休学期間が満了するときは，学長の許可を得て復学することができる。
6　休学期間は，在学する課程の標準修業年限と同じ年数を超えることはできない。
7　休学期間は，在学期間に算入しない。
（退　学）
第16条　病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は，理由を明記した退学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。
（除　籍）
第17条　次の各号の一に該当する者については，学長は，研究科委員会の議を経て，除籍するものとする。
⑴　修士課程にあっては第４条の２第１項，博士（後期）課程にあっては同条第２項，専門職学位課程（法科大学院の課程を除く。）にあっては同条第５項，法科大学院の課程にあっては同条第７項の在学期間を超えるとき。
⑵　法科大学院の課程にあっては，法科大学院が別に定める年限を超えて進級できなかったとき。
⑶　死亡したとき
⑷　行方不明になったとき
⑸　授業料等の納入を怠り，督促を受けて，なお納入しないとき
⑹　休学期間満了前に，復学，退学又は休学の願い出がないとき
⑺　入学を辞退したとき
2　前項第４号，第５号又は第６号により除籍された者が復籍を願い出たときは，第12条の規定を準用する。

第４章　教育方法等

（授業科目及び単位数）
第18条　本大学院に開設する修士課程及び博士（後期）課程の授業科目及び単位数は，研究科に応じ別表第１及び第２に掲げるとおりとし，専門職学位課程の授業科目及び単位数は別表第３に掲げるとおりとする。ただし，他の大学院との間の単位互換制度の協定に基づき認定単位数を別に定める場合は，この限りではない。
（授業及び研究指導）
第19条　本大学院修士課程及び博士（後期）課程の教育は，授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。
第19条の２　専門職学位課程の教育は，その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究，現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行う。
（履修方法等）
第19条の３　各研究科における研究指導及び履修に関する規定は，別に定める。
2　学生は，指導教授の承認を得たうえで，研究科委員会の議を経て，本大学院の他の研究科又は北海学園大学の学部の授業科目を履修することができる。
（単位の計算方法）
第20条　授業科目の単位計算方法は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じて次の基準により計算するものとする。
⑴　講義及び演習については，15時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実習については，30時間の授業をもって１単位とする。
（授業期間）
第21条　各授業科目の授業は，15週にわたる期間を単位として行うものとする。
（授業の方法）
第22条　授業は，講義，演習及び実習のいずれかにより，又はこれらの併用により行うものとする。
（指導教授）
第23条　修士課程及び博士（後期）課程の学生の研究指導に当るため，各学生に指導教授を定める。
2　前項の指導教授は，研究科委員会において定める。
（他の大学院における授業科目の履修等）
第24条　本大学院は，教育上有益と認めるときは，学生が他の大学院の授業科目を履修することを認めるものとする。
2　学生が他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は，15単位を超えない範囲で，本大学院において修得したものとみなす。ただし，法科大学院の課程の学生にあっては，30単位を超えない範囲で，法科大学院において修得したものとみなすことができる。
3　前２項の規定は，学生が外国の大学院に留学する場合について，準用する。
（入学前の既修得単位等の認定）
第24条の２　研究科において，教育上有益と認めるときは，本大学院に入学した学生が，本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし，別に定める認定の基準により研究科委員会の議を経て認定することができる。
2　前項により与えることのできる単位数は，修士課程又は博士（後期）課程の学生にあっては，15単位を超えないものとする。
3　前項の単位は，修士課程及び博士（後期）課程学生の，第４条の２第１項及び第２項に定める標準修業年限の短縮を伴わない。
4　第１項により与えることのできる単位数は，編入学，転学等の場合を除き，法科大学院の課程の学生にあっては，前条第２項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
第24条の３　第24条第２項及び前条第２項で修得したものとみなすことのできる単位数は，合わせて20単位を超えないものとする。
（教育方法の特例）
第25条　研究科においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第５章　課程の修了要件及び学位の授与

（単位の授与及び評価）
第26条　本大学院においては，所定の授業科目を履修した者に対して試験の上単位を与える。
2　試験は，原則として学年末又は学期末に行う。

3　試験の評価は，秀，優，良，可，不可の５種とし，秀，優，良，可を合格とする。ただし，この成績評価になじまない一部の科目の評価は，合否の２種とし，合を合格とする。

（進級要件）

第26条の２　法科大学院の課程の進級要件は，別に定める。

（修士課程及び博士（後期）課程の修了要件）

第27条　修士課程の修了の要件は，本大学院の修士課程に２年以上在学し，経済学研究科及び文学研究科にあっては32単位以上，経営学研究科，法学研究科及び工学研究科にあっては30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，研究科が当該修士課程の目的に応じ，大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。

　ただし，在学期間に関しては，本大学院に入学する前に修得した単位数，その修得に要した期間その他を勘案し本大学院の修士課程の一部を履修したものと認められるときは，１年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。

2　博士（後期）課程の修了要件は，本大学院の博士（後期）課程に３年以上在学し，法学研究科，文学研究科にあっては12単位以上，経済学研究科，経営学研究科及び工学研究科にあっては14単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。

　ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，博士（後期）課程に１年以上在学すれば足りるものとする。

3　大学院設置基準第３条第３項の規定により標準修業年限を１年以上２年未満とした修士課程を修了した者及び同第16条第１項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については，「修士課程における在学期間に３年を加えた期間」と「３年（修士課程に２年以上在学し，当該課程における在学期間を含む。）」とする。

4　第２項及び前項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位〔学位規則（昭和28年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位をいう。〕を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期３年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院（専門職大学院を除く。以下この項において同じ。）に３年〔専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年〕以上在学し，必要な研究指導を受けた上，当該研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

（法科大学院の課程の修了要件）

第27条の２　専門職学位課程のうち法科大学院の課程の修了要件は，３年以上（長期履修課程の場合は４年以上）在学し，99単位以上を修得することとする。

2　前項の規定にかかわらず，法科大学院の課程において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認める者（以下「法学既修者」という。）に関しては，同課程に１年間在学し，34単位を超えない範囲で法務研究科が認める単位を修得したものとみなす。

3　法学既修者について修得したものとみなすことのできる単位数は，第24条の２第４項及び前項の規程により修得したものとみなす単位数と併せて34単位を超えないものとする。

4　法学既修者と認められる要件等については，法務研究科委員会において別に定める。

5　修了要件の細目については，別に定める。

（学位の授与）

第28条　修士課程，博士（後期）課程又は法科大学院の課程を修了した者には，北海学園大学学位規則の定めるところにより，それぞれ修士，博士又は法務博士の学位を授与する。

2　本大学院の博士（後期）課程を修了しない者であっても，博士論文を提出し，その審査及び試験に合格して，本大学院博士（後期）課程修了者と同等以上の学力があると認められる場合には，博士の学位を授与することができる。

3　北海学園大学学位規則は，別に定める。

（教育職員免許状の資格の取得）

第29条　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　本大学院の研究科の専攻において，当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は，次のとおりとする。

研究科	専攻	教育職員の免許状の種類	（免許教科）
経済学研究科	経済政策専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	商業
経営学研究科	経営学専攻	高等学校教諭専修免許状	商業
法学研究科	法律学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
同上	政治学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
文学研究科	日本文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	国語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
同上	英米文化専攻	中学校教諭専修免許状	英語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	英語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
工学研究科	建設工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業

3　教育職員の免許状授与の所要資格を取得するための必要な事項は，別に定める。

第６章　賞罰

（表　彰）

第30条　学生で人物学業ともに優秀な者を，研究科委員会の議を経て，学長が表彰することができる。

（奨学制度）

第30条の２　学生育英のため，奨学制度を設ける。

2　奨学生規程は，別に定める。

（個人の秘密を守る義務）

第30条の３　学生は，本大学院の実習教育等を通して知

り得た個人の秘密を漏らしてはならない。
2　法令による証人等となり前項の秘密に属する事項を発表する場合には，あらかじめ学長の許可を得なければならない。
（懲　戒）
第31条　学生が本大学院の学則に違反し，又は学生の本分に反する行為があったときは，研究科委員会の議を経て，学長がこれを懲戒することができる。
2　懲戒は，譴責，停学及び退学とする。
3　前項の退学は，次の各号の一に該当する学生に対して行うことができる。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学力不振で成業の見込みがないと認められる者
⑶　本大学院の実習教育等を通して知り得た個人の秘密を漏らした者
⑷　その他学生としての本分に反した者

第７章　授業料等，授業料等の免除

（授業料等）
第32条　学生は，別表第４に掲げる額の入学金，授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費を，別に定めるところにより，納入しなければならない。
2　第４条の２第３項の長期履修の学生が履修期間を短縮して修了する場合，残存期間の授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費を納入する。
3　特別の事情により，授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費の納入が困難な場合は，学生は，別に定めるところにより，当該納入金を延納することができる。
4　休学者は，その期間中の授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費の納入を免除する。ただし，別表第４による各分納期の途中で休学，退学する場合は，その期の授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費の納入を免除しない。
5　本大学院学則第４条の２に定める標準修業年限又は修了年限（修士課程３年の長期履修，博士（後期）課程５年の長期履修及び法科大学院の４年の長期履修課程）を超えて在学する者が９月に課程を修了した場合は，別表第４に掲げる納入金のうち，第２期分の授業料・教育充実費・実験実習費を免除する。なお，９月修了に関しては研究科の定めるところによる。
（入学検定料等の不返還）
第33条　既に納入した入学検定料，入学金，授業料，教育充実費，実験実習費及び学生諸費は，返還しない。

第８章　運営組織

（学　長）
第34条　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。
（研究科委員会）
第35条　研究科に，研究科委員会を置く。
2　研究科委員会は，その研究科の授業科目を担当する専任の教員をもって組織する。
3　前項の専任の教員は，法務研究科にあっては，年間６単位以上の授業科目を担当し，かつ，法律実務基礎科目を中心に法科大学院のカリキュラム編成等に責任をもつ者を含む。
4　研究科委員会は，研究科長が招集し，その議長となる。
（研究科長）
第35条の２　研究科に，研究科長を置く。
2　研究科長は，その研究科の専任教授（法務研究科にあっては，前条第３項に規定する者を除く。）をもって充て，研究科を統括する。
3　研究科長の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。
4　その選出方法及び職務については，別に定める。
（研究科委員会の審議事項）
第36条　法務研究科委員会を除く研究科委員会は，その研究科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
⑴　研究科の組織に関する事項
⑵　教育研究の指導に関する事項
⑶　教員の選考に関する事項
⑷　学生の入学，留学，休学，退学，その他の学籍に関する事項
⑸　学生の表彰及び懲戒に関する事項
⑹　試験及び修士論文又は博士論文の審査に関する事項
⑺　その他その研究科に関する重要な事項
第36条の２　法務研究科委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
⑴　研究科の組織に関する事項
⑵　教育課程の編成に関する事項
⑶　教員の選考に関する事項
⑷　学生の入学，留学，休学，退学，その他の学籍に関する事項
⑸　進級及び修了等に関する事項
⑹　法学既修者の認定要件及びそれに関する事項
⑺　学生の修業年限の短縮に関する事項
⑻　学生の賞罰及び奨学に関する事項
⑼　授業科目の運用について協力を得る学外諸機関との調整に関する事項
⑽　学生の司法試験受験に関する事項
⑾　その他，法務研究科に関する事項
第36条の３　前２条の決定が他の研究科に著しい関連がある場合には，各研究科は大学院委員会の承認を得るものとする。
（大学院委員会）
第37条　本大学院に，大学院委員会を置く。
2　大学院委員会は，各研究科長及び各研究科委員会において委員の互選によって選任した２人の委員をもって組織する。
　ただし，特別の事由のある場合は，この限りでない。
3　研究科委員会の委員の互選によって選任された委員の任期は，２年とする。
4　大学院委員会は，学長が招集し，その議長となる。
第38条　大学院委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
⑴　教育研究の基本に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　学則その他の諸規定の制定又は変更に関する事項
⑷　将来の計画に関する事項
⑸　その他本大学院に関する重要な事項
（事務組織）
第38条の２　本大学院は，大学院の事務を処理するため，事務組織を設ける。
2　事務組織及び事務分掌については，別に定める。

第９章　研究生，法務研究員，委託生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び外国人学生

（研究生）

第39条　本大学院において，大学院修士課程，博士（後期）課程又は法科大学院の課程の修了者で特定事項につき研究を行なおうとする者があるときは，学長は，学生の教育に支障がない限り，研究科委員会の選考を経て，研究生として入学を許可することができる。

２　前項に定めるもののほか，研究生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。

（法務研究員）

第40条　本学法科大学院を修了した者が司法試験を受験するために引き続き法科大学院の施設・図書等の利用を希望する場合には，学長は，法科大学院の教育に支障のない限り，研究科委員会の議を経て，法務研究員として，これを許可することができる。

２　前項の法務研究員に関し必要な事項は，別に定める。

（委託生）

第41条　公の機関又は団体等から，本大学院において研究指導を受けさせるため，その職員を委託されたときは，学長は，学生の教育に支障がない限り，研究科委員会の選考を経て，委託生として，これを許可することができる。

２　前条第２項の規定は，委託生について準用する。

（特別聴講学生）

第42条　本大学院において，特定の授業科目を履修する他の大学院の学生があるときは，本大学院の学生の教育に支障のない限り，当該他大学院との協議に基づき，特別聴講学生として，その履修を認めることができる。

２　前項に定めるもののほか，特別聴講学生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。

（聴講生）

第43条　本大学院の特定の授業科目の聴講を希望する者があるときは，学長は，学生の教育に支障がない限り，研究科委員会の議を経て，聴講生として，これを許可することができる。

２　聴講生が授業科目の試験に合格したときは，証明書を交付する。

（科目等履修生）

第43条の２　本大学院の修士課程及び法科大学院の課程の特定の授業科目の履修を希望する者があるときは，学長は，学生の教育に支障がない限り，研究科委員会の議を経て，科目等履修生として，これを許可することができる。

２　前項に定めるもののほか，科目等履修生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。

（外国人学生）

第44条　外国人で第９条各号の一に該当する者の入学の願い出があるときは，学長は，研究科委員会の選考を経て，外国人学生として，入学を許可することができる。

２　外国人の入学手続については，別に定めるところによる。

（受講料等）

第45条　研究生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び委託生は，別表第５に掲げる金額を納入しなければならない。

２　単位互換協定校又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金，受講料，実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。

３　外国人学生の納入金は，別表第４及び第５に掲げる金額と同額とする。

（適用除外）

第46条　研究生，委託生，特別聴講学生，聴講生及び外国人学生については，この章で定めるもののほかは，この学則を準用する。ただし，研究生，委託生及び聴講生については，第５章の規定を，特別聴講学生及び科目等履修生については，第27条から第28条までの規定を準用しない。

第10章　附属施設

（研究所）

第47条　本大学院の各研究科に研究所を置くことができる。

２　研究所に関する規程は，別に定める。

附　則

この学則は，昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和48年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和51年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和56年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，昭和60年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。

２　第４条中，法学研究科法律学専攻の総定員「14人」とあるのは，昭和62年３月31日までは，「７人」と読み替えるものとする。

附　則

この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成元年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成３年12月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成14年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成16年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成22年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成25年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成26年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

２　第４条第１項の規定にかかわらず平成28年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成28年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	6
	電子情報生命工学専攻	6	6

附　則

１　この学則は，平成29年４月１日から施行する。

２　第４条第１項の規定にかかわらず平成29年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成29年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	－
	電子情報生命工学専攻	6	12

附　則

１　この学則は，平成30年４月１日から施行する。

２　第４条第２項の規定にかかわらず平成30年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成30年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	－
	電子情報生命工学専攻	6	12

研究科・博士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	3	9
経営学研究科	経営学専攻	3	9
法学研究科	法律学専攻	2	6
	政治学専攻	2	6
文学研究科	日本文化専攻	2	6
	英米文化専攻	2	6
工学研究科	建設工学専攻	2	6
	電子情報生命工学専攻	2	2

３　第４条第３項の規定にかかわらず，平成30年度から平成32年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成30年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
法務研究科	法務専攻	－	36

平成31年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
法務研究科	法務専攻	－	18

平成32年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
法務研究科	法務専攻	－	－

備考　法務研究科は，平成30年度から募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

４　法務研究科の入学に関する規定は，平成30年度から適用しない。

附　則

１　この学則は，平成31年４月１日から施行する。

２　第４条第１項および同条第２項の規定にかかわらず平成31年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成31年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	−	−
	電子情報生命工学専攻	6	12

研究科・博士課程	専　　攻	入学定員	収容定員
		人	人
経済学研究科	経済政策専攻	3	9
経営学研究科	経営学専攻	3	9
法学研究科	法律学専攻	2	6
	政治学専攻	2	6
文学研究科	日本文化専攻	2	6
	英米文化専攻	2	6
工学研究科	建設工学専攻	2	6
	電子情報生命工学専攻	2	4

附　則

この学則は，令和２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和３年４月１日から施行する。

⑬　北海学園大学大学院学則別表

別表第１

（修士課程）

５　工学研究科

(1)　建設工学専攻

授　業　科　目	単位数
応用数学特論	2
応用物理特論	2
計画システム分析特論	2
社会環境政策特論	2
建築構造解析特論Ⅰ	2
構造解析特論	2
建築構造信頼性特論	2
建築構造力学特論	2
構造設計特論	2
建築構造設計特論Ⅰ	2
建築構造設計特論Ⅱ	2
建築構法特論Ⅰ	2
建築構法特論Ⅱ	2
建築鉄筋コンクリート構造特論	2
コンクリート構造設計特論	2
建築構造解析特論Ⅱ	2
構造動力学特論	2
非線形構造解析特論	2
寒地舗装工学特論	2
建築材料工学特論	2
建設コンクリート工学特論	2
土質力学特論	2
地盤工学特論	2
温熱環境計画特論	2
環境・エネルギー計画特論	2
設備計画特論	2
建築設備特別演習Ⅰ	2
建築設備特別演習Ⅱ	2
水循環工学特論	2
都市環境評価特論	2
建築史・建築論特論Ⅰ	2
建築史・建築論特論Ⅱ	2
建築音響設計特論	2
水環境工学特論	2
建築設計特論	2
建築設計特論演習	2
河川学特論	2
都市計画特論	2
都市計画特論演習	2
環境情報工学特論	2
環境リスク工学特論	2
都市システム計画学特論	2
建築計画特論Ⅰ	2
建築計画特論Ⅱ	2
交通計画学特論	2
鉄道工学特論	2
建築生産工学特論	2
寒地建築工学特論	2
道路工学特論	2
材料強度学特論	2
建築インターンシップ	4
社会環境工学特論ゼミナールⅠ	3
社会環境工学特論ゼミナールⅡ	3
建築学特論ゼミナールⅠ	3
建築学特論ゼミナールⅡ	3
社会環境工学特別研究Ⅰ	3
社会環境工学特別研究Ⅱ	3
建築学特別研究Ⅰ	3
建築学特別研究Ⅱ	3

(2)　電子情報生命工学専攻

授　業　科　目	単位数
電子情報生命工学総論	2
光物理工学特論	2
高周波工学特論	2
アンテナ・伝搬工学特論	2
量子電子工学特論	2
電子・光デバイス工学特論	2
レーザー応用工学特論	2
制御情報工学特論	2
画像計測工学特論	2
光計測工学特論	2
応用システム工学特論	2
情報モデリング工学特論	2
生体計測工学特論	2
情報検索工学特論	2
言語情報工学特論	2
知能情報工学特論	2
計算言語学特論	2
人工知能学特論	2
計算モデル特論	2
ソフトウェア工学特論	2
シミュレーション科学特論	2
音声情報処理工学特論	2
聴覚情報処理工学特論	2
応用知識工学特論	2
意識情報数理特論	2
インタラクション工学特論	2
マルチメディア圧縮工学特論	2
ゲノム編集工学特論	2
生体情報工学特論	2
生化学特論	2
分子遺伝学特論	2
植物遺伝子工学特論	2
生命動態工学特論	2
染色体工学特論	2
免疫工学特論	2
植物環境工学特論	2
環境・エネルギーシステム特論	2
電子情報生命工学特論ゼミナールⅠ	3
電子情報生命工学特論ゼミナールⅡ	3
電子情報生命工学特別研究Ⅰ	3
電子情報生命工学特別研究Ⅱ	3

⑭　北海学園大学学位規則

昭和45年３月26日　制定

（授与する学位）

第１条　北海学園大学（以下「本大学」という。）が授与する学位は，次のとおりとする。

経済学部　１部	経済学科	学士（経済学）
	地域経済学科	学士（経済学）
経済学部　２部	経済学科	学士（経済学）
	地域経済学科	学士（経済学）
経営学部　１部	経営学科	学士（経営学）
	経営情報学科	学士（経営学）
経営学部　２部	経営学科	学士（経営学）
法学部　１部	法律学科	学士（法　学）
	政治学科	学士（法　学）
法学部　２部	法律学科	学士（法　学）
	政治学科	学士（法　学）
人文学部　１部	日本文化学科	学士（文　学）
	英米文化学科	学士（文　学）
人文学部　２部	日本文化学科	学士（文　学）
	英米文化学科	学士（文　学）
工学部	社会環境工学科	学士（工　学）
	建築学科	学士（工　学）
	電子情報工学科	学士（工　学）
	生命工学科	学士（工　学）
経済学研究科　経済政策専攻	修　士（経済学）	博士（経済学）
経営学研究科　経営学専攻	修　士（経営学）	博士（経営学）
法学研究科　法律学専攻	修　士（法　学）	博士（法　学）
政治学専攻	修　士（政治学）	博士（政治学）
文学研究科　日本文化専攻	修　士（文　学）	博士（文　学）
英米文化専攻	修　士（文　学）	博士（文　学）
工学研究科　建設工学専攻	修　士（工　学）	博士（工　学）
電子情報生命工学専攻	修　士（工　学）	博士（工　学）
法務研究科　法務専攻	法務博士（専門職）	

（学位の授与の要件）

第２条　学士の学位は，本大学を卒業した者に授与する。

２　修士の学位は，本大学の大学院（以下「本大学院」という。）の修士課程を修了した者に授与する。

３　博士の学位は，本大学院の博士（後期）課程を修了した者に授与する。

４　前項の規定にかかわらず，博士の学位は，本大学院博士（後期）課程を修了しない者であっても，博士論文を提出して，その審査に合格し，かつ，その関係専攻分野に関し本大学院博士（後期）課程修了者と同等以上の学力を有することを試験により確認された場合には，授与することができる。

５　本大学院の博士（後期）課程に所定の修業年限以上在学し，所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けて退学した者が，再入学せずに論文を提出するときは，前項の規定によるものとする。ただし，退学したときから３年以内に提出する場合に限り，審査手数料の納入を免除する。

６　法務博士（専門職）の学位は，本大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程を修了した者に授与する。

（論文の提出）

第３条　修士論文は，在学第２年次以降において，各研究科において指定する期間内に，研究科長に提出しなければならない。

２　博士論文は，在学第３年次以降において，各研究科において指定する期間内に，研究科長に提出しなければならない。

３　前条第４項の規定により博士の学位の授与を申請する者は，所定の博士学位申請書，研究業績一覧表，博士論文の要旨，履歴書及び別に定める審査手数料を添えて，博士論文を研究科長に提出しなければならない。

４　提出する論文は１編とし，３通を提出するものとする。

５　提出した論文及び納入した審査手数料は，返還しない。

（論文の審査及び試験）

第４条　修士論文の審査及び試験は，「学位規則」（昭和28年文部省令第９号）第３条に定めるところを基準として行うものとする。

２　博士論文の審査及び試験は，「学位規則」（昭和28年文部省令第９号）第４条に定めるところを基準として行うものとする。

３　論文の審査及び試験に関し必要な事項は，研究科委員会の議を経て，研究科長が定める。

（論文の審査）

第５条　修士論文及び博士論文の審査は，研究科の審査委員会が行う。

２　前項の審査委員会は，原則として，当該研究科委員会に所属する３人の委員をもって構成する。第２条第２項，第３項に定める学位論文の審査のための審査委員会には，学位申請者の指導教授を加えるものとする。

３　第２条第２項，第３項に定める学位論文の審査は，原則として在学期間内に終了するものとし，第２条第４項及び第５項に定める博士論文の審査は，その提出日から１年以内に終了するものとする。

（試　験）

第６条　試験は，審査委員が筆記又は口頭で行う。

２　試験は，修士論文又は博士論文の内容を中心として行う。

３　第２条第４項に定める学力を確認するための試験は，博士論文の内容，関連する専攻分野の科目及び外国語について行う。ただし，学位申請者の経歴，研究上の業績から優れた学力が認められる場合は，関連する専攻分野の科目及び外国語についての試験を免除することができる。

（審査等の報告）

第７条　修士論文又は博士論文の審査及び試験が終了したときは，審査委員会は，その結果を，修士論文又は博士論文及び試験の要旨を記載した書面により研究科委員会に報告しなければならない。

２　審査を終了した修士論文又は博士論文は，おおむね１週間，研究科委員会の委員に対して公開するものとする。

３　研究科長は，研究科委員会の委員に対し，修士論文又は博士論文の提出者の氏名，修士論文又は博士論文の題目，公開の期間及び期日と場所その他必要な事項を，公開期間前７日までに書面をもって通知しなければならない。

（合格又は不合格の決定）

第８条　修士論文及び博士論文並びに試験の合格又は不合格は，研究科委員会において決定する。

２　前項の研究科委員会は，委員総数の３分の２以上の者が出席しなければ，開催することができない。

３　第１項の合格の決定は，研究科委員会の委員の無記名投票により出席者の３分の２以上の者が賛成するこ

とを必要とする。
（合格者の報告）
第９条　修士論文及び博士論文並びに試験の合格者が決定したときは，研究科長は，遅滞なく，その旨を学長に報告しなければならない。
２　前項の報告には，修士論文又は博士論文の審査及び試験の結果の要旨並びに履歴書２通を添付しなければならない。
（学位の授与及び学位記）
第10条　学長は，教授会の議を経て，本大学学則第32条の定める単位を修得した者に，第１条に該当する学士の学位を授与する。
２　学長は，大学院委員会の議を経て，修士論文又は博士論文の審査及び試験の合格者に対し，第１条（法務博士（専門職）を除く）に該当する学位を授与する。
３　学長は，法務研究科の議を経て，本大学院学則第27条の２に定める単位を修得した者に対し，第１条に定める法務博士（専門職）の学位を授与する。
４　学位記は，別記様式のとおりとする。
（論文要旨等の公表）
第11条　本大学は，博士の学位を授与したときは，当該博士の学位を授与した日から３ケ月以内に，その学位論文の内容の要旨及び審査結果の概要をインターネットの利用により公表するものとする。
２　博士の学位を授与された者は，当該博士の学位を授与された日から１年以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし，当該博士の学位を授与される前にすでに公表している場合は，この限りではない。
３　前項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむをえない理由がある場合には，本大学の承認を得て，当該博士の学位授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において，本大学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
４　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は，本大学の機関リポジトリHOKUGA（以下「HOKUGA」という。）を活用して，インターネットによるものとする。
５　前項の規定にもかかわらず，博士の学位を授与された者がHOKUGA以外の形態によって公表する場合には，本大学が授与した学位に係る論文またはその要旨である旨を明記しなければならない。
（学位の取消）
第12条　学位を授与された者が，次の各号の一に該当するときは，学長は，教授会又は大学院委員会の議を経て，授与した学位を取り消すものとする。
⑴　不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき
⑵　学位を授与された者にその名誉を汚辱する行為があったとき
２　前項の規定により学位を取り消された者は，その学位記を本大学に返さなければならない。
（規則の改正）
第13条　この規則の改正は，本大学協議会又は本大学大学院委員会の議を経て行う。

附　則

この規則は，昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，昭和61年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成３年12月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成４年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成５年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成14年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成28年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成30年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，令和２年４月１日から施行する。

別記様式

1　（本学を卒業した場合の卒業証書・学位記）

卒業証書・学位記

氏名

年　月　日生

本学○○学部○○学科所定の課程を修めたことを認める

年　月　日

北海学園大学○○学部長　○○○○

印

本学○○学部長の認定により卒業証書を授与し学士（○○）の学位を授ける

北海学園大学長　○○○○

印

学（済・営・法・文・工）第　号

2　（修士課程を修了した場合の学位記）

学　位　記

氏名

年　月　日生

本学大学院○○研究科○○専攻の修士課程を修了したので修士（○○）の学位を授ける

年　月　日

北海学園大学

修（経済・経営・法・政治・文・工）第　号

印

3　（博士（後期）課程を修了した場合の学位記）

学　位　記

氏名

年　月　日生

本学大学院○○研究科○○専攻の博士課程を修了したので博士（○○）の学位を授ける

年　月　日

北海学園大学

博（経済・経営・法・政治・文・工）甲第　号

印

4　（論文提出による場合の学位記）

学　位　記

氏名

年　月　日生

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授ける

年　月　日

北海学園大学

博（経済・経営・法・政治・文・工）乙第　号

印

5　（法務研究科法務専攻専門職学位課程を修了した場合の学位記）

学　位　記

氏名

年　月　日生

本学大学院法務研究科法務専攻所定の課程を修めて本学大学院を修了したことを認め法務博士（専門職）の学位を授ける

年　月　日

北海学園大学

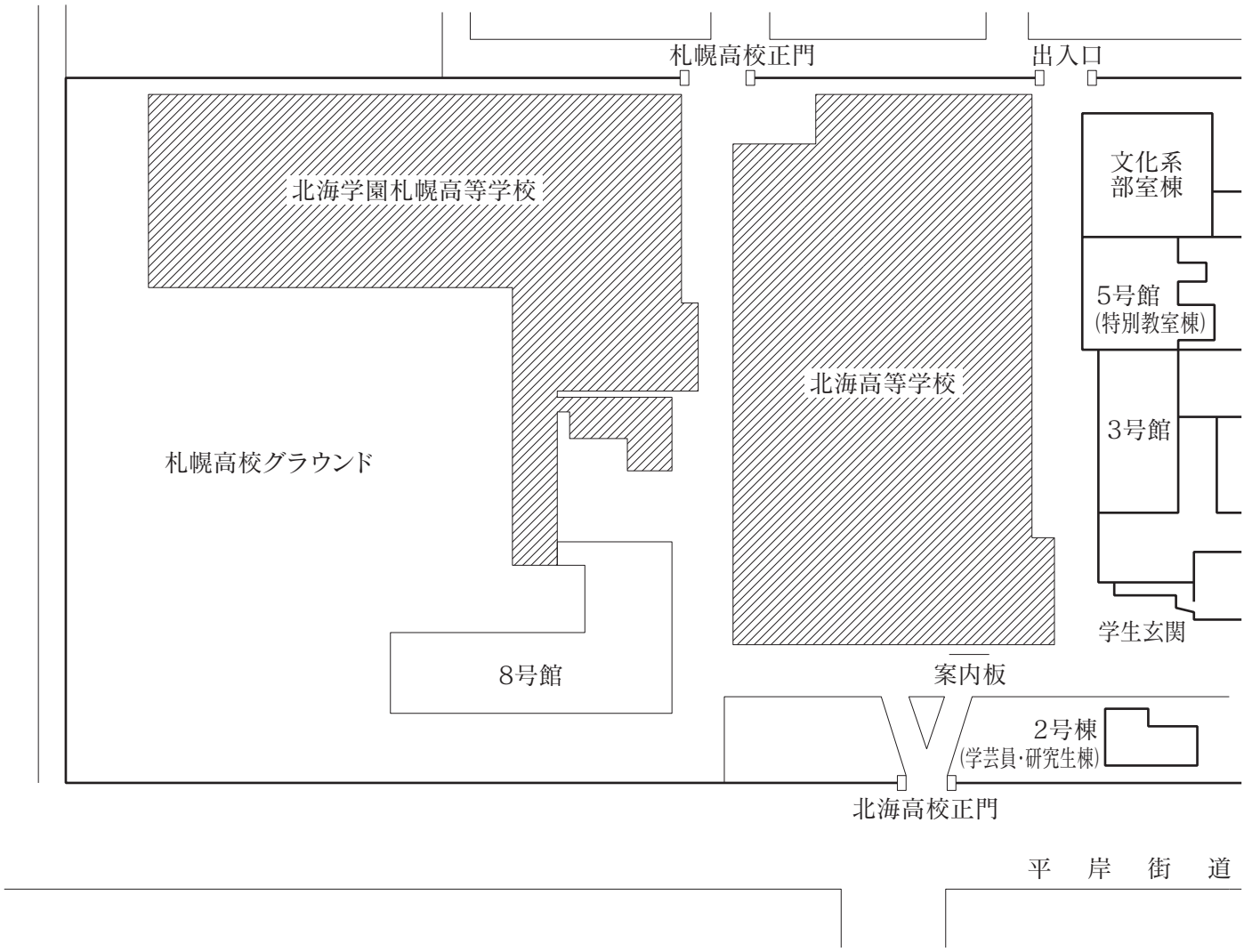
博（専門職）第　号

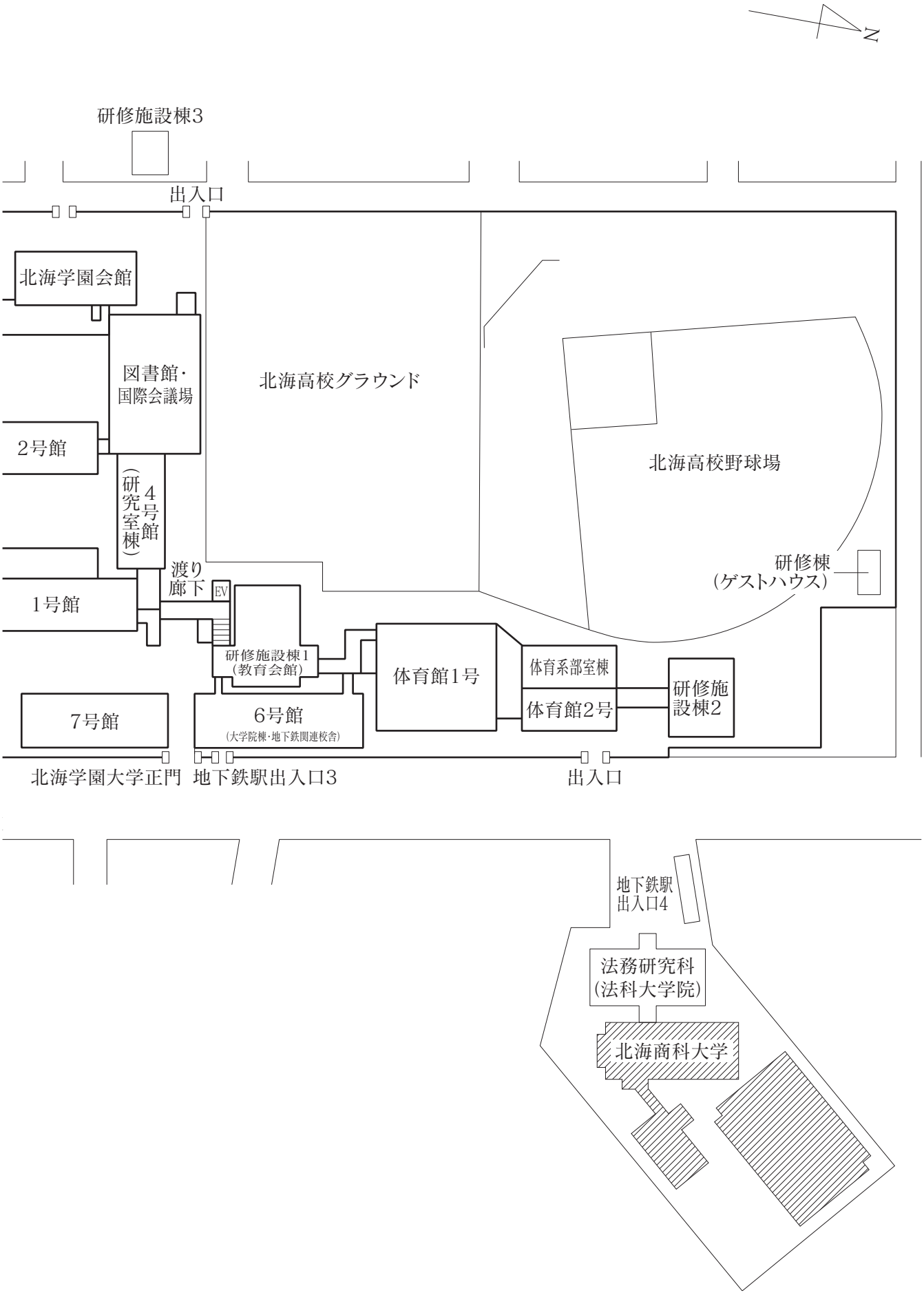
印

13. 校舎見取り図

1．豊平校舎

所在地　札幌市豊平区旭町４丁目１番40号

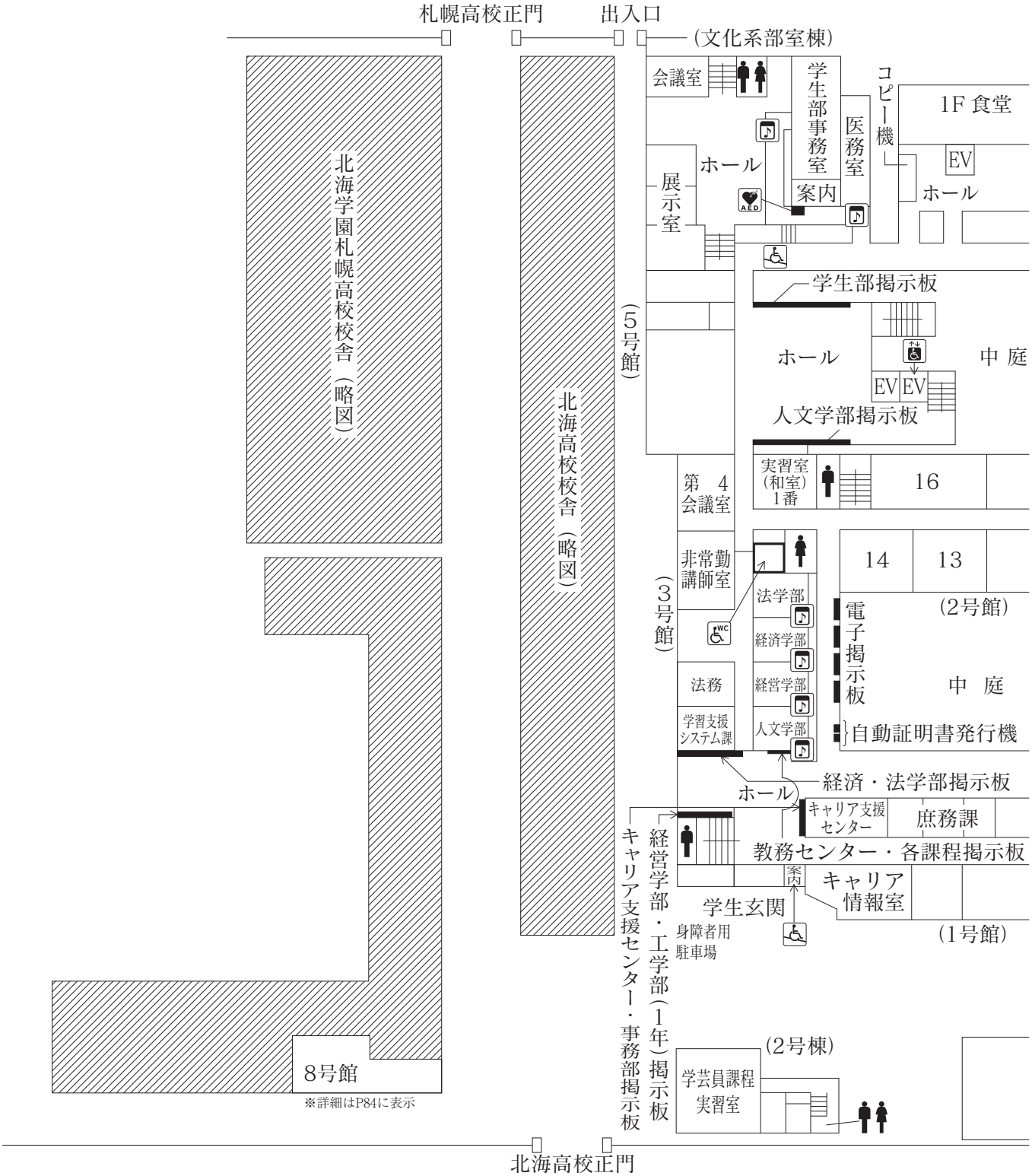


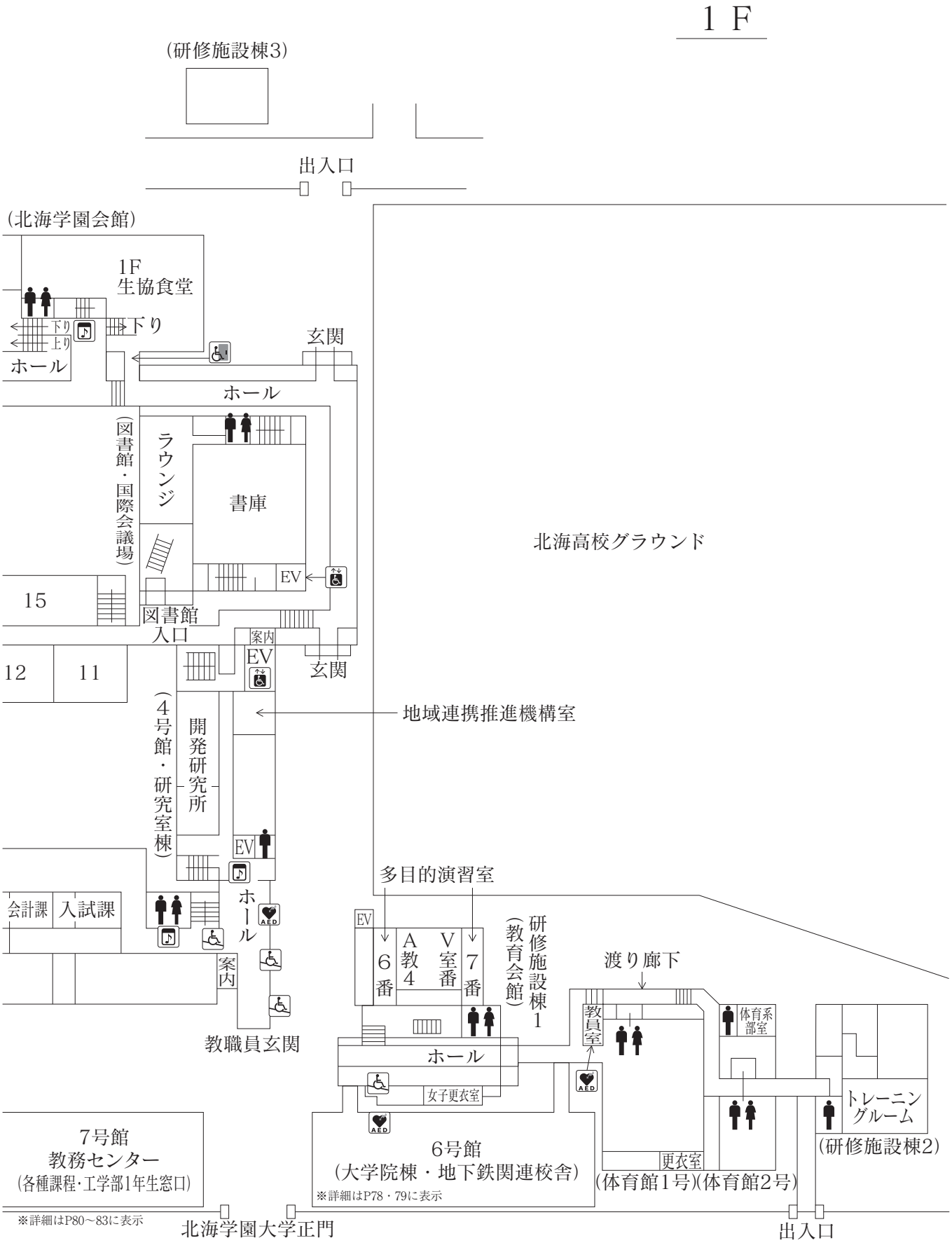

N
研修施設棟3
出入口
北海学園会館
図書館・
国際会議場
北海高校グラウンド
2号館
4号館
（研究室棟）
北海高校野球場
研修棟
（ゲストハウス）
渡り
廊下
EV
1号館
研修施設棟1
（教育会館）
体育館1号
体育系部室棟
体育館2号
研修施
設棟2
7号館
6号館
（大学院棟・地下鉄関連校舎）
北海学園大学正門
地下鉄駅出入口3
出入口
地下鉄駅
出入口4
法務研究科
（法科大学院）
北海商科大学

1階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

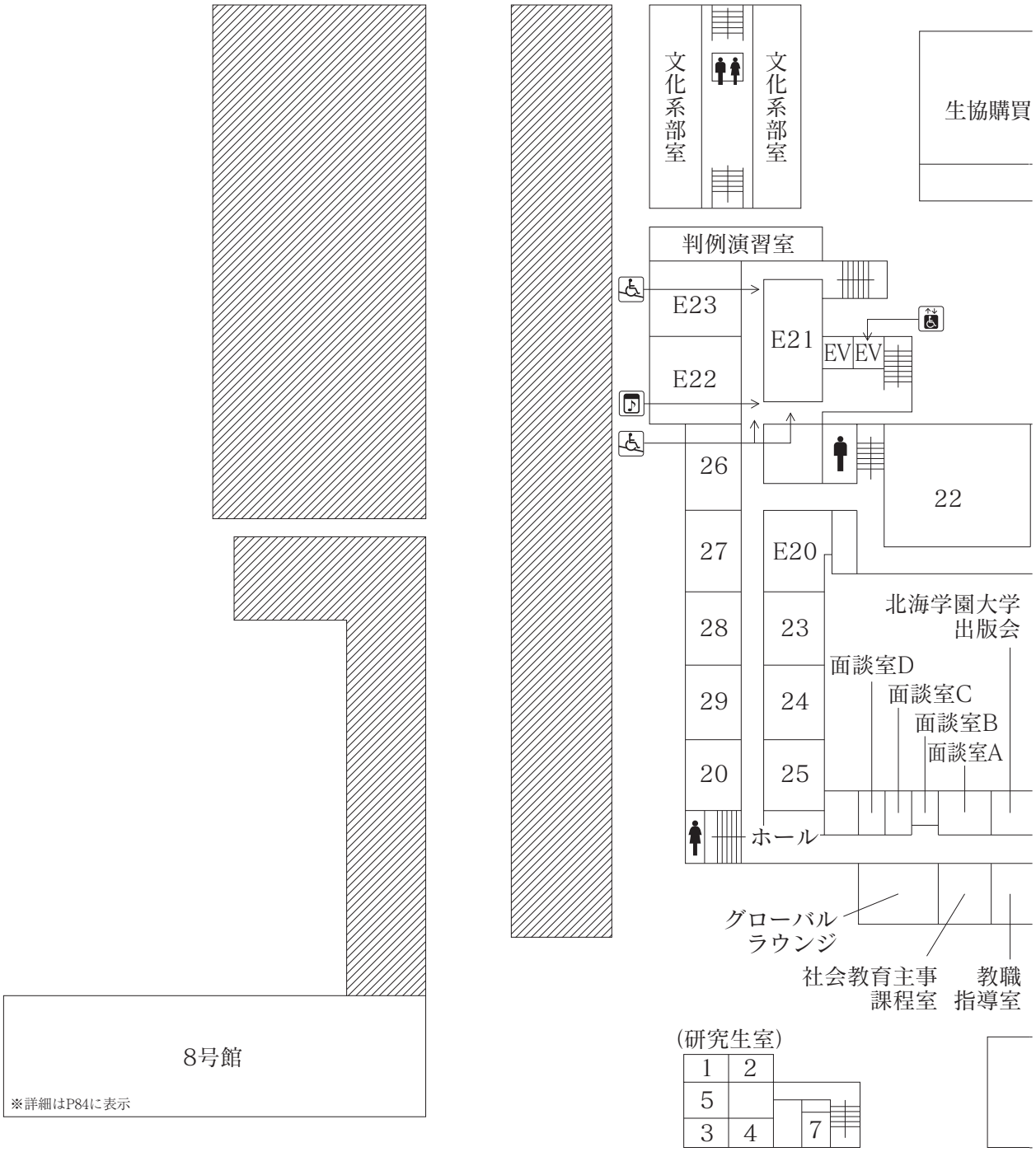
数字は教室番号



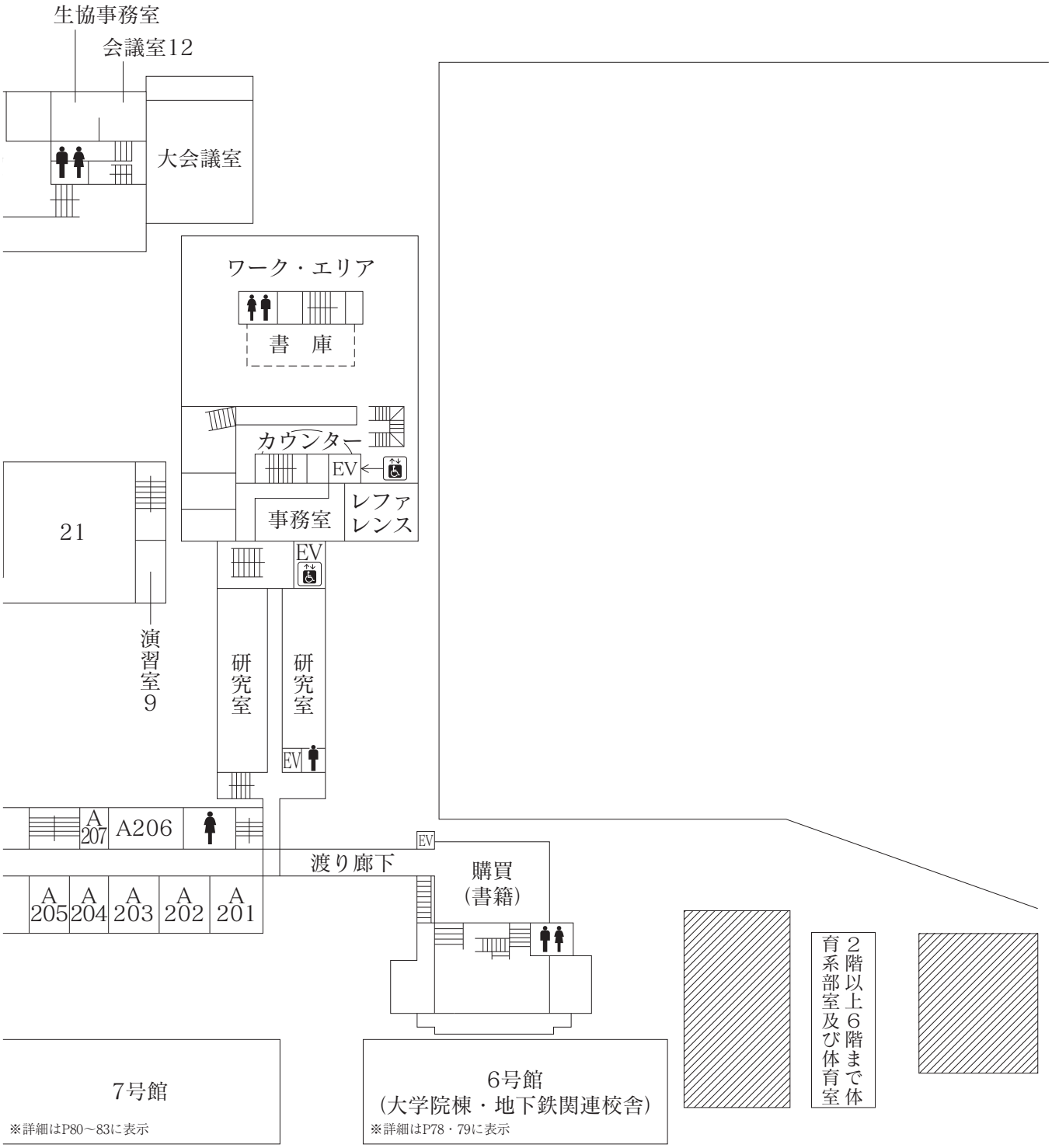

1 F
(研修施設棟3)
出入口
(北海学園会館)
1F
生協食堂
下り
上り
下り
ホール
玄関
ホール
(図書館・国際会議場)
ラウンジ
書庫
EV
15
図書館
入口
案内
EV
12
11
玄関
(4号館・研究室棟)
開発研究所
地域連携推進機構室
北海高校グラウンド
EV
ホール
会計課
入試課
案内
教職員玄関
多目的演習室
EV
6番
A教4
V室番
7番
研修施設棟1
(教育会館)
渡り廊下
教員室
体育系部室
ホール
女子更衣室
トレーニングルーム
(研修施設棟2)
7号館
教務センター
(各種課程・工学部1年生窓口)
6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎)
※詳細はP78・79に表示
更衣室
(体育館1号)(体育館2号)
※詳細はP80～83に表示
北海学園大学正門
出入口

2階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

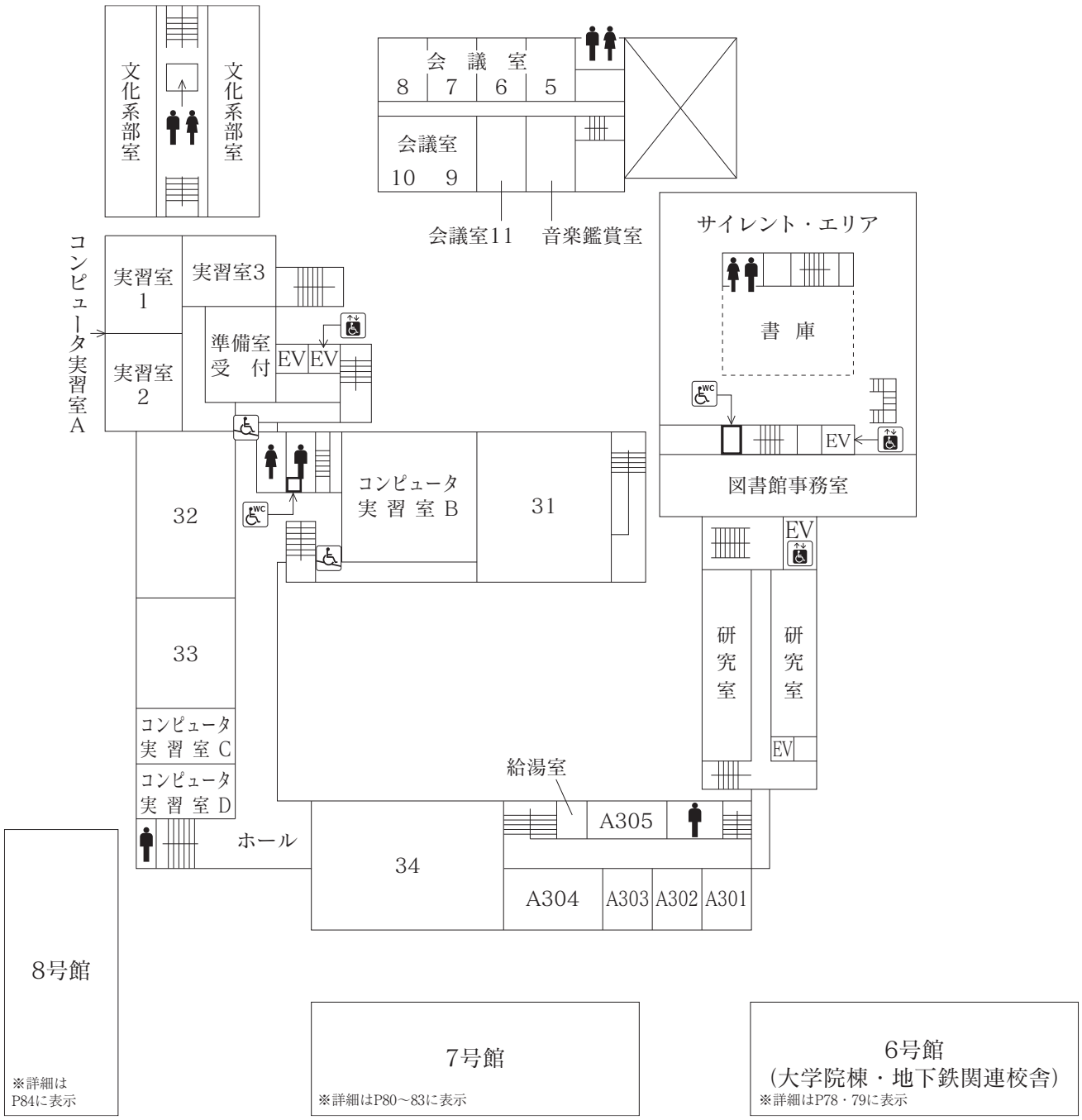


2 F


生協事務室
会議室12
大会議室
ワーク・エリア
書　庫
カウンター
EV
事務室
レファレンス
21
EV
演習室9
研究室
研究室
EV
A207
A206
EV
渡り廊下
購買（書籍）
A205
A204
A203
A202
A201
2階以上6階まで体育系部室及び体育室
7号館
※詳細はP80～83に表示
6号館
（大学院棟・地下鉄関連校舎）
※詳細はP78・79に表示

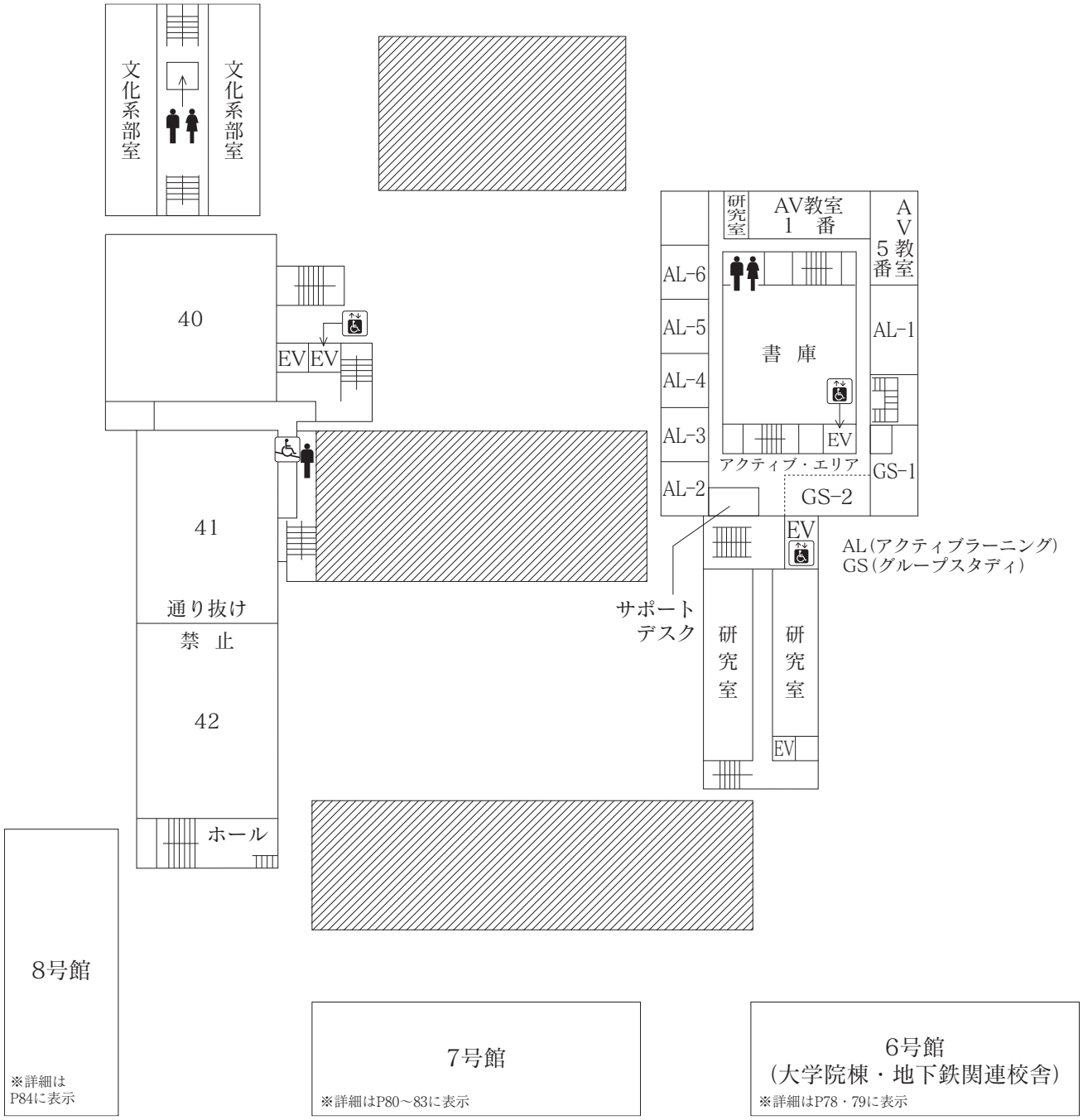
3階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置



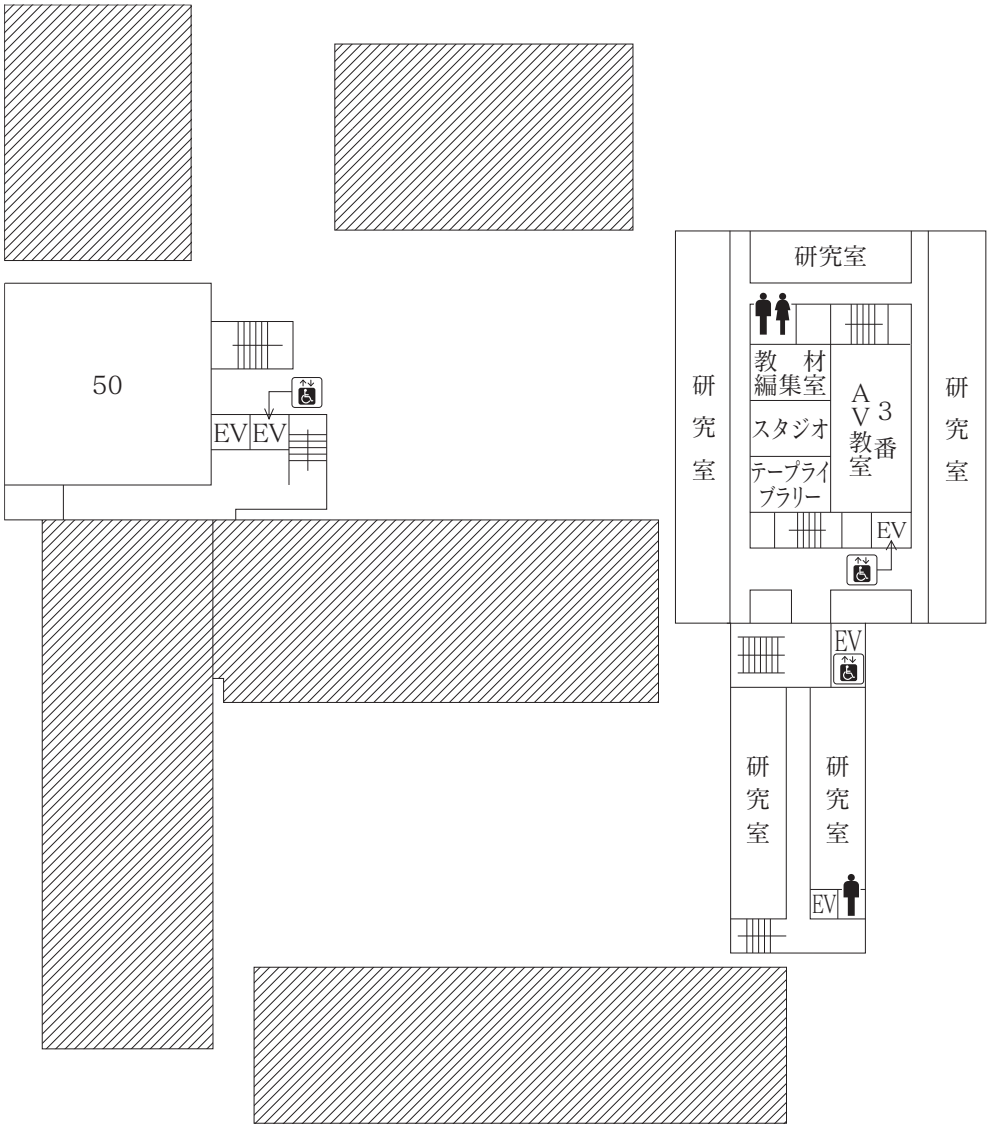
4階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置



5階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置



7号館

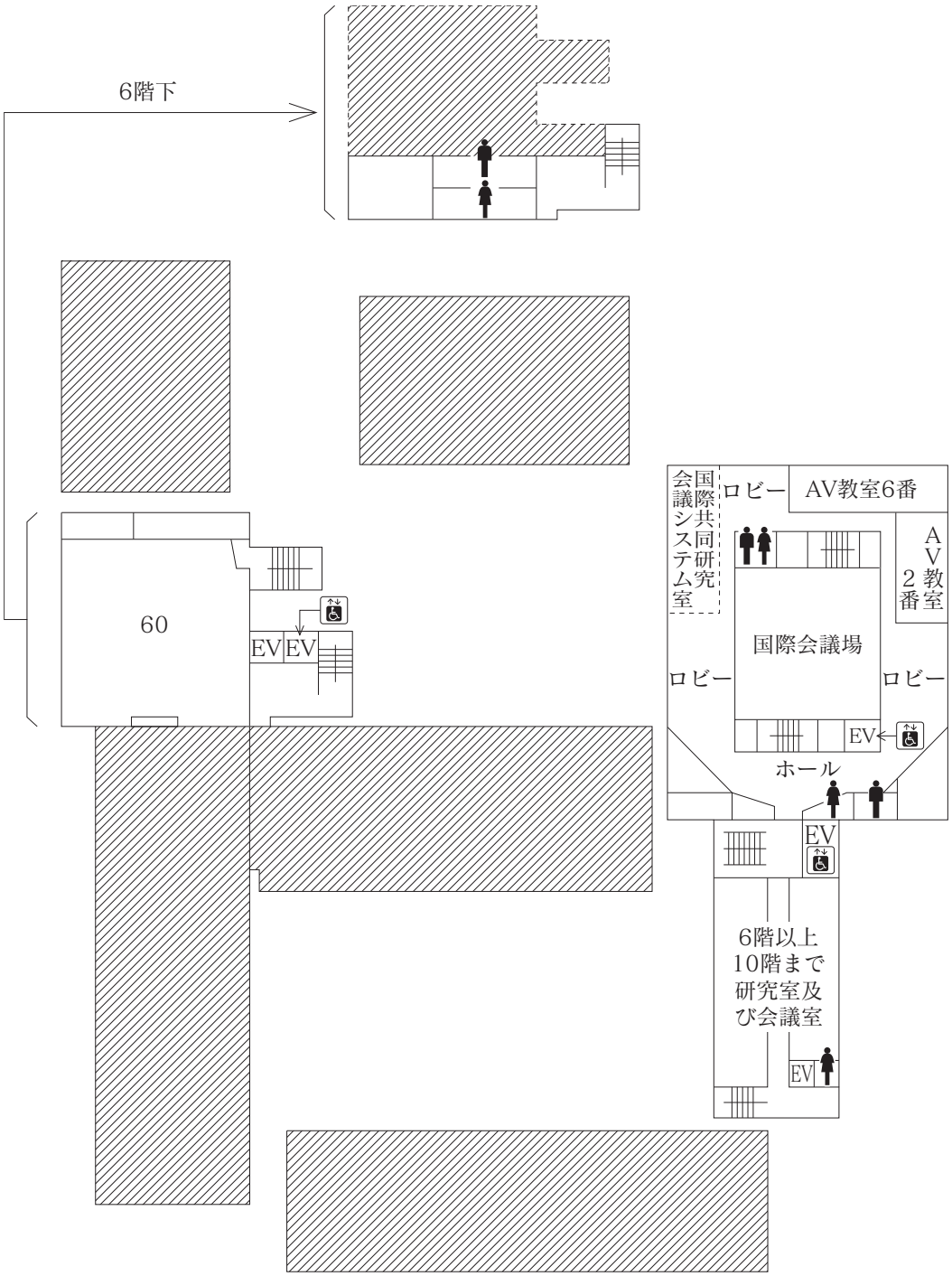
※詳細はP80～83に表示

6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎)

※詳細はP78・79に表示

6 階平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口（生協食堂）　AED設置



7号館

※詳細はP80～83に表示

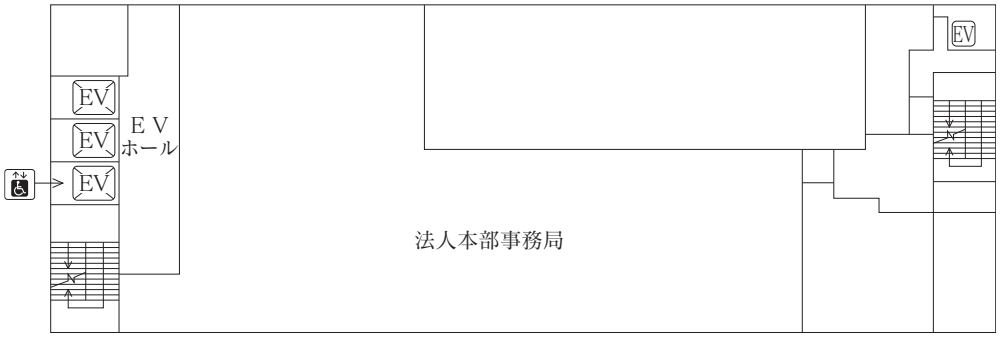
6号館
（大学院棟・地下鉄関連校舎）

※詳細はP78・79に表示

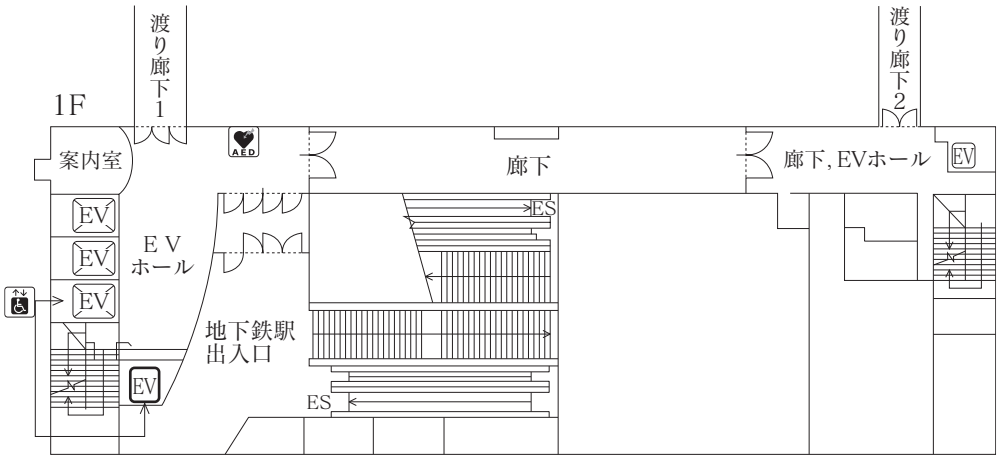
6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎)平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

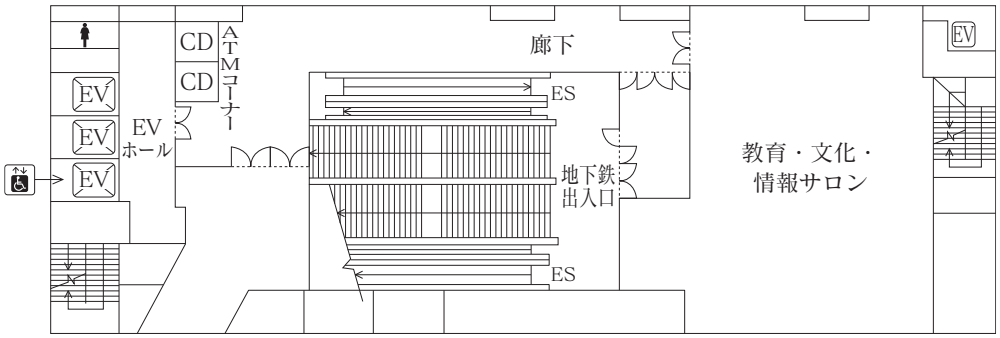
2F



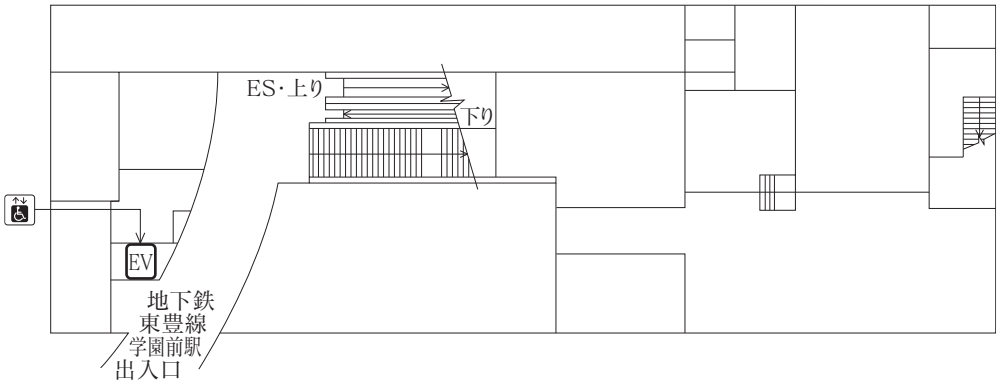
1F



B1F



B2F



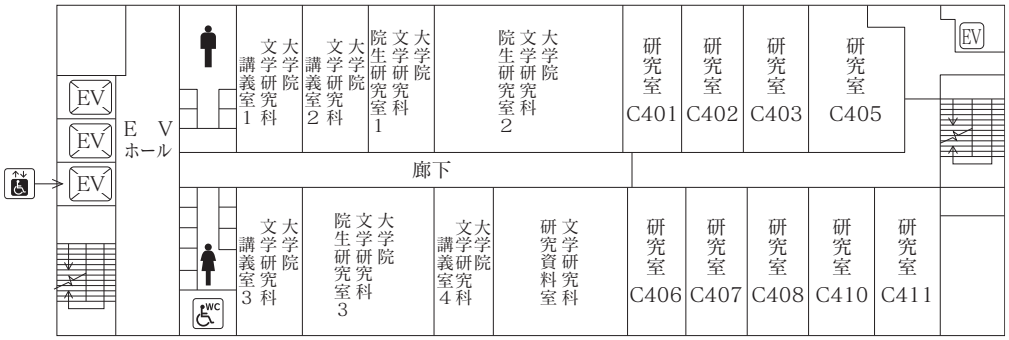
6F

給湯室
EV
EV
EV
E V ホール
演習・実習室
大学院法学研究科 講義室1
大学院法学研究科 講義室2
大学院法学研究科 院生研究室1
大学院法学研究科 院生研究室2
大学院法学研究科 院生研究室3
研究室 C601
研究室 C602
研究室 C603
EV
廊下
大学院法学研究科 講義室4
法学研究科 研究資料室
大学院法学研究科 講義室3
大学院法学研究科 院生研究室4
大学院法学研究科 院生研究室5
研究室 C605
研究室 C606
研究室 C607
研究室 C608
研究室 C610

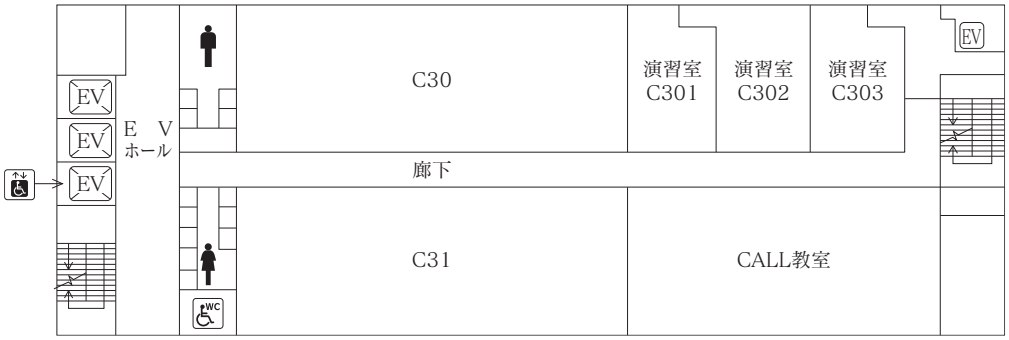
5F

給湯室
EV
EV
EV
E V ホール
演習・実習室
大学院文学研究科 講義室5
研究室 C501
研究室 C502
研究室 C503
研究室 C504
研究室 C505
研究室 C506
研究室 C507
研究室 C508
研究室 C509
EV
廊下
大学院文学研究科 院生研究室4
研究室 C510
研究室 C511
研究室 C512
研究室 C513
研究室 C514
研究室 C515
研究室 C516
研究室 C517
研究室 C518
研究室 C519
研究室 C520

4F


EV
EV
EV
E V ホール
大学院文学研究科 講義室1
大学院文学研究科 講義室2
大学院文学研究科 院生研究室1
大学院文学研究科 院生研究室2
研究室 C401
研究室 C402
研究室 C403
研究室 C405
EV
廊下
大学院文学研究科 講義室3
大学院文学研究科 院生研究室3
大学院文学研究科 講義室4
文学研究科 研究資料室
研究室 C406
研究室 C407
研究室 C408
研究室 C410
研究室 C411
WC

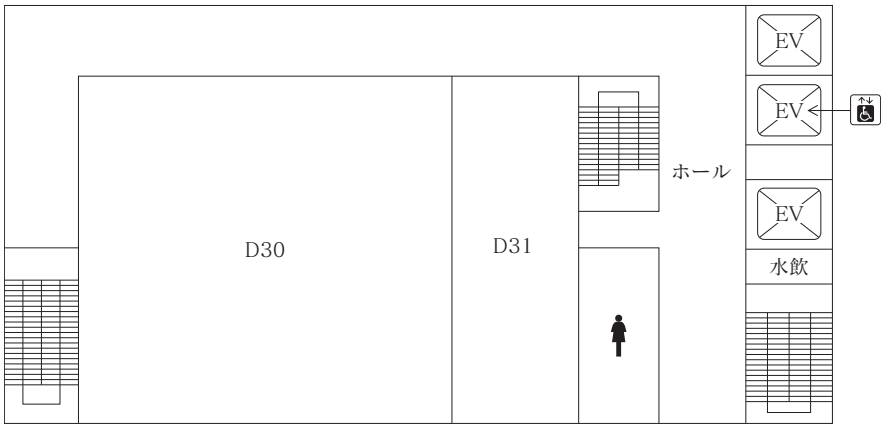
3F


EV
EV
EV
E V ホール
C30
演習室 C301
演習室 C302
演習室 C303
EV
廊下
C31
CALL教室
WC

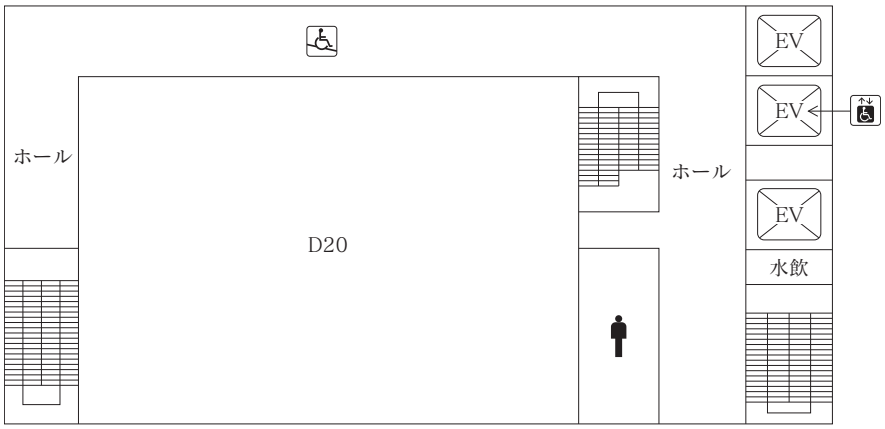
7号館平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

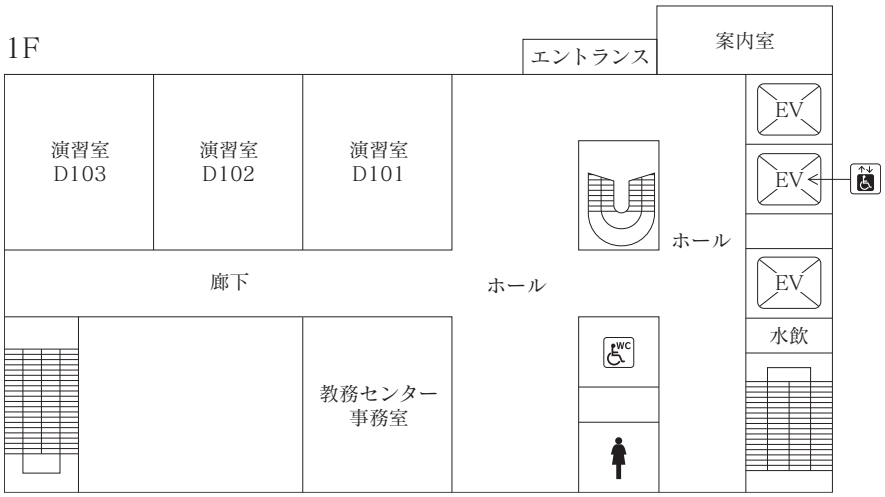
3F



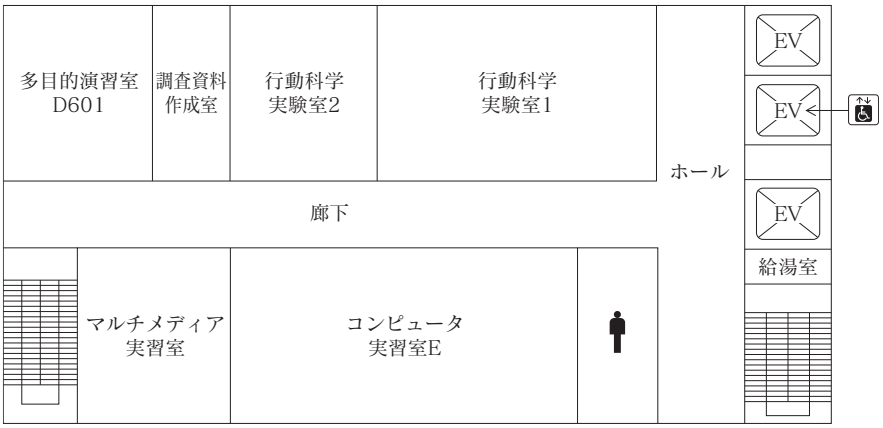
2F



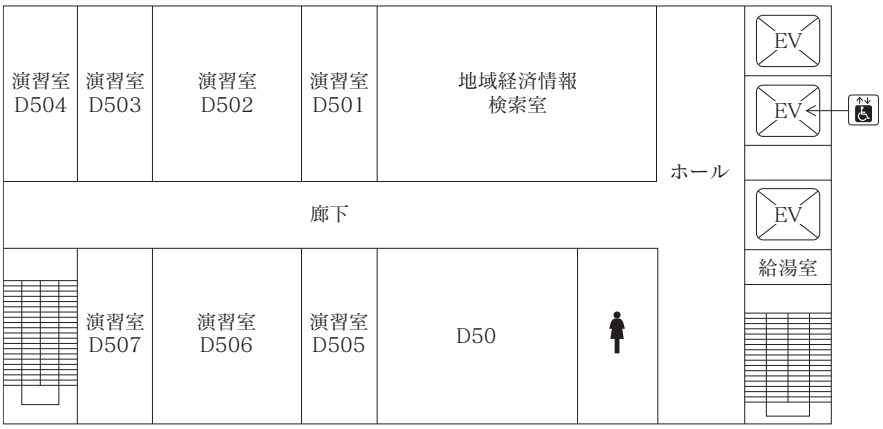
1F



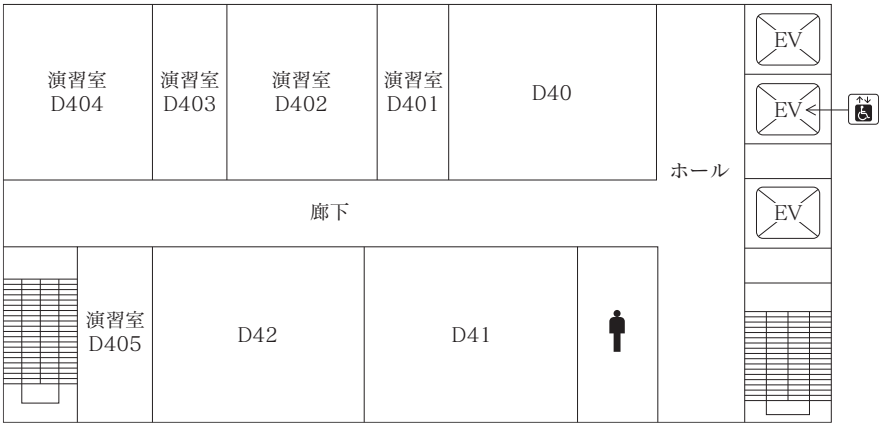
6F


多目的演習室
D601
調査資料
作成室
行動科学
実験室2
行動科学
実験室1
ホール
EV
EV
EV
廊下
給湯室
マルチメディア
実習室
コンピュータ
実習室E

5F


演習室
D504
演習室
D503
演習室
D502
演習室
D501
地域経済情報
検索室
ホール
EV
EV
EV
廊下
給湯室
演習室
D507
演習室
D506
演習室
D505
D50

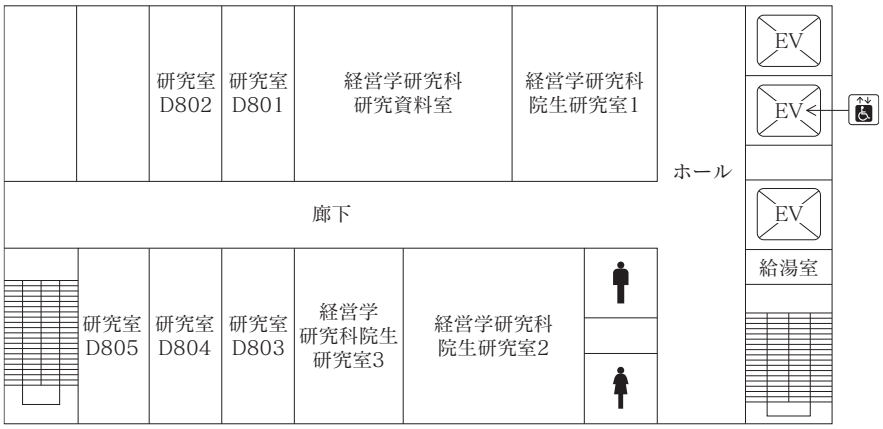
4F


演習室
D404
演習室
D403
演習室
D402
演習室
D401
D40
ホール
EV
EV
EV
廊下
演習室
D405
D42
D41

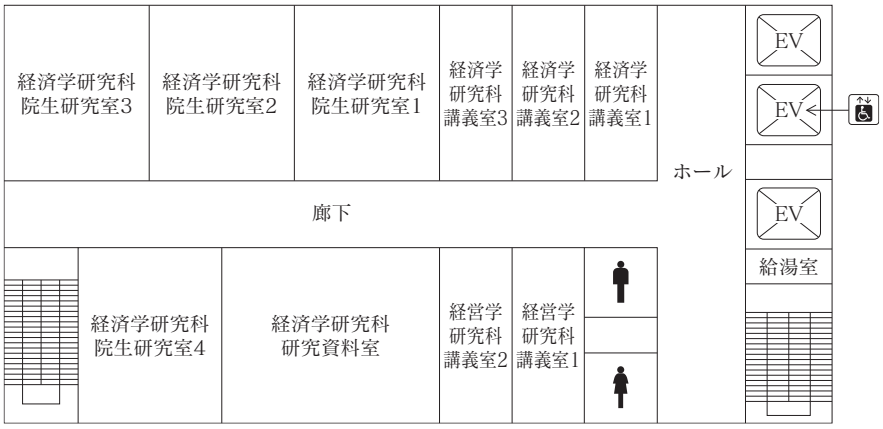
7号館平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

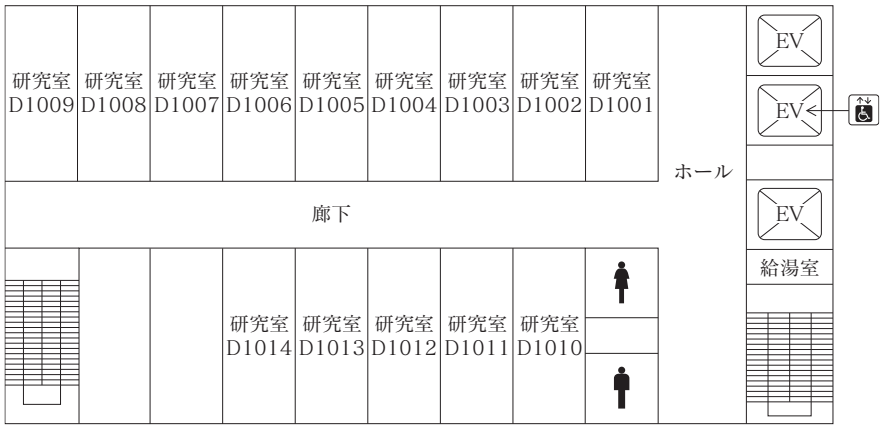
8F



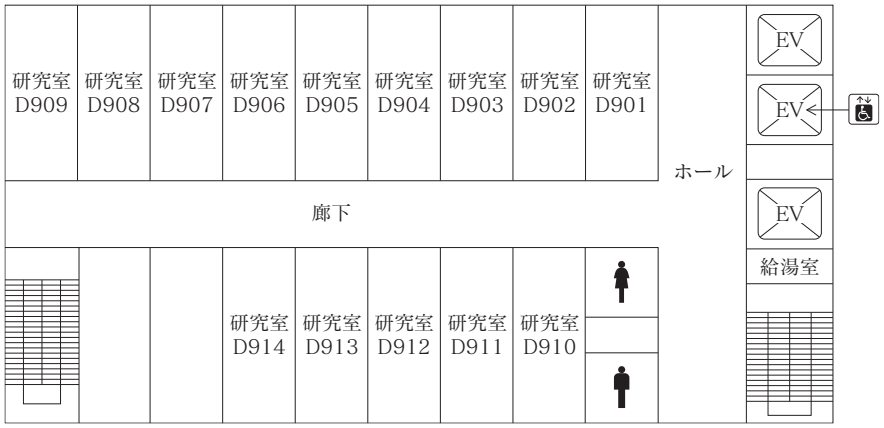
7F



10F


研究室
D1009
研究室
D1008
研究室
D1007
研究室
D1006
研究室
D1005
研究室
D1004
研究室
D1003
研究室
D1002
研究室
D1001
ホール
EV
EV
EV
廊下
給湯室
研究室
D1014
研究室
D1013
研究室
D1012
研究室
D1011
研究室
D1010

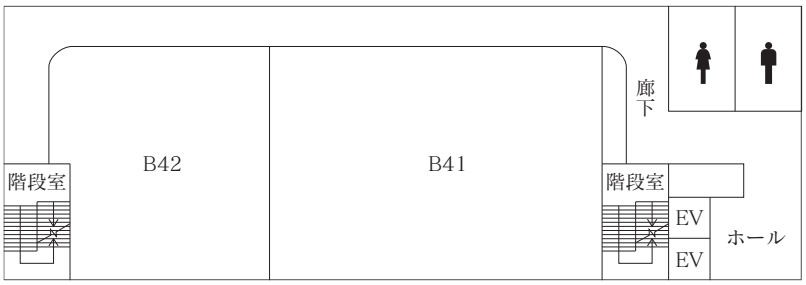
9F


研究室
D909
研究室
D908
研究室
D907
研究室
D906
研究室
D905
研究室
D904
研究室
D903
研究室
D902
研究室
D901
ホール
EV
EV
EV
廊下
給湯室
研究室
D914
研究室
D913
研究室
D912
研究室
D911
研究室
D910

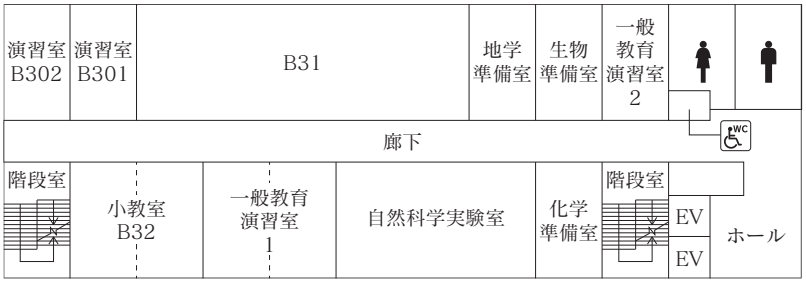
8号館平面図

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

4F

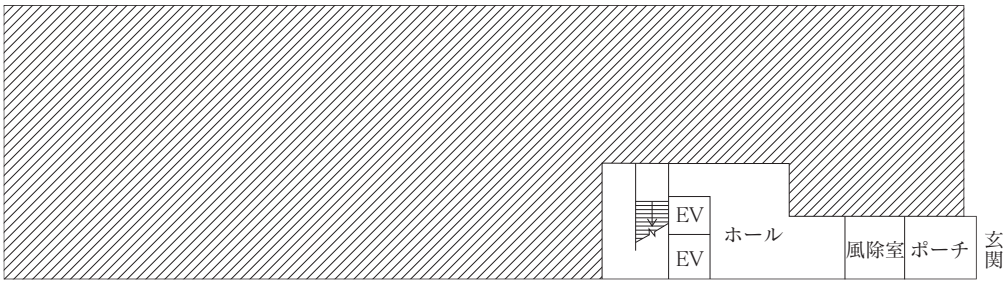


3F



2F

1F



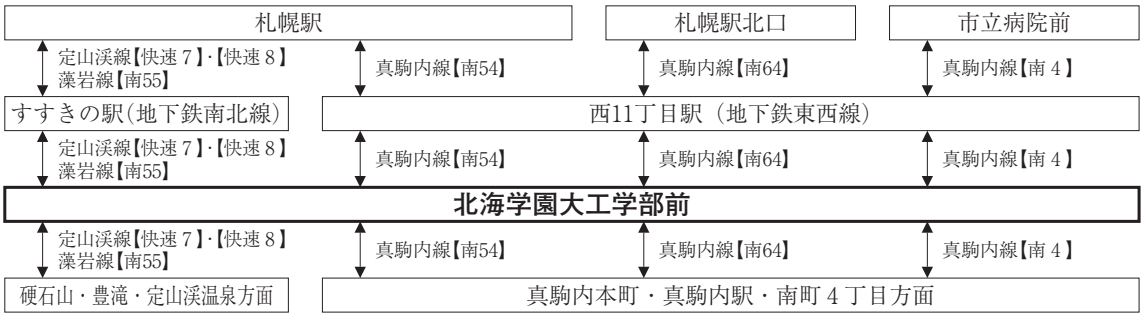
2．山鼻校舎

所在地　札幌市中央区南26条西11丁目１番１号

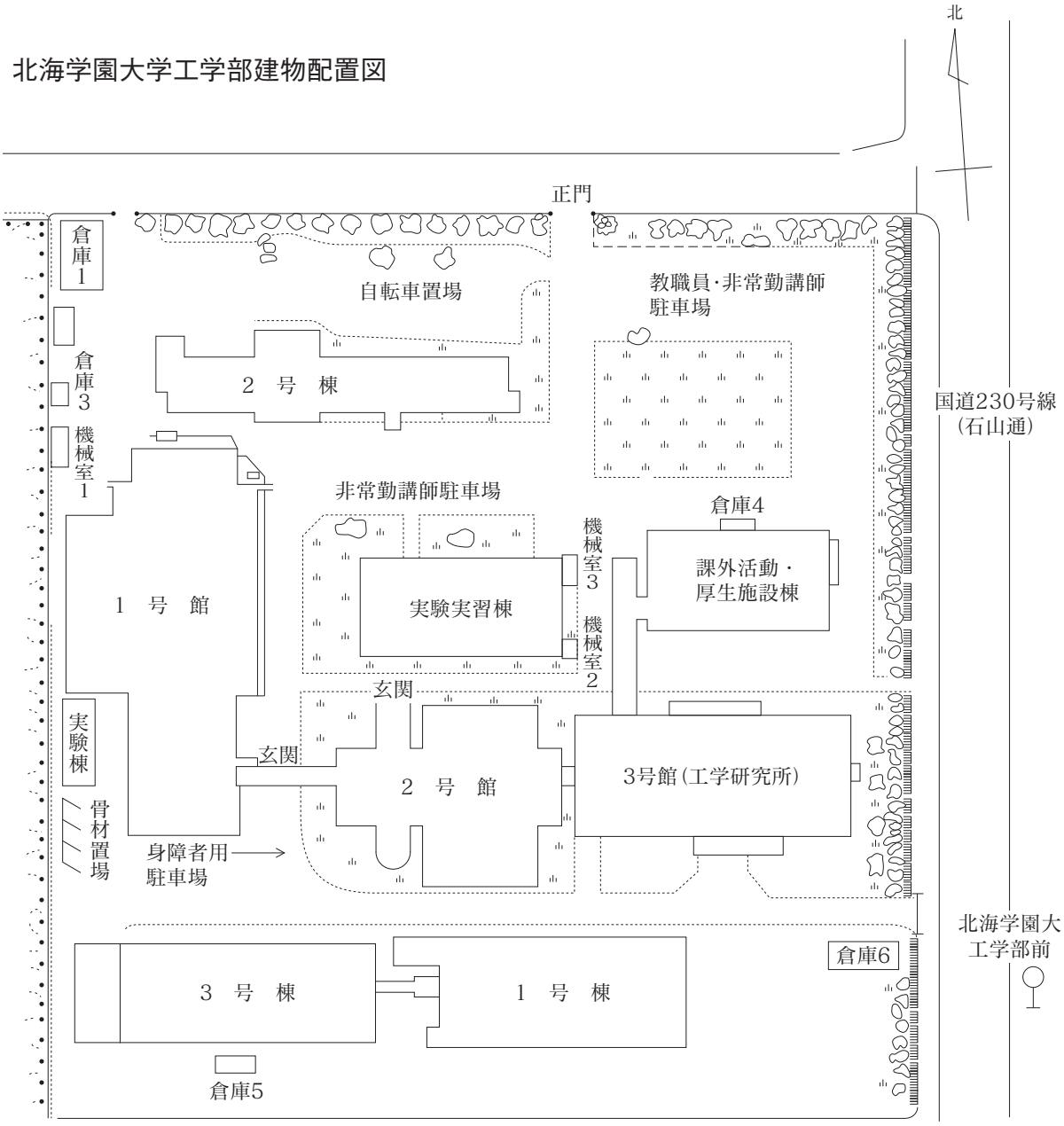
山鼻校舎へのアクセス

山鼻校舎へのアクセスは，「**じょうてつバス**」を利用し，「**北海学園大工学部前**」停留所で下車すると便利です。

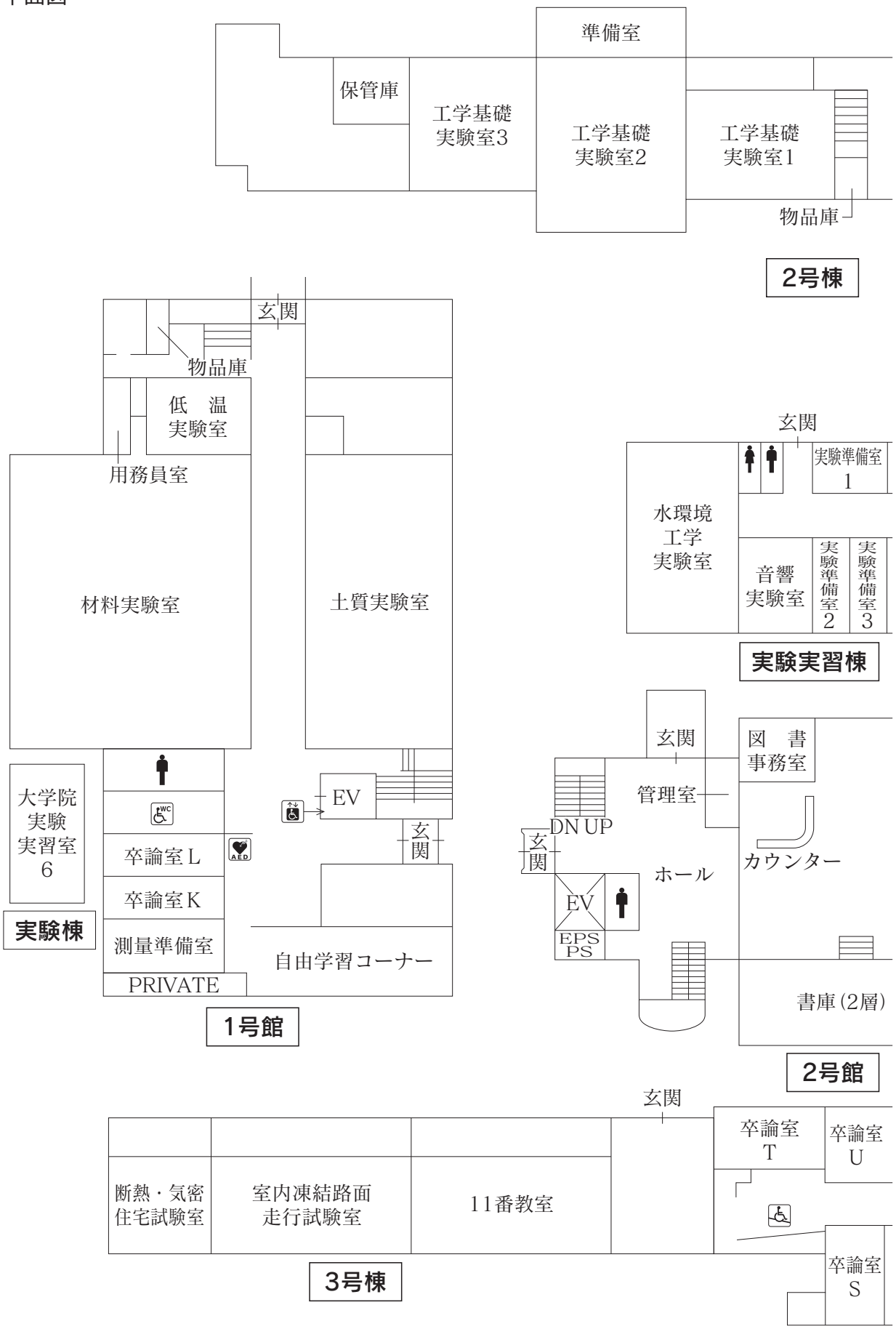
●路線図（概略）は下記を参照してください。
●乗車時間は，バスの系統や季節によって異なります。各自，時刻表等で確認してください。
●定刻どおりに運行しないこともありますので，時間に余裕をもって通学してください。



北海学園大学工学部建物配置図

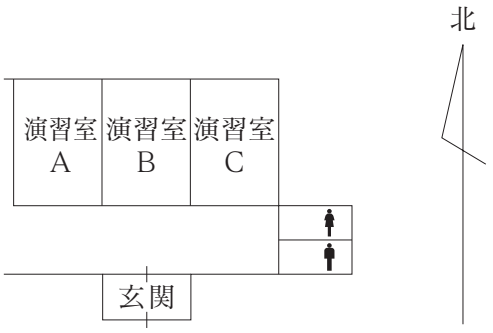


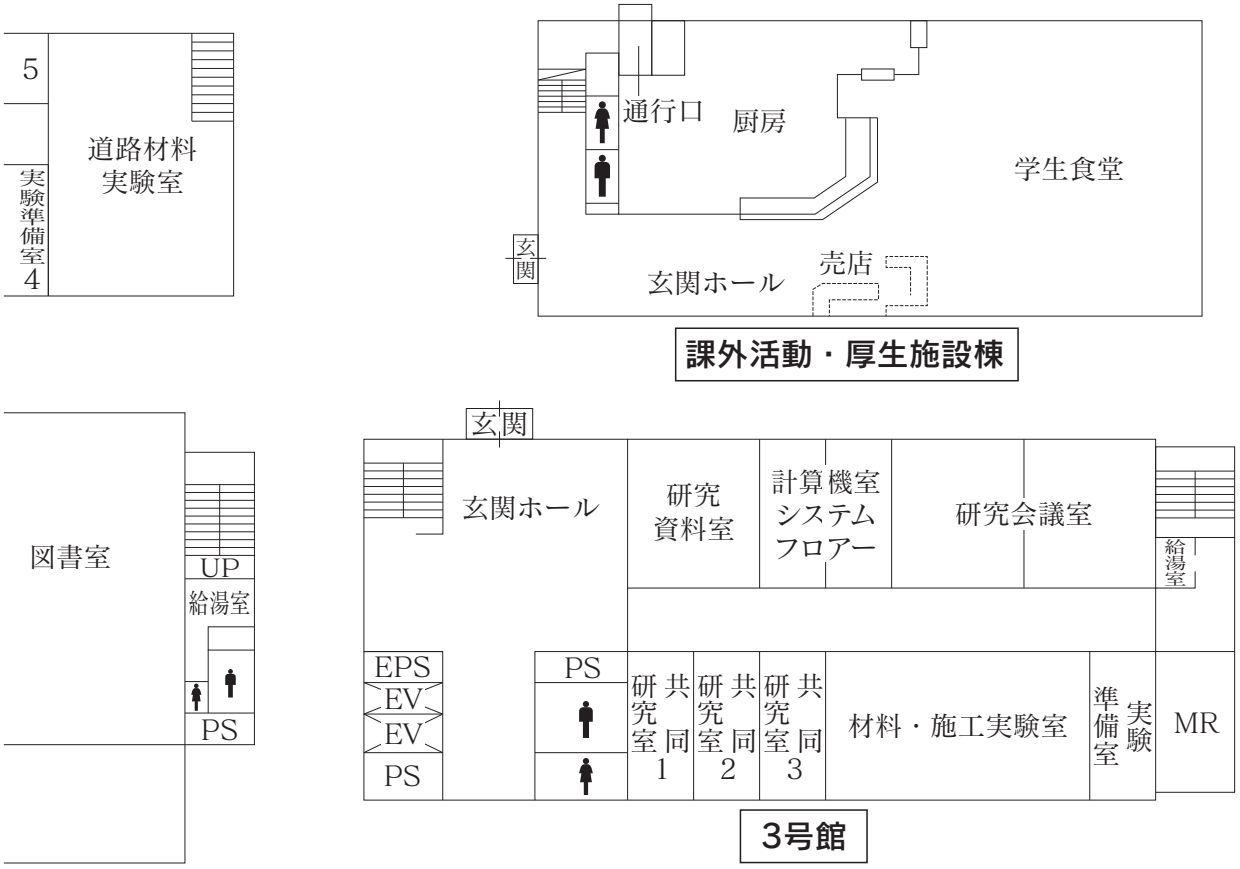
山鼻校舎１階平面図

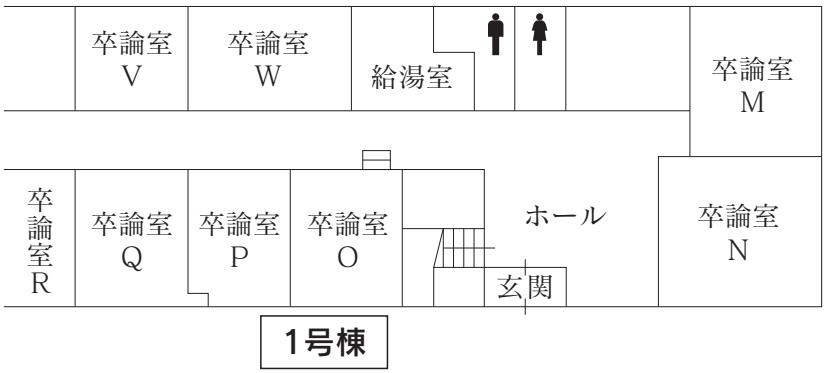

準備室
保管庫
工学基礎
実験室3
工学基礎
実験室2
工学基礎
実験室1
物品庫
2号棟
玄関
物品庫
低　温
実験室
用務員室
材料実験室
土質実験室
大学院
実験
実習室
6
WC
卒論室Ｌ
AED
卒論室Ｋ
測量準備室
PRIVATE
EV
玄
関
自由学習コーナー
1号館
玄関
実験準備室
1
水環境
工学
実験室
音響
実験室
実
験
準
備
室
2
実
験
準
備
室
3
実験実習棟
玄関
図　書
事務室
管理室
DN UP
玄
関
ホール
カウンター
EV
EPS
PS
書庫（2層）
2号館
玄関
卒論室
T
卒論室
U
断熱・気密
住宅試験室
室内凍結路面
走行試験室
11番教室
卒論室
S
3号棟

スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ

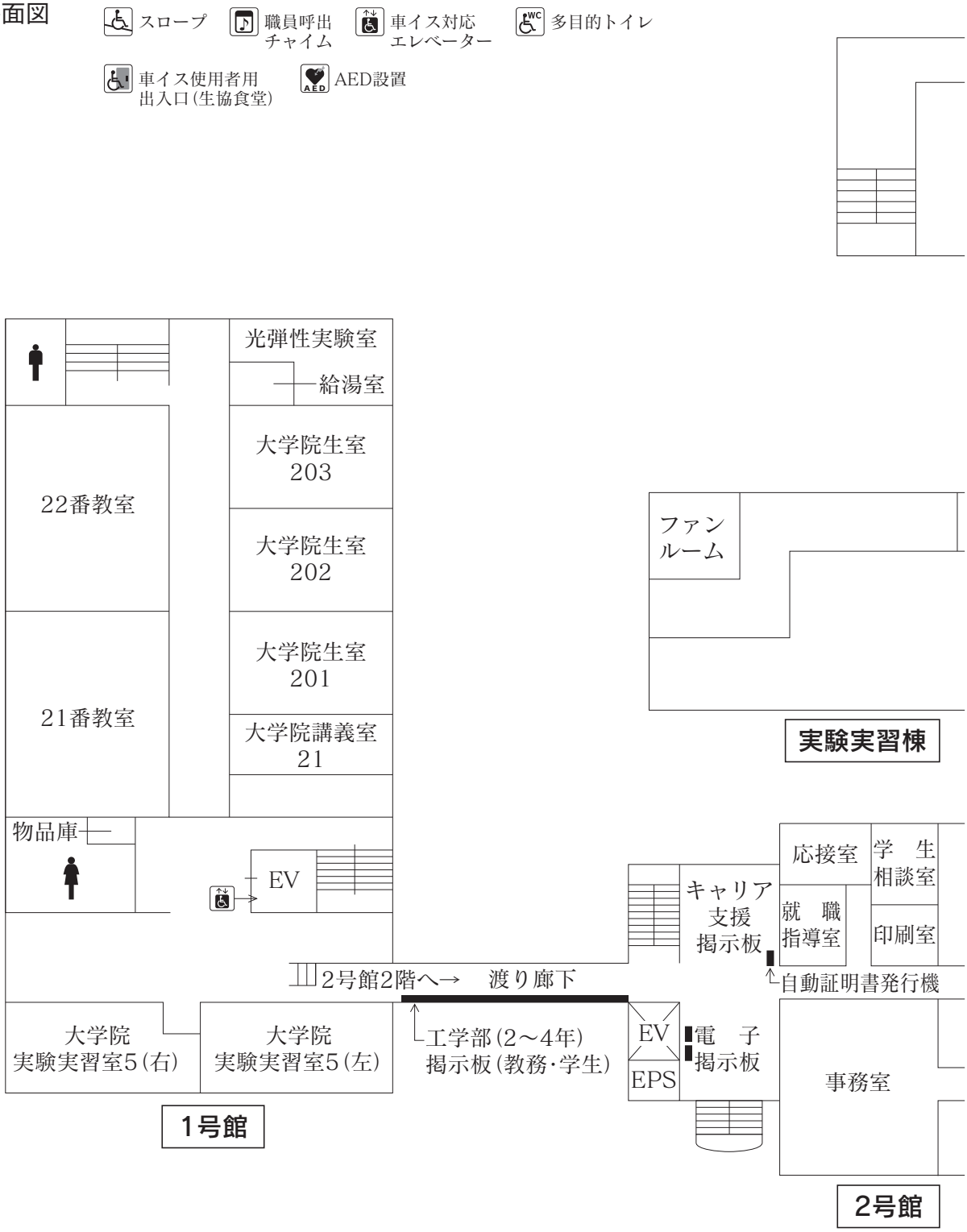
車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

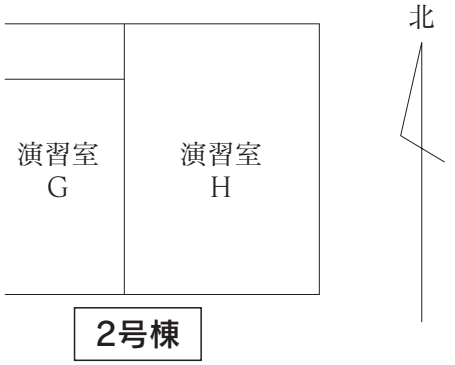


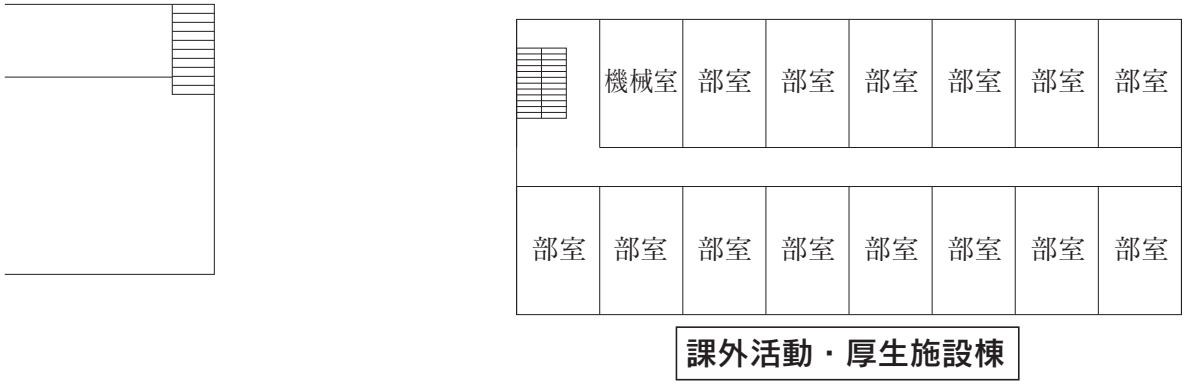


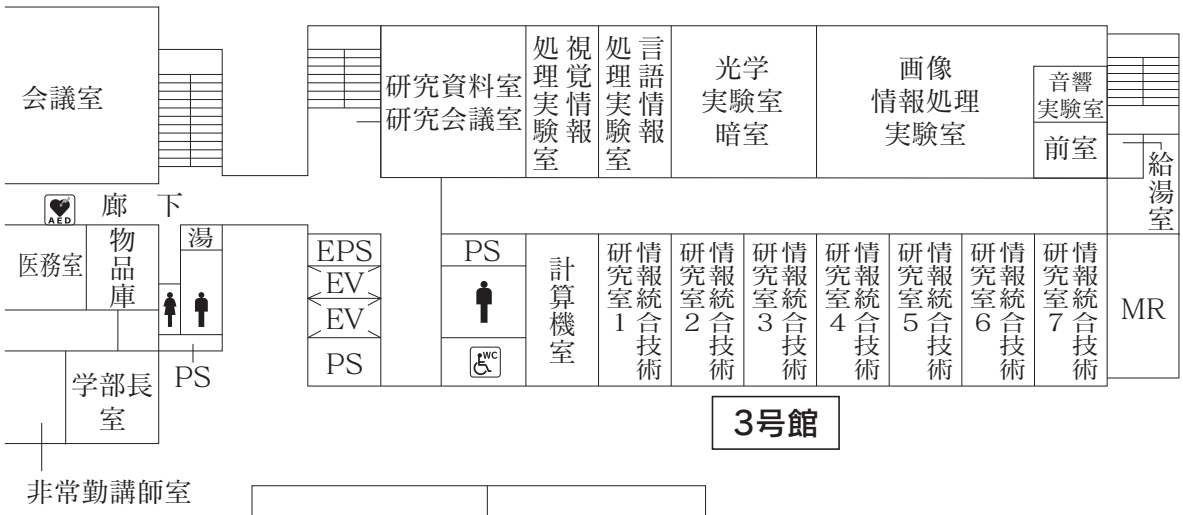


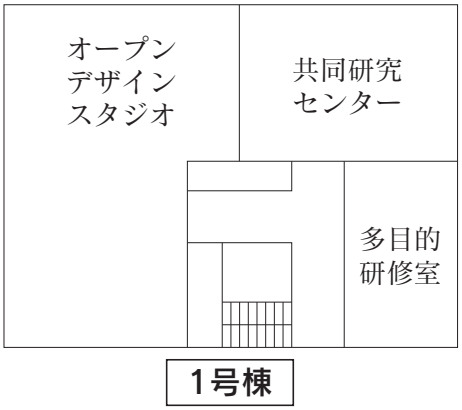
山鼻校舎２階平面図


スロープ
職員呼出チャイム
車イス対応エレベーター
多目的トイレ
車イス使用者用出入口(生協食堂)
AED設置
光弾性実験室
給湯室
22番教室
大学院生室 203
大学院生室 202
21番教室
大学院生室 201
大学院講義室 21
物品庫
EV
ファンルーム
実験実習棟
応接室
学生相談室
キャリア支援掲示板
就職指導室
印刷室
自動証明書発行機
2号館2階へ→ 渡り廊下
大学院 実験実習室5(右)
大学院 実験実習室5(左)
工学部(2～4年)掲示板(教務・学生)
EV
EPS
電子掲示板
事務室
1号館
2号館


北
演習室
G
演習室
H
2号棟

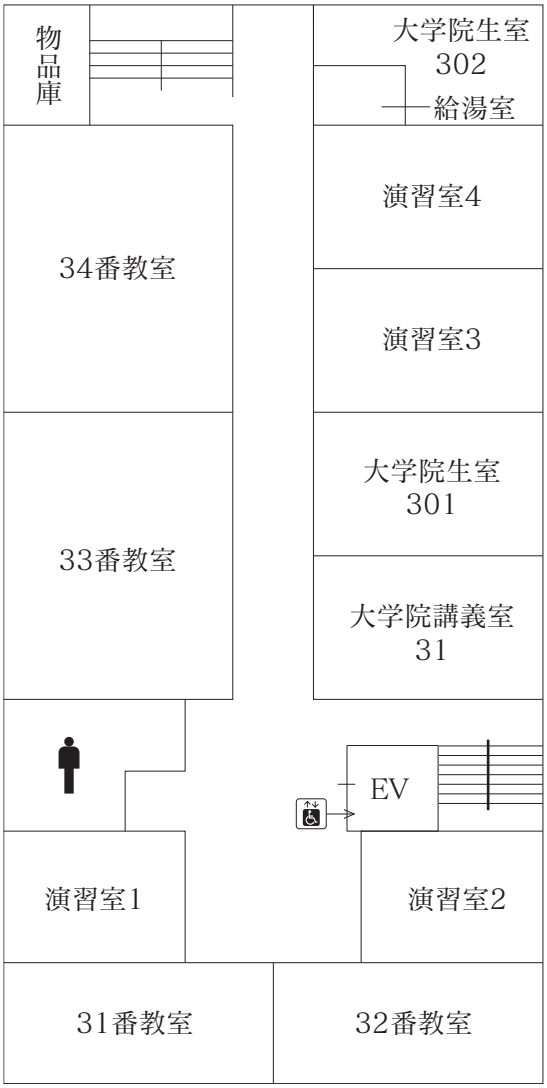

機械室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
部室
課外活動・厚生施設棟


会議室
研究資料室
研究会議室
視覚情報処理実験室
言語情報処理実験室
光学実験室
暗室
画像情報処理実験室
音響実験室
前室
給湯室
AED
廊下
医務室
物品庫
湯
EPS
EV
EV
PS
PS
WC
計算機室
情報統合技術研究室1
情報統合技術研究室2
情報統合技術研究室3
情報統合技術研究室4
情報統合技術研究室5
情報統合技術研究室6
情報統合技術研究室7
MR
学部長室
PS
非常勤講師室
3号館

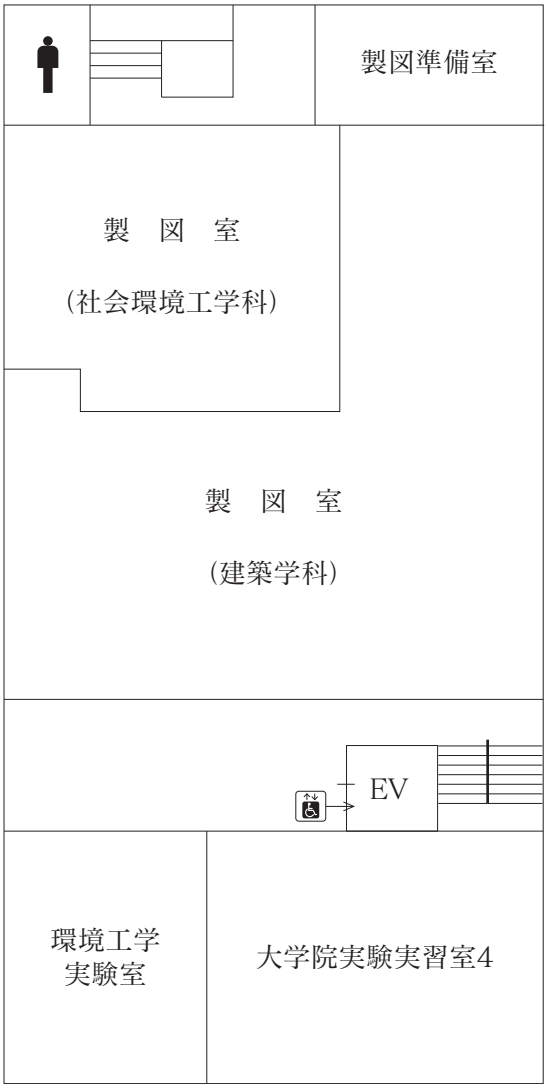

オープンデザインスタジオ
共同研究センター
多目的研修室
1号棟

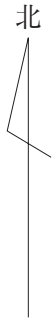
山鼻校舎１号館平面図

3F



4F



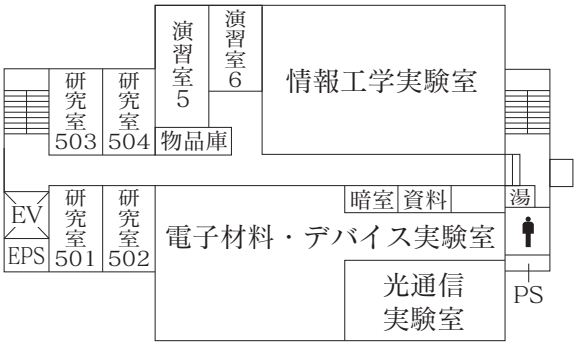


山鼻校舎２号館平面図

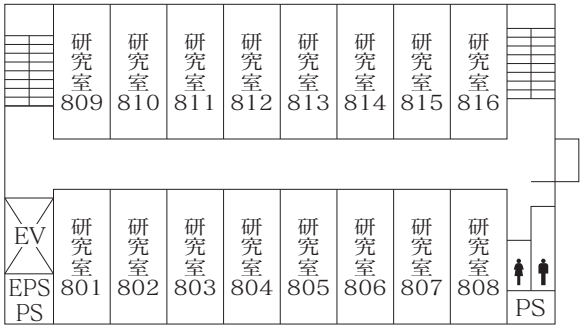
スロープ　職員呼出チャイム　車イス対応エレベーター　多目的トイレ　車イス使用者用出入口(生協食堂)　AED設置

北

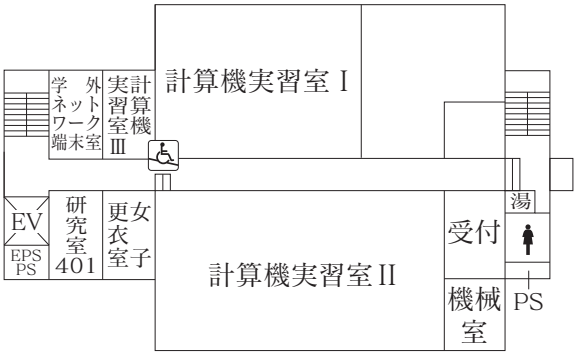
5F



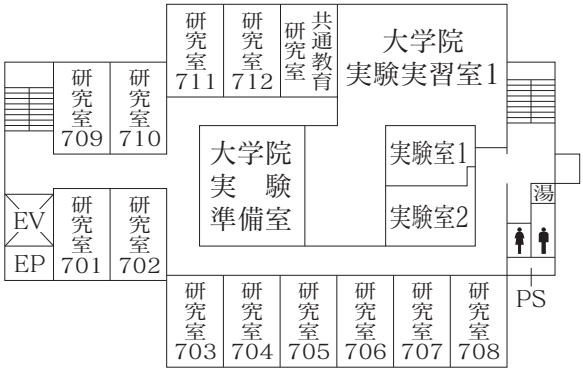
8F



4F

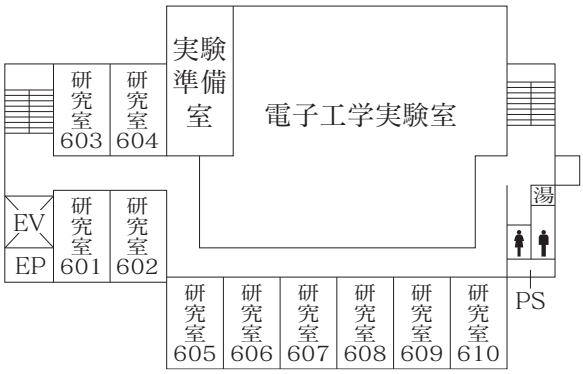


7F



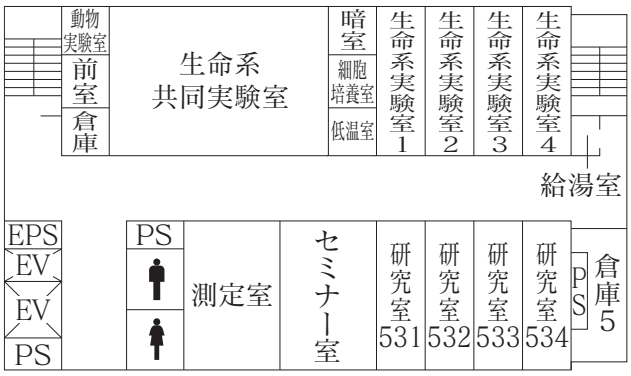
3F

6F

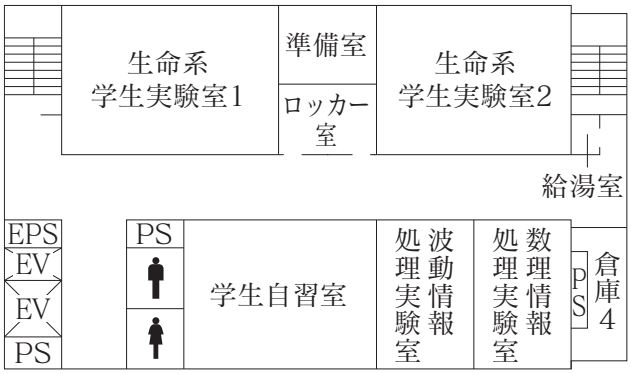


山鼻校舎３号館平面図

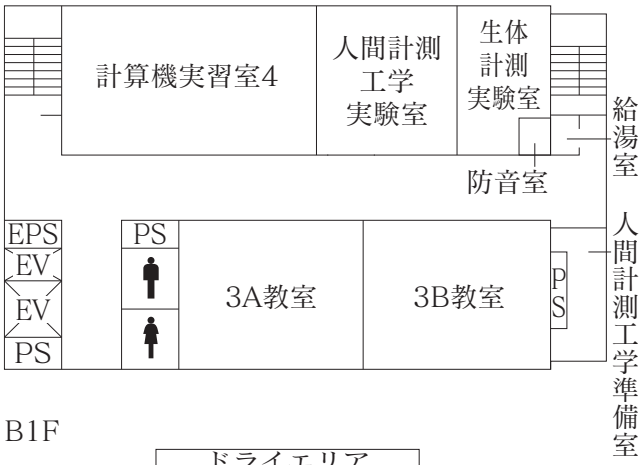
5F



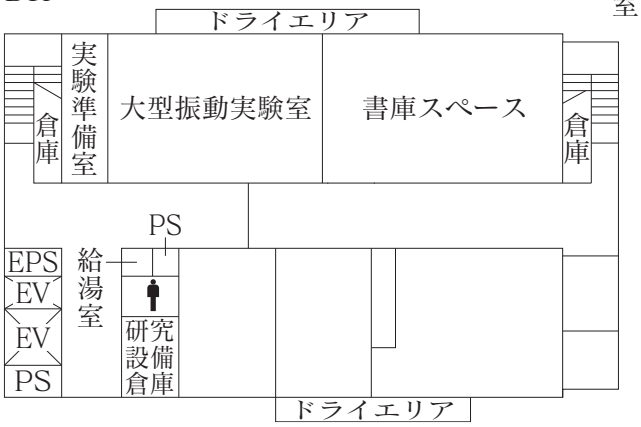
4F



3F

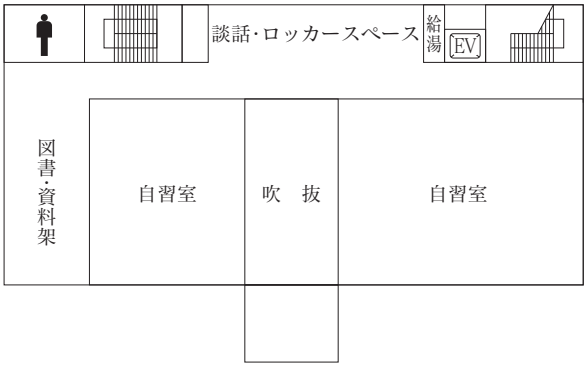


B1F

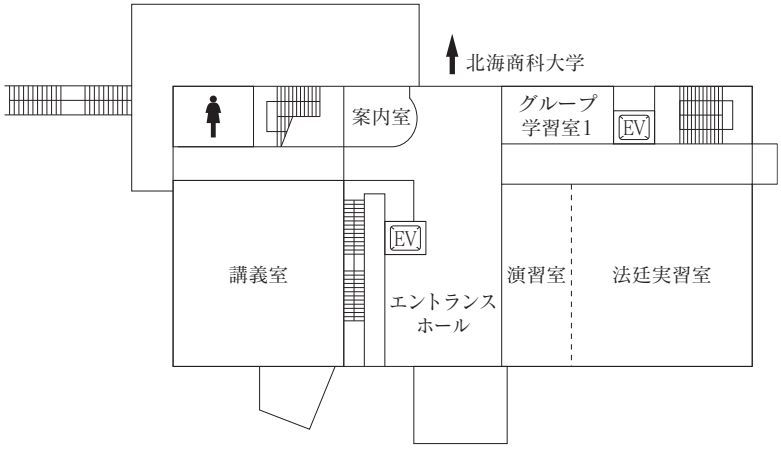


3．法務研究科（法科大学院）

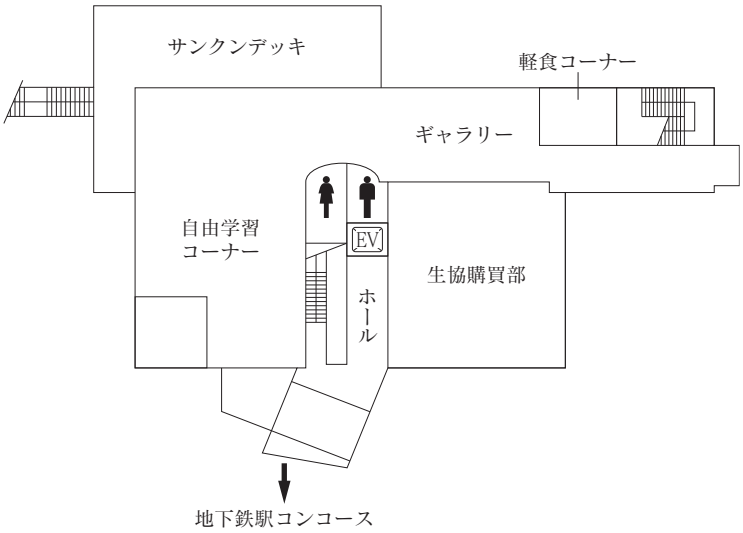
2F



1F

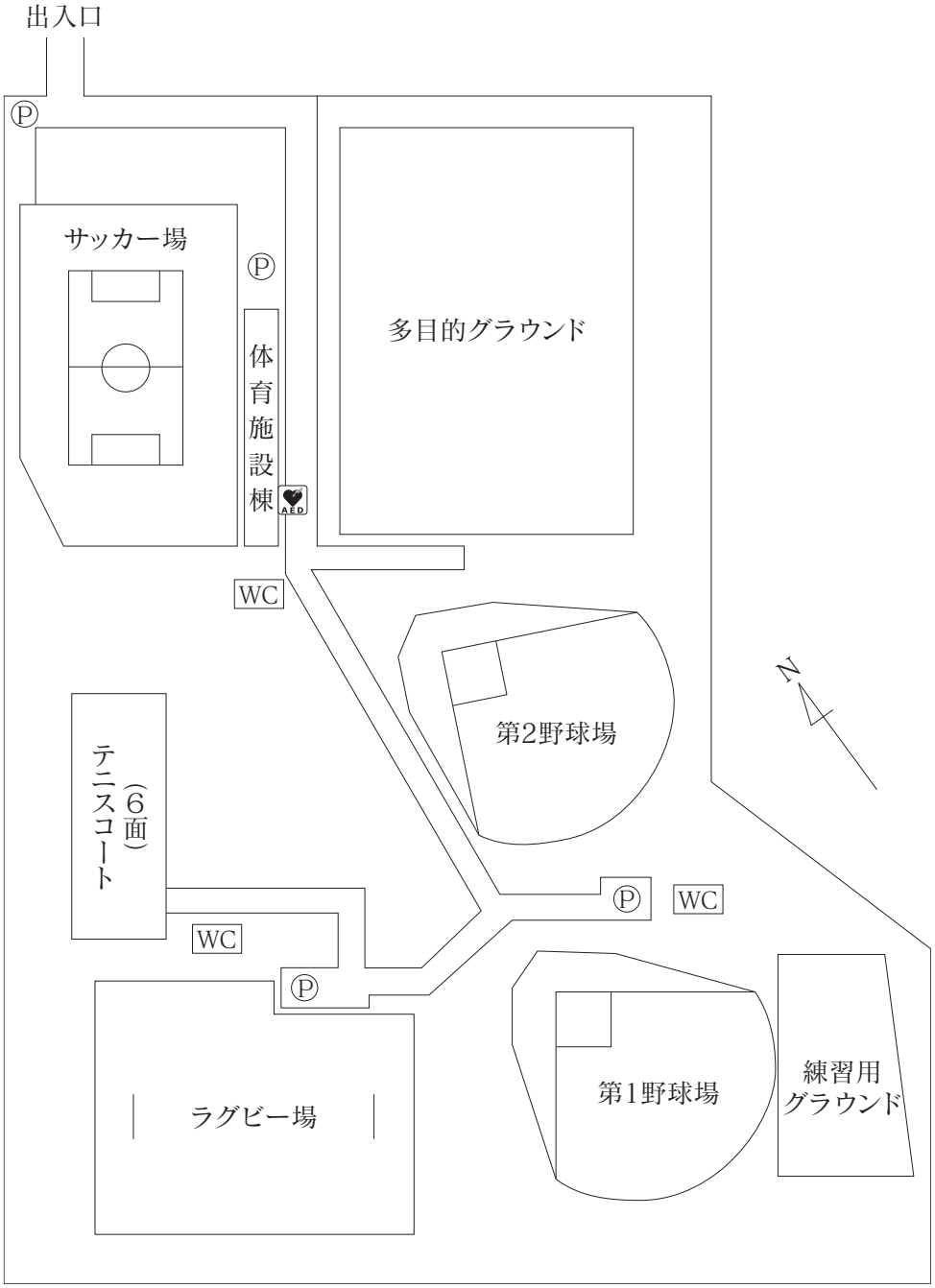


B1F

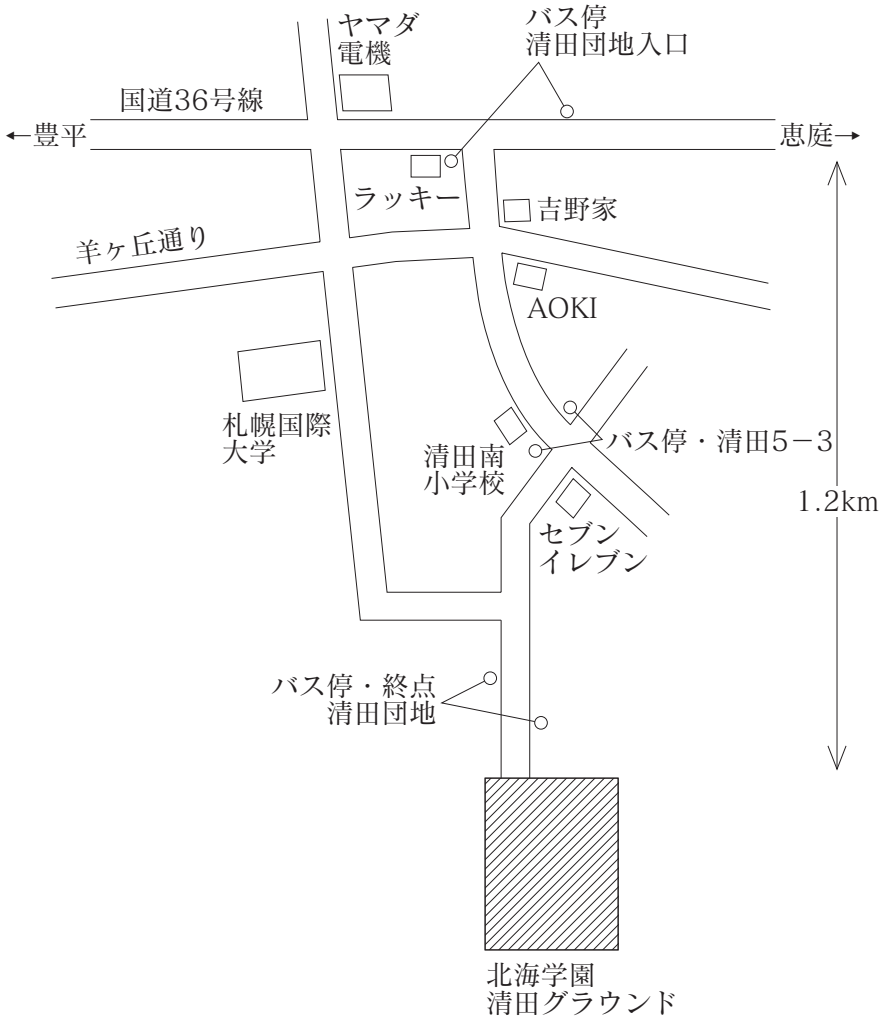


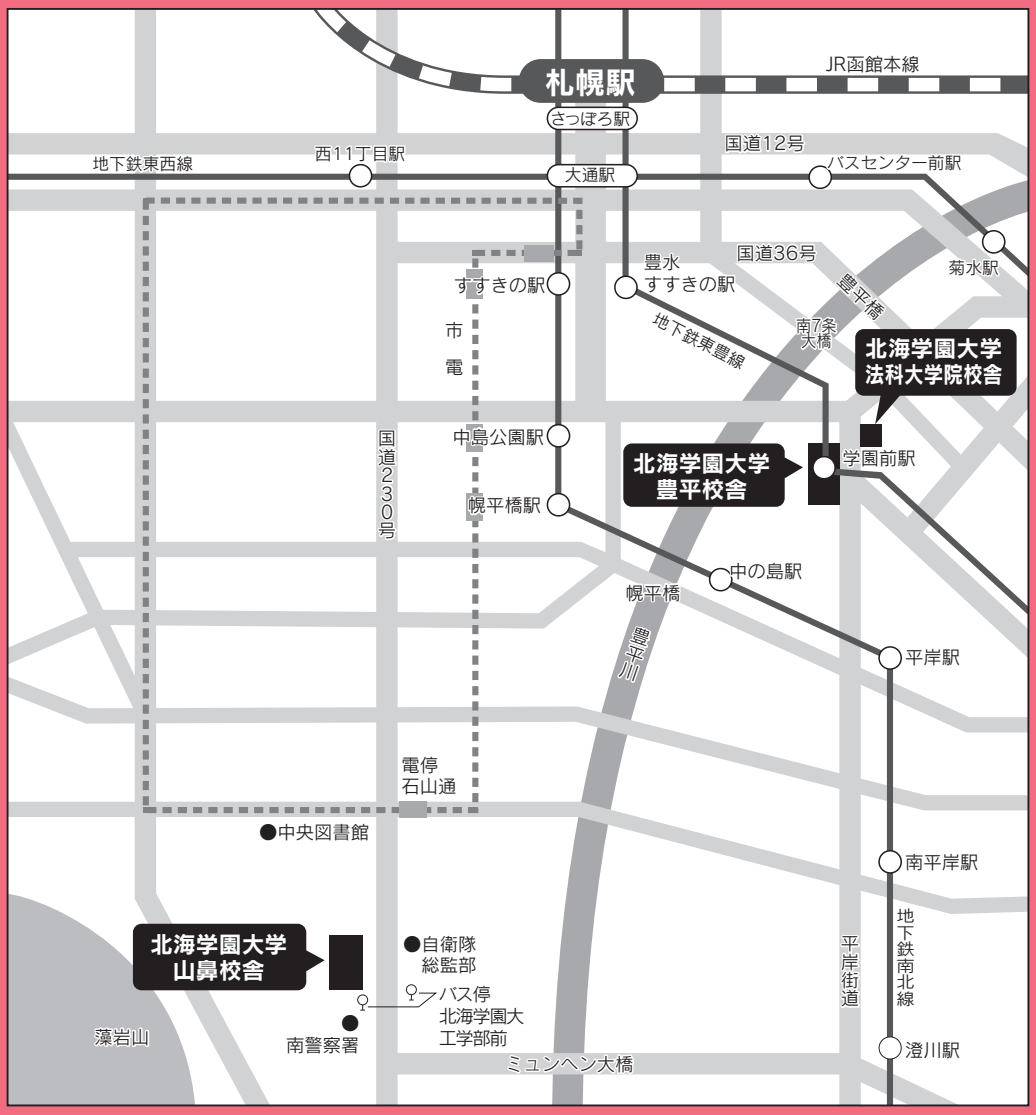
4．清田グラウンド

所在地　札幌市清田区清田355番地



※国道36号線……中央バス・恵庭，千歳行き
　　バス停「清田団地入口」徒歩25分
※地下鉄東豊線…学園前駅から福住駅迄
※中央バス……「南86番・清田団地行き」終点徒歩５分
※中央バス……「福86番・清田団地行き」終点徒歩５分
※中央バス……「85番・清田団地９条３丁目行き」
　　バス停・清田５－３下車，徒歩15分





北海学園大学

■豊平校舎(経済・経営・法・人文学部)

〒062-8605 札幌市豊平区旭町４丁目１番40号　　代表(011)841-1161

■山鼻校舎(工学部)

〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目１番１号　代表(011)841-1161